

科目名	スポーツ a, b
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	篠田浩子
授業の概要及びテーマ	適切なスポーツ・運動習慣や合理的な身体技法を身につけることは生涯にわたる健康生活の基盤となり、人間の生き方そのものにおいて重要な意味を持ちます。本講座では筋反射や身体運動学の科学的な基礎やエビデンスに基づいたコンディショニングやエクササイズ、あるいはスポーツの基本となる「歩く・走る・投げる」など多角的なアプローチにおいて実習します。それらの経験の中で多面的な身体運動の意味を理解し、様々な場面に対応できる技術の習得によって個々の身体状況に応じた「マイ・スタイル」の生涯フィットネス・生涯スポーツを実践し、継続する能力を養うことを目的とします。 そこで、主に以下のテーマを中心に授業を展開したいと思います。 1. 自分自身の身体に「気づく」…日常生活の身体活動の偏りやスポーツ・運動歴による筋のアンバランスなどの障害リスクのチェックや対処と他者とのコミュニケーション能力としての身体技法の習得 2. 客観的なデータに基づき、各個人の体力やそれぞれの課題に適した運動方法や技術を選択・実践する能力を身につける…「マイ・スタイル」の運動実践方法の習得 3. 日常生活の中で継続可能な適切な身体技法や運動習慣をプログラミングできる…さまざまなスポーツや日常生活運動の基礎につながる簡単なリードアップゲームやフィットネス・エクササイズ、コンディショニングの実践と習慣化 ※ この授業では特定の各競技スポーツ種目を行うことはありません。低体力の方やこれまでにスポーツ経験や運動経験の少ない方でも取り組める内容を中心に構成されています。
達成目標	・ 自分自身の身体の状態や個人差を認識し、各個人に適切な運動方法を選択的に行う能力と技術を身につける ・ 筋反射や機能解剖・筋生理等に基づいた各運動の意味や運動実践のポイントを理解し、目的に応じた運動方法を見出せる ・ 各コンディショニングやエクササイズの目的と適切な方法について、他者との協力やコミュニケーションを通して、日常生活や各人生ステージにおいて応用してプログラミングし継続的に持続できる
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 (A-1) ガイダンス、身体のアライメントチェック<静止状態で体の歪みチェック>と対処法(上肢中心)、アイスブレーキングゲーム(1)、ストレッチング等 【●zoom 配信授業】 02 (A-2)簡易体力測定(1) 身体のアライメントチェック(下肢・体幹中心)、ウォーミングアップの基本(1)、アイスブレーキングゲーム(2) ストレッチング等 【★対面授業による実習】 03 (B-対面) アイスブレーキングゲーム(3)、動的な動きにおけるアライメントチェック、「4色の運動」実践(1) 【★対面授業による実習】 04 (B-対面) ウォーミングアップの基本(2) 「4色の運動」実践(2) ウォーキング・ランニングの基本、リズムウォーキング(1) 【●オンデマンド授業】 ※B、Cの2回ずつの授業は2グループに分かれて交替(対面またはオンデマンド) 05 (C-対面) 「4色の運動」実践(3)、ウォーキングバリエーション 06 (C-対面) リズムウォーキング(2) 障害予防コンディショニング 【●オンデマンド授業】 07 (D) リズムウォーキング(復習・応用)、ブラインド・ワーク等 【★対面授業による実習】 08 (E-屋外) ミッションウォークまたはオリエンテーリング実習(戸外)、3段階の歩幅・歩速測定等 (※雨天時はE-対面またはE-対面) 【★・対面による屋外実習】 09 (E-対面)、ボクシングエアロ(1)、投運動の基本 【★対面授業による実習】 10 (E-対面) スーパーサーキットトレーニング(1) 投運動の基本 【●オンデマンド授業】 ※E3回の授業は悪天候の場合、屋外授業は順延、2グループに分かれて対面またはオンデマンド授業を先に行う。 11 (F-対面) スーパーサーキットトレーニング(2) 投運動の応用とリードアップゲーム、「エッセンシャル10」(1)等 【★対面授業による実習】 12 (F-対面) ボクシングエアロ(2)、「エッセンシャル10」(2)等 【●オンデマンド授業】 13 (G-対面) ボクシングエアロ(3)、「エッセンシャル10」(3)、投運動の応用とリードアップゲーム等 【★対面授業による実習】 14 (G-対面) 全体復習;リズムウォーキング、ボクシングエアロ、「エッセンシャル10」等 【●オンデマンド授業】 ※E、Fの2回ずつの授業は2グループに分かれて交替(対面またはオンデマンド) 15 簡易体力測定・リズムウォーキング・ボクシングエアロ「エッセンシャル10」等理解度の確認とまとめ 【★対面授業による実習】 ※新型コロナウイルス感染拡大状況やNIDホールの使用可否、天候や条件によって前後することや 授業形態を変更する場合があります。
成績評価基準	授業の中で行われる確認テスト(実技含む): 20%、授業への参加態度・意欲、貢献度 30%、課題提出物: 20%、期末試験: 30% 対面形式の実習: 2/3以上、およびオンデマンド授業: 出席確認含む課題提出状況 2/3以上の出席者のみ単位付与を検討します。(体調不良などでやむを得ず、対面授業に出席できない場合にはその旨教員に連絡をください。)
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	資料はgoogleクラスルームを通して提示します。また、対面時には授業時に直接資料を配付する場合があります。配付した資料はファイルなどを準備して毎回持参するなどしてください。
参考書・参考資料等	

長岡造形大学 シラバス 2022

用具	(各自で用意するもの) 室内運動靴、運動着 (ジーンズ不可)、大きめのタオル、補給用水分、着替え、各回で指定された準備物
履修制限等	定員は原則 80 名とし、希望者多数の場合は抽選などで履修者を決定する。
履修希望者への要望・事前準備	オンライン授業時には自宅に運動できる小スペース (畳一畳程度) を確保し、怪我のリスクマネジメントとして足元・周囲のハザードの除去等の準備をお願いします。また、日ごろから適切な体調管理を行い、運動レベルについては各個人の体力などに考慮して無理のないように調整して授業に参加してください。
実務経験を活かした授業	健康運動指導士、全米ストレngth&コンディショニング協会認定スペシャリストの有資格者として、行政連携プロジェクトなど地域で子ども～中高年、中高生などのスポーツ・運動指導と指導プログラム開発を行う教員がその実践経験を活かして生涯に亘って健康・スポーツを行う知識と能力を身につけるための実習を行う。

科目名	保健体育講義
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	篠田浩子
授業の概要及びテーマ	古来より人間は身体を媒体とし「動く」ことで他者や世界と関わり、生涯にわたって身体として動くことを宿命づけられてきました。身体運動の質・量が大きく変化した現代においては生活習慣病を始めとする健康阻害が大きな問題となり、私たちの「生きる力」を脅かしています。本講座では氾濫する巷の情報に惑わされることなく、生涯にわたる健康生活を実現するための科学的な知識や方法、戦略について解説していきます。また、その上で運動やスポーツを多面的な視野から検討し、他者や社会との有機的な関わりを見据えた健康・体力増進向上のためのライフスタイルに応じたスポーツ・運動実践のあり方について検討します。
達成目標	・ 現代における生活習慣病や健康阻害と運動との関係について理解し、それを解決するための科学的知識を身につけ、適切に応用することが出来る。 ・ 骨格筋の構造やトレーニングの理論や実践方法の基礎を学び、自らの運動習慣について見直しライフスタイルに応じた持続可能な運動プログラムを作成・実践することができる。 ・ 身体の「適応」として捉えられる「体力」について、他者との共生や自らの習慣・生き方と併せて深く考察し、自らの「生きる力」の向上へとつなぐことが出来る。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、「スポーツ・運動と身体文化」 ～人間にとって「動く」とは何か～ 02 現代の生活と運動・スポーツ ～「便利さ」と引き換えに失った身体の教養と生体リズム～ 03 発育・発達と運動 ～ ライフスタイルに応じたスポーツ・運動習慣の設計～ 04 健康阻害と運動・栄養・休養のバランス ～お相撲さんに糖尿病が多いのは何故～ 05 生活習慣病と運動～「寝ない・食えない・運動しない」が脂肪代謝を悪くする～ 06 身体組成と運動の効果 ～動きやすい体・理想的な体格をつくる～ 行動変容グループワーク 1 07 ロコモティブ・シンドロームと運動習慣 ～カルシウム剤を飲むだけでは骨は強くない～ 08 体力要素：「4色の運動」とは？～あなたに足りない色の運動はどれ？～ 09 骨格筋の構造と働き 1 ～ヒラメの白い筋、マグロの赤い筋の違い～ 行動変容グループワーク 2 10 骨格筋の構造と働き 2 ～足の指が開かないと躓きやすくなる訳、 ～キネティック・チェーン～ 11 トレーニングの理論と実践 1 ～筋トレの回数を増やすと筋力は上がらなくなる？～ 12 トレーニングの理論と実践 2 ～休みをとる戦略：「スプリット・ルーティン」、「インターバル」～ 行動変容グループワーク 3 13 スポーツ・運動とリスクマネジメント 1：日常生活における姿勢・動作と障害リスク、熱中症予防他 14 スポーツ・運動とリスクマネジメント 2：特殊環境・条件での対応「その時あなたは？」 15 生涯スポーツ・体育と「生きる力」 ～ソーシャルキャピタルと地域で行う運動・スポーツの可能性～ 16 期末テスト
成績評価基準	授業の受講態度・意欲 10%、各講義時の課題 20%、期中に行うグループワーク等課題レポート 20%、試験 50% 但し、単位修得には全体の2/3以上の出席を前提条件とします。出欠確認は授業時の課題提出状況やチャット記録などで行います。また出欠に関して不正があった場合は厳正に対処します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	google クラウドスループームを通して授業資料を提示します。
参考書・参考資料等	
用具	授業時にその都度、指示します
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業で学んだことを自らの生活習慣に反映させ、適切な運動プログラムの作成や生活改善についてチームで取り組むようにとめてください。また、それらを個々のライフスタイルの中で工夫して実践・継続することでより良い身体環境を実現し「より善く生きる」ための糧としてください。
実務経験を活かした授業	健康運動指導士、全米ストレngth&コンディショニング協会認定スペシャリストの有資格者として、行政連携プロジェクトなど地域で子ども～中高年、中高生などのスポーツ・運動指導と指導プログラム開発を行う教員がその実践経験を活かして健康管理維持や身体活動・運動実践に関する生涯学習能力を身につけるための講義を行う。

科目名	社会心理学
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	堀川裕介
授業の概要及びテーマ	社会心理学は、私たちが日常生活の中で直面する様々な人々との関係に対して、どのようにふるまったり感じたりしているかを研究する学問です。私たちは家族、友人、学校やバイト先の仲間など多彩な人々と関わりあいますが、あらゆる人と同じように接するわけではありません。また、私たちがどのような場にいるのか（家の中か、教室か、公共の場か、ネット空間か…等々）によってもふるまひ方は異なるはずです。このように相手・状況・環境に応じて変わっていく私たちの心理や行動のあり方を学ぶのが本講義の目的です。 講義にあたっては「人はなぜ自分をよく見せようとするのか」「なぜ会議では意見が言いづらいのか」「なぜネットは炎上するのか」など、身近にある疑問を解きながら社会心理学の基本的な概念や用語を説明していきます。また、それらの学びを通じて、皆さんが身の回りや社会で起きていることについて分析的に考える方法を身につけることを目指します。
達成目標	・社会心理学に関する基本的な概念や用語を理解し、説明できるようにする。 ・身の回りの出来事や社会で起きている問題・課題に対し、社会心理学の視点や方法論を活用して分析・考察できるようにする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 授業ガイダンス～社会心理学とは 02 自己 03 社会的認知 04 態度 05 対人行動（1） 06 対人行動（2） 07 対人行動（3） 08 集団（1） 09 集団（2） 10 マス・コミュニケーション（1） 11 マス・コミュニケーション（2） 12 インターネット・コミュニケーション 13 文化と心理 14 空間の心理 15 まとめ
成績評価基準	毎回の講義時に提出する小課題／コメントシート（40%） 期末課題（60%）
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	講師が資料を作成・配布しますので教科書はありません。
参考書・参考資料等	・『徹底図解 社会心理学―歴史に残る心理学実験から現代の学際的研究まで』山岸俊男監修 新星出版社 1,760 円（税込） ・『図説社会心理学入門』齋藤勇編著 誠信書房 3,080 円（税込） ※講義は配布資料によって進めますので購読は必須ではありません。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	・講義を聞いて分からなかった点はそのままにせず、講師に尋ねたり受講生同士で確認しあうなどしてください。 ・講義中、受講生にコメントを求めたり、簡単なワークをしていただく場合があります。そうした際は積極的に参加するようにしてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	日本文化論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	木林 理恵
授業の概要及びテーマ	「文化」と聞いて何を思い浮かべるかは人によって様々だと思います。この授業では、身近な素材から「文化」を幅広く捉え、日本の文化に関する視野を広げていきます。 日本語という観点からは、母語としての日本語、外国語としての日本語、また、コミュニケーションの在り方を通して、私たちの思考を形にする方法や文化の礎となる部分を学びます。日本社会という観点からは、教育制度や労働問題などから、社会と文化が切り離せないことを見ていきます。また、様々な形の文芸に触れることで、言語によって表現される芸術文化を理解するだけでなく、学んだことを工夫して、自分なりの表現にも積極的に挑戦してほしいと思います。
達成目標	国際的な視点から見た日本文化のあり方を理解できる。 「日本」や「文化」に関する視野を広げ、俯瞰的、複眼的な観点から考察できるようになる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／造形力／構想力を養う授業
授業計画	1 序論 「日本」の範囲、「文化」の範囲 2 日本語とコミュニケーション(1) ノンネイティブから見た日本語 3 日本語とコミュニケーション(2) ことばの運用と円滑なコミュニケーション 4 日本語とコミュニケーション(3) 他の言語と日本語の比較・分析 5 日本語とコミュニケーション(4) 社会的規範と個人の方略的言語使用 6 現代日本の暮らしと文化(1) 米百俵の思想と日本の教育制度 7 現代日本の暮らしと文化(2) 日本の経営とそこから生まれた文化 8 現代日本の暮らしと文化(3) ジェンダーから見た社会と文化 9 現代日本の暮らしと文化(4) 日本社会のなかの米 10 文学・表現(1) 「物語」の枠組みとその効果 11 文学・表現(2) 振り仮名の歴史と表現の可能性 12 文学・表現(3) 俳句：長岡の俳人を題材に 13 文学・表現(4) ポピュラーカルチャーへの視点 14 補遺(1) 現代の科学技術と環境 15 補遺(2) 民芸、日常生活と文化 16 試験
成績評価基準	授業への取り組み 40%、課題 30%、試験またはレポート 30% 授業への取り組みでは、オンラインコミュニケーションへの参加やコメントシートの提出など、課題では、指示と内容の関連性・期日厳守により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	随時資料を配付
参考書・参考資料等	野本京子他編『日本をたどり直す 29 の方法 国際日本研究入門』 東京外国語大学出版会、2016 年
用具	なし
履修制限等	なし
履修希望者への要望・事前準備	指定された事前課題・事後課題は、次回以降の授業で必要なものなので、期日までに提出すること。
実務経験を活かした授業	なし

科目名	美術論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	瀧本 みわ
授業の概要及びテーマ	授業では、19 世紀のフランス美術史を概観しながら、各様式とその代表的作家の造形表現の特質を考察するとともに、作品が制作された歴史的文脈や思想的背景を検討し、美術作品の見方、考え方を学ぶ。そのために、技法、様式、図像、主題といった美術史の基礎知識を修得する。そして、18 世紀末の市民革命と産業革命による社会の変動を経て、19 世紀の近代市民社会の確立によって生まれた近代美術と、20 世紀初頭への展開を考察することで、今日的な課題でもある美術と社会の関係を分析する力を身につける。
達成目標	様々な様式、技法、主題の美術作品に触れ、美術史的な鑑賞方法を修得する。西洋美術史の基礎知識や方法論をもとに、多角的な視点から美術作品について考察を行い、作品の主題やその解釈を人に伝えることができるようになることを目標とする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／造形力／構想力を養う授業
授業計画	01 イントロダクション：18 世紀後半から 19 世紀前半の社会と美術制度 02 新古典主義：ダヴィッドとアングル 03 ロマン主義：ジェリコーとドラクロワ 04 オリエンタリズム 05 レアリスム：クールベとドーミエ 06 パリの大改造と近代都市の成立 07 近代絵画の誕生：マネ 08 印象派：モネとルノワール 09 都市生活の主題：ドガ、トゥールーズ＝ロートレック 10 万国博覧会とジャポニスム 11 印象派の女性画家：モリゾとカサット 12 新印象派：スーラ 13 ポスト印象派：セザンヌ 14 ポスト印象派：ゴッホとゴーギャン 15 象徴主義：モローとルドン 16 筆記試験
成績評価基準	授業後のリアクションペーパーの内容、16 週目に行う筆記試験の結果、そして出席率によって成績を評価します。出席率が 80%に満たない場合は単位が与えられません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。欠席、遅刻も減点の対象となる。
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	毎回の授業で、参考文献リストを含めた資料プリントを配布する。図書館を上手に利用し、できるだけ多くの美術書、専門書に触れること。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	講義ノートをしっかりとり、学んだことを自分なりにまとめる習慣をつけること。美術史は、過去の芸術作品を理解するための学問であるばかりでなく、現在の私たちの身近に氾濫するイメージの意味やメッセージを読み解く鍵を与えてくれるものである。よって、ものづくりに携わる一個人としての視点を持ちながら、授業で紹介する作品に積極的に向き合い、美術史の魅力を味わってもらいたい。
実務経験を活かした授業	

科目名	環境と社会
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	池田享史、板垣順平、柏原信幸、中村和宏、水川毅、◎渡邊誠介
授業の概要及びテーマ	デザインは生活や社会をよりよくすることを志向しています。したがって、およそデザインに関わる者は、地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題に関心を持ち、自らの考えを深めることが大切です。この講義では、昨年注目されている持続可能な社会として国連が 2030 年にむけて目標設定した SDG s にそって専任教員や地域で活躍されている方々からオムニバスで講義し、各切り口でのデザインの役割を考察します。
達成目標	・ 地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題について、基礎的な知識を身につけ、概要を説明することができる。 ・ 地球環境問題等をデザイナーとしての自らの問題として自覚し、身近な生活行動や経済活動に関連付けながら、問題の克服に向けた取り組みについて自分の考えを簡潔に論述できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス+MDG s から SDG s のデザインの狙いと効果 02 デザインと不平等解消の活動 03 アフリカ、ラオスでの不平等解消の活動事例報告 04 アップサイクルデザイン 05 生物多様性とデザイン 06 貧困をなくすデザイン：スラム改善政策からお寺おやつクラブまで 07 長岡市と見附市の SDG s 政策事例紹介 08 国際交流から考える誰しもが住みよいまちとは 09 資源のサイクルを遅らせる製品デザインとシェアリングエコノミーのデザイン 10 女性がますます活躍する社会をつくるには：なでしこ銘柄を考察しよう 11 食品ロスを削減することと食料自給率を上げることとリバースイノベーション 12 リノベーションまちづくり 13 交流人口とまちづくり 14 国土計画と建材と環境づくり 15 エネルギー問題とモビリティ
成績評価基準	成績は、出席率 3 分の 2 以上を前提に、課題レポートをもとに評価します（課題レポート 100%）。 ・ 課題は初回の授業で提示するとともに、最終回の授業で再度説明します。 ・ レポート提出期限は最終回の授業の 1 週間後とします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業ごとにプリントデータ等を配付します。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	社会の持続可能性の問題は、「あちら立てればこちら立たず」、「まだ大丈夫だろうから先送り」の構図にはまっています。若い先の長い、若いジェネレーションほど重大な影響を被る問題ですので、皆さん、関心を強めて下さい。
実務経験を活かした授業	JICA 専門家派遣により途上国支援に携わった経験を持つ教員や SDG s に関連したプロジェクトに携わった教員が、社会問題の発生要因・メカニズムをひもときながら、その解決に向けて政策やプロジェクトそしてデザインがどのように組み立てられているかについて講義する。

科目名	地域文化論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎田中洋史、田邊 幹、筑波匡介
授業の概要及びテーマ	「地域」には、それぞれ、豊かな自然と、人びとの暮らしの移り変わりを伝える「歴史」や「文化」があります。本講義では、長岡造形大学が所在する新潟県・長岡市を中心に、「地域」で積み上げられてきた固有の「歴史」と「文化」をともに学んでいきます。 全15回の講義は、人物、地名、古文書、食べ物、景観、建造物、自然災害、戦災など、地域に由来する様々な情報をもとに進めていきます。講義のテーマは、大きく分けて次の3つです（各講義のタイトルは授業計画を参照）。①前近代の新潟県・長岡市の歴史・人物と地域文化、②自然災害と地域文化、③近現代の新潟県・長岡市の歴史・人物と地域文化。 新潟県出身の歴史地理学者・吉田東伍（1864-1918）は、「郷土の地理、郷土の歴史というものはとりもなおさず、郷土の未来に向かってその応用を待つものである」と述べています。本講義で学んだ、「地域」の「歴史」と「文化」に関する様々な事柄を、自らの専門領域や将来の生活の中で役立ててほしいと考えています。
達成目標	（1）新潟県・長岡市の歴史と文化を知ること。 （2）自己の生まれ育った地域や暮らしている地域と、新潟県・長岡市の違いなどを講義やレポートをとおして語れること。 （3）新潟県・長岡市で育まれた地域の歴史と文化を、自らの作品や活動にどう活かせるかを模索すること。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	1 地域文化論の序の序～新潟県・長岡市の歴史と風土～ 2 蔵王堂城から長岡城へ 3 城下町長岡と村の食文化 4 戊辰戦争 5 中越大地震と災害復興・地域振興～山古志の事例から～ 6 中越沖地震と災害復興・地域防災～柏崎の事例から～ 7 長岡市公会堂と昭和戦前期の市民活動 8 長岡空襲と戦災復興 9 中越大地震と文化財・博物館 10 井上円了の妖怪学 11 絵葉書が語る近代 12 36 豪雪・38 豪雪 13 信濃川・長生橋と長岡の花火 14 中越大地震・東日本大震災の記録と記憶 15 地域文化論の視点～（続）新潟県・長岡市の歴史と風土～ ※担当教員 講義 2、3、7、8、13～15 田中洋史 講義 1、4、9～12 田邊幹 講義 5、6 筑波匡介
成績評価基準	授業態度（10%）、レポート（90%）
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	随時、資料配付
参考書・参考資料等	『ふるさと長岡のあゆみ』（長岡市、1986 年）、『長岡の空襲』（長岡市、1987 年）、『ふるさと長岡の人びと』（長岡市、1998 年）、『長岡歴史事典』（長岡市、2004 年）、『長岡市政 100 年のあゆみ』（長岡市、2006 年）、『郷土長岡を創った人びと』（長岡市、2009 年）、『知っておきたい新潟県の歴史』（新潟日報事業社、2009 年）、『語りつぐ長岡空襲－長岡戦災資料館十周年記念誌－』（長岡市、2013 年）など。
用具	筆記用具。その他、必要な場合は随時指示。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	（1）地域の図書館・博物館・美術館を訪れ、読書や鑑賞をとおして、地域の歴史と文化に興味を持ってほしい。 （2）自らの出身地と新潟県・長岡市を比較し、その違いや共通点を様々な視点から考えていくという姿勢で講義を受けてほしい。
実務経験を活かした授業	

科目名	文化人類学
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	板垣順平
授業の概要及びテーマ	ヒトの暮らしは様ではなく、衣食住をはじめ、言語や生活習慣など様々です。これらの多様な文化はデザインやものづくりとも密接な関係があり、モノに対する価値観も文化によって様々です。この講義では、 ①様々な事例から世界をとらえる（比較する） ②様々な違いを理解する（あたりまえを疑う） ③違いの意や理由を考える（物事の本質を見極める） をテーマに、アジアやアフリカ、オセアニアなどに暮らす様々な少数民族の暮らしを紹介します。また、文化という視点から様々なモノを捉え、ヒトとモノとの関係性について理解を深めます。さらに、デザインプロセスの一つとして一般化しつつあるグランテッドセオリーやエスノグラフィーなど、他者理解を目的としたフィールド調査の方法についても体感的に学びます。
達成目標	文化の多様性と共通性について理解できる。 物事を相対化して考えることができる。 他者理解を目的としたフィールド調査の方法を習得することが出来る。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 文化とは（オリエンテーション） 02 発展途上国の世界 03 アフリカの世界（標高4000m以上の地域に暮らす人々） 04 東南アジアの世界（不発弾汚染地域に暮らす人々） 05 オセアニアの世界（石貨のお金を使う人々） 06 文化の捉え方（民族文化と衣装） 07 文化の捉え方（民族文化と刺青） 08 文化の捉え方（民族文化と観光） 09 文化の捉え方（人類学と国際協力） 10 文化の捉え方（美術館と博物館） 11 文化の捉え方（人類学とデザイン） 12 フィールドワークをやってみよう（観察と洞察） 13 フィールドワークをやってみよう（観察と考現学） 14 フィールドワークをやってみよう（民族誌のまとめかた） 15 まとめ（レポート作成） *オンライン開講
成績評価基準	学期末のレポート提出 50%、小レポートの提出を含めた授業参加態度 50% ただし、総授業数の3分の1以上の小レポート提出がない場合には、学期末のレポートの提出資格を失います。
出席・遅刻の基準	令和3年度の文化人類学はオンラインでの実施となります。出席・遅刻については、授業毎に実施する小レポートの提出をもって判断します。授業に参加しても小レポートの提出がない場合は欠席扱いとなることがありますのでご注意ください。
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業では、講義だけでなく学内での簡単なフィールド調査を実施します。
実務経験を活かした授業	途上国での長期フィールド調査や国際協力事業に携わった教員が実施経験をもとに文化のあり方や途上国の現状について講義する。

科目名	法学(日本国憲法)
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	星野 徹
授業の概要及びテーマ	教職課程の一環として、日本国憲法を題材に「法学」を理解しよう。 憲法解釈を通じて法解釈の在り方、法体系の在り方、そして生活の中で法がどのように機能しているのかを授業を通じて実感できるようにします。 憲法論としては、法の支配とは何か、立憲主義が歴史の中でどのように成り立ち守られてきたか、そして日本国憲法の特殊な成立と性質を、判例を踏まえ理解できるようにします。 教員採用試験の受験希望者については、試験に有益な法律知識を提供します。
達成目標	日本国憲法の基本原則と体系的構造の理解を身につける。 判例解釈を通じて、実践的に法学を理解する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 総論1 憲法の基本原則とその相互の関係、法解釈の手法 02 総論2 日本国憲法の基本原則、成立の経緯(太平洋戦争前) 03 総論3 成立の経緯(戦後)、明治憲法との比較 04 人権1 人権保障総論(主体、新しい権利)、特殊の法律関係 05 人権2 包括的人権1(人権の種類、平等権) 06 人権3 包括的人権2(平等権、幸福追求権) 07 人権4 自由権1(精神的自由、表現の自由を除く) 08 人権5 自由権2(表現の自由を除く精神的自由の残り) 09 人権6 自由権3(表現の自由) 10 人権7 自由権4(経済的自由) 11 人権8 社会権・レポート講評 12 人権9 人身の自由(刑事手続上の保障) 13 統治1 統治の基本原則・国会 14 統治2 国会・内閣 15 統治3 裁判所・地方自治 16 試験
成績評価基準	レポートの成績 30%、試験の成績 70%の合計 100%で評価する。 レポートは原則として 11 月中の講義の日にリモートで出題し、次の講義の日に PDF 形式で提出してもらう。 試験は 15 回の講義の後に、別の日を指定して実施する。 授業の出席日数の不足、出席態度については、減点材料となる。 欠席または早退が 2 回あった場合、1 回欠席したものとみなす。 出席日数が授業日数の 3 分の 2 (10 回) 以上にならない者には、原則として単位を付与しない。 その場合、レポート及び試験の採点もされない場合がある。
出席・遅刻の基準	原則(通学の場合)は、履修ガイドのとおりです。 リモート授業の場合は次のとおりです。 1 欠席 授業時間のうち 4 6 分以上視聴していない場合は欠席扱いとなります。 2 遅刻 授業開始後 1 0 分以上視聴を開始していない場合は遅刻扱いとなります。 3 早退 授業終了時刻の 1 0 分以上前に退出した場合は早退扱いとなります。 講師が講義の終了を告げた後、1 分間経過してもログアウトしない場合も、既に視聴していないものとして、早退とします。 4 中抜 授業中 1 0 分以上中抜けした場合は早退として扱います。 4 両方 遅刻と早退の両方が発生した場合は、長い時間の方を記録します。合計で 4 6 分以上視聴していない場合は、欠席になります。
テキスト(教科書)	主に、講義で配布するレジメによるが、レジメで参照を指示するテキストとして、『憲法入門』(有斐閣双書)伊藤正己著 定価 1,760 円(税込)を指定する。最終試験に穴埋め式で出題することがあるので、購入を勧める。
参考書・参考資料等	教職課程を採った者は、教育六法の購入をお勧めします。 肩の凝らない読み物として次の書籍を読むことをお勧めします。 夏樹静子「裁判百年史ものがたり」 さいとうたかを「小説 吉田学校」
用具	薄いものでいいので六法、または、憲法の条文のコピー。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	・法学及び憲法に興味を持って授業に臨むこと。 とくに教員志望の方は、教員になることは、自分が教室の責任者になることを意味するので、生徒・児童の人権を理解し、適切な指導を行うためにも、最低限の教養として法学を身につけ、実践できる思考方法を身につけること。 ・授業を真面目に聞く態度さえあれば、他にはありません。 ・リモート授業では、授業態度がわかりませんので、レポートの提出状況や、授業の視聴時間等、客観的な数字で把握できる事情が重要になります。 ・わざわざ大学に来なくても授業を受けられるのですから、欠席、遅刻や早退は、真面目な態度から逸脱しているものと評価します。
実務経験を活かした授業	弁護士として、裁判を通じて体験したことを守秘義務の範囲でお話します。 地方公務員の経験もありますので、公務員試験に関する情報もお話します。

科目名	科学技術論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	寺島正二郎
授業の概要及びテーマ	今日の我々の生活を支えている科学や技術は、古くからの経験や知恵によって進歩し、多くの試行錯誤によって発展してきた。この科学や技術の進歩は、日常生活から生まれたニーズに基づくものから、その時代の社会的背景に発端を持つものまで様々である。 本講の各講義では、現在の文明社会に欠かすことのできない科学理論や産業技術、生活の必需品に焦点をあて、その発達の歴史や社会への波及効果などについて概説する。これにより科学技術の発展過程を学ぶと共に、今後の技術開発のあり方を考える。
達成目標	科学や技術に興味を持て、科学技術の発展に至った社会的背景や発達の過程、社会的な波及効果などについて理解できる様になること。また、必要な事項について自ら調査を行い、今後の科学技術のあり方について各自の意見が持てること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01～03 エネルギーと動力源 04～06 建築、家庭用電気製品（衣食住の“住”） 07～09 食品の加工（衣食住の“食”） 10～12 衣類、生活用品（衣食住の“衣”） 13～15 医療・福祉機器、自然現象、宇宙開発 16 定期試験
成績評価基準	講義ごとに行う出席確認クイズ、レポート、期末試験の結果を総合して評価する。原則として評価の70～80%は定期試験の得点を用いることとし、レポートなどを課した場合には、最大20～30%まで評価に取り入れる。 尚、欠席回数に応じて、定期試験とレポート点を合計した得点から（欠席超過回数（5回以上で1回につき）×10%を減点し、最終的な評価点とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	特に指定しない。尚、講義資料は長岡造形大学のパレット等にアップロードすると共に、必要に応じてプリントを配付する。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	自分の目で見、耳で聴いて、自分で考えることが大切です。まず、出席して自分の視点で感じてください。また、授業中は多くの学生さんに意見を求めます。「分かりません」などと回答せず、間違っている良いので「自分の意見」を答えて下さい。 講義中の態度が悪い（私語、内職、居眠り）場合について： 1～2回の注意はしますが、改善が見られない諸君は、理由の如何によらず、それ以降の聴講を認めません。お互いに、大人としてのマナーを守りましょう。
実務経験を活かした授業	

科目名	哲学
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及びテーマ	哲学といってもあまりにいろいろな立場があるのが現状ですが、ここで学ぶ哲学とは、世界や自己という根本的な問題について深く感じ、考えるという、人類の文化的伝統を指しています。単に頭で考えるというだけではなく、感覚や直観もあわせ、人間にとっての「謎」の領域に迫ろうとする行為について理解を深めます。狭い意味でのアカデミックな哲学のみを対象とはしません。 この講義では、アカデミックに研究されている哲学を紹介するという方法を取りません。まず日本の伝統に流れている世界感覚からより深い理解へと進んでいきます。そして、これまで人類が探求してきた、人間や世界の「本質」についての洞察に学び、自らの糧とすることを目標にします。
達成目標	伝統哲学に含まれた英知を理解する。 人類史的な視野の中で根本的問題を思考することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 イントロダクション——文明のゆくえと哲学の現状について 02～04 ネイティブ文化に含まれていた世界観 05～13 古典文明期における哲学（ギリシャ、インド、仏教哲学、など） 14 新しい文明と哲学 15 総括とまとめの問題 （進行計画はだいたいの目安です。履修者の状況に応じて多少の変更を行うことがあります）
成績評価基準	Google Classroom を用いて毎回、講義内容についてのクイズを出題します。そして最後にまとめの問題を解答します。 毎回のクイズ 75% まとめの問題 25%
出席・遅刻の基準	
テキスト（教科書）	開講時に指示します。
参考書・参考資料等	必要に応じて指示することがあります。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	哲学に一つの決められた答えはないと言われますが、その時の自分にとって最善の答えはあり得ます。それを探求するために、人類の伝統に学んでみてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語中級 I a-c
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及びテーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。 TOEIC への対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。 この授業は、受講者が英検準 2 級程度の英語力を持っているという前提で行われます。1 年生で自分のレベルがわからない人はブレースメントテストを受験してください（必須ではありませんが）。
達成目標	TOEIC テストの形式に慣れ、基礎的な問題解答力をつける。 期末の TOEIC テストで 400～500 点台を獲得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01. TOEIC テストの概要、学習の進め方、発音基礎 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 16. 試験 (TOEIC IP テスト) オンラインテスト
成績評価基準	授業への取り組み (授業内のテスト、提出課題を含む) 40% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 60% ただし、原則として TOEIC スコア 350 点以上を単位認定の条件とする。
出席・遅刻の基準	
テキスト (教科書)	主となるテキスト 『公式 TOEIC Listeng & Reading 問題集 8』国際ビジネスコミュニケーション協会、税込み 3300 円 単語学習として使用するテキスト 『TOEIC L&R テスト最強単語 & フレーズ』 早川幸治 桐原書店 税込み 1760 円 いずれも、後期の英語中級 II で引き続き使用します。
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいっぽんよくわかる』 静哲人 テイエス企画 ☆その他 (英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版 (購入の義務はありません)
用具	解答を書く用紙、自己採点のための赤ペン、時間を測るための時計、など。その他必要に応じて授業時に指示します。
履修制限等	35 人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にて決定します。また履修登録 5 人未満の場合は開講されません。この場合他のクラスへ移動してください。
履修希望者への要望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく (参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー (ソフトウェア、アプリ等) は、再生速度を変えられるものがよい (Windows Media Player, Quicktime, Audipo 等)。 この科目は ZOOM の遠隔授業となります。ZOOM ではビデオオン、顔出しを原則とします。事情がありビデオオンできない場合は担当教員の許可を得てください。許可なくビデオオフにしている場合は平常点の減点となることがあります。
実務経験を活かし た授業	

科目名	英語中級Ⅱ a-c
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及びテーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。 TOEIC への対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。 この授業は、受講者が英検準2級程度の英語力を持っていることを前提の上で行われます。1年生で自分のレベルがわからない人はプレースメントテストを受験してください（必須ではありません）。
達成目標	TOEIC テストの形式にさらに慣れ、問題解答力をつける。 TOEIC テストで 400～500 点台を獲得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01. 現在の実力チェック 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み(授業内のテストを含む) 40% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 60% ただし、原則として TOEIC スコア 350 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績が不可となる。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	主となるテキスト 『公式 TOEIC Listeng & Reading 問題集 8』国際ビジネスコミュニケーション協会、税込み 3300 円 単語学習として使用するテキスト 『TOEIC L&R テスト最強単語&フレーズ』 早川幸治 桐原書店 税込み 1760 円 英語中級Ⅰと同じです。
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる』 静哲人 テイエス企画 ☆その他(英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	解答を書く用紙、自己採点のための赤ペン、時間を測るための時計、など。その他必要に応じて授業時に指示します。
履修制限等	1 クラスは 35 人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にてクラスを振り分けます。 また 5 人未満の場合は開講されません。この場合他のクラスへ移動してください。
履修希望者への要望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく(参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー(ソフトウェア、アプリ等)は、再生速度を変えられるのがよい(Windows Media Player, Quicktime, Audipo 等)。 この科目は ZOOM の遠隔授業となります。ZOOM ではビデオオン、顔出しを原則とします。事情がありビデオオンできない場合は担当教員の許可を得てください。許可なくビデオオフにしている場合は平常点の減点となることがあります。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語中上級Ⅰ a, b
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及びテーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。 TOEIC への対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。 この授業は、受講者が英検2級程度の英語力を持っていることを前提の上で行われます。1年生で自分のレベルがわからない人はブレースメントテストを受験してください(必須ではありません)。
達成目標	TOEIC テストの形式に慣れ、問題解答力をつける。 TOEIC テストで 500～600 点以上を獲得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01. TOEIC テストの概要、学習の進め方、現在の実力チェック 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み(授業内のテストを含む) 40% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 60% ただし、原則として TOEIC スコア 400 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績が不可となる。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	主となるテキスト 『公式 TOEIC Listeng & Reading 問題集 8』国際ビジネスコミュニケーション協会、税込み 3300 円 単語学習として使用するテキスト 『TOEIC L&R テスト最強単語 & フレーズ』 早川幸治 桐原書店 税込み 1760 円 いずれも、後期の英語中上級Ⅱで引き続き使用します。
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいばんよくわかる』 静哲人 テイエス企画 ☆その他(英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	解答を書く用紙、自己採点のための赤ペン、時間を測るための時計、など。その他必要に応じて授業時に指示します。
履修制限等	1 クラスは 35 人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にてクラスを振り分けます。 また 5 人未満の場合は開講されません。この場合他のクラスへ移動してください。
履修希望者への要望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく(参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー(ソフトウェア、アプリ等)は、再生速度を変えられるものがよい(Windows Media Player, Quicktime, Audipo 等)。 この科目は ZOOM の遠隔授業となります。ZOOM ではビデオオン、顔出しを原則とします。事情がありビデオオンできない場合は担当教員の許可を得てください。許可なくビデオオフにしている場合は平常点の減点となることがあります。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語中上級Ⅱ a, b
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及びテーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。 TOEIC への対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。 この授業は、受講者が英検 2 級程度の英語力を持っていることを前提の上で行われます。1 年生で自分のレベルがわからない人はブレスメントテストを受験してください（必須ではありません）。
達成目標	TOEIC テストの形式にさらに慣れ、問題解答力をつける。 TOEIC テストで 500～600 点台を獲得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01. 現在の実力チェック 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み(授業内のテストを含む) 40% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 60% ただし、原則として TOEIC スコア 400 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績が不可となる。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	主となるテキスト 『公式 TOEIC Listeng & Reading 問題集 8』国際ビジネスコミュニケーション協会、税込み 3300 円 単語学習として使用するテキスト 『TOEIC L&R テスト最強単語 & フレーズ』 早川幸治 桐原書店 税込み 1760 円 いずれも、後期の英語中上級Ⅱで引き続き使用します。
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる』 静哲人 テイエス企画 ☆その他(英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	解答を書く用紙、自己採点のための赤ペン、時間を測るための時計、など。その他必要に応じて授業時に指示します。
履修制限等	1 クラスは 35 人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にてクラスを振り分けます。 また 5 人未満の場合は開講されません。この場合他のクラスへ移動してください。
履修希望者への要望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく(参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー(ソフトウェア、アプリ等)は、再生速度を変えられるのがよい(Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple 等)。 T この科目は ZOOM の遠隔授業となります。ZOOM ではビデオオン、顔出しを原則とします。事情がありビデオオンできない場合は担当教員の許可を得てください。許可なくビデオオフにしている場合は平常点の減点となることがあります。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語上級 I
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及び テーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を完成させる。 この授業は、受講者が英検 2 級、TOEIC450 点以上に該当する英語力を持っていることを前提の上で行われます。
達成目標	TOEIC テストの形式に慣れ、問題解答力をつける。 期末の TOEIC テストで 550～600 点台を獲得する。
卒業認定・学位授与 の方針(ディプロマ ポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01. TOEIC テストの概要、学習の進め方、現在の實力チェック 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み(授業内のテストを含む) 40% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 60% ただし、原則として TOEIC スコア 450 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績が不可となる。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	主となるテキスト 『公式 TOEIC Listeng & Reading 問題集 8』国際ビジネスコミュニケーション協会、税込み 3300 円 単語学習として使用するテキスト 『TOEIC L&R テスト最強単語 & フレーズ』 早川幸治 桐原書店 税込み 1760 円
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる』 静哲人 テイエス企画 ☆その他(英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	解答を書く用紙、自己採点のための赤ペン、時間を測るための時計、など。その他必要に応じて授業時に指示します。
履修制限等	2 年生以上が対象です。1 年生は受講できません。 1 クラスは 35 人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にてクラスを振り分けます。 また 5 人未満の場合は開講されません。
履修希望者への要 望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声につ いての参考書をそろえておく(参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー(ソフトウェア、アプリ等)は、再生速度を変えられるものがよい(Windows Media Player, Quicktime, Audipo 等)。 この科目は ZOOM の遠隔授業となります。ZOOM ではビデオオン、顔出しを原則とします。事情がありビデオオンできない場合 は担当教員の許可を得てください。許可なくビデオオフにしている場合は平常点の減点となることがあります。
実務経験を活かし た授業	

科目名	英語上級Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	菅原 浩
授業の概要及びテーマ	TOEIC テストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。 それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を完成させる。 この授業は、受講者が英検2級、TOEIC450 点以上に該当する英語力を持っていることを前提の上で行われます。
達成目標	TOEIC テストの形式に慣れ、問題解答力をつける。 期末の TOEIC テストで 550～600 点を獲得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01. 現在の實力チェック 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 15. 音読練習、単語テスト、TOEIC 問題を用いた演習 16. 試験 (TOEIC IP テスト)
成績評価基準	授業への取り組み(授業内のテストを含む) 40% 試験 (TOEIC IP テスト) スコア 60% ただし、原則として TOEIC スコア 450 点以上を単位認定の条件とする。 理由のない欠席は 4 回までとし、5 回以上は成績が不可となる。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	主となるテキスト 『公式 TOEIC Listeng & Reading 問題集 8』国際ビジネスコミュニケーション協会、税込み 3300 円 単語学習として使用するテキスト 『TOEIC L&R テスト最強単語 & フレーズ』 早川幸治 桐原書店 税込み 1760 円
参考書・参考資料等	☆文法書 『一億人の英文法』 大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ ☆音声参考書 『発音の教科書——日本語ネイティブが苦手な英語の音とリズムの作り方がいちばんよくわかる』 静哲人 テイエス企画 ☆その他(英語の感覚を理解するために) 『英単語イメージ・ハンドブック』 大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社 『ハートで感じる英語塾 英語の 5 原則編』 大西泰斗、ポール・マクベイ NHK 出版
用具	解答を書く用紙、自己採点のための赤ペン、時間を測るための時計、など。その他必要に応じて授業時に指示します。
履修制限等	2 年生以上が対象です。1 年生は受講できません。 1 クラスは 35 人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にてクラスを振り分けます。 また 5 人未満の場合は開講されません。
履修希望者への要望・事前準備	教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CD および MP3 を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく(参考書の欄も参照)。 MP3 プレーヤー(ソフトウェア、アプリ等)は、再生速度を変えられるものがよい(Windows Media Player, Quicktime, Audipo 等)。 この科目は ZOOM の遠隔授業となります。ZOOM ではビデオオン、顔出しを原則とします。事情がありビデオオンできない場合は担当教員の許可を得てください。許可なくビデオオフにしている場合は平常点の減点となることがあります。
実務経験を活かせた授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーション I a-g
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Andrew Van Goethem
授業の概要及びテーマ	リスニングにやや重点を置きつつ、基礎的な会話練習を行います。 受講者は、自分の興味や意見を、英語を用いてシェアしていきます。 この授業はベーシックな内容で行います。
達成目標	受講者は、とりあげたトピックに関連するたくさんのタスクを行うことができるようになります。授業の後では、そのトピックについて話すことに慣れてくるでしょう。また、話題となっているトピックに関連した単語やフレーズも学びます。海外旅行に足りる程度の、初歩的なスピーキング能力を獲得します。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	Class 1: Introductions, Topic 1 Family Class 2: Topic 2 Food Class 3: Topic 3 Time, Topic 8 Numbers Class 4: Topic 4 House & Home Class 5: Topic 5 Music Class 6: Topic 6 Transportation Class 7: Topic 7 Sports Class 8: Topic 9 Best Friends Class 9: Topic 10 TV, Topic 14 Movies Class 10: Topic 11 Work, Topic 13 School Class 11: Topic 15 Money Class 12: Topic 12 Vacation Class 13: Topic 12 Vacation Part II Class 14 & 15: Summary and Oral Exam
成績評価基準	50% 授業への参加度 25% 宿題、課題など 25% 口頭テスト
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	Topic Talk, Second Edition EFL Press 本体 2500 円程度
参考書・参考資料等	
用具	辞書・ノート
履修制限等	【1 年生】 ・必ず学科毎に指定されたクラスを履修登録してください。視覚デザイン学科及び建築・環境デザイン学科は、学籍番号順に区分したクラスに分かれるため、履修登録時にクラスを間違えないように注意してください。 【2 年生以上】 ・自身の履修可能なクラスの開講曜日・時限とシラバスを確認し、履修するクラスを選び、パレットから履修登録してください。 ※1 クラスは 35 人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にてクラスを振り分けます。また 5 人未満の場合は開講されません。
履修希望者への要望・事前準備	受講者は、辞書とノートを持参の上、時間通りに教室に来ることが必要です。また、分からない英語があれば積極的に質問してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅡ a-g
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Andrew Van Goethem
授業の概要及び テーマ	リスニングにやや重点を置きつつ、基礎的な会話練習を行います。 受講者は、自分の興味や意見を、英語を用いてシェアしていきます。 この授業はベーシックな内容で行います。
達成目標	受講者は、とりあげたトピックに関連するたくさんのタスクを行うことができるようになります。授業の後では、そのトピックについて話すことに慣れてくるでしょう。また、話題となっているトピックに関連した単語やフレーズも学びます。受講者がネガティブな感情なしに英語を学べるよう、モチベーションを上げていきます。海外旅行に足りる程度の、初歩的なスピーキング能力を獲得します。前期からのある程度の上達をめざします。
卒業認定・学位授与 の方針(ディプロマ ポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	Class 1: Topic 16 Restaurants Class 2: Topic 17 Animals Class 3: Topic 18 Shopping Class 4: Topic 19 Health & Fitness Class 5: Topic 20 Fashion Class 6: Topic 21 Travel Class 7: Topic 22 Books Magazines & Newspapers Class 8: Topic 23 Sickness, Topic 25 Fears Class 9: Topic 26 Dating, Topic 27 Marriage Class 10: Topic 28 Beliefs Class 11: Topic 29 Crime Class 12: Topic 30 Opinions Class 13: Topic 24 Holidays Class 14 & 15: Summary and Oral Exam
成績評価基準	50% クラスへの参加度 10% 課題 (Eメール) 15% 英語の使い方 25% 口頭テスト
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト (教科書)	Topic Talk, Second Edition EFL Press 本体 2500 円程度
参考書・参考資料等 用具	辞書・ノート
履修制限等	【1年生】 ・必ず学科毎に指定されたクラスを履修登録してください。視覚デザイン学科及び建築・環境デザイン学科は、学籍番号順に区分したクラスに分かれるため、履修登録時にクラスを間違えないように注意してください。 【2年生以上】 ・自身の履修可能なクラスの開講曜日・時間とシラバスを確認し、履修するクラスを選び、パレットから履修登録してください。 ※1 クラスは 35 人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にてクラスを振り分けます。また 5 人未満の場合は開講されません。
履修希望者への要 望・事前準備	受講者は、辞書とノートを持参の上、時間通りに教室に来ることが必要です。また、分からない英語があれば積極的に質問するようにしてください。
実務経験を活かし た授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅢ a-f
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Andrew Van Goethem, Brian Drier, Bill Evangelos Moulinos, 木伏あづさ
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。
達成目標	トピックに関連したたくさんのタスクをこなすことで、授業の後にはそのトピックについて話すことが楽に感じられるようにします。そのトピックに関連した単語やフレーズも学びます。英語を学ぶことへのネガティブな感覚をなくし、モチベーションを上げていきます。 この授業の目的は、授業の間英語だけを話し、第二言語として英語を使うことに自信をつけることです。海外旅行に十分な程度の基礎的なスピーキングの能力を獲得します。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	[Van Goethem] Week 1: Introductions, How are you? Nice to meet you. Can you say that again? Week 2: Nice weather, isn't it? I love hip-hop! Week 3: My favorite movie is..... What time is it? Week 4: Would you try kayaking? Do you have any brothers? Week 5: She's pretty smart. I love your shirt! What's she wearing? Week 6: When do you get up? When do you get there? What do you do first? Week 7: What are you doing? What's your place like? Where can I get a lamp? Week 8: Where's the mall? Take a left. How much is coffee? Week 9: Will you take \$20? Do you ever buy books? Your phone is so cool! Week 10: Do you eat much fruit? We need onions. Week 11: Do you ever eat a big lunch? How does it taste? Week 12: I had a great weekend. What time did you call? You won't believe this! Week 13: What are your plans? Week 14: Class summary Week 15: Class summary [Drier] Week 1: Introductions (Professor; Class; Students) Week 2: Getting Acquainted (Let's Chat, Unit 1), Part 1 Week 3: Getting Acquainted (Let's Chat, Unit 1), Part 2 Week 4: Experiences (Let's Chat, Unit 2), Part 1 Week 5: Experiences (Let's Chat, Unit 2), Part 2 Week 6: Sport & Leisure (Let's Chat, Unit 3), Part 1 Week 7: Sport & Leisure (Let's Chat, Unit 3), Part 2 Week 8: Shopping & Money (Let's Chat, Unit 4), Part 1 Week 9: Shopping & Money (Let's Chat, Unit 4), Part 2 Week 10: Food (Let's Chat, Unit 5), Part 1 Week 11: Food (Let's Chat, Unit 5), Part 2 Week 12: Travel (Let's Chat, Unit 6), Part 1 Week 13: Travel (Let's Chat, Unit 6), Part 2 Week 14: Movies & Television (Let's Chat, Unit 7) Week 15: Final Exam/Listening Challenge [Moulinos] Week 1. Introduction Week 2. Unit 1: Guess Where I'm from. Week 3. Unit 2: Comfy Seats. Week 4. Unit 3: A Trip to the Art Gallery; Unit 4: My Quirky Family. Week 5. Unit 5: Scaredy Cat. Week 6. Unit 6: The Commute. Week 7. Unit 7: A Close Shave. Week 8. Unit 8: Excuses, Excuses. Week 9. Unit 9: Moving On. Week 10. Unit 10: Shop till You Drop. Week 11. Unit 11: Home Sweet Home. Week 12. Unit 12: The Life of the Party. Week 13. Unit 13: Aussies are So Cool.

長岡造形大学 シラバス 2022

	Week 14. Unit 14: World' s Worst Cook; Unit 15: Lucky Dog. Week 15. Final Examination. [木伏] 第1回 授業の進め方 第2回 スピーチ演習・発表 第3回 スピーチ演習・発表 第4回 スピーチ演習・発表 第5回 スピーチ演習・発表 第6回 スピーチ演習・発表 第7回 スピーチ演習・発表 第8回 スピーチ演習・発表 第9回 スピーチ演習・発表 第10回 スピーチ演習・発表 第11回 スピーチ演習・発表 第12回 スピーチ演習・発表 第13回 スピーチ演習・発表 第14回 スピーチ演習・発表 第15回 スピーチ演習・発表 第16回 学期末面接試験
成績評価基準	授業への参加度 50% 宿題・課題など 25% 口頭テスト 25%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	[Van Goethem] Speak Now 1 Oxford 本体 2990 円 [Drier] Let' s Chat (John Pak, EFL Press: ¥2500 + tax) [Moulinos] Impact Conversation 1 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens; 2009, Pearson Longman. [木伏] Challenge Book #4 for University Students & Adults ISBN978-4-947736-55-0 C6082 ¥2500+tax
参考書・参考資料等	
用具	辞書・ノート
履修制限等	1 年生は履修できません（2 年次以降に履修してください）。 ※自身の履修可能なクラスの開講曜日・時限を確認し、履修するクラスを選び、パレットから履修登録してください。 ※1 クラスは 35 人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にて決定します。また 5 人未満の場合は開講されません。
履修希望者への要望・事前準備	[Van Goethem] 受講者は、辞書とノートを持参の上、時間通りに教室に来る必要があります。また、分からない英語があれば積極的に質問するようにしてください。 [Drier] 私はこのクラスを楽しみにします。私はこの授業を英語における実験だと思っています。という意味は、スケジュールは準備していますが、実験的だということです。つまり、学期の間、クラスの雰囲気や、内容をこなすのに必要な時間を考慮して、変更を行うことがあるということです。ユニットの順番を変えたり、どこかのユニットを飛ばしたり、リストにない教材を追加したりします。私は自分の経験をみなさんとシェアしたいと考えています。そして皆さんも、自分の経験を私やクラスメートとシェアする準備をしておいてほしいと思います。念のため辞書を持って、そして「元気」も持ってきてきましょう！ [Moulinos] 毎回のクラスに、中辞典以上の辞書を持って、ポジティブな気持ちで参加しましょう。 [木伏] 毎回、スピーチ発表やクラスメイトとの英語での交流があります。積極的に授業に参加してください。テキストのテンプレートを使って、各自スピーチを書き、暗記して、発表します。間違いを恐れず、堂々と発表してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅣ a-f
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Andrew Van Goethem, Brian Drier, Bill Evangelos Moulinos, 木伏あづさ
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。
達成目標	受講者は、とりあげたトピックに関連するたくさんのタスクを行うことができるようになります。授業の後では、そのトピックについて話すことに慣れてくるでしょう。また、話題となっているトピックに関連した単語やフレーズも学びます。受講者がネガティブな感情なしに英語を学べるよう、モチベーションを上げていきます。海外旅行に十分な程度の、ベーシックなスピーキング能力を獲得します。前期からのある程度の上達をめざします。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	[Van Goethem] Week 1: Introductions. Where are you from? I'm tall and thin. Alice is more serious. Week 2: All of my friends text. I've never had Thai food. First, grill the bread. Week 3: The service is great. Are you ready to order? Week 4: I have a sore throat. What should I do? I'd love to try that! Week 5: Soccer is more exciting! I can write pretty well. I'd have to have.. Week 6: I travel for free. Is the manager there? Week 7: That sounds fun! I'd love to go. I'm sorry, but I can't. Week 8: Sorry I'm late. Did you go alone? Which do you prefer? Week 9: You must get a visa. When is the next train? Week 10: I usually wear..What do you think? Week 11: Can you do me a favor? What is it used for? Week 12: I think it's fun. I feel the same way. Week 13: What would you do? Then what happened? Week 14: Summary Week 15: Summary [Drier] Week 1: Summer Vacation Stories Week 2: Work (Let' s Chat, Unit 8), Part 1 Week 3: Work (Let' s Chat, Unit 8), Part 2 Week 4: Love & Romance (Let' s Chat, Unit 10), Part 1 Week 5: Love & Romance (Let' s Chat, Unit 10), Part 2 Week 6: Music & Books (Let' s Chat, Unit 11), Part 1 Week 7: Music & Books (Let' s Chat, Unit 11), Part 2 Week 8: Culture & Places in Japan (Let' s Chat, Unit 12), Part 1 Week 9: Culture & Places in Japan (Let' s Chat, Unit 12), Part 2 Week 10: Introducing Presentation Project Week 11: World Problems (Let' s Chat, Unit 13), Part 1 Week 12: World Problems (Let' s Chat, Unit 13), Part 2 Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Final Exam/Listening Challenge [Moulinos] Week1. Introduction Week2. Unit 1: Something Cool. Week3. Unit 2: My Humble Abode. Week4. Unit 3: Food Cravings. Week5. Unit 4: Who We Are. Week6. Unit 5: Corporate Ladder. Week7. Unit 6: Another World. Week8. Unit 7: Big Worry; Unit 8: Unplugged. Week9. Unit 9: The Remote. Week10. Unit 10: Clean Freak.

長岡造形大学 シラバス 2022

	Week11. Unit 11: No Such Thing. Week12. Unit 12: Like Chalk and Cheese. Week13. Unit 13: Hang in There. Week14. Unit 14: The Time of My Life; Unit 15: It's a Guy Thing. Week15. Final Examination. [木伏] 第1回 授業の進め方 第2回 スピーチ演習・発表 第3回 スピーチ演習・発表 第4回 スピーチ演習・発表 第5回 スピーチ演習・発表 第6回 スピーチ演習・発表 第7回 スピーチ演習・発表 第8回 スピーチ演習・発表 第9回 スピーチ演習・発表 第10回 スピーチ演習・発表 第11回 スピーチ演習・発表 第12回 スピーチ演習・発表 第13回 スピーチ演習・発表 第14回 スピーチ演習・発表 第15回 スピーチ演習・発表 第16回 学期末面接試験
成績評価基準	50% 授業への参加度 25% 宿題、課題など 25% 口頭テスト
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	[Van Goethem] Speak Now 2 Oxford 本体 2990 円程度 [Drier] Let's Chat (John Pak, EFL Press: ¥2500 + tax) [Moulinos] Impact Conversation 2 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens; 2009, Pearson Longman. [木伏] Challenge Book #4 for University Students & Adults ISBN978-4-947736-55-0 C6082 ¥2500+tax
参考書・参考資料等	
用具	辞書・ノート
履修制限等	1年生は履修できません（2年次以降に履修してください）。 ※自身の履修可能なクラスの開講曜日・時限を確認し、履修するクラスを選び、パレットから履修登録してください。 ※1クラスは35人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にて決定します。また5人未満の場合は開講されません。
履修希望者への要望・事前準備	受講者は、辞書とノートを持参の上、時間通りに教室に来る必要があります。また、英語でわからないことがあれば質問をするようにしてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅤ a-c
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Brian Drier, Bill Evangelos Moulinos, 木伏あづさ
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。 英語オーラルコミュニケーションⅤ～Ⅷは、おおむね英検準2級程度の英語力を前提として授業を行いますので、プレースメントテストを受けるなど、自分のレベルを確認した上で受講してください。
達成目標	これはオーラルコミュニケーションのクラスです。受講者は自分が持っている知識を何でも使って、毎週クラスメートと積極的にコミュニケーションしていく必要があります。また、リスニング、ライティング、リーディングの要素も含まれます。受講者は、基礎的レベルで、自分の意見を表現できる程度のスピーキング能力を獲得します。 このクラスでは、授業中英語のみを話し、第二言語としての英語を使うことに自信をつけていきます。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	(Drier) Week 1: Introductions (Professor; Class; Students) Week 2: Getting Acquainted (Let' s Chat, Unit 1), Part 1 Week 3: Getting Acquainted (Let' s Chat, Unit 1), Part 2 Week 4: Experiences (Let' s Chat, Unit 2), Part 1 Week 5: Experiences (Let' s Chat, Unit 2), Part 2 Week 6: Sport & Leisure (Let' s Chat, Unit 3), Part 1 Week 7: Sport & Leisure (Let' s Chat, Unit 3), Part 2 Week 8: Shopping & Money (Let' s Chat, Unit 4), Part 1 Week 9: Shopping & Money (Let' s Chat, Unit 4), Part 2 Week 10: Food (Let' s Chat, Unit 5), Part 1 Week 11: Food (Let' s Chat, Unit 5), Part 2 Week 12: Travel (Let' s Chat, Unit 6), Part 1 Week 13: Travel (Let' s Chat, Unit 6), Part 2 Week 14: Movies & Television (Let' s Chat, Unit 7) Week 15: Final Exam/Listening Challenge (Moulinos) Week 1. Introduction Week 2. Unit 1: Guess Where I' m from. Week 3. Unit 2: Comfy Seats. Week 4. Unit 3: A Trip to the Art Gallery; Unit 4: My Quirky Family. Week 5. Unit 5: Scaredy Cat. Week 6. Unit 6: The Commute. Week 7. Unit 7: A Close Shave. Week 8. Unit 8: Excuses, Excuses. Week 9. Unit 9: Moving On. Week 10. Unit 10: Shop till You Drop. Week 11. Unit 11: Home Sweet Home. Week 12. Unit 12: The Life of the Party. Week 13. Unit 13: Aussies are So Cool. Week 14. Unit 14: World' s Worst Cook; Unit 15: Lucky Dog. Week 15. Final Examination. (木伏) 第1回 授業の進め方 第2回 スピーチ演習・発表 第3回 スピーチ演習・発表 第4回 スピーチ演習・発表 第5回 スピーチ演習・発表 第6回 スピーチ演習・発表 第7回 スピーチ演習・発表

長岡造形大学 シラバス 2022

	第8回 スピーチ演習・発表 第9回 スピーチ演習・発表 第10回 スピーチ演習・発表 第11回 スピーチ演習・発表 第12回 スピーチ演習・発表 第13回 スピーチ演習・発表 第14回 スピーチ演習・発表 第15回 スピーチ演習・発表 第16回 学期末面接試験
成績評価基準	授業への参加度 50% 宿題、課題など 25% 最終テスト 25%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	(Drier) Let's Chat (John Pak, EFL Press: ¥2500 + tax) (Moulinos) Impact Conversation 1 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens; 2009, Pearson Longman. (木伏) Challenge Book #4 for University Students & Adults ISBN978-4-947736-55-0 C6082 ¥2500+tax
参考書・参考資料等 用具	
履修制限等	・クラスの開講曜日・時限とシラバスを確認し、履修するクラスを選び、パレットから履修登録してください。 ※1 クラスは35人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にてクラスを振り分けます。また5人未満の場合は開講されません。
履修希望者への要望・事前準備	(Drier) 私はこのクラスを楽しみにします。私はこの授業を英語における実験だと見ています。という意味は、スケジュールは準備していますが、とりあえずのものということです。つまり、学期の間、クラスの雰囲気や、内容をこなすのに必要な時間を考慮して、変更を行うことがあるということです。ユニットの順番を変えたり、どこかのユニットを飛ばしたり、リストにない教材を追加したりします。私は自分の経験をみなさんとシェアしたいと考えています。そして皆さんも、自分の経験を私やクラスメートとシェアする準備をしておいてほしいと思います。念のため辞書を持って、そして「元気」も持ってきましょう！ (Moulinos) 毎回のクラスに、中辞典以上の辞書を持って、ポジティブな気持ちで参加しましょう。 (木伏) 毎回、スピーチ発表やクラスメートとの英語での交流があります。積極的に授業に参加してください。テキストのテンプレートを使って、各自スピーチを書き、暗記して、発表します。間違いを恐れず、堂々と発表してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションVI a-c
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Brian Driers, Bill Evangelos Moulinos, 木伏あづさ
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。 英語オーラルコミュニケーションV～Ⅷは、おおむね英検準2級程度の英語力を前提として授業を行いますので、プレースメントテストを受けるなど、自分のレベルを確認した上で受講してください。
達成目標	これはオーラルコミュニケーションのクラスです。受講者は自分が持っている知識を何でも使って、毎週クラスメートと積極的にコミュニケーションしていく必要があります。また、リスニング、ライティング、リーディングの要素も含まれます。受講者は、自分の意見を発表できる基礎的なスピーキング能力を獲得します。前期よりもさらに上達することをめざします。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	(Drier) Week 1: Summer Vacation Stories Week 2: Work (Let' s Chat, Unit 8), Part 1 Week 3: Work (Let' s Chat, Unit 8), Part 2 Week 4: Love & Romance (Let' s Chat, Unit 10), Part 1 Week 5: Love & Romance (Let' s Chat, Unit 10), Part 2 Week 6: Music & Books (Let' s Chat, Unit 11), Part 1 Week 7: Music & Books (Let' s Chat, Unit 11), Part 2 Week 8: Culture & Places in Japan (Let' s Chat, Unit 12), Part 1 Week 9: Culture & Places in Japan (Let' s Chat, Unit 12), Part 2 Week 10: Introducing Presentation Project Week 11: World Problems (Let' s Chat, Unit 13), Part 1 Week 12: World Problems (Let' s Chat, Unit 13), Part 2 Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Final Exam/Listening Challenge (Moulinos) Week1. Introduction Week2. Unit 1: Something Cool. Week3. Unit 2: My Humble Abode. Week4. Unit 3: Food Cravings. Week5. Unit 4: Who We Are. Week6. Unit 5: Corporate Ladder. Week7. Unit 6: Another World. Week8. Unit 7: Big Worry; Unit 8: Unplugged. Week9. Unit 9: The Remote. Week10. Unit 10: Clean Freak. Week11. Unit 11: No Such Thing. Week12. Unit 12: Like Chalk and Cheese. Week13. Unit 13: Hang in There. Week14. Unit 14: The Time of My Life; Unit 15: It's a Guy Thing. Week15. Final Examination. (木伏) 第1回 授業の進め方 第2回 スピーチ演習・発表 第3回 スピーチ演習・発表 第4回 スピーチ演習・発表 第5回 スピーチ演習・発表 第6回 スピーチ演習・発表 第7回 スピーチ演習・発表

長岡造形大学 シラバス 2022

	第8回 スピーチ演習・発表 第9回 スピーチ演習・発表 第10回 スピーチ演習・発表 第11回 スピーチ演習・発表 第12回 スピーチ演習・発表 第13回 スピーチ演習・発表 第14回 スピーチ演習・発表 第15回 スピーチ演習・発表 第16回 学期末面接試験
成績評価基準	授業への参加度 50% 宿題、課題など 25% 最終テスト 25%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	(Drier) 開講時に指示します。 (Moulinos) Impact Conversation 2 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens; 2009, Pearson Longman. (木伏) Challenge Book #4 for University Students & Adults ISBN978-4-947736-55-0 C6082 ¥2500+tax
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	クラスの開講曜日・時限とシラバスを確認し、履修するクラスを選び、パレットから履修登録してください。 ※1 クラスは 35 人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にてクラスを振り分けます。また 5 人未満の場合は開講されません。
履修希望者への要望・事前準備	(Drier) 英語オーラルコミュニケーションⅤでは会話を通したコミュニケーションをもっぱら扱いましたが、このクラスでは、さらに自分の意見を発表することにも焦点を置き、インフォーマルおよびフォーマルな発表のスキルも学習します。最終テストはおそらく口頭プレゼンテーションになる可能性が高いです。オーラルコミュニケーションⅤと同じように、スケジュールは変更することがあります。変更は前期よりも大きくなるでしょう。この授業ではみなさんに、授業の内容や、アクティビティ、進め方についていろいろな意見を聞くことになるからです。みなさんが積極的に意志決定に参加して、このクラスが最善なものとなるよう意見をくれることを期待します。辞書とたくさんの「やる気」を持ってくることをおすすめします。 (Moulinos) 毎回のクラスに、中辞典以上の辞書を持って、ポジティブな気持ちで参加しましょう。 (木伏) 毎回、スピーチ発表やクラスメイトとの英語での交流があります。積極的に授業に参加してください。テキストのテンプレートを使って、各自スピーチを書き、暗記して、発表します。間違いを恐れず、堂々と発表してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅦ a, b
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Lance Latham
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。 英語オーラルコミュニケーションⅤ～Ⅷは、おおむね高校中級・英検準2級程度の英語力を前提として授業を行いますので、自分のレベルを確認した上で受講してください。
達成目標	これはオーラルコミュニケーションのクラスです。受講者は自分が持っている知識を何でも使って、毎週クラスメートと積極的にコミュニケーションしていく必要があります。また、リスニング、ライティング、リーディングの要素も含まれます。受講者は、日常会話程度の話す能力を獲得します。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	Week 1: Introduction to Course Week 2: Unit 1: Conversation Stage 1~2 Week 3: Unit 1: Conversation Stage 2 Week 4: Unit 1: Conversation Stage 3~5 Week 5: Unit 1: Listening / Role Play 1 Week 6: Unit 1: Role Play 2 Week 7: Unit 1 Review Assessment and Activities Week 8: Unit 2: Conversation Stage 1~2 Week 9: Unit 2: Conversation Stage 3~4 Week 10: Unit 2: Conversation Stage 4~5 Week 11: Unit 2: Listening / Role Play 1 Week 12: Unit 2: Role Play 2 Week 13: Unit 2: Role Play 3 Week 14: Unit 1 and 2 Review Activities Week 15: Unit 1 and 2 Assessments
成績評価基準	50% 授業への参加度 25% 宿題・課題など 25% 最終テスト
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	Encounters: A New Approach to English Communication (by Michael P. Critchley and Maria Shiguemi Ichiyama) ISBN: 4-523-17466-0
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	【1年生】 履修できません(2年次以降に履修してください)。 【2年生以上】 ※自身の履修可能な開講曜日・時限を確認し、履修するクラスを選び、パレットから履修登録してください。 ※1クラスは35人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にて決定します。また5人未満の場合は開講されません。
履修希望者への要望・事前準備	毎回、会話スタイルの英語を使うこととなりますが、リスニング、リーディング、ライティングの要素もあります。スケジュールは変更されることがあります。普通の筆記具やノートのほか、紙の辞書または電子辞書を持参してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	英語オーラルコミュニケーションⅧ a, b
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	Lance Latham
授業の概要及びテーマ	受講者は、この授業に参加することでさらにスピーキングの能力を伸ばす機会が得られます。学期を通していくつかのトピックについて英語で話し、これまでの英語の知識をさらに拡大させます。 英語オーラルコミュニケーションⅤ～Ⅷは、おおむね高校中級・英検準2級程度の英語力を前提として授業を行いますので、自分のレベルを確認した上で受講してください。
達成目標	これはオーラルコミュニケーションのクラスです。受講者は自分が持っている知識を何でも使って、毎週クラスメートと積極的にコミュニケーションしていく必要があります。また、リスニング、ライティング、リーディングの要素も含まれます。受講者は、日常会話程度の話す能力を獲得します。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	Week 1: Introduction to Course Week 2: Unit 3: Suggesting 1 Week 3: Unit 3: Suggesting 2 Week 4: Unit 3: Experiences 1 Week 5: Unit 3: Experiences 2 Week 6: Unit 3: Reaching Agreement 1 Week 7: Unit 3: Reaching Agreement 2 Week 8: Unit 3: Review Activities Giving Opinions Week 9: Unit 3: Grammar Focus Check Week 10: Unit 3: Listening / Role Play 1 Week 11: Unit 3: Role Play 2 Week 12: Unit 3: Role Play 3 Week 13: Unit 3: Review Activities Week 14: Unit 3: Assessment 1 Week 15: Unit 3: Assessment 2 and Wrap-Up
成績評価基準	50% 授業への参加度 25% 宿題・課題など 25% 最終テスト
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	Encounters: A New Approach to English Communication (by Michael P. Critchley and Maria Shiguemi Ichiyama) ISBN: 4-523-17466-0
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	【1年生】 履修できません(2年次以降に履修してください)。 【2年生以上】 ※自身の履修可能な開講曜日・時限を確認し、履修するクラスを選び、パレットから履修登録してください。 ※1クラスは35人を目安に、履修希望者が多数の場合は抽選にて決定します。また5人未満の場合は開講されません。
履修希望者への要望・事前準備	毎回、会話スタイルの英語を使うことになりますが、リスニング、リーディング、ライティングの要素もあります。スケジュールは変更されることがあります。普通の筆記具やノートのほか、紙の辞書または電子辞書を持参してください。
実務経験を活かし た授業	

科目名	基礎ゼミ
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	板垣順平、◎金山正貴、北雄介、小松佳代子、竹田進吾、福本壘、森本康平、水川毅、数内公美
授業の概要及びテーマ	本学における初年次教養科目として、デザイナーやクリエイター、アーティストとしての資質を高めるために必要な知識や物事に対する捉え方などを実践的に学びます。具体的には、学科の枠を超えたグループをつくり、体験を通じて他者や自身を含めた人が抱える問題やニーズの抽出方法を学び、交流を通じてその解決につながる方法を考えながら、2年次以降の制作活動や実社会で活かせるような学びを得ることが目的です。
達成目標	以下の5つの能力・取り組み姿勢を身につけることを目標とする。 (1) 他者理解 関係する人、社会が求めているものを、観察や対話のなかで理解することができる。 (2) 協調性 学科の枠を超えて様々な価値観や能力を尊重し、自律的に他のメンバーと協調しながら課題に取り組むことができる。 (3) 構想力 造形力を生かして問題を解決するために、自らの課題を設定することができる。 (4) 発想力 ものごとを多面的に捉えて新たな発想でアイデアやコンセプトを考えることができる。 (5) 発信力 自分の意見や考えを論理的にまとめて他者に伝えることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	グループワークを基本に関連する講義を組み合わせて実施します。 01 オリエンテーション 02 講義キャラバン 03-04 第一課題説明・アイデア展開 05-06 プロトタイピング・まとめ 07-08 第二課題説明・インタビュー調査 09-10 アイデア展開 11-12 中間発表 13 プレゼンに向けた準備 14-15 プレゼンテーション ※授業時間や内容、構成等に変更になる場合があります。 ※開講時期は9月～12月を予定しています。
成績評価基準	グループの取り組み及び成果物(個人レポート)55%、受講態度 45% 欠席や遅刻は認めません。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもあります。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業において適宜プリントを配付します。
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜指示します。
用具	必要に応じて適宜指示します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形実習で養う造形力と並び、本授業で扱う他者理解などの基礎的な能力は、大学での学修、制作や将来社会で自分の力をどのように活かすか見定める上でも重要なものとなるため、積極的な姿勢で参加してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	キャリア計画実習Ⅰ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	◎長谷川克義、椎名勇太、高橋健太郎、横部延寿
授業の概要及びテーマ	大学卒業後は社会に出て仕事をする必要があります。その時にどのように社会の中で役割を担うのか、どのようなポジションで社会人としてのキャリアをスタートさせるのかが大切です。その事を考えるための授業です。正解がある問題ではありませんが、この授業が考えるきっかけとなることを希望します。 造形学部で学ぶ事、そこから世の中で求められる役割を考えます。そのために社会で活動している先輩方の話を聞く場を多く設けています。また今後の社会に出るためにどのような準備が必要になるのか、そのために具体的な行動について学びます。
達成目標	自身が社会で求められる能力を理解する。 自身の将来の目標を設定する。 2年次終了時点での希望進路を明確にする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 オリエンテーション 02 キャリアを決定するまでのスケジュール 03 インターンシップ報告会 04 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談1 05 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談2 06 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談3 07 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談4 08 まとめ①/自身の選択肢にはどのようなものがあるか 09 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談1 10 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談2 11 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談3 12 学科別、卒業生・内定者・教員の体験談4 13 まとめ②/自身の選択肢の中で現時点で選びたいものは何か 14 選んだ選択肢を実現するための場を探す方法(業界研究・職種研究) 15 まとめ③/自身のキャリアを見据えた3年次からのコース選択
成績評価基準	・ 出席回数が2/3以上でない場合は、原則として単位を与えません。 ・ 通常レポート10点×4回(小点40点) ・ 中間、最終レポート30点×2回(小点60点) 合計100点
出席・遅刻の基準	出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。
テキスト(教科書)	必要に応じて随時準備し配付します。
参考書・参考資料等	適宜指示します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	定時での入室、締め切り厳守など時間・ルール厳守を求めます。
実務経験を活かした授業	

科目名	キャリア計画実習Ⅱ
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	◎長谷川克義、椎名勇太、高橋健太郎、横部延寿
授業の概要及びテーマ	自らの可能性を発見し、世の中のどのような場所で活躍したいかを考える授業です。 自らが希望を持った社会にどうすれば出ることができるのか学んでいきます。 また、グループワークやプレゼンテーション等を通して社会で活躍できる能力を身につけていきます。 上記を通し、社会で働くということが何なのかをしっかりと学び、今後のキャリアを定めることを目標とします。
達成目標	社会に出る工程を理解し自身のスケジュールを構成できる。 世の中に挑むために準備することが必要な内容を理解できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 オリエンテーション 02 履歴書を書く① 03 履歴書を書く② 04 インターンシップ先の企業研究 05 社会で求められている力を知る 06 長岡造形大学の学びを振り返る 07 インターンシップのマナー (選考編) 08 今後のキャリアプランのまとめ 09 履歴書を書く③ 10 組織に属さない生き方に必要なもの 11 就職内定者報告会 (1) 12 就職内定者報告会 (2) 13 インターンシップのマナー (実践編) 14 労働市場、労働法等について 15 まとめ
成績評価基準	・ 出席回数が2/3以上でない場合は、原則として単位を与えません。 ・ 通常レポート 10点×4回 (小点 40点) ・ 中間、最終レポート 30点×2回 (小点 60点) 合計 100点
出席・遅刻の基準	出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。
テキスト(教科書)	必要に応じて随時準備し配付します。
参考書・参考資料等	適宜指示します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	定時での入室、締め切り厳守など時間・ルール厳守を求めます。
実務経験を活かした授業	

科目名	論理学
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	市野敬介
授業の概要及びテーマ	日本語でディベートを行います。主張を、根拠をともなって伝え、議論をします。現代の社会課題を論題としたディベートの準備および試合を行います。論理的に考えること、論理的に表現することなどについて、ディベートを通じて体験していただきます。前半のマイクロディベートでは、身近な社会問題で議論を行います。後半のディベート実戦では、本格的にチームを結成し、準備および試合を行います。
達成目標	講座を終えた時に以下のことができるようになっていることをゴールとします。 (1) テーマ(論題)に対して多面的に考えて、主張を組み立てることができる (2) 説得力のある話し方で主張・反論ができる (3) 根拠が明確でない議論を聞いて、質問することができる (4) 肯定側・否定側の双方の意見をよく聞いて、どちらの議論が優勢だったか判断を下すことができる
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 講座の全体像／デザイン×ディベートとは 02 モデルディベート視聴／メモの取り方／ルール説明 03 論題発表／マイクロディベートをやってみる 04 メリット・デメリットを考える／立論の3要件を考える 05 シナリオを活用したマイクロディベート 準備 06 シナリオを活用したマイクロディベート 実戦 07 シナリオを活用したマイクロディベート 実戦 08 ディベートの試合 準備 09 ディベートの試合 準備 10 ディベートの試合 準備 11 ディベートの試合 実戦 12 ディベートの試合 実戦 13 ディベートの試合 実戦 14 ディベートの試合 実戦 15 ディベートの試合 実戦(受講人数によって変動します) ※すべて遠隔授業
成績評価基準	(1) ディベートの説明・講義 授業への参加、課題に取り組む姿勢、発言・発表の内容などを評価します。ディベートに関する説明や技法を活用する演習は参加型・対話形式で行います。 (2) ディベートの試合 試合中に行う立論や反論などのスピーチの内容、質疑応答の内容や聞き方答え方で評価します。それだけではなく、審判も行っていますので、その審査や選手へのフィードバックの内容も評価をします。 (3) 身に着いた力に関する自己評価 最終的に講座を通じてご自身でどんな力が身に着いたのか、どんな成長があったのかの振り返りを、理由をつけて記述していただきます。その内容と理由付けで評価します。 概ね(1) 10%、(2) 40%、(3) 50% の割合で評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	GoogleClassroom でダウンロードできるようにします
参考書・参考資料等	GoogleClassroom でダウンロードできるようにします
用具	筆記用具(できれば、3色のボールペンをご用意ください) 情報機器(Zoomで接続できるスマートフォンやノートパソコン)
履修制限等	遠隔授業で行います。受講する中で困ったことがあれば、随時ご相談ください。
履修希望者への要望・事前準備	授業内で様々な質問や課題を出します。「不正解」があるものではありませんので、積極的に回答してください。ディベートの試合はグループ活動です。限られた時間の中であらゆることを考えて、スピーチをする準備をしていただきます。役割分担や協力をしあいながら活動してください。
実務経験を活かした授業	私はデザインやアートの専門家ではありませんが、デザイナーやアーティストのみなさんと一緒にお仕事をすることがあります。その際に感じている「デザイン」や「アート」と「ディベート」の関係性について考えています。

科目名	統計学
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	福本 壘
授業の概要及びテーマ	ものづくりやデザインに役立つ統計学を学びます。統計に必要な数字やデータ間の関係性を客観的に明らかにする方法だけでなく、実践的な例題を通じてデータが持つ「意味」を考える機会とします。講義では、「データから読み取れる特徴、集計、整理する方法」、「一部のデータから全体を推計する方法」、「データ間の関係性を分析する方法」を学び、受講者の興味関心に基づき、「制作、研究、仕事、日常生活に統計学が役立つイメージの理解」に結びつけることを目標にします。Excel が使える造形大生を目指しましょう。初回は「じゃんけんに勝つ方法」など「みなさんの知りたいこと」をベースに楽しく授業運営をしていきます。
達成目標	・ Excel の操作に抵抗がなく、自分の意図する作業が行えること ・ Googleform でアンケートの設計・実施・集計が行えること ・ 「データから読み取れる特徴、集計、整理する方法」を理解していること ・ 「一部のデータから全体を推計する方法」を理解していること ・ 「データ間の関係性を分析する方法」を理解していること ・ 統計学が制作、研究、仕事、日常生活に役立つイメージを持っていること
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 データの要約と視覚化 03 変数の相関 04 正規分布 05 母集団と標本の関係 06 標本統計 07 推定 08 検定 09 Excel による分析 10 Excel による分析② 11 Excel による分析③ 自由記述の分析 12 みんなの知りたいことについてアンケート回答 13 みんなの知りたいことについてアンケート整理・集計・分析 14 まとめ 15 期末試験及び講評
成績評価基準	学習内容を定着させる簡単な課題：30% 積極的な姿勢：20% 期末試験：50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り（開始 20 分以上の遅刻は欠席となります。） 出席している場合でも WEB アンケート未実施の場合で連絡が無い場合は欠席扱いとします。
テキスト（教科書）	特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配付します。授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意した WEB サービスを利用します。
参考書・参考資料等	やさしい内容の統計学を扱った書籍は様々ありますが、担当教員が推薦する実践的かつ実用的な参考書は以下です。本講義を受けて統計学に興味を持った方は是非読み進めてみてください。 ・ 久保 拓弥(著)，データ解析のための統計モデリング入門 一般化線形モデル・階層ベイズモデル・MCMC（確率と情報の科学），岩波書店，3,800 円 + 税
用具	・ 電卓 ・ 授業中に WEB アンケートを実施することがあるので、インターネットにアクセスできる PC またはスマートフォンを持参してください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	「統計学」と聞くと難しそうなイメージを持つ方が多いと思います。数学が苦手な受講者にもできるだけわかりやすく解説し、みなさんのものづくりやデザインに活かせるように授業を進めていきたいと思っています。教科書の例題だけを解くような授業ではなく、身近なモノの重さを図ったり、生活や制作に関わる実データを扱ったりと実践的な講義内容を準備しておりますので、是非、積極的な姿勢で受講頂ければと思います。
実務経験を活かした授業	専門社会調査士の資格を有する教員が講義する。 製品・サービス開発において統計を取り扱った実務経験があり、環境省の調査委員会で統計学のアドバイザーを務めた経験のある教員が、その経験を活かして、ものづくりやデザインに役立つ統計学について講義する。

科目名	情報リテラシー
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	横田秀珠
授業の概要及びテーマ	インターネットが普及し情報社会が加速しています。氾濫する情報を検索するニーズが高まりました。またスマートフォンの台頭で、情報を発信する事も容易になりました。更にソーシャルメディアで気軽に情報を拡散する事も可能になり、プライバシー漏洩やセキュリティの重要性など様々な問題点も露呈してきました。情報の検索手法や情報の発信方法、ソーシャルメディアなどの使い方と留意点などを体得し、インターネットの仕組み等を総合的に習得することを目的にした科目です。
達成目標	検索エンジンやソーシャルメディアなどインターネット上の様々なサービスを理解すること、情報を受信する際と発信する際の注意点、プライバシーの管理やセキュリティの重要性を通して情報社会のあり方を説明できるようになること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 情報リテラシーを学ぶ理由 02 インターネット概論と歴史 03 検索エンジンの変遷と進化 04 ソーシャルメディアの台頭 05 スマートフォン普及と課題 06 キュレーションが必要な訳 07 多様な連絡手段とインフラ 08 位置情報で激変の生活習慣 09 TVの衰弱と動画メディア 10 様々な動画とネット生配信 11 苦戦する紙媒体と電子書籍 12 ラジオと音声技術の未来性 13 画像認識の技術と流出問題 14 クラウド化と進化する技術 15 セキュリティとデマや詐欺 16 期末試験
成績評価基準	講義レポート 40% 期末試験 60% 講義レポートは、講義の内容をブログやソーシャルメディア等でまとめるだけでなく、自分の意見や考察を含めた投稿を評価に取り入れる。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	特に指定しない。 授業に用いる資料は、Google Classroom からダウンロード可能。 授業までに必要に応じて、各自で予習しておくこと。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	1) 講義資料はGoogle Classroomに掲載するので、必要に応じて各自で予習する 2) Google Classroomの資料や講義まとめブログ・YouTubeで復習を徹底する 3) 質問はLINE公式アカウントのメッセージやメールなどで受け付ける 4) 学習した内容をブログやソーシャルメディアなどで公開レポートにする
実務経験を活かし た授業	

科目名	現代社会論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	広田秀樹
授業の概要及びテーマ	宇宙の歴史は約 138 億年、地球の歴史は約 46 億年、人類の歴史は約 700 万年といわれています。想像を絶する長い時間の流れの中で人間は、制度、慣習、文化、思想などを形成し変化させています。現代社会も同様です。本授業では、現代社会を徹底して多角的長期的視点から学習します。
達成目標	現代社会を多角的視点から考える訓練の中で、「表面的な現象」を観察しながら「真実や本質」を見抜く思考力を身に付けることを達成目標とする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 宇宙史からの現代社会の考察 02 地球史からの現代社会の考察 03 人類史からの現代社会の考察 04 過去・現在・未来という時間の流れからの現代社会分析の手法 05 社会の中の「制度・慣習・文化・思想」 06 国際政治 07 国際経済 08 グローバリゼーション 09 テクノロジーの未来 10 国内政治 11 国内経済 12 国内人口構造と社会の激変 13 社会の変化とライフスタイルの変化 14 自由とライフスタイル超多様性の関係 15 まとめ
成績評価基準	レポート提出、期末試験、授業への受講態度・意欲をもとに評価します。 レポート 20%、期末試験 60%、授業への受講態度・意欲 20%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	浅川公紀 『国際政治の構造と展開』 武蔵野大学出版会 2014 年
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	学習効果を上げるため、授業計画の各回のテーマに関して、予習・復習を行うことが望ましい。 授業は常に深く考えながら参加し、質問、意見を活発に述べて下さい。 講義に参加する上での基本的なマナー、礼儀礼節をお願いします。
実務経験を活かし た授業	

科目名	社会起業
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	福本 壘
授業の概要及びテーマ	日本には社会が抱える様々な問題があります。社会問題の解決には、「志と行動力のある人」、「効率的な仕組み」、「利便性や品質の高い物品」等が必要となります。講義では、これらを支える一つの手段として「起業」が位置づけられ、その手続きとしての「理論」および事例を通じた「実務」について学び、議論をし、理解を深めます。様々な社会問題を背景に社会起業の全体像を学び、興味関心に基づいて社会起業の提案・計画を行えることを目標にします。
達成目標	・社会起業の全体像を理解していること ・「起業」が「就職活動」と並ぶ、「進路」を決める手段の一つであると理解していること ・自身が興味のある社会問題をテーマに起業の提案・計画を行えること
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 導入：授業の取り組みのイメージを確認 02 起業と社会事業の実践紹介：課題演習のイメージを確認 03 社会起業家の事例研究① 04 社会起業家の事例研究② 05 起業の手続きと事業運営の実態 06 社会起業における理念：原体験の記述 07 試作・試行・プロトタイプ 08 販路開拓・マーケティング 09 生産・販売体制の構築 10 PR:Public Relations 11 長岡造形大生の作品を販売するアンテナショッププロジェクト 12 資金と税金 13 フィードバック & 最終課題について 14 課題発表・講評 15 課題発表・講評・まとめ
成績評価基準	学習内容を定着させる簡単な課題：30% 積極的な姿勢：20% 課題演習に対する提案：50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り（開始 20 分以上の遅刻は欠席となります。） 出席している場合でも WEB アンケート未実施の場合で連絡が無い場合は欠席扱いとします。
テキスト（教科書）	特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配付します。授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意した WEB サービスを利用します。
参考書・参考資料等	参考となる書籍や資料は世の中に多くありますが、社会起業において重要なのは「実践すること」になります。そのため、実践の事例に基づいて授業内で適宜紹介します。
用具	授業中に WEB アンケートを実施することがあるので、インターネットにアクセスできる PC またはスマートフォンを持参してください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	みなさんの進路にとって「起業」とは「就職活動」と並ぶ一つの手段に位置づけられます。生きていく糧を得るためには、何らかの手段で社会に役立つ関わりが必要となります。どこかの会社組織に所属した場合も「経営」や「新規事業」に関わることも考えられますし、作家を目指す場合にも制作活動を含めた事業を成立させる必要があります。履修後の成果は、上記のどちらのケースにおいても、みなさんの将来に役立つよう進めていきたいと考えています。 そのためには、みなさん自身が「体験談」や「考え」を話すことが大切で、是非積極的な姿勢を持って受講して頂ければと思います。私自身、企業経営者であり、起業経験者ですので、失敗も含めた「体験談」や「考え」を講義の中で伝えたいと思います。
実務経験を活かした授業	起業及び企業経営、社会事業の実践経験のある教員が、その経験を活かして、社会問題を解決する事業と起業計画の考え方について講義する。

科目名	基礎造形実習 I (描写)
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	描写は全ての造形活動の根幹となる行為であり、自らの手で線を引くところから創作がスタートします。課題を経験することで絵画的表現のみならず広く造形分野で必要となる形と空間（パースペクティブ）に対する観察力と考察力の基盤を養います。また、人体という普遍的なテーマを理解するために、実際の人体の持つプロポーション・量感・骨格・筋肉・皮膚の動きに着目し、クロッキーからデッサン等による作品制作を通じて、画面における線・面・量・色彩の描写表現と「人体の構造と美」について理解できるようにします。素材・技法としては、画用紙に鉛筆で描写、透明水彩その他の画材で着彩による表現を行います。各課題は、「静物・着彩」「ヌードデッサン」とし、課題毎の初回授業の1限目に講義形式で課題目的・技法を説明し、その後モチーフを使用した課題作品の制作を行います。
達成目標	・ 造形制作の基となる能動的な集中力と持続力を持ち、講義と指導内容を理解し質疑応答ができる。 ・ 授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。 ・ 描写（デッサン）における構図・構成を理解し、正しい形態の比率やパースペクティブ、明暗の階調、質感をとらえ、積極的に制作できる。 ・ 人体の骨・筋構造を理解しプロポーション正確にとる事ができる。 ・ 観察から得られる量感、質感、動きを認識し的確に描写できる。 ・ 制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。 ・ 観察し描くことを繰り返すことにより、各自の問題点を認識し、正しい方向へ修正し、成果を上げることができる
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力／構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス／「静物着彩」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明 02 「静物着彩」作品制作 1 03 「静物着彩」作品制作 2 04 「静物着彩」作品制作 3 05 「静物着彩」／講評会 06 「静物着彩」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明 07 「静物着彩」作品制作 1 08 「静物着彩」作品制作 2 09 「静物着彩」作品制作 3 10 「静物着彩」／講評会／次課題説明 11 「人体描写」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明、クロッキー 12 「人体描写」作品制作 1 13 「人体描写」作品制作 2 14 「人体描写」作品制作 3 15 「人体描写」／講評会／次課題説明 * 授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。 * 新型コロナウイルスの影響によっては、課題に大幅な内容変更がある場合があります。
成績評価基準	①受講姿勢、理解度（50％） ・ 受講、制作の準備ができていた。 ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 適切な質疑応答ができた。 ・ 制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ②成果物（作品）の内容（50％） ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 ・ 適切なプレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することで最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始 20 分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。 遠隔授業の場合は Zoom のログで出席確認を行います。
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等	課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。
用具	描写用具等一式他。詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形力（描写）は、今後の大学での制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力を持っていても基礎的な造形力がなければ具体的な表現成果につながりません。また目的に必要な形に含まれる線を描く力と空間を把握する力、多くの描線や形の中から洗練された一つを選択する能力は造形に関わる全ての分野に必要不可欠となります。また、経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的に、諦めないで最後までしっかりと取り組み修得してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習 I (造形)
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	この授業では造形の要素となる「形」を幾何形態や色による立体表現の課題により理解します。幾何形体のデッサンでは、想定する基本的形態を的確に把握し表現します。また立体物を2次元の画面上で空間構成し、正確なパースペクティブを習得し、魅力的な空間構成を目指します。彩色による立体表現では、基本的な立体を様々な色変換により視覚表現として空間と立体の関係を試行し、グレースケールと同一色相、類似色相によって理解します。
達成目標	・造形制作の基となる能動的集中力・持続力を持ち、講義と指導内容を理解し質疑応答ができる。 ・授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。 ・描写における構図・構成を理解し、正しい形態の比率やパースペクティブ、明暗の階調、質感をとらえ、積極的に制作できる。 ・色彩の基礎（三属性の理解）をベースに、モノクロから色相の相関性を理解し、目的に沿った効果的な配色を考え制作できる。 ・画材を適切に扱うことができ美しい画面を完成させることができる。 ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力／構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス／「基本形態；立方体」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明 02 「基本形態；立方体」作品制作1 03 「基本形態；立方体」作品制作2 04 「基本形態；立方体」作品制作3 05 「基本形態；立方体」／講評会 06 「基本形態；楕円」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明 07 「基本形態；楕円」作品制作1 08 「基本形態；楕円」作品制作2 09 「基本形態；楕円」作品制作3 10 「基本形態；楕円」／講評会／次課題説明 11 「混色；立方体」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明 12 「混色；立方体」作品制作1 13 「混色；立方体」作品制作2 14 「混色；立方体」作品制作3 15 「混色；立方体」／講評会／次課題説明 * 授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。 * 新型コロナウイルスの影響によっては、課題に大幅な内容変更がある場合があります。
成績評価基準	①受講姿勢、理解度（50％） ・受講、制作の準備ができていた。 ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・適切な質疑応答ができた。 ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ②成果物（作品）の内容（50％） ・課題の条件を満たしている。 ・指導を成果に生かすことができた。 ・十分な考察と制作をした。 ・プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することで最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。 遠隔授業の場合はZoomのログで出欠確認を行います。
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等	課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。） また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。 PCCS ハーモニックカラーチャート 201-L 日本色研事業株式会社 1,575 円 新配色カード 199C 日本色研事業株式会社 2,625 円
用具	授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形力（造形）は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力を持っても裏付けとなる経験や理由、基礎的な造形力がなければ具体的な結果につながりません。各課題のそれぞれの問題に対して性質や構造を理解できるよう繰り返し考え、その上で教員に質問してください。造形することの意味を考えながら粘り強く制作することで各自に必要な本質的な能力を習得できます。経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的に、しっかりと取り組んでください。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習 I (素形材)
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	ものづくりの基本である「手」による素材と技法の実際を習得し、「道具」を使用した制作を行うことで実材造形での基本的な工作原理を養います。グライダー課題では、木を素材とした「ハンド・ランチ・グライダー」を制作します。授業では図面の見方、設計図から完成までの工程を理解し、道具の正しい取り扱いと加工の原理を習得します。これにより素材が目的とする形へと転換する過程を学び、その構造における機能的要素に対する理解を深めます。 幾何形体の分割構成は、想定する基本的形態を的確に把握し表現します。またそれを分割する際の整合性を考えます。立体物を2次元の画面上で空間構成し、正確なパースペクティブを習得し、魅力的な空間構成を目指します。 紙による立体表現では、素材の扱いから面材の扱い、接合や空間との関係等を意識して美しい立体構成を目指します。
達成目標	グライダー課題 ・図面を読み取ることができ、平面から立体への展開や完成までの正しい工程を理解し実践できる。 ・作業での素材の取り扱いや各工程での道具の使用方法が安全かつ適切に行う事ができる。 ・制作・組み立てにおいて微細で正確な作業ができ、機能を伴う完成度の高い成果物ができる。 ・指導に際して能動的な質疑応答ができる。 幾何分割課題 ・想定による立体構成・スケッチ～描写表現ができる。 ・スケッチにて幾何形体を想定し、空間的に構成を考えられる。 ・描く幾何形体を正確に理解することで、描写し、分割した場合の形状を細部に至るまで適切に表現できる。 ・与えられた条件内で美しい構成による画面制作をする。 紙立体課題 ・立体における素材形状の「面材」を利用し、構成的且つ構造的な美しいフォルムを見つけ出し、紙による立体として制作することができる。 ・スケジュール管理をし、期日までに作品を仕上げる事ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力／構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	グライダー課題 01 課題説明：レクチャー／作業ポイント／制作（主翼） 02 制作（水平・垂直尾翼、胴体部） 03 制作（機体の組立） 04 塗装 05 作品提出／講評／錘によるバランス確認 ・飛行／次回課題説明 幾何分割課題 06 課題説明／制作ポイント／アイデアスケッチ 07 アイデアチェック／制作 08 制作 09 制作 10 作品提出／講評／次回課題説明 紙立体課題 11 課題説明：レクチャー／課題ポイント／ アイデアスケッチ 12 アイデアスケッチ～チェック～制作 13 制作 14 制作 15 作品提出／講評／次回課題説明 * 授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。 * 新型コロナウイルスの影響によっては、課題に大幅な内容変更がある場合があります。
成績評価基準	①受講への態度、理解度（50％） ・受講、制作の準備ができていた。 ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・適切な質疑応答ができた。 ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ②成果物（作品）の内容（50％） ・課題の条件を満たしている。 ・指導を成果に生かすことができた。 ・十分な考察と制作をした。 ・プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することで最終評価となります。

出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。(無断途中退室も含む) 授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始 20 分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。 遠隔授業の場合は Zoom のログで出欠確認を行います。
テキスト (教科書)	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して (基礎造形実習Ⅱも含む) 使用するので必ず毎授業持参することを求めます。(この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。) また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系 (描写、平面、立体等) に関する技法書等が多数ありますので目を通して置くことを薦めます。
用具	詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。 なお立体制作には各自 1,000 円程度の材料費が必要となります。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	素材と用具の正しい取り扱い方法、材料加工と作業の意味、色彩による構成・空間的表現の基礎を学びます。様々な課題がもつ目的をよく理解し、伴う表現方法を習得し造形センス・感性を伸ばして欲しい。必要な材料・用具の準備を忘れないようにしてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅰ(デザイン)
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	コンピュータの発達により現代は、マウスとキーボードの操作を覚えさえすれば、全くデザインの学習をしていなくとも大抵の事は出来てしまう世の中となった。しかしこのような時代であればこそ、デザインの専門家を目指す者にとって必要不可欠なのは、実際に手を使って線や形を描くことや色を作って塗ることである。これら造形の基礎から学ぶべき事柄は非常に多い。平面デザインを学ぶ上で必要不可欠な平面造形の基礎、並びに色彩や画面構成に関する基本的技術を学習する。
達成目標	・課題文に書かれた内容を正確に読み取り、作品制作に臨むことができる。 ・授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。 ・美しい線が引ける、正確な作図が出来る、ムラなく色を塗れるなど、精緻かつ丁寧な作業をすることができる。 ・色彩の基礎を理解し、その知識を用いて作品制作ができる。 ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力／構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス／「トーン別色相チャート」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明 02 「トーン別色相チャート」作品制作；高彩度 03 「トーン別色相チャート」作品制作；中彩度 04 「トーン別色相チャート」作品制作；低彩度 05 「トーン別色相チャート」／修正・講評会 06 「色彩構成／幾何」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明 07 「色彩構成／幾何」色相対比、彩度対比の把握 08 「色彩構成／幾何」有彩色によるシンプルな画面構成の制作 09 「色彩構成／幾何」画面構成の把握と修正 10 「色彩構成／幾何」／講評会／次課題説明 11 「色彩構成／イメージ」：レクチャー／アイデア検討 12 「色彩構成／イメージ」：アイデアチェック、作品制作1 13 「色彩構成／イメージ」作品制作2 14 「色彩構成／イメージ」作品制作3 15 「色彩構成／イメージ」／講評会／次課題説明 ＊ 授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。 ＊ 新型コロナウイルスの影響によっては、課題に大幅な内容変更がある場合があります。
成績評価基準	①受講姿勢、理解度（50％） ・受講、制作の準備ができていた。 ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・適切な質疑応答ができた。 ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ②成果物（作品）の内容（50％） ・課題の条件を満たしている。 ・指導を成果に生かすことができた。 ・十分な考察と制作をした。 ・プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することで最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始 20 分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。 遠隔授業の場合は Zoom のログで出欠確認を行います。
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介、プリント等を配布する。
参考書・参考資料等	課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。） また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。 PCCS ハーモニックカラーチャート 201-L 日本色研事業株式会社（教材セット販売に含まれています） 新配色カード 199C 日本色研事業株式会社（教材セット販売に含まれています）
用具	詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	社会的マナーを身につけることも学習であるので、作品の提出や出席についても厳しく指導をする。加えて特に締め切りは守るように最善の努力を図る。そのためにはスケジュール管理を学ぶことが必須である。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅰ（複合造形）
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	現代での幅広い創造分野で表現活動を行うためには、確かな表現力に伴う素材・用具の扱いまでを知る事が不可欠です。複合造形の授業ではその基本となる幾何形体の平面的理解から立体的理解に至るプロセスを実際に経験することから始めます。この授業では、素材を用いて作品制作するうえで必要な基本的な用具・道具（鉛筆、消しゴム、ペン、定規、カッター、接着剤等）について初歩的な使用法をマスターします。また同時に1mm以下の単位で制作することで、各自が制作過程の作法・集中力と成果物（完成作品）のクオリティに対して客観的評価ができる観察力を養います。これらは今後のあらゆる実習においての創作に対応する観察力の修得の基盤になるものです。また、平面作品における基本的作法の習得および前期・基礎造形実習Ⅰ各授業にて習得し培った成果を確認し、自己検証をするためのコンクール形式の作品制作を行います。これにより限られた時間内でのスケジュール・制作工程を各自が計画し高い完成度の作品制作を目指します。
達成目標	・ 授業、課題の意図、材料・用具の名称、使用法を認識し作業工程を理解・実践できる。 ・ 1mm以下の誤差を確認修正でき、作業を正しい作法により行うことができる。 ・ 展開図において正確な寸法取りで作図できる。 ・ 定規・カッターの正確な扱いにより綺麗に切断ができる。 ・ 接合部の辺の調整が適切にでき綺麗に接合できる。 ・ 完成物の正確さ、美しさが理解できる。 ・ 美しい線が引ける、正確な作図が出来る、ムラなく色を塗れるなど、精緻かつ丁寧な作業をすることができる。 ・ 色彩の基礎を理解し、その知識を用いて作品制作ができる。 ・ 授業で経験し修得したことを基盤に設定された時間内で十分に課題の意図に応えることができる。 ・ 与えられたテーマを、習得してきた構成力、色彩計画による画面を自らの狙いの上に適切に実践することができる。 ・ 制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	造形力／構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 授業ガイダンス／課題説明／「幾何立体」制作 02 「幾何立体」制作 03 「幾何立体」制作 04 「幾何立体」制作 05 「幾何立体」講評／パネル水張り 06 「線・面・多角形」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明 07 「線・面・多角形」制作 08 「線・面・多角形」制作 09 「線・面・多角形」制作 10 「線・面・多角形」講評会／次課題説明 11 色彩構成課題／制作 12 課題制作 13 課題制作 14 講評会1 15 講評会2 ＊ 授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。 ＊ 新型コロナウイルスの影響によっては、課題に大幅な内容変更がある場合があります。
成績評価基準	①受講姿勢、理解度（50％） ・ 受講、制作の準備ができていた。 ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 適切な質疑応答ができた。 ・ 制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ②成果物（作品）の内容（50％） ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 ・ プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することで最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。 遠隔授業の場合はZoomのログで出欠確認を行います。

テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。） また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。 PCCS ハーモニックカラーチャート 201-L 日本色研事業株式会社 1,575 円 新配色カード 199C 日本色研事業株式会社 2,625 円
用具	詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	初回の授業から受講生への伝達事項が多いので必ず大学指定のバインダーノートを持参のこと。また各授業では配付プリント、用具等を忘れないよう注意してください。作業が出来ない場合があります授業における作品制作の遅れる原因になります。
実務経験を活かした授業	

科目名	デザイン概論
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	馬場省吾
授業の概要及びテーマ	デザインの専門教育研究機関として設立された長岡造形大学が意図する「デザイン教育・研究の理念」を理解し、デザインの発祥から始まり、現在に至るまでの役割の変化、活動領域、デザインワークの実態等を通し、これからのデザインに求められる理念、知識、技術の概要を把握することにより、長岡造形大学におけるデザイン修学の心構えを養う。
達成目標	長岡造形大学が意図する「デザイン教育・研究の理念」を理解できている。 デザインの発祥から現在に至る道程を理解できている。 他造形領域とデザインの違いを明確に把握している。 デザインの専門領域毎の特性を理解できている。 経営資源としてのデザインの役割を理解できている。 デザイナーとして獲得すべき資質について認識できている。 将来の社会においてデザインの果たす役割を想定できている。 自らの将来を想定し本学で何を学ぶべきかの指針を持ち得ている。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 長岡造形大学の理念とデザイン事情 02 デザインの発祥と軌跡-表現と造形 1 03 デザインの発祥と軌跡-表現と造形 2 04 造形領域概要 05 美術と工芸 06 空間に関わるデザイン 07 立体に関わるデザイン 08 情報に関わるデザイン 09 デザイナーの就労形態 10 デザイナーの特質 11 経営・資源としてのデザイン 12 ブランディングに関わるデザイン 13 デザイナーの倫理 14 デザイン＝革新と創造 15 デザインワード&感性
成績評価基準	1、必要に応じて課すミニレポート及び期末レポートにて理解度を評価する。また授業時に求められた質疑に応じた内容は評価する。 2、出席は成績評価の前提条件であり、オンライン授業の場合は指示されたコメント対応を以って出席を確認する。 3、公欠でない欠席は減点とする。また出席率が 80%を下回る場合は単位を与えない。 4、レポート未提出、欠席、遅刻、受講中の姿勢が適正と思われない場合は減点対象とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドに記載のとおり
テキスト(教科書)	必要に応じ授業当日に資料を配付。
参考書・参考資料等	必要に応じ配付資料に参考図書を明示。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この講義を受講していくにつれ、受講生各自が抱いていたデザインへの認識が変化していくと思います。 新たな理解の下、その後のデザインに向かう姿勢を再確認し、もし将来設計を変更するようであれば、興味を抱いた領域、内容に付き更に深い認識が持てるよう各自で補習し、2 学年からの履修計画立案の参考にして下さい。 予習は、次回の授業テーマにつき自分なりの予備知識を持つことです。 復習は、興味を抱いた点、疑問を抱いた点など自らが深く掘り下げることです。 拡大するデザイン領域の基盤を理解し、その後の専門分野への志向性を考察することに役立たせ、諸君の未来に生じるかもしれないミスマッチを回避してもらいたい。 また、授業テーマは変更することがあります。授業最後に周知連絡をする場合がありますので注意してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	色彩学
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	三井直樹
授業の概要及びテーマ	本講義は、あらゆる制作現場で必要となる色彩感覚を磨き、感性を高めるための基本原理を学ぶ。まず、アートやデザインに応用できる色彩学の体系を学習し、そのうえで実用的な配色法とデザインテクニックを習得する。また、実践的に色彩を活用するための造形の秩序、プロポーションやテクスチャなどのかかわりも合わせて論ずる。DTP やモーショングラフィックス等でも活用できる CMYK、RGB のデジタルカラー理論とその配色方法を解説する。多彩なビジュアル資料を併用しながら授業展開をしていく。
達成目標	本科目を履修した学生は、色彩学の意義、色彩理論を理解しながら、色彩に対する感性を磨くことができる。また、実践的な作品制作での配色や作品鑑賞において色彩調和理論を活用することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 色彩と造形：オリエンテーション（色とかたち） 02 色彩理論 01：色の表し方（マンセルシステム）／小テスト 03 色彩理論 02：マンセルシステムと色の三属性／小テスト 04 色彩理論 03：マンセルシステム色の捉え方／小テスト 05 色彩調和 01：色のイメージと配色の基本／小テスト 06 色彩調和 02：同一調和、類似調和、対比調和／小テスト 07 色彩調和 03：グラデーション／無彩色の配色／小テスト 08 色彩理論の応用：PCCS とトーン／小テスト 09 色彩理論の応用：PCCS とマンセル システム／小テスト 10 色の知覚と色彩心理／小テスト 11 配色のデザイン学／カラーユニバーサルデザイン／小テスト 12 色が見える仕組みと混色／小テスト 13 混色とデジタルカラー／小テスト 14 日本の伝統色／色彩資料 15 試験／試験の解説と授業の総括
成績評価基準	成績評価の前提条件として、出席率 2/3 を下回る場合は単位取得ができません。「小テスト（13 回）」と「試験」を合わせて評価します。なお、小テストは出欠確認も兼ねています。
出席・遅刻の基準	毎回 Google Classroom にて出欠確認を行います。
テキスト（教科書）	三井直樹、三井秀樹『色彩デザイン学』六耀社、2,800 円（本体） 他に授業資料データ（pdf）等を配信します。
参考書・参考資料等	アイデア No.396 2022 年 1 月号「特集：色彩デザイン再考 デジタルカラーとこれからの色彩表現」 ヨハネス・イッテン『色彩論』美術出版社、3,500 円（本体） 三井秀樹『新構成学』六耀社、5,200 円（本体） 『色彩用語事典』東京大学出版会、15,000 円（本体） 『ハンディクラフトのデザイン学』3,800 円（本体）
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	色彩学とは配色のデザイン学です。色彩理論の理解とともに、色を見分ける感性を養って下さい。本講義を基礎にして、各自の作品制作に還元できることが肝要です。履修条件は特にありませんが、色彩センスを会得したいというモチベーションが不可欠です。授業内で指示のあった教科書の部分については、必ず通読し、復習して下さい。
実務経験を活かした授業	

科目名	クロス実習（プロダクト A）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	◎齋藤和彦、金澤孝和、菊池加代子、境野広志、増田 譲
授業の概要及びテーマ	身近なものをテーマとして、調査～コンセプト～造形検討～プレゼンテーションまでのプロダクトデザインの基本的なプロセスおよびテキスタイルの織りを体験する。デザイナーの実務はボーダーレスな業務がほとんどで、他の専攻の学生であってもプロダクトデザインのプロセスを概観することはメリットが多い。 またこのプロセスは、社会活動の多くの場面で有用なものとして近年注目を集めているデザイン思考の方法論でもある。
達成目標	・ プロダクトデザインの基本的なプロセスを理解すること。 ・ デザイン思考を体験の中から体得すること。 ・ 自らの専門領域において役立つようなスキルを身につけること。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	原則 2 コマ連続で全 8 回とする。詳細はガイダンス時に説明する。 01 ガイダンス、開講判断、テーマ説明、プロダクトデザインのプロセス説明 02 プロダクトデザインのデザイン思考について 03 アイデアスケッチワーク 04 スケッチの図面化 05 図面のモデル化（スタイロフォーム）・仕上げ 06 テキスタイル（つづれ織り） 07 テキスタイル（つづれ織り） 08 講評
成績評価基準	基本的な知識の習得度合及び作品で 80%、履修態度を 20%として評価する。原則、欠席は 5 点、遅刻は 3 点減点する。また 3 回欠席した時点で受講を放棄したものとみなす。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り 原則、遅刻は一コマ目の授業開始後 20 分までとする。
テキスト（教科書）	必要な資料については授業内で配付する。
参考書・参考資料等	適宜、指示する。
用具	モデル制作用のカッター、定規等工作用の工具およびマーカーなどの画材。 消耗品代として 2,000～3,000 円必要となる。
履修制限等	最大開講受講者数は 10 名とし、開講に必要な受講者数を 4 名とする。 希望者多数の場合はレポートを含め総合的に判断し決定する。
履修希望者への要望・事前準備	商品企画やプロダクトデザインに関心がある学生には広く受講を勧めるが、作業はかなり多いので中途半端な意識では臨まないこと。
実務経験を活かした授業	各回の内容に合わせ、それぞれの分野での実務経験を持つ教員が授業を担当する。

科目名	クロス実習（美・工A）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	岡谷敦魚
授業の概要及びテーマ	本学での美術領域である絵画、版画、彫刻分野の実践的授業を通して、美術造形領域を俯瞰的に考察することの一助とします。美術表現といっても、その実際は多岐に及び、専門的表現手法は限られた設備と環境でなければ経験することができません。本授業を領域横断的カリキュラムの一つとして位置付け、当該分野の専門的内容の一端に触れ、視野を広げ今後の自身の創作活動へのヒントとする事を目的とします。少ない時間ですが、専門的な手法の一端を経験することが可能です。本授業内でのプログラムは、年度によって開講しない年があります。本年度の開講するプログラムは、「シルクスクリーン」の1講座です。本講座では、シルクスクリーンの油性インクによる平面作品を制作してもらいます。なお、授業は実習1単位＝8回授業となります。
達成目標	専門的表現技法、素材と扱い方、加工方法などを経験します。 ・ 各自のコンセプトを立案し完成まで制作をおこなう事ができる。 ・ 表現に必要な素材と、それに伴う技法の理解ができる。 ・ 制作上のプロセスを理解し、正しく実践できる。 ・ アトリエ内での安全な制作、表現方法を実践できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	・ 授業は年度によって計画される内容が異なります。 ・ 本年度は前期に開講し、内容は1講座「シルクスクリーン」を行います。 ・ 開講する領域での履修人数は、設備等により定員制となります。 ・ 開講内容によっては持参用具、材料費等が必要となる場合があります。 ・ 実習は、集中授業となる場合があります。(原則は1回2コマで実施) 【シルクスクリーン】 01 ガイダンス・紗張り 02 描画・版下製作 03～07 製版・印刷 08 講評会
成績評価基準	授業参加態度・制作姿勢 30%、提出作品等の内容 70% なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えない。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	適宜指示する
用具	【シルクスクリーン】クロッキー帳、アイデアスケッチ、鉛筆描画用具一式、エプロンなど汚れても良い服装、その他は授業にて適宜指示する。
履修制限等	最大開講受講者数は6名とし、開講に必要な受講者数を1名とする。 受講希望者が多数の場合は、高学年の履修を優先し、抽選や面接等で決定する。
履修希望者への要望・事前準備	【シルクスクリーン】を受講する学生は、あらかじめどのような作品を制作するか、アイデアスケッチやパソコンデータでビジュアルイメージを作成し、具体的な作品のイメージを明確にしておくこと。積極的な授業への参加を求めます。
実務経験を活かした授業	

科目名	クロス実習（美・工B）
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	長谷川克義
授業の概要及びテーマ	本学での工芸領域である金属工芸＜鋳金＞分野の実践的授業の実際を通して、デザイン造形領域を俯瞰的考察することの一助とします。 工芸と言っても、その実際は多岐に及び専門的表現手法は限られた設備と環境でなければ経験することができません。本授業では、本学の領域を横断的カリキュラムの一つとして位置付け、当該分野の専門的内容の一端に触れ、視野を広げ今後の創作活動へのヒントになる事を目的とします。 少ない時間ですが専門的な手法の一端を経験することが可能です。
達成目標	各領域の専門的表現技法、素材の扱い方法、加工方法などを経験します。 ・ 各自のコンセプトを立案し完成まで制作をおこなう事ができる。 ・ 表現に必要な素材を理解し、それに伴う技法の理解ができる。 ・ 制作上のプロセスを理解、正しく実践できる。 ・ 工房での安全な制作・加工方法を実践できる。 ・ 工芸の実際を理解することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力／構想力を養う授業
授業計画	* 開講は時間割に則りますが、詳細は初回ガイダンス時に説明します。 (原則は2コマ連続) ＜鋳金＞石膏雌型による鋳合金を用いたペーパーウェイトの制作 01 ガイダンス 02 アイデア検討 03 アイデア決定、油粘土による原型制作 04 油粘土による原型制作 05 鋳型制作 06 鋳造 型割出 07 仕上げ 08 講評 * 新型コロナウイルスの影響によっては、課題に大幅な内容変更がある場合があります。
成績評価基準	受講態度および理解度・制作姿勢 60%、成果物の内容 40%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	持参用具などは、初回ガイダンスやパレットで通知する。
履修制限等	最大開講受講者数を 10 名とし、開講に必要な受講者数を 3 名とする。 設備や場所の関係から履修人数は 10 名が上限となる。 受講希望者が多数の場合は、抽選で決定する。
履修希望者への要望・事前準備	設備や場所の関係から履修人数は上記定員となります。定員を超えた場合は抽選とします。 また、材料費が 3,000 円程度かかる場合があります。
実務経験を活かし た授業	

科目名	クロス実習（建築・環境 A）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	◎森望、羽原康成
授業の概要及びテーマ	ショーウィンドウの目的やその効果を知るため、令和 3 年度は「初夏」を季節テーマとしたショーウィンドウを提案し、選ばれた 1 案を実際に制作、設置・撤去まで行う。
達成目標	課題によりショーウィンドウデザインを学び、提案および制作ができること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、課題出題 02 現場見学 03 コンセプト作成・決定 04～06 アイディアチェック 07 発表 08～15 制作、設置、撤去
成績評価基準	受講態度 20%、成果物 80%により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	特になし
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	最大開講受講者数は 10 名とし、開講に必要な人数は 1 名とする。 履修者が多数の場合は、抽選等で決定する。
履修希望者への要望・事前準備	建築・環境デザイン学科 3 年のゼミ I との合同授業となる。毎回アイディアチェックを行うので休まないように。
実務経験を活かし た授業	

科目名	クロス実習（建築・環境 B）
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	津村泰範、◎平山育男（保存系）
授業の概要及びテーマ	保存系では解説後に建物や街並みを見学してヴィジュアル的なレポートをまとめる。2019 年度は群馬県の富岡製糸場、魚沼市西福寺、白川郷などを見学した。
達成目標	建築・環境デザイン学科以外の学生のために、建築・環境デザインの範疇を知り、見学や課題により空間系のデザインを学び、提案できるようになること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	原則 1 回 2 コマにて実施する 01 ガイダンス 02 解説 03・04 歴史的建造物の見学・実習 05 解説 06・07 歴史的建造物の見学・実習 08 成果発表
成績評価基準	受講態度 20%、理解度 20%、成果物 60%により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り 歴史的建造物の見学・実習は必ずすべて参加すること。
テキスト（教科書）	適宜指示する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	最大開講受講者数は 20 名とし、開講に必要な人数は 3 名とする。 履修者が多数の場合は、抽選等で決定する。
履修希望者への要望・事前準備	歴史的な環境・空間に興味がある学生のための授業です。 目と耳と足を働かせて手を動かしましょう。
実務経験を活かした授業	

科目名	日本美術史
学年	1
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	芹生春菜
授業の概要及びテーマ	日本において人が連綿と生み出し続けてきた美術＝かたちあるものの創造の歴史を、その始まりから近代の入り口まで、時間軸で区切ってひもときます。基本的には各時代を代表する作品をとりあげ、その時代背景を考察し、伝統と革新、大陸文化の影響とその日本的受容を繰り返してきた歴史の流れを概観します。 また一方で、「日本」という国名に含まれる歴史的・地理的範囲も、「美術」という言葉が示す内容も、時代や状況によって変遷があることに留意し、現代人であるわたしたちが共通してもっている「日本美術」のイメージがどのように形成されたかという視点にも目配りをしながら授業を進めていきます。 ＊2022年度はリモート授業となります。
達成目標	1. 日本でつくられた美術や造形表現に触れ、興味や関心や自分なりの感想を自覚的にもつことができる。 2. 興味をもった作品や作家や文化的表象について、調べ、文章や言葉で語ることができる。 3. 「日本美術」の成り立ちについて学び、国際的な視点で日本の文化や美術のあり方理解することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 日本美術を学ぶとは 02 「日本」のあけぼの 造形のはじまり(縄文・弥生時代) 03 王権の誕生と伸長(古墳時代) 04 仏の相貌端厳し～仏教の伝来(飛鳥時代) 05 大陸の息吹と白鳳文化(飛鳥時代後期＝奈良時代前期) 06 律令国家の繁栄 花開く天平文化(奈良時代) 07 木彫の隆盛と密教 神と仏の造形(平安時代前期) 08 浄土への憧れと和様の完成(平安時代後期) 09 伝統と革新 中世の幕開け(鎌倉・南北朝時代) 10 禅とその周辺 新しい和漢の融合(室町時代) 11 新時代の勃興 墨と金碧の世界(桃山時代) 12 太平の世の始まり 規範と逸脱(江戸時代前期) 13 浮世の夢 繁栄と退廃(江戸時代後期) 14 「美術」の発見(明治時代以降) 15 まとめ 世界の中の日本美術 16 試験
成績評価基準	授業態度 30%、試験 70%
出席・遅刻の基準	リモート授業のため、毎回授業後に提出するコメントペーパーをもって出欠を確認する。詳細は初回授業で説明する。
テキスト(教科書)	授業開始時に毎回レジュメを配付する。
参考書・参考資料等	＊全体の流れを概観するために 『日本美術の歴史』(辻惟雄 東京大学出版会) 『岩波日本美術の流れ』1-7(辻惟雄監修、高階秀爾監修 岩波書店) ＊大判のカラー図版が豊富で新しい研究成果を反映 『日本美術全集』全20巻(小学館) など。 美術関係の著書は高価だったり絶版になっていたりと入手困難なものも多いので、まずは図書館等でお調べ下さい。 その他必要に応じて授業内でも紹介します。
用具	特になし。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	実際に「ものを見る」経験にまさるものはありません。機会をとらえて展覧会などへ積極的にでかけ、鑑賞の経験を多く持つように心がけていただければと思います。
実務経験を活かした授業	

科目名	西洋美術史
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	瀧本 みわ
授業の概要及びテーマ	古代から 20 世紀に至る西洋美術史の流れを概観し、時代や地域によって異なる特徴を持つ美術の表現形式（様式）や、作品それぞれが持つ主題（図像）について、理解を深める。授業では、スライドやプリントを用いて西洋美術史の基礎知識を学び、各時代の重要作品を例示しながら、概説を行う。
達成目標	各時代を象徴する美術作品の造形的表現の特質を理解し、作品を鑑賞するための美術史の基礎知識と方法論を習得する。そして、芸術作品を読み解くための多角的な視点を通して、デザインを志す学生各人の芸術表現への探求へと導くことを目的とする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 美術史とは、原始時代の美術 02 エーゲ海美術 03 古代ギリシア美術 04 エトルリア美術と古代ローマ美術 05 初期キリスト教美術とビザンチン美術 06 ロマネスク美術 07 ゴシック美術 08 プロト・ルネサンス美術 09 初期ルネサンス美術 10 盛期ルネサンス美術 11 マニエリスム美術 12 北方ルネサンス美術 13 バロック美術 14 ロココ美術、新古典主義、ロマン主義 15 写実主義、印象派、後期印象派 16 試験
成績評価基準	毎回授業後のリアクションペーパーの内容、16 週目に行う筆記試験の結果、そして出席率によって評価します。出席率が 80%に満たない場合は単位が与えられません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。欠席、遅刻も減点の対象となります。
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	毎回の授業で、図版や参考文献をまとめたプリント資料を配付する。 『体系世界の美術』（全 20 巻）学習研究社、『世界美術大全集』（全 28 巻）小学館、『人類の美術』（全 20 巻）新潮社、『西洋美術の歴史』（全 8 巻）中央公論新社
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	講義のノートを必ず取り、配布資料に掲載している参考文献表を活用しながら、復習を行う習慣をつけること。美術館、博物館や展覧会に足を運び、美術に関する知見を広めて、作品を見る楽しさを味わうこと。授業中には、スライドにて多くの作品を紹介するので、図書館などで本を手にして図版を眺めたり、作品情報を集めたりして、関心あるテーマを掘り下げていくこと。
実務経験を活かした授業	

科目名	形態デザイン論
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	三井直樹
授業の概要及びテーマ	自然界のあらゆる形や現象、私たちの身の周りにある様々な造形物には、それぞれ形づくりの数理性や造形原理が存在する。こうした形体の発生の原理やメカニズム、造形秩序の法則を理解することによって、クリエイティブな感性を涵養し、造形的な豊かな発想につなげることができる。 本講義は造形原理の根幹をなす構成学の観点から自然の形、人工の形を概観し、「形の美」とは何かという命題を基に造形理論を体系的に学んでいく。また、幅広い分野の映像、ビジュアルを鑑賞し、より高度なアートアンドデザインの発想力（クリエイティビティ）と実践力を培うことを目指す。
達成目標	本講義を履修した学生は、造形美と形をつくりだす原理・法則について理解し、造形的感性を養うことができる。また、構成学の習得によって、作品制作における造形表現へ還元することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 形の体系1 02 形の体系2／小テスト 03 デザインにおける構成学（構成原理と造形秩序） 04 日本と西洋における造形表現1／小テスト 05 日本と西洋における造形表現2 06 日本と西洋における造形表現3／小テスト 07 バウハウスとジャポニスム 08 形の見え方とゲシュタルト心理学1／小テスト 09 形の見え方とゲシュタルト心理学2 10 黄金比／等量分割と日本美／小テスト 11 シンメトリーの美／紋様と装飾美術 12 フラクタル幾何学／小テスト 13 デザインに活かす構成原理 14 デジタルデザインの造形 15 試験／試験の解説と授業の総括
成績評価基準	成績評価の前提条件として、出席率 2/3 を下回る場合は単位取得ができません。「小テスト（6回）」と「試験」を合わせて評価します。なお、小テストは出欠確認も兼ねています。
出席・遅刻の基準	毎回 Google Classroom にて出欠確認を行います。
テキスト（教科書）	三井秀樹『構成学のデザイントレーニング』六耀社、3200 円（本体） 他に授業資料データ（pdf）を配信します。
参考書・参考資料等	三井秀樹『フラクタル造形』（SD 選書）鹿島出版会、1,800 円（本体） 三井秀樹『新構成学』六耀社、5,200 円（本体） 三井秀樹『オーガニックデザイン』平凡社、2,400 円（本体） 三井秀樹『形の美とは何か』NHK ブックス、920 円（本体） 北岡明佳『イラストレイテッド 錯視のしくみ』朝倉書店、2,900 円（本体）
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本講義のなかで、さまざまなアート／デザイン領域への造詣を深め、形態に関わる語彙（ボキャブラリー）を広げましょう。作品制作のみならず、作品についてプレゼンテーションを行ったり、文章を書くことも、プロフェッショナルへの大事なスキルです。構成学における造形理論を習得し、美の本質を理解する理論と感性を養いましょう。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸概論
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修/選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	遠藤良太郎、◎岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、鈴木均治、中村和宏、長谷川克義、藪内公美
授業の概要及びテーマ	美術や工芸は、時代背景と様々な文化の起こりにより、社会と個人の思想、素材と技術の発達などと密接な関係によって発生し展開してきた。人間が文明を開化させた時代から、19世紀の産業革命を経て今日もたらされた世界の縮図で、美術はどの様に変遷してきたのか、また今日で言う工芸と呼ばれる表現形式はどの様に成立し変化せざるを得なかったのか。本講義では各分野、領域が成立してきた時々の事例と其々が求めた志向の概要と創作原因を理解し、存在する多様な価値観と表現特性の要因関係を考えその概要を探索。造形表現の新たな可能性と展開の模索を行うとき、領域を超えて制作者たちの知見を得ることは、今後の創作活動を志向する者たちの基盤と成り得る分析力と考察力、発想力を養うものと考えます。 ・ 作品と作者の認識 ・ アート、デザイン、クラフトの意味と要因の解釈～美術と工芸の枠組み ・ 歴史・地域等から起因する表現と素材の共通性・再生 ・ 手と視点からの創造～美術工芸思考 ・ 造形活動と社会活動
達成目標	・ 歴史の観点から見る造形表現や普遍的魅力的理解と認識ができる。 ・ 目的と素材特性（素材と手法・技法の関連性）が理解できる。 ・ 鑑賞する作品から作者の思考と表現特性を考察できる。 ・ 社会における造形表現の意義と現在性を考えることができる。 ※ レポート等課題の体裁および提出は各教員の指示に従うこと。また、提出レポートは講義内容のメモや感想文程度の内容ではなく、授業から考察した自分の考え・意見が述べられている等与えられたテーマに基づいたレポートとしての体裁をなしていること。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01～02 美術絵画の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 03～04 版画の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 05～07 美術彫刻の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 08 染織の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 09 漆の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 10 陶芸の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 11 金属工芸の概念＜鍛金＞、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 12 金属工芸の概念＜彫金＞、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 13 金属工芸の概念＜鍍金＞、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 14～15 ガラス工芸の概念、素材と技法の発達、作家と作品の歴史の変遷～現状、表現と造形手法の理路 * 但し、授業日程は変更になる場合があります。
成績評価基準	レポート評価 70%、受講姿勢 30%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜配付する。
参考書・参考資料等	必要に応じて指示する。
用具	必要に応じて指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	講義において紹介される種々の概念の上に今日の表現活動が実践されています。皆さんが日々演習等の授業で扱う全ての手法と成果をより深く理解し、考察することを望みます。また、原則全授業の出席およびレポート等課題の全提出を求めます。
実務経験を活かしした授業	

科目名	現代芸術論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	兼松芽永
授業の概要及びテーマ	1990年代のグローバル化以降、現代芸術を取り巻く状況や制作プロセス・表現形態は多様化し、隣接するさまざまな分野や人々と交わりながら複雑に変化してきました。国内外における同時代の芸術をめぐる諸問題について考えていくにあたり、まずは今に連なる「芸術/美術」の定義や制度が成立した西洋近代から20世紀美術の海外における動向を踏まえつつ、日本を含む非西欧の美術や表現がどのように位置付けられてきたのか、確認していきます。西欧の価値分類体系に基づく「美術」が日本で成立したのは、近代初頭の明治期です。ありふれたモノや道具、唄や踊り・芝居などとは異なる作品や表現のあり方とは何か。その探究や実践は、それぞれが生きる社会状況や技術・情報環境によっても変化してきました。さまざまな時代の事例と議論から、その変遷と問題の所在を探ります。 芸術は特別な領域や専門家に囲い込まれたものではなく、私たちを含む世界各地の暮らしの営みと共にありながら、異なる現実や体験へと誘う存在です。本講義が、グローバル化とコロナ禍を経て変わり続ける同時代の芸術実践やそれを支える諸制度・議論について、自ら特徴や問題点を見出し、考えていくための手がかりになればと思っています。
達成目標	1. 近現代における「芸術/美術」の成り立ちと動向、それをめぐる議論を理解する。 2. 同時代の芸術実践や表現のあり方について、自分の見解を自らの言葉で人に伝えることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 芸術／美術とは何か（オリエンテーション：美術史的な定義と本講義のアプローチ） 02 西欧近代における美術の成立と諸問題1 03 西欧近代における美術の成立と諸問題2（非西欧との関係性をめぐって） 04 20世紀美術の動向とその議論1（コンセプチュアル、ミニマル、ポップ、メディアアート） 05 20世紀美術の動向とその議論2（アクション、ハプニング、パフォーマンスアート） 06 20世紀美術の動向とその議論3（ランド、パブリック、インスタレーションアート） 07 日本における美術の成立と諸問題 08 日本の近現代美術の動向（明治大正期、戦前・戦後、郷土美術教育、民藝） 09 日本の近現代美術の動向（1980年代までの動向、現代美術館の設立と変遷、海外の動きとの交わり） 10 1990年代以降のグローバルな美術の動向とその議論1（国際展、美術市場、多文化主義・クレオール） 11 1990年代以降のグローバルな美術の動向とその議論2（レジデンス、リサーチ型アート、社会的転回） 12 1990年代以降のグローバルな美術の動向とその議論3（非西欧における美術や表現実践の変化、コレクティブ） 13 1990年代以降の日本の現代美術の動向1（サブカル・言葉・音楽・ファッション、大規模展、規制、グローバル文脈化） 14 1990年代以降の日本の現代美術の動向2（アートプロジェクト、芸術祭とアートツーリズム、パフォーマンス） 15 同時代の芸術をめぐる（コロナ禍の動向、振り返りとまとめ） 16 試験
成績評価基準	毎回の小レポート 40%、期末試験 60% ※小レポートの提出が5回未満の場合は、期末試験の受験資格を失います。
出席・遅刻の基準	小レポートの提出をもって「出席」とみなします。 ※締め切りを過ぎて提出した場合は「遅刻」と扱います。やむをえない理由がある場合は申し出ること。
テキスト（教科書）	授業の開始時に資料を配付する。必要な文献がある場合には2週間前に指示する。
参考書・参考資料等	『ありふれたものの変容：芸術の哲学』アーサー・C・ダンター 慶應義塾大学出版会 ￥5,060 『文化の窮状—二十世紀の民族誌、文学、芸術』ジェームズ・クリフォード 人文書院 ￥6,600 『眼の神殿「美術」受容史ノート』北澤憲昭 ちくま学芸文庫 ￥1,650 『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐる』アート＆ソサイエティ研究センターSEA研究会編 フォルムアート社 ￥2,860 *ほか、講義内で適宜参考文献を紹介し、価格は変動している場合があります。
用具	
履修制限等	できれば受講前に新潟県立近代美術館や新潟市美術館など、近現代の作品を所蔵する美術館の常設展示、もしくは博物館を含め興味のある展覧会や展示を観覧しておくこと。
履修希望者への要望・事前準備	新潟県十日町市津南町やイギリス・ロンドンなどでのフィールドワーク、およびアートプロジェクトの実務経験をともに同時代の芸術実践について講義を行う。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術解剖学
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	伊藤恵夫
授業の概要及びテーマ	造形表現に必要な体表の表現方法についての基礎知識を学ぶ。 造形活動に必要な人体に関する知識を十分理解するとともに、実際に表現された造形作品についてその表現法などを美術解剖学的な立場から学ぶ。
達成目標	① 人体について理解を深め、造形作品の制作に応用できる。 ② 造形表現された「カッコイイ嘘」について、美術解剖学的に分析できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 美術解剖学概論（カッコイイ嘘とは何か） 02 用語、プロポジション 03 頭部の骨格 04 頭部の筋 05 体幹（脊柱、胸郭）の骨格 06 体幹（頸、胸、腹、背）の筋 07 呼吸（複式呼吸、胸式呼吸）、嚥下 08 上肢の骨格と筋 09 折紙作品とその作成（ちびテュランノサウルス） 10 下肢の骨格と筋 11 コントラポスト（ジョジョ立ち） 12 動物美術解剖学 13 空想生物のかたち（東宝怪獣、龍、モンスターハンター） 14 人体の構造と究極の可動人形 15 天象美術解剖学（サイボーグ 009）
成績評価基準	授業中に課す提出物またはノート（30%）、学期末試験（レポート）（70%）
出席・遅刻の基準	出席確認は Zoom のチャット機能を使用する。
テキスト（教科書）	なし。必要に応じてプリントを配付する。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	学習効果を高めるため、講義の復習および予習を行うこと。予習については、シラバスと講義内の「次回予告」を参考にすること。
実務経験を活かし た授業	

科目名	美術・工芸特別講義
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修/選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎中村和宏、木村了子、富井大裕、扇田克也、周防絵美子
授業の概要及びテーマ	豊富な造形活動の経験と作品表現への深い造詣を持つ作家等を招聘し、美術・工芸を取り巻く最新の動向や経緯、次代に求められる思考力や方向性について幅広く講義を行います。 本講義により幅広い表現領域の現状を認識し、学生各自がその志向と制作・研究活動の方向性を探ると共に各専門分野にて創作に必要とされる意識や概念、習得すべき技法について考察していきます。 また毎回講義について事前・事後レポート提出を義務付けます。
達成目標	・講師についての事前調査が己の興味を広げる内容とすることができる。 ・講義後のレポートが講義内容の単なるメモや感想文ではなく、各自の考察・意見が述べられている等、聴講レポートとして体裁をなすことができる。その内容については、講義された作家と作品、表現と手法・創作概念の考察と共に、各自考察する現在の美術・工芸領域の現状認識や講義と関連する自己の制作・表現活動の方向性の考察を含むものとしします。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	講義日程は4回(4名)を後期日程中に設定します。その予定は履修者にパレット等で周知します。 また、受講希望者はガイダンスに出席すること。レポート課題などの指示があります。 01 ガイダンス 02~03 美術表現分野 A 04~05 クラフトデザイン分野 A 06~07 美術表現分野 B 08~09 クラフトデザイン分野 B
成績評価基準	レポート評価70%・受講姿勢30%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適時指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	現代の作家と作品はいかなるものか、その本質を垣間見るまたとない機会である。皆さんが漠然とイメージしている造形活動との差異は…。作家の言葉をどのように聞き理解するのか、表現の根幹に必要なことは…。 緊張感をもった受講を望みます。必ず質問等を用意し講義に臨むこと。 また、レポート課題の全提出を求めます。 美術・工芸学科の学生だけでなく、他学科の学生も是非受講してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	プロダクトデザイン概論
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修/選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、◎齋藤和彦、境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲、金石浩一
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザインは、生活のあらゆる場面で接するモノを発想し、形を与え、製品として世の中に送り出し、人々の暮らしを豊かにするモノである。 その分野は、身近な雑貨からファッション、テキスタイル、生活雑貨、家電用品、情報機器から自動車やロボットまで多岐に及ぶ。また、生活者との関わりはもとより、企業の経営資源でもあり、社会とも深い関わりを持つものである。 本講義は、それら広範な分野におけるデザインのありかたや制作・開発のプロセス、今後の展望などを概観するものである。具体的には、本学科の教員全員が、そのバックボーンを通して各分野の概説を行う講義と、プロダクトデザイン、テキスタイルデザインの歴史についての講義より構成されている。
達成目標	・ プロダクトデザインの多様な分野の特質・意義を理解すること。 ・ プロダクトデザイン及びテキスタイルデザインの歴史について、概要を理解すること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 授業ガイダンス・プロダクトデザインとは何か 02 家具・生活用品のデザイン 03 乗り物のデザイン 04 情報機器・家電製品のデザイン 05 インターフェースデザイン 06 プロダクトデザインの歴史Ⅰ 07 プロダクトデザインの歴史Ⅱ 08 プロダクトデザインの歴史Ⅲ 09 テキスタイル（染め）のデザイン 10 テキスタイル（染め）のデザインの歴史 11 テキスタイル（織）のデザイン 12 テキスタイル（織）のデザインの歴史 13 ファッション・プロダクトのデザイン 14 UX デザイン 15 音響・映像機器などのデザインおよび PD 全般に対する質疑
成績評価基準	各講義においてレポートを提出。 各レポートの得点の平均点から、欠席、遅刻に応じて点を減ずる。 ※遠隔の場合は各レポートの得点の平均点で評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	テーマ毎に必要な資料を配布
参考書・参考資料等	
用具	筆記用具
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	自分の身近にあるプロダクトに対し、常に関心を持ち、インターネット等で該当分野について予習・復習を行うことが望ましい。 概論では、それぞれが独立した分野のようにみえるが、実際には相互に影響しあって新しいモノが生み出されているのであり、それを意識し各回の授業に臨むこと。
実務経験を活かした授業	各分野における実務経験を持つ教員が講義を行う。 家具・生活用品：金澤、 乗り物：齋藤、 情報機器：増田、 インターフェイス：境野、 プロダクト：土田、 テキスタイル（染め）：鈴木、 テキスタイル（織）：菊池、 UX：金山、 ファッション：金石

科目名	視覚デザイン概論
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修/選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	阿部充夫、天野 誠、池田享史、吉川賢一郎、◎金 ボンス、徳久達彦、長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、平原 真、真壁 友、松本明彦、水川 毅、御法川哲郎、山田博行、山本 敦
授業の概要及びテーマ	日常生活で接することのない日はないというほど「視覚デザイン」は、実はとても身近な存在なのです。新聞、雑誌、絵本など印刷物に始まり、CD ジャケットや食料品のパッケージ、テレビコマーシャルにウェブサイト、または街中で見かけるサインボードに至るまで、余りにも身近すぎてその存在に気付かない程です。 そのように今まで接してきながら意識して来なかった「視覚デザイン」を改めて眺めることにより、社会の中での「視覚デザイン」の果たす役割、またはその成り立ちを知り、これから専門的に学修して行く上での基礎的知識や心構えなどを考えていきます。
達成目標	視覚デザインに関わる文字、印刷、イラストレーション、写真、Web など各分野について基礎知識を深く理解し、専門用語、代表的な作品、作家について説明ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、視覚デザイン全般(長瀬、金) 02 日本のしるし(金) 03 グラフィック(山本) 04 地域とデザイン(吉川) 05 TVのお仕事の現場 ～ポスター篇～(池田) 06 エディトリアル(天野) 07 イラストレーション(御法川) 08 写真表現(松本) 09 広告写真(阿部) 10 映像表現(ビューラ) 11 コマーシャルフィルムというメディア(山田) 12 広告(水川) 13 デジタル(真壁) 14 Web(徳久) 15 未定(平原) 16 試験 ※ 順番は変更することがあります。
成績評価基準	試験 40%、レポート 60% 遅れ提出は最終評価より減点します。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	なし。
テキスト(教科書)	テーマ毎に必要なにより、資料をデータ(PDF等)で配付
参考書・参考資料等	適宜指示します。
用具	パソコン、筆記用具
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	「視覚デザイン概論」は、視覚表現の基礎となる理論を学ぶものです。講義の内容を単に知識として受け止めるだけではなく、演習や実習における制作を通して、その真の意味合いを考えてください。 また日頃から図書館等も利用し、各分野の専門誌を読んでおくこと。 さらに、美術館、ギャラリー等を利用し、本物のアート、デザインの作品に触れる機会を持つこと。 また、遠隔授業を受講できる環境整備が必要です。
実務経験を活かした授業	様々なデザイン分野での実務経験のある教員が、視覚デザインの基礎を指導します。

科目名	人間工学
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	秋元頼孝
授業の概要及びテーマ	人間はいまや数多くの道具や機器を使い、人工的な環境の中で暮らしている。科学技術の高度化が進む中で、その利用者である人間との調和を図ることがますます重要になっている。“人間工学”とは、このような人間と機器・環境との関係を、ヒトの身体・生理・認知的特性を考慮して人間／機械系として捉え、人間にとって最適な作業形態・環境・機器・道具を設計するための基礎知識を与える学問分野である。多くの分野に関連し、学際性の高い内容を扱う。
達成目標	人間工学の基礎である以下の項目に関する基礎的な知識・技能および応用力を身につけ、説明できることを目標とする。 1) 人間工学の手法, 2) 人間の身体的特性, 3) 人間の生理的特性, 4) 人間の認知的特性, 5) 人間／機械系
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 人間工学とは 02 人間の仕組みと特性 1 03 人間の仕組みと特性 2 04 マン・マシンインターフェース 05 認知とヒューマンエラー 06 わかりやすさ 07 使いやすさ 08 ユニバーサルデザイン 1 09 ユニバーサルデザイン 2 10 ヒューマンインターフェース 11 人間工学の手法：心理生理学的アプローチ 12 人間工学の手法：質問紙法と統計的考え方 13 人間工学の手法：質問紙実験演習 1 14 人間工学の手法：質問紙実験演習 2 15 まとめ
成績評価基準	成績は、最終レポートの成績 55%、講義中に行う課題・演習 45%によって総合的に評価する。 総合評価では、達成目標である以下の項目の理解・習得を基準とし、これらを最低限達成した場合、合格とする。 1) 人間工学の手法, 2) 人間の身体的特性, 3) 人間の生理的特性, 4) 人間の認知的特性, 5) 人間／機械系
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じ授業資料を配付する。
参考書・参考資料等	岡田明(編著)「初めて学ぶ人間工学」(理工図書) 横溝克己・小松原明哲著「エンジニアのための人間工学(改訂版)」(日本出版サービス)
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	シラバスに従い講義を行うので、講義後は授業内容の復習をしておくこと。
実務経験を活かした授業	

科目名	メディア概論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎真壁 友、澤 隆志、林 洋介、松本祐一、山田興生
授業の概要及びテーマ	現在メディアと呼ばれている物は多様化してきています。紙、放送、インターネット。これからも今までは思い付かなかったようなモノがメディアとして活躍する可能性もあります。この授業ではそれぞれの分野で活躍している講師から、それぞれの立場から「メディアとは？マルチメディアとは？」を講義します。社会の中では様々なメディアに精通したデザイナーが求められています。この授業ではマルチメディアを「コミュニケーションデザイン」「社会」「技術」の各観点から理解し、その全体像を把握することを目的とします。
達成目標	デジタルメディアの歴史とその広がり的一端を知る。 映像、放送での動画編集の意味について理解するきっかけを得る。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業 (この授業ではメディアの歴史の概略を知り、どのようにメディアが発達してきたのか、現在の状況、そして今後の進む先を考えることにより構想力、そしてデジタルで作るといふことの造形力について考えます。)
授業計画	01 ガイダンス 02 デジタル技術とメディアの歴史 03 デジタル技術とメディアの歴史 04 デジタル技術とメディアの歴史 05 デバイス 06 デバイス 07 ネットアート 08 ネットアート 09 ネットワークと音楽 10 ネットワークと音楽 11 マインドセット 12 マインドセット 13 映像 14 映像 15 まとめと確認
成績評価基準	授業のテーマによりレポート提出、課題があります。 また学期末(15回目)に確認テストを行います。 テストと提出レポートの合計が評価となります。 ・レポート、課題 30% ・学期末確認テスト 70% なお成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	各講師から授業時に指示されます。 また必要に応じてプリントを配付。
参考書・参考資料等	各講師から授業時に指示されます。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	各分野の第一線で活躍している先生方を招いてのオムニバス形式の授業になります。デジタルメディアについての内容が多くなります。興味のある人のみ受講すること。また授業中に様々な映像を見る機会があります。映像と音に対して過敏な人は受講をおすすめしません。 出席、提出物、試験の不正に対しては厳しく対処します。
実務経験を活かし た授業	各分野で活動実績を持つ講師による授業。

科目名	プロダクトデザイン特別講義
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修/選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎斎藤和彦、上野 和広、玉井 美由紀、松本 有、やまざきたかゆき
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザインの第一線で活躍されているデザイナーあるいは、長年活躍されてきた豊富な経験と深い造詣をお持ちの方を講師として迎え、デザインの動向、注目される製品・作品・成果、次代に求められるデザイナー像などを幅広い視野で講義していただく。
達成目標	・ 事前レポートにより、講師の経歴や仕事などのバックグラウンドを理解すること。 ・ 講義レポートにより、講義を受けての自分の考え・意見を記述することができること。 ・ デザイナーの仕事や社会における役割を把握、理解すること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力を養う授業
授業計画	オムニバス形式で4人の講師が4回の授業を行う。
成績評価基準	毎回のレポートの総合点から、欠席、遅刻点を減ずる。 配点比率 事前レポート (20%) : 講義レポート (80%) 3/4以上の出席、及び事前・講義両レポートの提出が単位修得の必要条件となる。 ※遠隔の場合は3/4以上のレポート提出が単位修得の必要条件となる。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じて配付・指示する。
参考書・参考資料等	授業で適宜紹介する。
用具	筆記用具
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	講義の前に講師の経歴や仕事について十分に調べ予習とすること。 講義レポートは、復習として講義内容のまとめるだけでなく、感想文にならないように意識し、自分自身の考えを記述すること。
実務経験を活かした授業	各業界で活躍する実務経験豊かな講師による授業である。

科目名	視覚デザイン特別講義
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修/選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎長瀬公彦、林俊美、箭内道彦、加藤久仁生
授業の概要及びテーマ	視覚デザインの領域は、広告やグラフィックデザインなどから、写真、映像、デジタルデザイン等、幅広い分野に渡ります。この講義では、それら視覚デザインの分野から代表的なものを抜粋、第一線で活躍されているクリエイターの方々を講師にお招きし、各分野を取り巻く最新の動向や仕事内容についての話を伺います。
達成目標	各クリエイターの仕事や社会におけるデザインの役割を、現実的に把握、そして理解できるようになることが目標です。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	4人の非常勤講師がオムニバス形式で4回の授業を行う。
成績評価基準	学期末に行う確認テスト、各講師への質問シートへの記入状況を参考に評価を行う。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じて、各講師によるプリントを適宜配付。
参考書・参考資料等	適宜紹介する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	講師の方々はいずれも、各分野の第一線で活躍されている方々です。毎講義の前に、講師の方々の仕事、プロフィール等を調べて事前レポートを提出すること。 また、真摯な態度で受講すること。
実務経験を活かした授業	特別講義の非常勤講師は、実際の現場で活躍されている専門家の方々です。

科目名	商品記号論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	佐古仁志
授業の概要及びテーマ	本講義の目的は、記号論の基礎を理解することで広い意味での<デザイン>を身につけ、日常生活を含む実践の場を利用できるようにすることである。 今日幅広い分野で注目を浴びる「デザイン思考」(さらには「サービスデザイン」と、自分ごととして個別事例を研究し実践する方法である「構成ループ(知のデザイン)」は、それぞれ別の文脈で生じたにもかかわらず、記号論という共通点を持っている。そこで本講義では「デザイン思考」と「構成ループ」という二つの手法を記号論との関係で考察し、実践を通じてこの二つの手法を統合的な仕方ですに身につけることを試みる。 具体的には、記号論とデザインの関係について<デザイン>の方法としての「構成ループ」や商品の背後にある記号論的働きを説明する製品意味論を通して理解する。それから記号論を学ぶことで、<デザイン>という営みが商品に単に審美的な価値を与えるだけではなく、私たちが身体を動かし商品を使用するといった人-モノの、さらには、商品を媒介にした人-モノ-人のコミュニケーションを含む日常に深く根差した活動であることを体感し、自らの活動に活かせるようにする。
達成目標	・製品意味論を理解し、意味のデザインの手法を修得する ・デザインについて記号論的解釈ができる ・デザイン思考について理解する ・構成ループという手法を使用できるようになる ・以上のことを通じて、モノ(商品)をデザインする仕方を<デザイン>できるようになる
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 デザインと記号論：講義の概要と導入 02 デザインの方法Ⅰ：デザインを自分ごとにする 03 デザインの方法Ⅱ：自分ごとにするための方法論 04 デザインの方法Ⅲ：構成的手法とデザインマインド 05 製品意味論Ⅰ：人間中心のデザインとは 06 製品意味論Ⅱ：人間中心のデザインの手法 07 まとめⅠ：デザインと記号論のまともと「共感」について 08 記号論的思考Ⅰ：パースの記号論 09 記号論的思考Ⅱ：デザインの発想法としてのアブダクション 10 記号論的思考Ⅲ：「投射」と「比喩」について 11 まとめⅡ：記号論的思考のまともとアフォーダンスとデザインの生態学 12 社会における記号論Ⅰ：ソシユールと文化記号論 13 社会における記号論Ⅱ：ポピュラー文化とメディアの記号論 14 社会における記号論Ⅲ：パフチンと小説の記号論 15 まとめⅢ：社会における記号論のまともとレポートの書き方
成績評価基準	3分の2以上の出席を前提に、授業各回のリアクションペーパー(あるいはミニ・レポート)と最終レポートの結果で評価する(平常点40%、最終レポート60%)
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り(遅刻は授業開始から20分まで。) 原則、毎授業後のリアクションペーパーの提出を出席の条件とする。
テキスト(教科書)	授業中に適宜指示する
参考書・参考資料等	『意味論的転回』(クラウスクリッペンドルフ、共訳、エスアイビーアクセス) 『記号論への招待』(池上嘉彦、岩波新書) 『デザイン学(思索のコンステレーション)』(向井周太郎、武蔵野美術大学出版局) 『ひらめきを計画的に生み出す デザイン思考の仕事術』(棚橋弘季節、日本実業出版社) 『誰のためのデザイン?』(D.A. ノーマン、野島久雄訳、新曜社刊) 『知のデザイン』(諏訪正樹・藤井春行、近代科学社) 他
用具	特に必要ない
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<デザイン>は、問題提起、仮説形成、検証、そしてさらなる問題提起という「構成のループ」の連続であり、これは芸術だけでなく、科学にも共通したまさに人間の<知>の手法である。 履修生にはこの講義を通じて、私たちが生活することそのものが<デザイン>することであるということを学んでほしい。 授業の最後にリアクションペーパー(場合によっては次回の授業までに簡単な作品・レポート)を提出してもらい、次の回の授業でコメント(講評)をするので、積極的な参加を期待する。
実務経験を活かしした授業	

科目名	ユーザインタフェースデザイン論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	尾田雅文
授業の概要及びテーマ	機器や製品の扱いにおいて、主に「わかりやすさ・使いやすさ」に関するデザインの考え方を学習する。このために、適切なヒューマンインタフェース、人間の認知特性とデザインなどの理解、さらには、社会的課題としてのユニバーサルデザイン（UD）についても取り扱う。
達成目標	デザイン要件としての「わかりやすさ・使いやすさ」を理解し、「ユーザーの立場に立ったデザイン」を自ら発想できるデザイナーとしての基礎的素養、能力の向上を図る。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業 （「社会人基礎力」にあつては、課せられた課題に対して自ら考え、調査結果をエビデンスとして論理的に説明することを通じて、その能力を修得する。「構想力」にあつては、題材となる問題（現状）より、解決すべき課題を抽出し、その解決方法を構想することを通じて、その能力を修得する。）
授業計画	01 ユーザインタフェースとは 02 ユーザインタフェースデザインの背景と関連分野 03 人間の特性 -視覚- 04 人間の特性 -聴覚- 05 人間の特性 -体性感覚- 06 人間の特性 -高齢者・障がい者- 07 入出力機器としくみ 08 インタラクションデザイン 09 GUI デザイン 10 情報の可視化 11 ユーザインタフェースの設計 12 ユーザインタフェースの評価 13 ユニバーサルデザイン -高齢者対応- 14 ユニバーサルデザイン -障がい者対応- 15 ユーザインタフェースの展開
成績評価基準	出席が2/3以上を満たす履修者にたいしてのみ単位付与を検討する。 成績は、レポート等（70%）、ならびに、授業への貢献度・演習課題（30%）に基づいて評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	講義資料を毎回配付する （授業中などで指定したサーバーを通じて、配信することを予定しています。授業前には予め、ダウンロードして置くことを推奨します。）
参考書・参考資料等	・「誰のためのデザイン？」D.Aノーマン 新曜社 3,465 円 ・「福祉工学」依田光正 理工図書 2,800 円
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	指定されたサーバーから、事前に講義資料をダウンロードしてください。また、授業前には同資料を一読し、記載内容を把握した上で、授業に備えておくことを推奨します。
実務経験を活かした授業	公設試験場在職時における企業指導の実務経験を活かし、製品の「わかりやすさ・使いやすさ」に関する講義を行います。

科目名	マーケティング論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	水川毅
授業の概要及びテーマ	マーケティングはインターネットの出現によって大きく変化をしており、現在も激しい変化の只中にあります。マーケティングの範疇は、商品サービス開発から商品デザイン、広告、あらゆるメディアを活用したコミュニケーションなど非常に広いものです。従ってマーケティングはどのような企業、組織においても戦略、企画職（デザイナーを含む）といった機能に必須な知識、スキルとなります。多くの企業、組織で社員、構成員のマーケティング力の定義、実践、育成が課題となっています。 このマーケティング論では、講義によって基礎的なマーケティング知識を付けたうえで、日々目に見えるあらゆる企業や組織のマーケティング活動を学生自身がピックアップしてレポート提出、発表、そしてその内容に関する議論といった形式を取ります。 つまり講義と発表、議論という双方向の内容で戦略的発想力、企画力、デザイン力を付けていく内容になります。
達成目標	1、マーケティング用語の理解 2、メディアとマーケティングの理解 3、ブランディングとマーケティングの理解 4、デジタルメディアとマーケティングの理解 5、マスメディアとデジタルメディアとマーケティングの理解 （成績評価の指針） ＊ レポート、発表内容によって判断
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	1 回：マーケティングとは何か 2 回：マス広告とマーケティング① 3 回：マス広告とマーケティング② 4 回：マス広告とマーケティング③ 5 回：インターネットの出現とマーケティング① 6 回：インターネットの出現とマーケティング② 7 回：インターネットの出現とマーケティング③ 8 回：キャンペーンデザイン 9 回：コピー戦略 10 回：マーケティングとクリエイティブ（企画・制作） 11 回：メディアプランニング（目標、媒体戦略、媒体ミックス） 12 回：ソーシャルメディアの活用 13 回：課題レポート紹介① 14 回：課題レポート紹介② 15 回：課題レポート紹介③ ※ 各回上記のテーマで前半に講義を行い、その後議論する形式
成績評価基準	数回のレポート 50%、発表内容 50% 発表ごとに、内容が良ければ常に加点。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	特にありません
参考書・参考資料等	<毎回の講義資料> 指定テキストは使わず、講義の度に用意するパワーポイントで説明します。 講義形式はオンライン（Zoom） <参考資料> 講義中に適切なものを推薦します。
用具	PC（オンライン授業として Zoom） Google クラウド（授業予定や内容の告知） PC（Word、Excel、PowerPoint、PDF）以外は特にありません。
履修制限等	特にありません。
履修希望者への要望・事前準備	広告会社、企画制作会社を志望する学生だけでなく、あらゆる業種にマーケティングは必要なため、どのような学生にとっても役立つ内容となっております。事前準備は特に必要ないですが、マーケティングというものが何故重要なのかを考え、企業や組織のマーケティング活動を観察し、読み解く習慣をつけるようにして下さい。その習慣が未来を創ることに繋がります。
実務経験を活かした授業	最先端のマーケティングはテクノロジーを抜きにしてはあり得ません。しかしテクノロジーが発達してもマーケティングの基礎、本質を知らなければ、企業や組織は売り上げや利益といった目標を達成できません。マーケティングの基礎が分かれば最先端のテクノロジーやデータサイエンスを恐れる必要は無いのです。世の中を観察するとマーケティングの基礎や本質を分からないままに作られている商品、サービスが溢れていて驚きます。この授業を受ければ、そのような気付きが得られるでしょう。

科目名	広告論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	角田 誠
授業の概要及びテーマ	人類が発明した優れたコミュニケーション文化の一つが、広告です。送り手が受け手の心理を読みきって、行動に変化をもたらす。言い換えれば、相手のことをとことん想像する作業であり、思いやりの技術と言ってもいいでしょう。デジタルの登場で、進化のスピードを一気に増した広告コミュニケーション。付まいこそ激変していますが、その真ん中にクリエイティブ・アイデアがあることは少しも変わりありません。授業では、毎回1つのキーワードを設定し、関連する3つの事例を徹底考察しながら、その軸にどんな発想やアイデアがあるのかを発見していきます。
達成目標	・ 広告の基礎知識を習得する。 ・ 広告コミュニケーションにとってのクリエイティブ・アイデアの重要性を知る。 ・ 広告表現を分析し、新しい表現を開発する基礎力を身につける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	広告の歴史、メディアの変遷、アートディレクションとコピー、表現の進化など、できるだけ広範囲の話題を縦横に取り入れながら学びます。一体なんだろう？と首を傾げる、例えばこんなキーワードを軸に授業を進めていきます。 01 DDB 02 焼印 03 What と How 04 15 秒 05 意志×感情 06 HUNGRY? 07 引き算 08 余地 09 土用の丑 10 プレゼント 11 王様が死んだ 12 人はまず驚く 13 for GOOD 14 カンヌ 15 レポート講評 理解が進んだタイミングでレポートを出題します。
成績評価基準	レポート70% 授業参加態度30%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト(教科書)	特にありません。
参考書・参考資料等	講義の中で紹介します。
用具	遠隔授業の対応をお願いします。
履修制限等	特にありません。
履修希望者への要望・事前準備	日頃から広告コミュニケーションへの関心を高めておきましょう。身近な具体例を収集したり、なぜ気になったのか、なぜ面白い(ツマラナイ)と思ったのか、立ち止まって考える姿勢を養うことが大切です。また、リモートであっても活気のある授業にしたいので、積極的、協力的な受講を併せてお願いします。
実務経験を活かした授業	広告代理店で、コピーライター、クリエイティブディレクターとして多くの経験を積み、退社後も実務を続けています。現場で学んだリアルな知識や情報をお伝えしたいと思います。

科目名	デザイン感性工学
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	境野広志
授業の概要及びテーマ	感性工学とは、人間の感覚や意思、印象及び好悪といった感情について客観的、定量的なアプローチを試みる研究領域である。デザインとは人とモノを意図した関係でつなぐ行為であり、感性工学はその理論的背景を提供し、また新たな方法を展望するための手法ともなるものである。本授業では感性工学の知見、視点によりデザインの価値、デザイナーの思考過程を論理的に把握、理解することを主要なテーマとする。
達成目標	・ 感性工学の意味、役割、理論的背景を理解する ・ 感性工学の手法の理解と演習を通じてその適用方法等を理解する ・ デザインの価値についての定量的な評価を行う ・ デザイナーの思考過程について、モデル化することでそのスキルを客観的に理解する
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業 (本講義は、デザイナーの根源的スキルとして求められる構想力、造形力を理論的に探究、理解することがテーマとなっている。それらを客観的に認識することにより、自らのスキルの向上に資するものとなると考えている。)
授業計画	01 ガイダンス、感性工学の概要、歴史概観 02 人間の視覚認知諸特性 1 03 人間の視覚認知諸特性 2 04 人間の認知諸特性 1 05 人間の認知諸特性 2 06 美しさの数値 07 デザインの定量的な測定 1 08 デザインの定量的な測定 2 09 多変量解析分析方法 10 多変量解析演習 1 11 多変量解析演習 2 12 多変量解析演習 3 13 多変量まとめと非線形分析 14 一般設計学、記号論 15 まとめ
成績評価基準	レポート及びグループワークとしての解析演習で採点する。授業態度及び欠席等で減点する。4回以上の欠席は単位を認めない。原則として欠席は5点、遅刻は3点の減点とする。また出欠に関して不正があった場合は厳正に対処する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	直接必要な資料等は classroom など配布する。
参考書・参考資料等	『感性工学』長町三生 海文堂 『システム工学入門』寺野寿郎 共立出版 『経営のための多変量解析』本多正久/島田一明 産業能率大学 『デザインの工学』森典彦 朝倉書店 『キーポイント線形台数』薩摩順吉/四ツ谷晶二 岩波書店 『ラフ集合と感性』森典彦他編 海文堂 『左脳デザイン』森典彦編 海文堂 『ニューラルネットワーク情報処理』麻生秀樹 産業図書 『多変量解析のはなし』有島哲/石村貞夫 東京図書 『デザイン情報学入門』和歌山大学システム工学部デザイン情報学科日本規格協会 『官能評価の基礎と応用』天坂格郎/長沢伸也 日本規格協会 『デザイン科学事典』松岡由幸 丸善出版
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本授業では、デザインの数理的な解析を手法の軸としている。基本は中学、高校レベルの統計や確率論であり講義においても概略の説明は行うが、不安があれば復習しておいて欲しい。また、これらの手法はあくまでツールであり、講義の本質は人間の感性を考究することにあるので、関心がある学生は学科を問わず受講してほしい。卒研で論文を希望する学生、進学を希望する学生には特に受講を勧める。
実務経験を活かした授業	通信会社にて家庭向け商品のために 人間の認知や感性に関わる技術開発を行った教員が、感性工学について講義を行う。

科目名	サインデザイン論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎金 ポンス、吉川 賢一郎、山本 敦、鎌田 博美
授業の概要及びテーマ	私たちの身の回りにあふれている各種サインデザインは、社会のコミュニケーションの核として重要な役割を担っています。本講義ではサインデザインを広義の意味でとらえ「サイン・シンボルの歴史」「インフォグラフィック」「VI・CI」「サインデザイン」を中心に学んでいきます。また、実例や実際の仕事の体験談を紹介しながら、課題やトレーニングを通しそれらを学んでいきます。
達成目標	・ 社会の中におけるサインデザインの重要性を理解する。 ・ 身の回りにおけるサインデザインを「プロのデザイナーの目」で客観的に評価、判断できるようになる事。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01. ガイダンス 02. サイン・シンボルの歴史① 03. サイン・シンボルの歴史② 04. サイン・シンボルの歴史③ 05. インフォグラフィック① 06. インフォグラフィック② 07. インフォグラフィック③ 08. VI・CI① 09. VI・CI② 10. VI・CI③ 11. サインデザインの事例① 12. サインデザインの事例② 13. サインデザインの事例③ 14. サインデザインの事例④ 15. 総括、授業評価アンケート ※ 授業の予定は一部変更される場合があります。
成績評価基準	課題提出により評価 ※ 遅れ提出、未提出は最終評価より減点します。
出席・遅刻の基準	なし。
テキスト(教科書)	テーマ毎に必要なにより、データ(PDF ファイル等)で配付
参考書・参考資料等	・「グラフィックデザイナーのサインデザイン」 デザインノート編集部、誠文堂新光社 ・「図説 サインとシンボル」 アドリアン・フルティガー、研究社 ・「ひと目でわかるシンボルサイン」 交通エコロジー・モビリティ財団 ・「インフォグラフィックス」 木村 博之、誠文堂新光社 ・「英文サインのデザイン」 小林 章、田代 真理、ビー・エヌ・エヌ新社 ・「ISOTYPE/アイソタイプ」 オットー・ノイラート、ビー・エヌ・エヌ新社 ・DECOMAS、デコマス委員会、三省堂
用具	ノートパソコン、筆記用具
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	小さな課題やレポートが複数ありますが、欠席の日の課題は遅れても必ず提出してください。 遠隔授業を受講できる環境整備が必要です。 毎回の授業でノートパソコンを使います。
実務経験を活かした授業	サインデザイン分野での実務経験のある教員が、サインデザインの基礎を指導します。

科目名	パッケージデザイン演習
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山本 敦、齊藤純一
授業の概要及びテーマ	近年マーケティングの現場では、基本である4P (Product, Price, Place, Promotion) に加え5つ目のPとして Package が注目されています。 パッケージは内容を保護するための包装に留まらず、店頭 (Point of Purchase) での販売促進活動のツールとしての重要性が増していると考えられます。そこで「売れるパッケージ」、「買いたくなるデザイン」とは何かを学ぶことに力を置きます。 また、パッケージデザインは「新たな価値」や「ライフスタイルの提案」を伝える重要な手段でもあり、その点をふまえてブランディングや商品企画への展開を併せて学びます。
達成目標	魅力的な商品作りためには優れたパッケージデザインは不可欠です。そのために必要な「立案」、「調査」、「デザイン」、「プレゼンテーション」の能力を身につける事を目標とします。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、第1 課題説明 02 制作と個別チェック 03 制作と個別チェック 04 制作と個別チェック 05 第1 課題 中間プレゼンテーションと講評 06 制作と個別チェック 07 制作と個別チェック 08 第1 課題 完成作品プレゼンテーションとアドバイス 09 レクチャー、第2 課題説明 10 制作、個別チェック 11 制作、個別チェック 12 制作、個別チェック 13 第2 課題 中間プレゼンテーションと講評 14 制作、個別チェック 15 第2 課題 完成作品プレゼンテーションとアドバイス ・ 課題の進捗に応じて受講生と相談の上、日程を変更する場合があります。
成績評価基準	2つの演習課題(課題の出来ばえとともにプロセスとして中間プレゼンテーションやチェックを含む)で評価(50点+50点)欠席は4点、遅刻は2点の減点とし、かつ2/3以上の出席を単位修得の必要条件とします。(遅刻2回で欠席1回と数える)
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	『パッケージデザインの教科書』日経デザイン 『パッケージデザインを学ぶ』武蔵野美術大学出版局 『図解でわかるパッケージデザインマーケティング』小川 亮 著 日本能率協会マネジメントセンター 『売れるパッケージ5つの法則と70の事例』松浦 陽司 著 ANIVA BOOKS 『パッケージデザインの勘どころ』六耀社 『100s ビジュアルアイデア：パッケージ&ラベル』グラフィック社 『パッケージデザイン MORE』グラフィック社 『PACKAGE DESIGN』DAAB 社 (洋書) 『BOXED AND LABELLED』GESTALTEN 社 (洋書) 『包』岡 秀行 著 毎日新聞社
用具	デザイン作業に必要なコンピュータ(必須)、ソフトとしてイラストレーター、フォトショップ(必須) A4サイズ以上のスケッチブックかコピー用紙、その他筆記具、画材(厚紙等素材を含む)
履修制限等	● 短時間でたくさんの内容を盛り込んでいるので、履修生に求められる授業のレベルは高くなります。履修の要件として、パッケージデザインに対し強い興味を持っている、パッケージデザインへの理解を一層深めたいと考えている、パッケージデザイナーを目指している等、明確な目的意識が求められます。 ● コンピュータソフトとしてイラストレータやフォトショップの基本操作が必要となります。 ● 演習はグループによる共同作業と個人作業を組み合わせで行う予定です。本授業は指導の都合上、履修者数 50 名を目安とします。履修希望者が多数の場合は、抽選等により受講者を決定する場合があります。
履修希望者への要望・事前準備	● 筐体のデザインも扱いますが、基本的にはロゴデザインをはじめ、ラベルのグラフィックデザインを主に扱います。 ● 成果物として商品ダミーやモックアップを制作します。その際、厚紙加工のためのカッターワークや簡単な作図が出来るように、インターネットや書籍からテンプレートを手に入れて、それを組み立てたり、既成のパッケージを解体して構造を理解する等の予習をしておくことを薦めます。 ● 基本的に毎回チェックを行いますので、製品やパッケージデザインのための「スケッチ」、「展開図」、「カンパ」等についての知識や技能を高めるように心がけてください。 ● またマーケティング・リサーチから始まり、コンセプトメイク、プレゼンテーションまで、企画立案に関する書籍を読んでおくと、授業の理解に役立ちます。
実務経験を活かした授業	齊藤 純一：メーカーのデザイナーとしての実務経験を活かして、パッケージデザインに関連する基本的な知識やデザインを演習を通して指導する。 山本敦：自身の経営するデザイン事務所での地域ブランディングやパッケージデザインの経験を通して、パッケージの基本を指導する。

科目名	デザインマネジメント
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	斎藤和彦
授業の概要及びテーマ	近年のデザイン活動は、単にモノづくりやその一組織という領域を超え、企業経営を支える経営資源の一部として認識されつつある。その為にデザイナーにも、問題解決手法としてのデザインと、経営を支えるマネジメントの知識が必要な時代となっている。 この授業では、これからのデザインが経営資源としての役割を果たす為に必要な基本的なマネジメントのありかたや、デザインと企業・社会とはどのような関係であるべきかについて考えていく。 社会で活躍するデザイナーを適宜招聘し現場の生の話をしてもらおう機会を作ります。
達成目標	・ マネジメントとデザインの関係性について説明することができる。 ・ 経営的資源としてのデザインの役割とその使命について理解できている。 ・ 組織の問題点を指摘し、マネジメント的見地から問題解決の具体的な対応策を提示できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス：マネジメントの歴史と経緯 02 経営資源としてのデザイン 03 企業とデザイン組織 04 ブランディング 05 企業とデザインについての考察 06 企画・提案・マーケティング 07 発想とデザインセンス 08 デザインイノベーション 09 評価・検証 10 デザインプロセスに於けるマネージメントの考察 11 PDCA を回す 12 ヒト・モノ・カネ 13 戦略と戦術 14 広告・宣伝・広報 15 考察・デザインマネージメントとは
成績評価基準	各回の授業において、アンケートやレポート等を提出。 各課題提出内容をもとに「達成目標」に照らし合わせて総合的に評価します。 提出課題（アンケート・レポート）の未提出・授業参加態度・欠席回数は最終評価の減点対象となります。 出席率が2/3を下回る場合には、単位を与えられません。 ※遠隔の場合は提出物のみで評価します。提出物が2/3を下回る場合には、単位を与えられません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜資料を配付します
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	デザイナーにとって、創造的活動を行う際に、つねに経営的視点も必要となる。 そのため社会の動向や情報に対し、アンテナを張っておくことが重要で、新聞・雑誌・ニュースサイトなどを、常にチェックしておくことを習慣づけよう。
実務経験を活かした授業	メーカーのデザイン部門でデザイナーおよびデザインのマネージメントの経験のある教員が、その経験を活かして、企業内でのデザイン業務に関連する基本的な知識や進め方、考え方について講義する。

科目名	知的財産権論
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	藤澤崇彦
授業の概要及びテーマ	物品（製品、商品）や情報関連のデザインを創作し、それらを市場において取引・流通させるにあたっては、他人の知的財産を侵害しないこと、自分の創作に係る知的財産を的確に保護することが重要である。本講義は、それらのために必要とされる基礎的な知識が習得できるように、意匠法、著作権法、不正競争防止法などの知的財産権制度全般を概観し考察する。
達成目標	・ 創作する者として自分が創作したデザインに関して、法律上発生する権利、取得し得る権利、及び行使し得る権利を常に意識し、これらの説明ができる。 ・ 自分が創作したデザインに関する権利を意識するのと同様に、他人の創作を尊重し、その権利を侵害しないようにする意識を持ち、これらの意義を説明できる。 ・ 知的財産権制度の体系を知得し、これらの概要を説明できる。 ・ デザインを創作しようとする場合、参考にした他人の著作物との関係性を意識すること、また、引用した他人の著作物を適切に明示することを常態として保有し、これを課題作成などにおいて実行できる。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	□オンデマンド形式の遠隔授業にて実施します。 □レポートを所定の指示に則って提出した場合に出席とカウントします（詳細は「成績評価基準」の欄参照）。 01 【ガイダンス】 本講義の概要及び進め方、授業実施スケジュール、評価方法、知的財産について学ぶ理由等 02 【デザインに求められる社会的役割の拡大】 デザインが対象とする領域の広がり、デザインを振興する背景、デザイナー・クリエイターと知的財産等 03 【知的財産権制度の概要 デザインと知的財産権】 知的財産権制度の枠組み、知的財産にまつわる政策、産業財産権と著作権等 04 【特許法 デザイン創作と発明・考案】 特許制度・実用新案制度の概要、特許権の活用等 05 【意匠法 デザイン創作と意匠（１）】 意匠制度の概要、意匠法で保護されるデザイン、意匠登録例、意匠登録を受けるための手続き等 06 【意匠法 デザイン創作と意匠（２）】 意匠登録の要件、意匠権の活用、デザインの特性に応じた意匠保護の手段等 07 【意匠法 デザイン創作と意匠（３）】 意匠権の活用事例、意匠戦略と商品戦略、意匠調査の手法等 08 【商標法・不正競争防止法等 デザイン創作とブランド保護（１）】 商標制度の概要、商標の種類、商標の登録要件等 09 【商標法・不正競争防止法等 デザイン創作とブランド保護（２）】 商標権の活用、商標調査の手法、不正競争防止法の概要等 10 【著作権法 デザイン創作と著作権（１）】 知的財産権と著作権、著作権制度の概要、著作物・著作者の定義等 11 【著作権法 デザイン創作と著作権（２）】 著作権、著作人人格権、著作隣接権、著作権の効力等 12 【著作権法 デザイン創作と著作権（３）】 著作権の利用制限、著作権法の改正動向、著作権に関連する課題等 13 【デザイン創作に関するその他のルール】 肖像権、パブリシティ権、下請代金支払遅延等防止法、製造物責任法、景品表示法等 14 【デザイナーとクライアントが公平に義務と責任を共有するためのデザイン契約】 契約の意義・概要、契約における留意点、コンペにおける留意点、デザイン契約の契約書例等 15 【デザイン創作と知的財産の今後】 デザインプロセスと関連する知的財産権法等、オープンデザイン、クリエイティブ・コモンズ、まとめ等 ※講義の内容に係る質問・疑問等は、レポートの提出の機会と併せて随時受け付けます。
成績評価基準	□各講義の後に示されるレポートを指定期限内且つ所定の手続き・書式に則って提出した場合に出席とカウントし、2/3以上の出席を満たす受講者に対してのみ単位付与可否検討対象とします。 □成績は、各講義の後に示されるレポートの提出及びその内容に基づき、総合評価します。なお、レポートの提出率の高さを重視して評価します。有効なレポートの提出回数を基礎点、レポートの回答内容を加点として扱い、それら点数を合計して評価することとし、具体的な算定方法は講義内にて示します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	講義資料を所定の Google classroom にて提示します。

参考書・参考資料等	□知財教材「デザイナーが身につけておくべき知財の基本」(特許庁 HP) https://www.jpo.go.jp/resources/report/kyozai/chizai_kyozai-designer-kihon.html □2021 年度 知的財産権制度入門テキスト (特許庁 HP) https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2021_nyumon/all.pdf □「著作権テキスト ～ 初めて学ぶ人のために～」(文化庁 HP) https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93293301_01.pdf その他、各講義内容に関連する参考文献、参照先等は講義中に示します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	□デザインが対象とする領域の拡大を踏まえ、創作活動と知的財産権の関わりを「自分ごと」として積極的に捉えようとするマインドをもって受講されることを期待します。 □パレットシステム、Google classroom、ワープロ作業全般の操作に習熟していることを要します。 □学内或いは自室において必要に応じてインターネットに接続し、電子データにてレポートを提出できる環境を整備できることが必要になります。
実務経験を活かした授業	経済産業省でのデザイン政策の企画・立案業務、特許庁での審査実務経験を有する教員が講義を行う。

科目名	機構学
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	磯部浩己
授業の概要及びテーマ	機構学は主に機械系の大学や工業高校などで履修する科目であるが、デザインを学ぶ皆さんもその基本を理解し、将来に役立ててほしい。 本講義では機構の基本事項を概説すると共に、身近な機構を例にとり、機構の組み合わせ、運動、動き等について講義する。
達成目標	機械各部の運動を幾何学的、力学的に解析する能力を養い、機械の基本設計に必要な素地をつくる。そのため、各種の機構を例に挙げ、各部の形状や組み合わせによって運動状態がどのようになるかを調べ、さらに希望する運動は、どのような機械要素をどのように組み合わせれば得られるかを理解させる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	01/02 機械と機構 (2回) 03/04 リンク機構の種類と運動 (2回) 04/05 リンク機構の運動解析 (2回) 06/07 カム機構 (2回) 08/09 摩擦伝動装置 (2回) 10/11 巻掛け伝動装置 (2回) 12/13/14 歯車機構 (3回) 15 理解度調査試験 (1回)
成績評価基準	講義毎に提出する理解度報告書で40%、達成目標の理解度調査試験で60%の評価を行う。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	「絵ときでわかる機構学」 住野 和男、林 俊一 著、オーム社
用具	自筆のノートは、試験時に持ち込み可とする。そのため、講義中には写真撮影でのメモではなく、ノートを作成することを薦める。もちろん、板書を写真撮影することはかまわない。カム線図作成時には、コンパス、定規があると良い。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	【物体の移動速度】を移動距離と時間から、【円弧長さ】や【円の面積】を半径と円周率から求められることを前提として履修すること。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築・環境デザイン概論
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修/選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	柏原信幸、北 雄介、◎佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	環境デザインとは人間と環境相互の多様な関係に深く係る事象において、その両者の関係をよりよいものとするべく計画し設計するための学問である。従来の細分化されて成立してきた様々なデザイン方法論を再度総合化し、環境デザインの方法論を確立することが究極の目標となるが、本授業では環境デザインを構成している建築デザイン、インテリアデザイン、文化財建造物保存、ランドスケープデザイン、都市計画まちづくりの各領域からの環境デザインへのアプローチを概説することにより、これから専門領域に進む学生に建築・環境デザインの全体像を理解してもらうことをテーマとしている。
達成目標	これから深く学んでいく建築・環境デザインの領域の大筋を理解すること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	本講義は、学科全教員によるオムニバス講義である。 プログラムは以下のとおり。 (講義の順番は、変更する場合あり) 01 建築・環境デザインとは 02 建築・インテリア論(山下) 03 建築計画・保存論(平山) 04 展示空間概論(森) 05 住宅リフォーム概論 06 歴史・文化的環境の保存再生概論(津村) 07 建築史概論(平山) 08 建築設計概論(山下) 09 エコロジカル・ランドスケープ概論 10 建築木文化概論(佐藤) 11 まちづくり概論(渡辺) 12 コミュニティデザイン概論(福本) 13 建築・都市フィールドワーク概論(北) 14 西洋建築意匠概論(白鳥) 15 環境思想概論(菅原)
成績評価基準	毎回の講義について自分の考えをまとめたレポート(400字以上を、毎回、次の週の講義にて提出)により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	随時資料を配付
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築・環境デザイン学科の各分野の概説であるため、各講師がそれぞれの領域で伝えようとしているニュアンスを感じ取ることが重要である。いずれ選択しなくてはならない専門領域が環境デザインにどのようにアプローチしているかを横断的に知ることの出来る講義なので、欠席しないように。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	都市論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	古代から現代まで共通する都市化のメカニズムの原理を解説し、その上で人口減少期を迎えている日本の都市の都市文化の特徴を明らかにする。こうした理論を理解した上で、都市の活性化には地域プライドが重要であるとの見地から、新潟県および長岡市の都市としてのプライドづくりのきっかけとなりうるコンセプトを解説し、地域活性化策を考察する。
達成目標	人口減少社会の地方部において今後の都市住民として主体的に関わる思いを持てるように、地域に意識が向かうことができる。 都市空間のデザインの見方を修得することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 人口論 人口の停滞期、減少期に起こる共通の現象が何かを考える。 02 祈りと都市の形態 歴史的に都市の形態を追うことで、その時代の祈りの対象が何にあるかを考察する。 03 言語論と文化論から考える都市形態 文化圏によって、言語構造が異なる。このことによって、都市構造はどのような変化があるのかを考察する。 04 風水と都市形態 中国の長安（西安）などに見られる都市デザイン・風水思想は、韓国のソウルや日本の京都にも見られる。この考え方について考察する。 05 鎖国と都市 日本は江戸時代に鎖国することで、エコロジカルな都市群を形成させたと考えられる。鎖国が日本の都市形成に与えた影響を考察する。 06 全共闘世代とジェイコブスの都市論 全共闘世代の都市計画を学んだ学生達は、ジェイコブスの都市論に心酔したといわれる。現在の参加のまちづくり、保存のまちづくりの源流に繋がる考え方を学ぶ。 07 地方分権と上杉謙信 中世の新潟（越後）を治めた上杉謙信の人生を概括し、地方分権について歴史的に考察する。 08 長岡花火の歴史 フェニックス花火ボランティアと連動して、長岡の花火の歴史から長岡の都市の在り方を考察する。なお、講義の順番は、ボランティア受け入れ先の都合で前後することがある 09 震災復興とまちづくりの心 後藤新平の台湾、そして震災復興のまちづくりを概括し、日本の近代都市計画の礎には何があるのかを考察する。 10 商店街と都市論 現在の中心市街地は商店街としての活力を失っている。その活性化方法を事例を見ながら考察する。 11 地域通貨と都市のあり方 現代の社会問題は行き過ぎた資本主義に原因を見出すことが多い。その資本主義に対抗するものとして、老いる貨幣として生まれた地域通貨の背景を学ぶ。 12 河井継之助と長岡 明治維新時の長岡人・河井継之助が生きていたら、長岡は日本のスイスになったのか？河井の人生を概括し、考察する。 13 山本五十六と長岡 長岡出身の山本五十六は、日米戦争を命を賭して反対していたのに、なぜパールハーバー奇襲攻撃を遂行しなければならなかったのか。長岡精神を考察する。 14 新潟県のまちづくり事例（村上） 新潟県には、全国的に注目されるまちづくり活動が多くある。それらの活動を見て、自分の地域について考察する。 15 国際交流の観点で考える都市：長岡花火 in ハワイ真珠湾
成績評価基準	毎講義の受講態度と期末に提出するレポート課題(5 課題) で評価する
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業時に配付する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	大都市についてはほとんど扱いません。地方分権に興味があり、新潟や長岡など地方の振興に興味のある人が受講してください。
実務経験を活かした授業	都市計画審議会など各種都市計画業務に携わる経験を持つ教員が、都市の在り方などについて講義する。

科目名	インテリア
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎森 望、羽原康成
授業の概要及びテーマ	インテリア・ディスプレイデザインに関する講義。現代的インテリア空間やディスプレイデザインをどのように構築するか に焦点をあて、20 世紀に世界中で繁栄した現代建築から 21 世紀の新時代に対して開かれるであろうインテリア・ディ スプレイデザインについて考える。またインテリア空間と建築との関係性を学び、ディスプレイデザインの各分野に共通する基 礎的な知識を習得し、さまざまな分野における作品を紹介する。
達成目標	住空間、商業空間、公共空間、街空間などをヒューマンスケールから考え、インテリア空間として把握できる。また現代社 会におけるインテリア空間についての基礎知識を修得し、様々なインテリア空間の形成手法と、空間を構成する要素を記述 することができる。
卒業認定・学位授与 の方針(ディプロマ ポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、ディスプレイとは？ 02 建築の歴史とインテリア 03 ディスプレイデザインの目的・機能・装飾 04 スケールと空間デザイン 05 領域別（1）ショーウィンドウ 06 椅子の歴史1 07 領域別（2）ショップ・ストア 08 椅子の歴史2 09 領域別（3）エキジビション 10 インテリア・スタイル 11 領域別（4）ミュージアム 12 住宅設備・照明 13 領域別（5）アミューズメント 14 インテリアのユニバーサルデザイン 15 理解度確認テスト、解説。まとめ
成績評価基準	森と羽原の授業を交互に開講し、最終日に理解度確認テストを行う。評価は森担当分の授業中の小課題 20%、羽原担当分の レポート 20%、理解度確認テスト 60%。なお、欠席は減点する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	『インテリアデザイン教科書』彰国社、『マテリアル・デザイン 2009－10 年度版』彰国社、他
用具	
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	授業への積極的な参加を前提に、建築、室内、家具などを総合的に捉える視点を持つこと。
実務経験を活かし た授業	建築・インテリア・プロダクトの設計業務に従事した経験のある教員が指導する（羽原）。ディスプレイ事務所に勤務してい た教員が、ショーウィンドウやイベント空間のデザインを指導する（森）。

科目名	空間安全論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎福本 壘、稲垣文彦
授業の概要及びテーマ	日本には豊かな自然がある一方で、様々な自然現象が起こり、人々が生活を営む空間に応じて災害が発生します。また、ミサイル、テロ、事故、感染症といった脅威にも晒されています。近年に起きた災害を事例に、空間や状況に応じて、「誰にとって何が危険なのか」、「どのような被害を受けるのか」、「その対策や教訓は何か」の各要素を学び、「安全」の基本的な考え方を身に付けます。さらに、私たちの生活に「安全」をどのように取り入れることができるのか具体的な実践に結びつける提案を行えることを目標にします。
達成目標	・ 日本でこれまでに起きた災害の概要を理解し、その教訓を習得していること ・ 安全なまちづくりに関する様々な取り組みとその重要性を理解していること ・ 身の回りの危険について空間や状況に応じた具体的なイメージができること ・ これまで自身が関わった空間の自然災害リスクを調べ、他者に説明できること ・ 空間や状況に応じて、自身の生活に安全を取り入れるための具体的な提案を行えること
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 「安全」とは何か？について学ぶ：感染症をテーマに授業の取り組みのイメージを確認 02 能動的な協働と内発的な自助・共助の重要性 03 災害発生のおくみと被害、教訓を学ぶ①：地震・津波 04 災害発生のおくみと被害、教訓を学ぶ②：火災・噴火 05 災害発生のおくみと被害、教訓を学ぶ③：ミサイル・テロ・事故・ 06 災害と空間情報風 水害・土砂災害 07 コミュニティ・プロセス・デザイン～災害復興から地域おこしへ～ 08 地域防災計画と復旧・復興計画の概要 09 安全なまちづくりに関する様々な取り組み 10 地地域の防災訓練と自分に必要な防災訓練 11 空間に対する理解を促す安全なまちづくりの取り組み 12 現地の救援活動を支援する安全なまちづくりの取り組み 13 防災トランプワークショップ 14 課題演習準備 15 課題演習：空間や状況を踏まえた「安全」を生活に取り入れるための提案
成績評価基準	学習内容を定着させる簡単な課題：30% 積極的な姿勢：20% 課題演習に対する提案：50%
出席・遅刻の基準	開始 20 分以上の遅刻は欠席となります。 出席している場合でも WEB アンケート未実施の場合で連絡が無い場合は欠席扱いとします。
テキスト（教科書）	特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配布します。 授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意した WEB サービスを利用します。
参考書・参考資料等	【参考書】 (1) 片田敏孝 (2012)『人が死なない防災』集英社 (2) 鎌田浩毅 (2015)『せまりくる「天災」とどう向き合うか』ミネルヴァ書房 (3) 室崎益輝ほか (2016)『災害対応ハンドブック』法律文化社 【参考資料】 (4) 福本壘ほか (2021)『美容師・美容室のための防災 BOOK 』女性モード社 (5) 内閣府 (2016)『復旧・復興ハンドブック』
用具	授業中に WEB アンケートを実施しますので、インターネットにアクセスできる PC またはスマートフォンを持参してください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本講義は「空間や状況に応じて災害から身を守る方法と考え方」を学び、それを「みなさんの生活に取り入れるための具体的な提案」に着地させることを目標にします。履修後の成果は、みなさんのポートフォリオの 1 ページを飾り、みなさんの将来に役立つよう進めていきたいと考えています。そのためには、みなさん自身が「体験談」や「考え」を話すことが大切で、是非積極的な姿勢を持って受講して頂ければと思います。
実務経験を活かした授業	巨大災害時の復旧・復興活動に従事した経験のある教員が、その経験を活かして、空間や状況に応じた危険と安全の考え方について講義する。

科目名	文化財学概論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎津村泰範、大柴和正、武内正和、中山俊介、西田泰民、前嶋 敏
授業の概要及びテーマ	我が国の文化財に関する幅広い知識を養い、その取り扱い方の基礎を学ぶものとし、文化財全般の基礎知識／文化財保護のあゆみと世界文化遺産／建造物の調査研究と保存・活用／集落・町並みに関する調査研究と保存・まちづくり／古文書の見方／埋蔵文化財の調査研究と遺跡の保存整備／文化財の保存科学／民俗文化財の見方と扱い方／美術工芸品（原始～近世）をテーマとします。
達成目標	文化財全般の基礎知識を習得して歴史的遺産の価値と魅力を理解することができるようになり、その個々について、文章などによって概略を示すことができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 文化財全般の基礎知識／課題説明 02 文化財保護のあゆみ／世界文化遺産と日本 文化財保護法／文化財行政／世界文化遺産の登録 03 我が国の文化財保護の取り組み（建造物） 調査と指定／修理と技術／整備と活用 04 古文書の見方、扱い方 古文書の定義／古文書の管理／古文書の扱い／紙と古文書 05 文化財の保存科学 文化財保存の調査／保存処置 06 埋蔵文化財の調査研究 遺跡・遺物・遺構／年代の研究／発掘 07 遺跡の調査研究と保存整備 遺跡の調査と遺構の展示／遺跡整備の事例 08 民俗文化財の見方・扱い方 生活用具、農具などの文化財としての特徴と研究 09 美術工芸品 1 原始・古代の工芸品の文化財としての特徴と研究 10 美術工芸品 2 中世・近世の工芸品の関する文化財としての特徴と研究 11 課題の中間発表 対象物件の登録、選択理由、進捗状況 12 文化財建造物の見方と基礎知識 種別の分類／構え・構造・意匠／時代・流派・地方性 13 建造物の調査研究 古代、中世、近世の社寺／民家／近代建築・近代化遺産 14 建造物の保存と活用 指定と登録／活用の用途と使い方／活用のための改修と設備 15 課題の発表と意見交換、講評
成績評価基準	授業に臨む姿勢 30%、課題の提出と発表 70%。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とします。課題は自らが文化財指定候補物件を調査して調査書を作成。評価は中間発表を経て、最終回の提出・発表をもっておこないます。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業内容に応じて適宜作成して配付します。
参考書・参考資料等	『わかりやすい文化財保護制度の解説』 ぎょうせい 2,300 円 『歴史的遺産の保存・活用とまちづくり』 学芸出版 3,500 円 『入門者のための考古学教室・改訂版』 同成社 1,900 円 文化庁提供の国宝・重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区、登録有形文化財などに関する資料 http://www.bunka.go.jp/bunkazai/index.html
用具	特に必要としませんが、04「古文書の見方、扱い方」では、ハサミが必要です。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	身近にある建物、遺跡、古い生活用具、伝統的な工芸品などに目を向け、それぞれの価値や魅力を見出す力を養ってください。
実務経験を活かした授業	

科目名	緑地環境計画
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	柏原信幸
授業の概要及びテーマ	地域環境を理解して地域景観を創出するために、基礎造形実習で習得した技術に磨きをかけ、植物を含む環境を総合的に計画できる基礎知識を習得することを目的とします。
達成目標	植生の基礎知識を習得すること。 景観構成要素を再構築して、コンセプトに適合する将来像を表現し伝えられること。 人の目の高さからの正確なスケッチが描けること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 エコロジカル・ランドスケープの世界 02 デザイン：デザインの流れ、ゴールとコンセプト 03 デザイン：ものの見え方とスケッチ 04 キャンパス：ゾーニング、動線計画 05 キャンパス：植栽 06 生態系と植生 07 等高線の読み方 08 勾配、造成 09 中間試験 10 個別サイト計画：空間構成 11 個別サイト計画：ゴールとコンセプト 12 個別サイト計画：ゾーニング 13 個別サイト計画：植栽 14 個別サイト計画：エスキスチェック 15 発表
成績評価基準	課題：20% 中間試験：30% 発表：50% 授業内容の修得に必要な最低出席回数を10回とし、出席10回未満は採点の対象外とします。 遅刻は出席回数に含めません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎 理工図書 4,200円(税別)
参考書・参考資料等	すぐ描ける！ガーデンデザインのテクニック 高崎康隆, 本田奈緒子 彰国社 2,500円(税別)
用具	スケッチブックなど、ガイダンス時に説明します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	後期の「緑地環境設計」、第3学年前期「エコロジカル・プランニング」を受講する学生は、本講義の受講をお勧めします。
実務経験を活かした授業	建設会社及びコンサルタンツで実績のある教員がランドスケープの計画設計施工について講義する。

科目名	都市デザイン
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	白鳥洋子
授業の概要及びテーマ	自然発生的都市、計画的都市のいずれにおいても、都市では建築と人間の営みが堆積し、変容し続ける。本講義では、各都市の変遷や成熟における原則を考察し、それらを踏まえた建築と都市との関係性、都市の意匠的手法や都市空間について認識を深める。各時代の都市における記念碑的な建築と人々の居住の建築との関係性や、都市的な集住の方法への理解を経て、都市の持つ固有性や普遍性を解き明かすことを目指す。また、時代ともに生成される様々な建築と都市全体を律する計画とその意匠性について論考を行う。主なテーマは「都市の成立：都市の構成要素」、「住宅と都市：集住の形式と地域の固有性」、「都市建築：都市建築の概念と都市の象徴性」とする。
達成目標	以下の3項目を理解し、考察することを目標とする。 1 都市デザインの理解：都市は固有の原則により記念碑的な建築と集住の建築を醸成し、そこにはその都市の固有の人々の生活と都市空間が成立していること。 2 都市が各時代と共に建築と文化を築き、持続するシステムを作り、それが都市であること。 3 都市における建築の組織的な構成を歴史的事例で考察することにより、自らの建築や都市の設計の手法を考える契機とすること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 概説、都市の意匠性 02 都市デザインと都市空間の捉え方について 03 歴史的系譜による都市デザインの概観 04 ヨーロッパの歴史的都市文化を源流として： (1) 計画都市と集住の原型と組織性と法則性について 05 (2) 計画都市の発展と都市における建築芸術 06 (3) 自然発生的都市における都市の意匠性、集住の発展 07 日本の歴史的都市文化を源流として： (1) 計画都市と集住の源流と傾向 08 (2) 都市の建設における都市計画と建築 09 (3) 大都市造営の始まりと都市計画の有機的な法則 10 理想都市の系譜 11 近代都市計画と歴史的普遍性の融合 12 都市建築の高層化、法則と都市空間の源流 13 時代の潮流における都市デザイン 14 郊外の発展、高層集合住宅の限界と都市景観 15 近年の動向、現代建築と都市デザイン
成績評価基準	最終レポート 70%、受講姿勢（提出物など） 30%とする。 出席 10 回未満は採点対象外とする。欠席、遅刻は減点対象とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	『都市史図集』、都市史図集編集委員会編、彰国社、1999 『西洋建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、3 訂第 2 版、1981 『近代建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、新訂版、1976 『日本建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、新訂第 3 版、2011
参考書・参考資料等	適宜、講義中に提示する。
用具	適宜。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築に携わる人は都市的な視点を持っていることが必要です。建築は都市の一部を形成し、都市は建築の集積により成立し、建築を設計することは都市の景観や営みの一部をデザインしているのです。建築は社会的責任を伴い、芸術、科学、人文学などの様々な領域を包含する総合芸術であるとともに、人類の叡智の結晶とも言えるのです。建築の創造には、基礎となる知識の豊かさ、発想の基礎となる感性や洞察力が必要であり、さらには大きなエネルギーが必要です。この講義を通じて、都市と建築が高め合う関係と両者の同時性について認識を深めてほしいと思います。
実務経験を活かした授業	海外現地調査、研究活動を行っている教員が経験を交えて講義を行う。

科目名	居住論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	山下秀之
授業の概要及びテーマ	リビングデザインに深く関わる内容から、グローバルデザインの内容までを看破する。世界の居住は、つい数年前と比べても格段の違いがある。例えば、情報化社会において、家族や家庭のあり方も劇的に変わりつつある。本講では、皆さんにとって何が重要で、何が重要でないのかを示唆しながら、居住に関する様々な事象を、<コントロール vs 非コントロール>という2項対立で解説し、2項間のどこにバランス地点があるのかを考えてもらう。居住論はデザイン論でもあるので、皆さんの演習におけるコンセプトやデザイン手法を補強するものである。
達成目標	近未来の社会を見すえ、そこでの自身の居住を思い描き、自身のデザイン活動に生かせるようになること。毎回のコメントバックに自論を展開できる能力を身につけること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 Simple Life? (居住論は自分の部屋から考える：あなたはシンブルライフ系?) 02 Shibuya Chaos (美は乱調にあり) 03 S ジョブズ (この人のシンブルデザインに対する執念、その魅力あふれる生き様、居住論的見方) 04 番外編 1 (コメントバック大会：シンブルとカオスは補完関係にある) 05 Metropolis 1 (20世紀最大の都市-NY マンハッタン) 06 Metropolis 2 (支配と戦争と都市：独裁か民主か、コントロールか非コントロールか) 07 Cold Region 1 (妖精が出てきそうな地域：湖水地方、アイルランド、スコットランド、アイスランド) 08 Cold Region 2 (持続的であること、ディープエコロジーへのまなざし：富良野、そして北欧4国)) 09 Cold Region 3 (輝く北欧～すべてが良いというわけではないが、やはり持続して行く国) 10 Feed Me Better (スローフード発祥地イタリア、最悪の食文化イギリス) 11 The Japanese 1 (私たちは、良くも悪くも日本人) 12 The Japanese 2 (答えは外ではなく、私たちの中にある：東日本大震災) 13 New Paradigm 1 (生のコントロール：精子バンク、家族あるいは母と子) 14 New Paradigm 2 (ネット+エコ/愛?ー 私たちの基準における「家族」と尊厳死) 15 最終回 (コメントバック大会&ふりかえり：居住論・もうハタチの皆さん)
成績評価基準	期末レポート 100% ただし、出席回数 12 回以上が条件で、欠席日数に準じて減点あり。 出席 11 回の場合は、希望すれば、レポートの文字数条件の2倍以上、出席 10 回の場合は、4 倍以上であれば、レポートを受理します。
出席・遅刻の基準	授業開始5分以内の「入室」を出席、それ以降を欠席と扱う。出欠に関して1回でも不正が明らかになった場合は、履修を不合格とする。
テキスト(教科書)	オリジナルのプリントを毎回配付
参考書・参考資料等	特になし
用具	特になし
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	普段生活している背景にある良いこと悪いことを掘り下げ、毎回のコメントバックに、自分の考えをさらに発展させ、実践できるようになることを望む。
実務経験を活かした授業	建築家としての設計実務を重ねている教員が、国内老若男女の居住や社会の現状を見通し、豊富な国際業務経験によりリアルなネットワークを活かした講義を行う。

科目名	建築史
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	津村泰範、◎平山育男
授業の概要及びテーマ	原始、古代から近代、現代を通し、主に日本の建築を歴史的に理解します。そして人々が時代ごと、どのように建築と向き合って建築を造って来たのかを知り、考えて行くとともに、現代はどのような課題に直面しているのかを考える材料を提供したいと考えています。 授業では、『建築を造る』ということを中心に講義を進めて行きます。個別の題材では「歴史的建造物」として、寺院、神社、住宅について、古代から近代について代表的な建築物を中心に考察・説明を加えます。 集落・町並みとしては、古代の平安京、平城京から、江戸の街、各地の歴史的な集落や町並みを扱います。 また、近代の建築では諸外国の関係と日本における建造のあり方について論じ、考えて行きます。
達成目標	建築の歴史を基礎知識として身につけるとともに、ひとつの建築を前にして、その魅力を自分なりに感じとり、それらを正しく第三者に伝えることができるようになる。それが自分自身にとっての成長ともなり、建築を造るに際しての材料ともなります。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	〈平山〉 01 原 始：建築の初源とは 02 古代1：古代的な建築はどのように成立し、その特色とは何か 03 古代2：仏教建築はどのように導入して発展をしたのか 04 古代3：神社建築、寝殿造はどのように成立発展したのか 05 中世1：「大仏様」とはどのような建築様式か 06 中世2：「禅宗様」とはどのような建築様式か 07 中世3：密教本堂とはどのような建築か 08 近世1：方丈とはどのような建築か 09 近世2：「権現造」はどのように成立・発展したのか 10 近世3：「書院造」が持つ造形の特徴とは何か 11 近世4：民家とはどのような建築か 〈津村〉 12 近代1：洋風建築はどのように導入されたか 13 近代2：近代建築はどのように展開したのか 14 近代3：近代建築の課題 〈平山・津村〉 15 課題の発表 建築はどのように創られてきたのか？
成績評価基準	講義への取り組み姿勢 20%、小課題 30%、課題（報告）30%、成果発表 20%。なお、小課題は毎回の授業終わりに実施して、次回の授業で返却をします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	『日本建築史図集』 新訂版 彰国社 2500 円
参考書・参考資料等	『日本近代建築史図集』 彰国社 2500 円
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築史は、これまで人々がどのような思いを込めて、建物を築いてきたのかを考える学問の分野です。人がどのようにして建築、ものを創り出したのかをじっくり考えて下さい。
実務経験を活かした授業	いずれも文化財建造物修理設計監理の経験を持つ教員が講義を行う。

科目名	建築・環境デザイン特別講義
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修/選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎佐藤淳哉、伊藤 拓次郎、松村秀一、後藤 治、非常勤講師
授業の概要及びテーマ	広く環境デザインに関わる非常勤講師による講義系授業である。各分野でエキセントリックに活躍している専門家を講師として迎え、環境デザインの領域を拡張していく方法を探っていく。すべての講師は世界を股にかけて仕事をしている。国境を越え、分野横断の内容も多く盛り込まれているので、履修者の「気づき」が試される場となるであろう。講師とのディスカッションの時間も設けてあり、講師から見た NID 生の評価も決まることから、それぞれの分野の予習をすることにより、的確な問題意識を持つておくことが重要である。
達成目標	環境デザインの諸分野において活躍している講師に講義していただく。講師について事前調査をし、仕事の内容を把握できること。また、事後レポートが講義内容のメモや感想文ではなく、自分の考え・意見が述べられている等、体裁をなしたレポートを書くことができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	講義の順番は変更になる可能性があります。 01 講義のガイダンス・レポートの書き方など(学科長) 02 国際協力における社会開発のデザイン(伊藤) グローバル化時代に於いては日本人のアイデンティティを別の視点から見ること必要です。パラグアイの地域おこしのエコツーリズムプロジェクト、ミャンマーの教育プロジェクト、ドミニカ共和国でのフォークメディアを用いた住民参加型保健啓発活動などの事例を紹介しながら、参加者と一緒に考えます。 03 建築と構造(斎藤) 建築と構造の関係について広い視野から講義を行う。 03 建築と都市(森) 建築と都市のあり方及び、まちづくりを行政の立場から講義を行う。 04 歴史的建造物の価値 発見と創造(後藤) 歴史的建造物の価値の可視化と持続可能な社会への貢献について考えます。 05 講師調整中
成績評価基準	講義前に作成する「事前レポート」(講師についての調査)と、講義後に作成する「受講レポート」(講義の内容について自分の考え)により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	各講師についての予習と、Q&A セッションやディスカッション時に、手を挙げて発言すること。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	博物館概論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修/選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	齋藤優介
授業の概要及びテーマ	博物館と博物館学の基本を理解するとともに、よりよい博物館のあり方を考えます。博物館の多様な姿への理解を求め、現代の博物館のあるべき姿を探ります。
達成目標	博物館の役割を知り、博物館の定義、歴史、現状を学び、それらの概略を博物館や博物館学に関する基礎知識として語ることができるようになる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス+オリエンテーション 02 博物館学とは何か1：目的・方法・しくみ 03 博物館学とは何か2：博物館学のあゆみ 04 博物館の定義1：博物館と法令 05 博物館の定義2：博物館の種類 06 博物館の歴史1：世界の博物館の発達史 07 博物館の歴史2：日本の博物館の発達史 08 博物館の現状1：日本の博物館の現状 09 博物館の現状2：バリアフリーと博物館 10 博物館の現状3：災害と博物館 11 博物館の現状4：地域と博物館 12 博物館の現状5：一次資料と二次資料 13 博物館の現状6：展示とは何か 14 博物館の現状7：学芸員の役割と使命 15 小課題の発表と意見交換
成績評価基準	授業に臨む姿勢 20%、小課題 30%、理解度の確認 50%、とします。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とします。順番で行う発表も履修者は必ず1人1回はしてください。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	テキストは、授業の内容に応じて資料を適宜配付します。
参考書・参考資料等	参考書はテーマに応じて随時紹介します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	博物館は単なる“施設”ではなく、設置されている地域のニーズに柔軟に対応できることが求められます。そこで働く学芸員は研究者であると同時に、地域の課題を解決する一員です。今必要とされている博物館・学芸員はどのようなものなのか、常にイメージしながら学んでください。また、日常の暮らしの中で得られる博物館に関する知識・情報の修得に努めてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	スノープラン
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎山下秀之、境野広志、長谷川克義、平山育男、ヨールグ ビューラ、上村靖司、本吉弘岐
授業の概要及びテーマ	長岡は豪雪地帯であり、積雪期はあらゆる面で雪への配慮が必要となります。この科目では、雪の基礎的な性状からはじまり、雪国の暮らし、建築やまちづくりへの配慮、雪国独特のランドスケープ、そして雪国ならではの地域活動などについて、その現状と今後のデザインのあり方などについて学びます。
達成目標	長岡にある大学としてその特長を生かし、雪の基本的性状や中越地方における雪の特徴を理解するとともに、今後の雪との共存について、各自の立場でその方法論を考察する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 山下 建築・環境デザインの視点から 02 本吉 防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの視点から (1) 03 本吉 防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの視点から (2) 04&05 本吉 防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの視点から (3) センターの見学 06 本吉 防災科学技術研究所雪氷防災研究センターの視点から (4) 07 ビューラ 視覚デザインの視点から 08 上村 長岡技術科学大学雪氷工学研究室の視点から (1) 09 上村 長岡技術科学大学雪氷工学研究室の視点から (2) 10&11 上村 長岡技術科学大学雪氷工学研究室の視点から (3) 八海山雪室の見学 12 上村 長岡技術科学大学雪氷工学研究室の視点から (4) 13 境野 プロダクトデザインの視点から 14 長谷川 美術・工芸の視点から 学外見学 15 平山 文化財保存の視点から 豪雪地域の文化財民家の見学 (予定) (内容や順序が前後する可能性あり)
成績評価基準	課題およびレポート (70 %分)、出席した上での教員への質問や討議 (30 %分) により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じて適宜プリントを配付する。
参考書・参考資料等	特になし
用具	特になし
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	雪について興味を持つことが第一です。せっかく長岡で生活しているのですから、降雪期になったら実際に雪を良く見て触って、雪の風景や街の中の除雪の様子など、雪に関するあらゆることを興味深く観察して下さい。そしてこれらのことに関して疑問を持ったなら、必ず書き留めて各教員に質問して下さい。
実務経験を活かした授業	

科目名	地域協創演習 A
学年	2
開講期	前期／後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。 年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従うこと。
達成目標	演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。 また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を修得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
成績評価基準	地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当教員がプログラムごとに行う。
出席・遅刻の基準	プログラムの内容により基準が異なる為、担当教員の説明を必ず聞くこと。
テキスト(教科書)	プログラムに応じ適宜
参考書・参考資料等	
用具	プログラムに応じ適宜
履修制限等	履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。
履修希望者への要望・事前準備	学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。
実務経験を活かした授業	

科目名	地域協創演習 B
学年	2
開講期	前期／後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。 年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従うこと。
達成目標	演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。 また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を修得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
成績評価基準	地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当教員がプログラムごとに行う。
出席・遅刻の基準	プログラムの内容により基準が異なる為、担当教員の説明を必ず聞くこと
テキスト(教科書)	プログラムに応じ適宜
参考書・参考資料等	
用具	プログラムに応じ適宜
履修制限等	履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。 個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。
履修希望者への要望・事前準備	学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。
実務経験を活かした授業	

科目名	地域協創演習 C
学年	3
開講期	前期／後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。 年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従うこと。
達成目標	演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。 また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を修得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
成績評価基準	地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当教員がプログラムごとに行う。
出席・遅刻の基準	プログラムの内容により基準が異なる為、担当教員の説明を必ず聞くこと
テキスト(教科書)	プログラムに応じ適宜
参考書・参考資料等	
用具	プログラムに応じ適宜
履修制限等	履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。 個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。
履修希望者への要望・事前準備	学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。
実務経験を活かした授業	

科目名	地域協創演習 D
学年	3
開講期	前期／後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。 年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従うこと。
達成目標	演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。 また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を修得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
成績評価基準	地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当教員がプログラムごとに行う。
出席・遅刻の基準	プログラムの内容により基準が異なる為、担当教員の説明を必ず聞くこと
テキスト(教科書)	プログラムに応じ適宜
参考書・参考資料等	
用具	プログラムに応じ適宜
履修制限等	履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。 個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。
履修希望者への要望・事前準備	学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。
実務経験を活かし た授業	

科目名	インターンシップ A
学年	2
開講期	前期／後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	企業、自治体、NGO、NPOなどが提供するインターンシップや実習のプログラムに参加し、デザイン業務をはじめとした就業経験をする。 受け入れ先に関しては大学からパレットなどを通じて定期的にリストを提示する。また、学生が独自に受け入れ先を探してくる（自主型）も可能だが、インターンシップが授業として受け入れられるためには下記の基準を満たす必要がある。 「自主型の認可基準」 ・ 期間5日以上（22.5時間以上、1単位） ・ 実際の就業体験やデザインワークなどの体験を主とするもので、会社説明・業界説明を主とするものではないこと。 なお、この基準はあくまで単位認定のためのものであり、単位認定を受けないインターンシップや実習への参加を拘束するものではない。
達成目標	・ 実務における知識や技術を習得すること。 ・ 実社会において労働することの具体的なイメージを掴み、仕事観を醸成すること。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	参加前に「インターンシップ届」をキャリアデザインセンターに提出すること。学生が独自に探してきた受け入れ先に関しては大学としての単位認可の可否を判断して当該学生に通知する。 インターンシップ最終日には主催の担当者から「インターンシップ実施証明書」の必要か所に記入と捺印を受ける。終了後、所定の提出期限までに「インターンシップ実施証明書」と「インターンシップ参加報告書」「インターンシップレポート」をキャリアデザインセンターに提出すること。実施期間により前期または後期に単位を付与する。 詳細は履修ガイドを参照すること。
成績評価基準	担当教員が受け入れ先によって記録された評価と、学生が提出した実習報告書等を元に総合的に評価する。
出席・遅刻の基準	
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	インターンシッププログラムによっては、ポートフォリオや書類による事前審査が必要とされるものもある。希望のプログラムに参加するためには、何より日々の授業における研鑽が必要である。
実務経験を活かした授業	

科目名	インターンシップ B
学年	2
開講期	前期／後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	企業、自治体、NGO、NPOなどが提供するインターンシップや実習のプログラムに参加し、デザイン業務をはじめとした就業経験をjする。 受け入れ先に関しては大学からパレットなどを通じて定期的にリストを提示する。また、学生が独自に受け入れ先を探してjくること（自主型）も可能だが、インターンシップが授業として受け入れられるためには下記の基準を満たす必要がある。 「自主型の認可基準」 ・ 期間5日以上（22.5時間以上、1単位） ・ 実際の就業体験やデザインワークなどの体験を主とするもので、会社説明・業界説明を主とするものではないこと。 なお、この基準はあくまで単位認定のためのものであり、単位認定を受けないインターンシップや実習への参加を拘束するものではない。
達成目標	・ 実務における知識や技術を習得すること。 ・ 実社会において労働することの具体的なイメージを掴み、仕事観を醸成すること。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	参加前に「インターンシップ届」をキャリアデザインセンターに提出すること。学生が独自に探してきた受け入れ先に関しては大学としての単位認可の可否を判断して当該学生に通知する。 インターンシップ最終日には主催の担当者から「インターンシップ実施証明書」の必要か所に記入と捺印を受ける。終了後、所定の提出期限までに「インターンシップ実施証明書」と「インターンシップ参加報告書」「インターンシップレポート」をキャリアデザインセンターに提出すること。実施期間により前期または後期に単位を付与する。 詳細は履修ガイドを参照すること。
成績評価基準	担当教員が受け入れ先によって記録された評価と、学生が提出した実習報告書等を元に総合的に評価する。
出席・遅刻の基準	
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	インターンシッププログラムによっては、ポートフォリオや書類による事前審査が必要とされるものもある。希望のプログラムに参加するためには、何より日々の授業における研鑽が必要である。
実務経験を活かした授業	

科目名	ボランティア実習 A
学年	2
開講期	前期／後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	「暗いと不平を言うよりも自ら進んで灯りをつけなさい」。これはマザーテレサの奉仕の精神を表す言葉です。本授業ではこの奉仕（ボランティア）精神を実社会で実践し、日頃修練している知見・技術を社会に還元する経験を積むことをテーマにしています。 具体的には下記の種類を想定しています。 1) 地域からの要請を大学で受けたものを本授業のプロジェクトとする方式 2) 社会福祉協議会等とおした福祉型ボランティア 3) 災害復興関連組織を通した復興支援ボランティア 4) 国際協力関連組織（NGO 等）を通した国際ボランティア
達成目標	自ら進んで社会の課題に対して自分の技能を通して奉仕することができる
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	1) 地域要請プロジェクトの場合 01 主査教員によるガイダンス 02～14 ボランティア実践 15 報告 2) 自主活動型のプロジェクトの場合 学生が独自に受け入れ先を探してくる（自主型）も可能です。ボランティア活動が授業として受け入れられるためには下記の基準を満たす必要があります。 「自主型の認可基準」 ・期間3日以上（22.5 時間以上、1 単位） ・科目趣旨を満たす内容であること ※自主型の場合、参加の1 週間前までに「履修事前申請シート」を事務局に提出すること。 大学としての単位認可の可否を判断して当該学生に通知する。 活動最終日には受け入れ先の担当者から「ボランティア実施証明書」の必要か所に記入と捺印を受ける。終了後1 か月以内に「ボランティア実施証明書」と「実際に行ったスケジュール・実務内容が具体的にわかる資料」、「実施報告書」を事務局教務課に提出すること。実施期間により前期または後期に単位を付与する。 詳細は履修ガイドを参照すること。
成績評価基準	事前にボランティア計画を立て、計画を実践できたかを受け手側からの報告で確認する。また、この経験を通して社会人基礎力の向上が達成できたか提出レポートの報告から評価する。
出席・遅刻の基準	ボランティア計画に基づいて受け入れ側に判断してもらう。 仮に遅刻、欠席が事前に分かっていた場合、先方に事前連絡を入れることは社会人基礎力の一つである。
テキスト（教科書）	プログラムに応じ適宜
参考書・参考資料等	
用具	プログラムに応じ適宜
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	比較的体力を要するプログラムが多いので体調管理に留意すること。 社会人基礎力をつける経験と考えてもらいたく、積極的参加を望む。
実務経験を活かした授業	

科目名	ボランティア実習 B
学年	2
開講期	前期／後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	専任教員
授業の概要及び テーマ	「暗いと不平を言うよりも自ら進んで灯りをつけなさい」。これはマザーテレサの奉仕の精神を表す言葉です。本授業ではこの奉仕（ボランティア）精神を実社会で実践し、日頃修練している知見・技術を社会に還元する経験を積むことをテーマにしています。 具体的には下記の種類を想定しています。 1) 地域からの要請を大学で受けたものを本授業のプロジェクトとする方式 2) 社会福祉協議会等とおした福祉型ボランティア 3) 災害復興関連組織を通した復興支援ボランティア 4) 国際協力関連組織（NGO 等）を通した国際ボランティア
達成目標	自ら進んで社会の課題に対して自分の技能を通して奉仕することができる
卒業認定・学位授与 の方針(ディプロマ ポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	1) 地域要請プロジェクトの場合 01 主査教員によるガイダンス 02～14 ボランティア実践 15 報告 2) 自主活動型のプロジェクトの場合 学生が独自に受け入れ先を探してくること（自主型）も可能です。ボランティア活動が授業として受け入れられるためには下記の基準を満たす必要があります。 「自主型の認可基準」 ・期間3日以上（22.5 時間以上、1 単位） ・科目趣旨を満たす内容であること ※自主型の場合、参加の1週間前までに「履修事前申請シート」を事務局に提出すること。 大学としての単位認可の可否を判断して当該学生に通知する。 活動最終日には受け入れ先の担当者から「ボランティア実施証明書」の必要か所に記入と捺印を受ける。終了後1か月以内に「ボランティア実施証明書」と「実際に行ったスケジュール・実務内容が具体的にわかる資料」、「実施報告書」を事務局教務課に提出すること。実施期間により前期または後期に単位を付与する。 詳細は履修ガイドを参照すること。
成績評価基準	事前にボランティア計画を立て、計画を実践できたかを受け手側からの報告で確認する。また、この経験を通して社会人基礎力の向上が達成できたか提出レポートの報告から評価する。
出席・遅刻の基準	ボランティア計画に基づいて受け入れ側に判断してもらう。 仮に遅刻、欠席が事前に分かっていた場合、先方に事前連絡を入れることは社会人基礎力の一つである。
テキスト（教科書）	プログラムに応じ適宜
参考書・参考資料等	
用具	プログラムに応じ適宜
履修制限等	
履修希望者への要 望・事前準備	比較的肉体力を要するプログラムが多いので体調管理に留意すること。 社会人基礎力をつける経験と考えてもらいたく、積極的参加を望む。
実務経験を活かし た授業	

科目名	プロダクトコンピュータ基礎演習
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	金澤孝和
授業の概要及びテーマ	コンピュータはコミュニケーションの道具として欠かせないものであり、学内での掲示連絡手段としても活用されている。この授業では大学生活に必要な基本的なコンピュータの操作から始まり、自分のパソコンをデザイン道具として使う為の基本を、業界標準となっているソフトウェアを使い練習していく。簡単な図形を描くことから始まり、写真の加工や実際にデザインを行える技術と伝えるための方法へと発展させる。
達成目標	・ コンピュータの基本の扱いを理解できる。 ・ Illustrator、Photoshop の基本操作を習得できる。 ・ 情報のレイアウトの基本について理解できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 Illustrator の基本操作 1 02 Illustrator の基本操作 2 03 Illustrator の基本操作 3 04 Illustrator の基本操作 4 05 Illustrator の基本操作 5 06 Illustrator の基本操作 6 07 Illustrator の基本操作 7 08 Photoshop の基本操作 1 09 Photoshop の基本操作 2 10 Photoshop の基本操作 3 11 Photoshop の基本操作 4 12 Illustrator+PhotoShop の連携 13 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 1 14 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 2 15 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 3
成績評価基準	提出物および小テストなどにより評価。 提出遅れは最終評価より減点。 ※ 未提出があると単位取得は難しいと考えてください。
出席・遅刻の基準	なし。
テキスト(教科書)	授業時に資料を配付する。
参考書・参考資料等	授業中に適時指示する
用具	Adobe CC をインストールしたパソコン
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	遠隔で授業を行うが、質問がある人は実際に PC を持ってきて直接質問できる教室を用意する。 授業録画は基本的に公開せず、事情がある場合のみ限定的に公開する。 この授業では資料を見て各自で実際にコンピュータを操作して学習する。 授業では補足説明と質問を受け付ける形での進行を基本とする。 不明な点は積極的に質問する姿勢を望む。 ※授業開始時に重要な説明を行う事が多いため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となります。
実務経験を活かした授業	コンピュータを使ったデザイン経験のある教員が、ソフトウェアの基本的な使い方を指導する。

科目名	基礎造形実習Ⅱ(描写) プロダクトデザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	基礎造形実習Ⅱでは、各学科の専門性に直結する内容の授業内容となるがプロダクトデザイン学科では、基礎的な表現と手法として色・形の重要性を改めて見直し、自身の意図が第三者に理解できるような表現を習得することを目指す。三面図では、画面という平面上に立体を表現する手法として、三角法を中心とした図法を習得し、平面と立体との相関を理解する。 色彩描写では、花をモチーフにそのものが持つ特徴を見つけ再構成し色彩表現する。 IxD（インターアクションデザイン）では、実態のないものを第三者に伝えるための手法や表現方法を理解する。
達成目標	描写表現手法による作品制作を通じて、「製品の造形の成り立ち」「色彩を用いた様々な表現」について追求し、基礎的な素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とします。 〈三面図〉 ・製図法（概念、正投影図法及びアイソメトリック図法）の基礎的理解が出来、図面上での2D⇔3D、立体・空間の抽象的把握ができる。 〈色彩描写〉 ・それぞれの物質の特徴を抽出し的確な色彩と描写ができることにより表現をすることができる。 ・多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。 〈IxD〉 ・インターアクションデザインとして形のないものを第三者に伝えることができる。 ・KJ法などの分析ツールを用いて、考えた内容やコンセプトを表現することができる。 ・動画による表現ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	〈三面図〉 01 課題説明 02～04 制作 05 講評 〈色彩描写（自然物）〉 06 課題の説明 07～09 制作 10 講評 〈IxD〉 11 課題説明 12～14 制作 15 講評 * 日程変更の可能性があるので、その場合は指示に従うこと。
成績評価基準	① 受講への態度、理解度（20％） ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ② 成果物（作品）の内容（80％） ・課題の条件を満たしている。 ・指導を成果に生かすことができた。 ・十分な考察と制作をした。 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。 遠隔授業の場合には作品提出を持って出席扱いとしますが、授業開始時に接続の確認を行います。
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）各学科毎の課題においては適宜説明があります。 また、大学図書館、書店などに各課題、基礎造形系（デザイン、描写、平面、立体、建築等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので普段から参照することを薦めます。
用具	授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形力（描写）は、今後のPDでの制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。常にものを観察し、どのようにすれば的確な表現ができるのかという目

	を持つことを心がけてください。
実務経験を活かした授業	指導にあたる教員は全て専門領域の実務経験者であり、それぞれの経験を活かした実践的な指導を行う

科目名	基礎造形実習Ⅱ(造形) プロダクトデザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	立体造形の手法の基礎的な素材・器材を使って造形表現を習得する。 図面から立体、スケッチから立体表現では、プロダクトデザインの分野でスタイロフォーム（発泡材）が手軽で素早く形状検討できる素材として、一般的にデザインの現場でも使用されていることから、これを用いたモデリングを行う。図面を読み取りモデル制作することを実習し、その後課題テーマに基づいたオリジナルな造形を考え、モデル化することでイメージの立体化を行う。 線材（糸）による造形では、糸を巻きつけることにより、線から立体への変化、色彩の変化を理解する。
達成目標	・ 基礎的な図形や図法の意味を理解できる。 ・ 平面上の図から正確な比率で立体を読み取ることができる。また同様に立体物を平面上の図に置き換えることができる。 ・ 有機的な面のもつ特徴を観察し、対比と構成による的確に造形表現ができる。 ・ 素材と用具を適切に扱う事ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	図面から立体制作 01 課題説明・制作 02 制作 03 制作・講評 スケッチから立体制作 04 課題説明・スケッチ 05-06 スケッチ 07-09 モデル制作 10 モデル制作・講評 線材（糸）による色彩の構成 11 課題説明・細作 12-14 制作 15 制作・講評
成績評価基準	成績評価基準 ① 受講への態度、理解度（20％） ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ② 成果物（作品）の内容（80％） ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。 これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。 また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。 遠隔授業時は作品の提出をもって出席とします。ただし、授業開始時に接続の確認を行います。
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。 また、大学図書館、書店などに課題、基礎造形系（描写、平面、立体等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。
用具	授業にて適宜指示します。授業日には必ず指示された用具を持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	初めて扱う材料や、課題内容により講義、説明が重要になります。よく理解して授業に臨むことを求めます。また素材の特性や表現技法についても深く知る必要があります。 自ら興味をもって参考となる作品や資料にふれ予習をする習慣をつけてください。
実務経験を活かした授業	指導にあたる教員は全て企業等における実務経験者であり、それぞれの業務経験を活かした実践的な指導を行う

科目名	基礎造形実習Ⅱ(素形材) プロダクトデザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザイン学科の各コースでの素材を用いた実習授業である。それぞれの素材の特徴・特性を知り図面からのモデリング、織り、染め、ファッション、これらの課題を通してプロダクトデザインの基礎を学ぶ。 図面からモデリングでは、スタイロフォームで制作した立体造形を恒久的なモデルとするため、ケミカルウッドに置き換えて制作し、塗装を施すことでモックアップとしての完成品を目指す。 テキスタイル（織り）では、織り機を使って、織りの原理となる縦系・横系の構成を理解する。 テキスタイル（染め）では、絞り、型捺染などの基本手法・原理原則を理解する。 ファッションでは布素材を用い、ミシンによる縫製によってファッション小物を制作することで、布パーツの構成と制作手順を理解する。
達成目標	・ 課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。 ・ 課題の説明を記録し制作過程をまとめることができる。 ・ 制作等の指導を理解することができ適切な質疑応答ができる。 ・ 制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを実践でき、美しいデザインによる 完成度のある成果物が提出できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	モデリング（ケミウッド） 01 課題説明 02～053 制作 モックアップ（塗装仕上げ） 04 課題説明・制作 05、06 制作 テキスタイル：織り 07 課題説明・制作 08 制作 09 講評 テキスタイル：染め 10 課題説明・制作 11 制作 12 講評 ファッション：シーチング 13 課題説明・制作 14 制作 15 講評 ※ 全体を3グループに分けて授業を行うため、必ずしもこの順番とはならない。 ※ 詳細日程は授業開始時に説明する。 ※ コロナ禍において授業内容を変更する場合があります。 ※ 全体講評を別途行わないです。
成績評価基準	① 受講への態度、理解度（20%） ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ② 成果物（作品）の内容（80%） ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。 これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。 また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。 遠隔授業においては作品提出をもって出席とするが、授業開始時に接続の確認を行う。
テキスト（教科書）	各課題により資料テキストを授業時に配付する場合があります。
参考書・参考資料等	課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して使用する事があります。学科毎に求められた場合には必ず毎授業持参すること。 また、大学図書館、書店などに課題関連、基礎造形系の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。
用具	各課題制作に必要な準備・持参用具を適宜指示する。各自が使用する材料等は適宜購入してもらう場合があります。（各課題により異なります。）
履修制限等	

履修希望者への要望・事前準備	プロダクトデザイン学科の中でも、大きく2つのコースがあり、さらに専門分野に細分化されていきます。これからの大学生活はどの領域に進むかによって、学ぶこともより専門的になっていきますが、その第一歩となるのが、この素形材の授業です。それぞれの領域の課題に興味を持ち、完成度の高い作品制作を目差してください。
実務経験を活かした授業	指導にあたる教員は全て企業等における実務経験者であり、それぞれの業務経験を活かした実践的な指導を行う

科目名	基礎造形実習Ⅱ(デザイン) プロダクトデザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザインの最初の作品制作とそれを的確に記録するための実習である。 身近な製品をテーマに、持ちやすさ・使いやすさを考え、立体デザインとしてまとめていくことを目指す。 製品デザインでは、実際の製品を使い、問題点を洗い出し、解決するための手法を考え、造形に落ち込むための手法として、スケッチによりアイデア展開を行う。最後に簡単な発表を行う。 スケッチしたものから選んだアイデアを立体化し、実際に持ちやすさ・使いやすさを検証し、提案モデルを制作することで、機能と造形のバランスを学ぶ。 写真では基礎造形Ⅱで制作した作品をもとに、ライティングやセッティング、構図など作品を魅力的に見せるための写真撮影手法を学ぶ。
達成目標	〈スケッチ〉自分で考えたアイデアを紙の上（平面上）に、第3者が理解できるように表現できる。 〈モデリング〉スケッチで発想したアイデアを的確に立体化し、それが製品としての機能を満たすような造形となっている。 〈写真〉カメラの基本的操作・適切なライティングで、自身の作品をより魅力的なものに見えるよう撮影を行うことが出来、その後の画像処理ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	製品のデザイン（スケッチ） 01 課題説明 02～04 スケッチ展開 05 発表・講評 製品のデザイン（モデリング） 06 課題説明 07～09 モデリング 10 発表・講評 写真（製品を効果的に見せる） 11 デジタル一眼レフの基本操作講義 12 撮影1／セッティングとライティング基礎 13 撮影2／作品の撮影 14 撮影3／作品の撮影 15 撮影4／作品の撮影、講評 ＊授業の順序は設備等の都合により変更になることがある。
成績評価基準	① 受講への態度、理解度（20％） ・ 受講、制作の準備ができていた。 ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ② 成果物（作品）の内容（80％） ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 ・ プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。 これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始 20 分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。 また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。
テキスト（教科書）	必要に応じて、適宜指示または配付する。
参考書・参考資料等	〈写真〉デジタル映像表現「改訂版」デジタル映像表現編集委員会編（CGARTS 協会）3,150 円
用具	授業にて適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	プロダクトデザインにおける作品制作は、「想像を巡らせ」「考える」ことから始まる。身の回りにあるモノを使いながら、使いやすさ・扱いやすさなどを気にかけて生活することで、何かしらの発見や気づきがあるはずである。そういった経験を蓄積しておくこと。
実務経験を活かした授業	指導にあたる教員は全て企業等における実務経験者であり、写真については現役のフォトグラファーが、それぞれの業務経験を活かした実践的な指導を行う

科目名	プロダクトコンピュータ演習
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	金澤孝和
授業の概要及びテーマ	コンピュータ基礎演習の発展として Adobe Illustrator 及び Photoshop を自由に使いこなし、思い通りに、かつ正確に作画するための練習を行う。また Illustrator と Photoshop の連携した使用方法についても、より詳しく学習する。
達成目標	・ Illustrator/Photoshop をツールとして思い通りに、かつ正確に操作ができる。 ・ 知識を応用して期限内に課題制作ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス/Illustrator 02 Illustrator 03 Illustrator 04 Illustrator 05 Illustrator 06 Illustrator 07 Illustrator 08 Photoshop 09 Photoshop 10 Photoshop 11 Illustrator と Photoshop の連携 12 Illustrator と Photoshop の連携 13 Illustrator と Photoshop の連携 14 Illustrator と Photoshop の連携 15 まとめ/講評
成績評価基準	提出物および小テストなどにより評価。 提出遅れは最終評価より減点。 ※ 未提出があると単位取得は難しいと考えてほしい。また遅れた日数により提出課題評価から減点する。
出席・遅刻の基準	なし
テキスト(教科書)	授業時にプリントを配付する。
参考書・参考資料等	必要に応じて適時指示する。
用具	Adobe CC をインストールしたパソコン
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業では、Illustrator、Photoshop の基本操作は前期で習得していることを前提としている。不安のある履修者は事前に予習をしておくこと。授業開始時に重要な説明を行うことが多い。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となる。十分注意すること。 遠隔で授業を行うが、質問がある人は実際に PC を持ってきて直接質問できる教室を用意する。 授業録画は基本的に公開せず、事情がある場合のみ限定的に公開する。 この授業では資料を見て各自で実際にコンピュータを操作して学習する。 授業では補足説明と質問を受け付ける形での進行を基本とする。 不明な点は積極的に質問する姿勢を望む。
実務経験を活かした授業	指導にあたる教員は企業等における実務経験者であり、業務経験を活かした実践的な指導を行う。

科目名	プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	4
担当教員	金石浩一、◎金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、齋藤和彦、境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザイン系専門授業の基礎として、広い領域をそれぞれの課題から学ぶ。 全体を2グループに分けて授業を行う。プロダクトデザインコース／テキスタイル・ファッションデザインコース、2つのコースでそれぞれ課題に取り組む。指定されたテーマに対し、様々な試行錯誤を繰り返しながらアイデア具現化へのアプローチを表現する。
達成目標	・ 指定されたテーマに対して、よく考察をして、それを表現することができる ・ その時点での「ベストを尽くした」と言えるような作品を作る
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	〈プロダクトデザインコース課題（同期的に2課題）〉 01 ガイダンス、ブレインストーミング 02 調査 03～14 コンセプトの検討 造形検討 モデル制作 15 講評 〈テキスタイル・ファッションデザインコース課題〉 16 ガイダンス、染色 17～18 染色 19～21 織り、ソーイング 22 レクチャー、アイデア検討 23 アイデア検討、試作 24～29 制作 30 講評
成績評価基準	3つの課題の総合点から欠席及び遅刻点を減点する。 ただし、2/3以上の出席および課題提出が単位修得の必要条件となる。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	授業においてプリントを配付する。
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜指示する。
用具	調査～アイデア展開に必要な文具、画材、遠隔授業や情報収集・整理に対応できる情報端末、 モデル制作に必要な作業着、材料、道具類、その他必要と思われるものを各自準備してくること。
履修制限等	※ 本実習の単位を修得していないと、後期のプロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（A）・（B）を履修することができない
履修希望者への要望・事前準備	週2回の授業であるが、授業時間だけの作業では決して満足するような結果は得られない。毎回の授業において教員に指摘されたことに、授業外の時間を使って取り組むことが大切である。
実務経験を活かした授業	指導にあたる教員は全て企業等における実務経験者であり、それぞれの業務経験を活かした実践的な指導を行う

科目名	プロダクト材料学
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎菊池加代子、沈得正
授業の概要及びテーマ	人類は、道具を利用して自然素材から身体を使い様々な生活必需品を作ってきました。現在では、自然素材はもとより、金属や樹脂、セラミックといった人工素材、更に多様な新素材を開発し、製造工程は手作業から多岐に進化して様々な製造方法で製品を生み出しています。 ものづくりに於いては、原材料の知識から製造工程までを理解しなくては製品をつくることはできないことから、本授業では、世界各地の伝統的なものづくり文化や最先端の素材技術開発を柔軟な思考で捉え、地球環境や持続性も踏まえて私達のデザイン活動に応用が出来る事をテーマとします。
達成目標	ものづくりを構成する素材に関する幅広い知識を習得し、それらの原料、造形方法および製造技術の現実を理解する。 伝統的なものづくり文化や最先端の素材技術開発を柔軟な思考で捉え、地球環境や持続性も踏まえてものづくり活動に応用が出来る。 設計者、生産者、コンシューマー間のコミュニケーション用語を理解し、自分の言葉として活用、説明出来る様になる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業 〔「教育目標に掲げる3つの能力」を実現するためには、素材の知識が欠かせません。豊富な素材の知識は、次代を創造するデザインマインドの確立に於ける重要な要素です。この授業で知識を増やします。〕
授業計画	テキスタイル材料（8回）は菊池加代子が担当、プロダクト材料（7回）は沈得正が担当する。 01 テキスタイル材料 ガイダンス テキスタイル・繊維とは。天然繊維動物性「絹」 02 天然繊維動物性「羊毛・獣毛」 03 天然繊維植物性「綿・麻・ほか」 04 化学繊維「再生繊維」「合成繊維」「無機繊維」 05 糸から布へ「織」 06 糸から布へ「編」 07 加工「染色」「プリント」「しわ」等の加飾から「防災」「抗菌」等の機能付加工など 08 まとめ・テキスタイルの可能性 09 プロダクト材料 ガイダンス。熱可塑性樹脂「汎用樹脂①」 10 熱可塑性樹脂「汎用樹脂②」、準汎用樹脂、エンジニアリングプラスチック①」 11 熱可塑性樹脂「エンジニアリングプラスチック②」、熱硬化性樹脂「フェノール樹脂・ユリア樹脂・メラミン樹脂等」 12 鉄鋼材料「炭素鋼・合金鋼」、非鉄金属材料「アルミニウム・銅・錫・チタン・マグネシウム」 13 セラミックス「土器・陶磁器・ファインセラミックス・ガラス・セメント・コンクリート」 14 木材「木材中の水分・木材の乾燥と変形・針葉樹材と広葉樹材」、木質材料「合板・集成材・木質ボード」 15 竹材「竹の加工と利用」、複合材料「鉄筋コンクリート・ガラス繊維強化プラスチック・炭素繊維強化プラスチック等」
成績評価基準	テキスタイルの講義では授業内容に合わせた提出物（レポート及び制作するサンプル等）を評価の対象とし、未提出がある場合は単位を与えません。提出が遅れた場合は、日数に応じて減点します。プロダクトの講義では随時のミニ試験（5回）で評価します。 テキスタイル 50 点満点、プロダクト 50 点満点の合計で採点します。 欠席（－2 点）、遅刻（－1 点）、早退（－1 点）は、減点します。問題のある授業態度（居眠りやおしゃべり等）は、減点の対象とします。
出席・遅刻の基準	遅刻は、授業開始後の「5 分」までと厳しくとります。 出席に対する不正があった場合は、原則不合格となります。
テキスト（教科書）	授業開始時に適宜、必要な資料を配布します。
参考書・参考資料等	菊池担当 授業時に適宜紹介します。 沈担当 ①「加工材料の知識がやさしくわかる本」西村仁著 ISBN978-4-8207-4848-9 ②「工業デザインのための材料知識」岩井正二・青木弘之著 ISBN978-4-526-06146-2 ③「素材とデザインの教科書」第3版 日経デザイン編 ISBN978-4-8222-3509-3
用具	適宜、授業の中で指示します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	暮らしに必要な「もの」を改めて観てみましょう。一日に必要な「もの」はどのくらいあるでしょうか？その素材はなんですか？どのようにしてつくられているでしょうか？ そして、それに満足していますか？気に入っているところや不満なところは？ いろいろな「もの」に興味を持って観察して見直してください。
実務経験を活かしした授業	作家活動及び商品製作販売の経験を持つ教員が、その経験をいかしてデザインから製作に必要な素材の特性や構造、製造方法、仕上げ、メンテナンスなどを実際の資料を見せながら講義をする（菊池）

科目名	生産技術論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎境野広志、長谷川克義、清水稔、上野和弘、酒井一馬
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザインにおいては、それを製品として成立させる生産技術についての知識は必須である。グローバル化した現在では生産技術は材料や工学的要素だけでなく市場環境や地政学的な条件も関係する。本授業では講義と実際の工場見学を行い、デザイナーとして必要な知見や体験を修学する。
達成目標	プロダクトデザイナーとして必要な生産に係る知識を修得する。また実際の製造現場を見学し、様々な工程や環境を体感し、洞察を深める。さらに、社会人としての基礎的なコミュニケーション、態度などを習得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 大量生産と製造技術（デザイン表現と製造技法の推移） 02 市場競争から生まれた表現技術（ユーザーニーズの幻想とデザイン表現） 03 ものづくりの仕組みをデザインする（大規模 ODM ベンダーの誕生） 04 次世代の製造技術の考察（製造法がデザインを変える、必然から考えるデザイン） 05 ティアダウンで見る素材と製造技術の変化（テクノロジーがデザイン表現される） 06 テキスタイルの生産技術 07 ファッションの生産技術 08～15 学外見学（時間外に集中講義として実施。9月または11月～1月の土曜など2日～3日間）
成績評価基準	講義及び見学におけるレポート、履修態度で評価する。 見学はレポートで評価する。 出席率が全体で2/3相当を下回る場合は単位を与えない。見学は所定の行程全て参加のこと。 講義の遅刻は3回で1回の欠席扱いとする。見学については遅刻は認めない。
出席・遅刻の基準	講義については20分まで遅刻とする。 見学は遅刻は参加不可、欠席とする。また一回の欠席で3回分と見做す。
テキスト（教科書）	授業開始時に必要な資料を配付する。
参考書・参考資料等	特に指定はしないが、情報源と情報媒体を折に触れて活用すること。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	身近にある製品について、その素材や加工生産技術について関心を持ち、考える習慣を付けて欲しい。また生産と密接な関係にある様々な経済動向についても常に関心を持ってほしい。
実務経験を活かした授業	

科目名	プロダクトスケッチ実習Ⅰ
学年	1
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎齋藤和彦
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザイナーをはじめ新しいモノを生み出す仕事において、自身のイメージをスケッチなどで2次元表現することによって、第三者にそのカタチを伝える事が必須である。 このプロダクトスケッチ実習Ⅰでは、そうした「スケッチワーク」を基礎的な内容から学び、実践的なスキルレベルの習得を目指す。
達成目標	・ スケッチ作業の原理原則を理解し、形状を正しくとらえる事が出来る。 ・ 美しい線が描け、正確に面の明暗とコントラスト、素材の特徴を表現出来る。 ・ アイデアの発想、及びそのアイデアを具体的なスケッチとして再現できる。 ・ 描いたスケッチが第三者へのコミュニケーションツールとして正しい情報を伝えられる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス フリーハントスケッチ 02 透視図の理解と立方体の作図 03 円柱と陰影を描く 04 球体と陰影を描く 05 マーカースケッチ(マーカの基礎) 06 マーカースケッチ(立方体と陰影) 07 マーカースケッチ(円・楕円・曲線) 08 マーカースケッチ・質感表現1 09 質感表現2 10 質感表現3 11 応用表現1 12 応用表現2 13 応用表現3 14 応用表現4 15 最終レザリング(完成予想図)制作
成績評価基準	課題提出については毎回提出を原則とし、授業内容の理解度、作画の丁寧さ、完成度などを基準とした総合点とする。詳細は授業ごとに指示をするので、それに従って提出のこと。 遠隔授業の場合は課題提出を持って出席とする。 単位修得には2/3以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	プロダクトスケッチのテキストをPDFもしくはプリントで配布する
参考書・参考資料等	自動車とプロダクトデザインの基本と応用 平野幸夫著 三樹書房
用具	コピックマーカー クールグレイ12色セット、コピックマーカー12色基本セット、パステル、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、コピー用紙(A3/A4)、修正液、定規など コピックマーカーは各自用意すること。 (参考)コピックマーカー12色セット 4560円(税別)
履修制限等	本実習の単位修得は「プロダクトスケッチ実習Ⅱ」履修の条件となる。
履修希望者への要望・事前準備	スケッチの上達のためには、ある程度の訓練と繰り返しの作業が必要で、授業時間以外でも常に手を動かすこと。テキストの該当箇所を参照し、授業内容に関するスケッチの予習・復習を行うことが望ましい。
実務経験を活かした授業	自動車メーカー(齋藤)のデザイン部門において、長年デザイナーとして実務を行ってきた教員が、その経験と技術を活かして、デザイン業務に必要なスケッチの技術について実習・指導を行う。

科目名	プロダクトスケッチ実習Ⅱ
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎齋藤和彦、増田 譲
授業の概要及びテーマ	第1学年後期に開講される「プロダクトスケッチ実習Ⅰ」を基礎とした、より実践的なスケッチスキルの修得を目指した授業という位置付けとなる。 生み出した造形やアイデアを第三者が理解しやすいスケッチやレンダリングとして表現し、より正確なコミュニケーションが図れることを目指すものである。 この授業では、マーカーなどの画材を用いた従来の手描きスケッチと、Photoshop、Illustratorを用いたPC上でのスケッチを、複合的な表現を必要とするプロダクト製品である輸送機器や家電・情報機器を題材にその手法を学習する。
達成目標	- 工業製品の色彩、表面処理表現ができるようになる。 - デザインの意図が、的確に第三者に伝わるスケッチが描けるようになる。 - Photoshop、Illustratorによるスケッチが的確に描ける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス フリーハンドスケッチと着色 02 三面図に着色(質感表現) 03 輸送機器 1 04 輸送機器 2 05 輸送機器 3 06 家電・情報機器 1 (Illustrator) 07 家電・情報機器 2 (Illustrator) 08 家電・情報機器 3 (Illustrator) 09 家電・情報機器 4 (Illustrator) 10 家電・情報機器 5 (Illustrator) 11 Photoshop スケッチ 1 12 Photoshop スケッチ 2 13 Photoshop スケッチ 3 14 総合スケッチ 1 15 総合スケッチ 2 ・ 06～13についてはコンピュータを使用する
成績評価基準	課題提出については毎回提出を原則とし、授業内容の理解度、作画の丁寧さ、完成度などを基準とした総合点とする。提出物の詳細は授業ごとに指示をするので、それに従って提出のこと。 遠隔授業の場合は提出を持って出席とみなす。 単位修得には2/3以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	プロダクトスケッチ実習ⅡのテキストをPDFで配布する。
参考書・参考資料等	
用具	コピックマーカー グレイセット、コピックマーカー12色基本セット、パステル、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、コピー用紙(A3/A4)、修正液、定規など コピックマーカーは各自用意すること。(参考) 12色セット 4560円(税別) Photoshop、IllustratorがインストールされたノートPC。 Wacomなどのタブレット(任意)
履修制限等	「プロダクトスケッチ実習Ⅰ」を単位修得していることが履修の条件。
履修希望者への要望・事前準備	スケッチは日頃からの練習が上達の早道であり、手を動かし、画材に慣れておくこと。 早く描けることが目標ではないので、第三者に理解しやすいスケッチを目指すこと。 テキストの該当箇所を参照し、授業内容に関する予習・復習を行うことが望ましい。
実務経験を活かした授業	自動車メーカー(齋藤)、家電メーカー(増田)のデザイン部門でデザイナー経験のある教員が、その経験と技術を活かして、デザイン業務に必要な不可欠なスケッチ作画方法について実習・指導を行う。

科目名	プロダクト 3D C G 演習 I
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	土田知也
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザインのプロセスにおいて、時間短縮のため及びより自由な造形のため、さらに 3D プリンターによるプロトタイピングのツールとして 3DCG (CAD) は必要不可欠なツールとなっている。この授業では Fusion360 を用いて基本的な操作を遠隔授業にて学習する。
達成目標	・ 基本的な操作方法を確実にマスターすること。 ・ 課題で提示されるモデルを完璧に作り上げること。 ・ 提出期限を守ること。 ・ 自分のイメージした質感、色彩で美しくレンダリングできるようになること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス及びインターフェース 02 スケッチ 03 レンダリング 04 ソリッド 1 05 ソリッド 2 06 ソリッド 3 07 ソリッド 4 08 ソリッド 6 09 ソリッド 7 10 ソリッド 8 11 ソリッド 9 12 フォーム 1 13 フォーム 2 14 フォーム 3 15 フォーム 4
成績評価基準	毎回提出される課題の総合点から、欠席、遅刻点を減点する。 ただし、2/3 以上の出席及び課題提出をした履修者のみ単位付与を検討する。 なお、公欠事由、病気、事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	毎回の授業は基本的に録画データをアップするので、理解が十分で無い場合は繰り返し視聴すること。必要に応じて資料を GoogleClassroom にアップする。
参考書・参考資料等	Fusion360 モデリング・マスター / 株式会社ソーテック, 礒信一著 Fusion360 操作ガイド / スリプリ(3D ワークス株式会社), 三谷大暁, 別所智広, 坂元浩二著
用具	
履修制限等	2 年前期「3DCG 演習 I」の単位修得が、2 年後期「3DCG 演習 II」及び「プロダクト CAD 演習」の履修条件となります。
履修希望者への要望・事前準備	・ 本演習は 2 年後期に開講される 3DCG 演習 II を通して、デザインのツールとして 3DCG を使いこなせるようになることを目的としている。従って、ゴールから逆算したカリキュラムとなり、課題は毎回提出され確実に授業時間内では終了しない。とりあえず経験のために受講しようという様な姿勢では続かないので注意すること。 ・ 授業開始までに各自 Fusion360 のアカデミックバージョンを各自の PC にインストールしておくこと。インストールの仕方については別途、連絡します。
実務経験を活かした授業	

科目名	プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(A)
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	4
担当教員	金澤孝和、◎金山正貴、齋藤和彦、境野広志、土田知也、増田 譲
授業の概要及びテーマ	設定されたプロダクトやサービス領域のもとで、調査からプレゼンテーションにいたる一通りのプロセスを踏み課題制作に取り組む。 第一から第三課題ともグループワークと個人ワークを組み合わせで取り組み以下の3つの課題を設定する。 ① 生活雑貨・日用品の領域 ② 家電・情報機器の領域 ③ ユーザー体験をベースにしたサービス・UI 領域
達成目標	・ 今までの授業で得た知識・スキルをフルに活用した課題制作を行うこと。 ・ 結果のみならずプロセスを大切にしたい取り組みを行うこと。 ・ ポートフォリオに載せられるようなレベルの高い作品を作ること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	「第一課題」 01 ガイダンス、調査 02 調査 03~04 コンセプトの検討 05~06 造形検討 07~09 モデル制作、プレゼンテーション準備 10 プレゼンテーション 「第二課題」 11 ガイダンス、調査 12 調査 13~14 コンセプトの検討 15~16 造形検討 17~19 モデル制作、プレゼンテーション準備 20 プレゼンテーション 「第三課題」 21 ガイダンス、調査 22~23 調査分析 まとめ 24~25 コンセプトの検討 26~27 UI・シナリオ検討 28~29 ムービー制作、プレゼンテーション準備 30 プレゼンテーション
成績評価基準	課題の総合点から欠席・遅刻点を減点する。 なお、2/3以上の出席及び課題提出をした履修者のみ単位付与を検討する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	授業において適宜プリントを配付する。
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜指示する。
用具	
履修制限等	プロダクトデザイン基礎実習Ⅰの単位を修得していること
履修希望者への要望・事前準備	授業時間はもちろん、授業外の取り組みが大切である。少しでも良いものにするべく前向きに取り組んで欲しい。
実務経験を活かした授業	指導にあたる教員は全て企業等における実務経験者であり、それぞれの業務経験を活かした実践的な指導を行う

科目名	プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(B)
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	4
担当教員	菊池加代子、◎鈴木均治、金石浩一
授業の概要及びテーマ	● 織・染・ファッションそれぞれの基礎を学び3年次の専門選択の一助とする。 〈織〉 織機を用いた布制作と動物性繊維の糸染め、ウールの縮絨仕上げを習得する。 〈染〉 型糊防染及び型捺染による作品制作をとおして連続模様を習得する。 〈ファッション〉 縫製仕様書の書き方、既製品の基本的な構造を理解する。 テーマに沿って自らコンセプトを立て、解体した既製品を再構築し、新たな衣服を制作する。 異なる衣服を多様に組み合わせることにより、パターンの構成力を身につける。
達成目標	・ 素材の特性および手法における制約を理解しデザインに生かすことが出来る。 ・ 制作における各工程の作業の意味を理解し、実行することが出来る。 ・ ファイル等で制作の記録をまとめることが出来る。 ・ 期限を守り課題作品を提出することが出来る。 ・ 安全に注意を払い、一人で作業することが出来る。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	● 織・染・ファッションの内容をそれぞれ5週間を2または3のグループでローテーションする。(週あたり2コマ×2回実施) 〈織〉 01 <ストライプとチェック>ストライプのデザイン・「Weaving note (織計画表)」作成・織機に経糸をかける 02 <ストライプとチェック>織機に経糸をかける・織 03 <マフラー>デザイン・ウールの糸染め・「Weaving note (織計画表)」作成 04 <マフラー>織機に経糸をかける・織 05 <マフラー>仕上げ・講評 〈染〉 06 精練・敷き糊・唐草型型彫り / 豆引き・紗張り・藍建て・基本型説明 07 唐草糊置き・基本型型彫り・紗張り / 基本型糊置き・応用型説明 08 藍染・応用型デザインチェック・応用型型彫り / 応用型紗張り・型捺染説明 09 応用型糊置き・型捺染デザインチェック色糊説明 / 応用型藍染・型捺染糊置き 10 型捺染しごき・蒸熱・仕上げ / プレゼン・講評 〈ファッション〉 11. 解体での衣服の縫製の理解。コンセプト/デザイン考案、パターンの再構築、製作工程の確認 12. ～16. 解体、縫製、加工。 17. 仕上げ、ポートフォリオ、プレゼンボード作成。プレゼンテーション。講評
成績評価基準	製作姿勢及び理解度(50%) 課題による成果物<作品>の内容(50%)を合わせた評価。
出席・遅刻の基準	遅刻は5分までとする。遅刻及び欠席は素点より減点する。
テキスト(教科書)	課題資料としてプリントを配付。
参考書・参考資料等	適宜紹介する。
用具	織：糸代として3,000円から4,000円程度必要。 染：布代として1,000円程度必要。 ファッション：制作する古着、もしくは着なくなった洋服
履修制限等	「プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ」の単位修得及び「テキスタイル・ファッション CAD 演習」を同時に履修していること。
履修希望者への要望・事前準備	授業時間だけの作業だけでは決して満足するような作品は出来上がらない。 製作行程を各々しっかり計画立てること。
実務経験を活かした授業	

科目名	プロダクトCAD演習
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	金山正貴、◎土田知也
授業の概要及びテーマ	立体デザインの分野では「図面」の作成・読解は不可欠の能力である。 この授業では具体的な図面作成上の約束事、表現のノウハウ等を具体的な課題により養う。 なおソフトはRhinoceorsを使用し、遠隔と対面のミックスで授業を行う。
達成目標	・ JIS 規格の図面の書き方の基本をマスターすること。 ・ 課題において決まりごとをしっかりと守って図面を描くこと。 ・ 提出期限を守ること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業 (デザイナーは自らの造形を正確に第三者に伝える技術をもたなくてはならない。図面はそのための大切な手段である。)
授業計画	01 授業ガイダンス CAD とは？ 02 Rhinoceors 1 03 Rhinoceors 2 04 Rhinoceors 3 05 図面の基本 1 06 図面の基本 2 07 図面の基本 3 08 図面の基本 4 09 図面の基本 5 10 実物の図面化 1 11 実物の図面化 1 12 実物の図面化 2 13 実物の図面化 2 14 自分のデザインの図面化 1 15 自分のデザインの図面化 2
成績評価基準	提出課題の総合点から欠席、遅刻点を減点する。 ただし、2/3以上の出席および課題提出をした履修者のみ単位付与を検討する。 なお、公欠事由、病気、事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	必要に応じてプリントをGoogleClassroom上に資料をアップする。 なお、ソフトの操作に関しては授業の録画データをアップするので、理解が十分でない学生は繰り返し視聴し復習すること。
参考書・参考資料等	
用具	ノギス、直線定規
履修制限等	本演習はプロダクト3DCG 演習Ⅰの単位取得を受講条件とする。
履修希望者への要望・事前準備	それなりに複雑な図面を描けるようになることを目的とするため負荷もそれなりに高い。何となく、あるいは、とっておいた方が良いと言われたから等の後ろ向きな理由での履修は遠慮してもらいたい。もちろん、図面が描ける様になりたいという強い意志を持つての履修は学科を問わず歓迎する。
実務経験を活かし た授業	

科目名	プロダクト 3DCG 演習Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	土田知也
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザインのプロセスにおいて、時間短縮のため及びより自由な造形のため3DCG（CAD）は必要不可欠なツールとなっている。この授業はプロダクト3DCG演習Ⅰの続きの授業であり、より高度なモデリングの学習に加えて、アニメーション、シミュレーション等について学修する。なお、授業は遠隔で行う。
達成目標	・ 新たに学んだ操作方法を確実にマスターすること。 ・ 課題で提出されるモデルを完璧に作り上げること。 ・ 提出期限を守ること。 ・ 自分の描いたカタチを自由に立体化できるようになること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ソリッド復習 02 フォーム復習 03 ソリッド&サーフェース 04 モーションスタディ 0 05 モーションスタディ 1 06 モーションスタディ 2 07 シミュレーション1 08 シミュレーション2 09 自分のデザインをモデリング1 10 自分のデザインをモデリング2 11 自分のデザインをモデリング3 12 自分のデザインをモデリング4 13 自分のデザインをモデリング5 14 自分のデザインをモデリング6 15 自分のデザインをモデリング7
成績評価基準	毎回提出される課題の総合点から、欠席、遅刻点を減点する。 ただし、2/3以上の出席及び課題提出をした履修者のみ単位付与を検討する。 なお、公欠事由、病気、事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	毎回の授業は録画データをアップするので、理解が十分で無い場合は繰り返し視聴すること。 必要に応じて資料を GoogleClassroom にアップする。
参考書・参考資料等	Fusion360 Japan https://www.youtube.com/channel/UCqmZCkX0ZYFywI5RxeQht6A
用具	
履修制限等	本授業はプロダクト3DCG演習Ⅰの単位修得を履修条件とする。
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	ファッション画実習
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	金石浩一
授業の概要及びテーマ	ファッションデザインの現場では、必要な情報を伝えるためのツールとして、様々なテクニックのイラストやデザイン画の描き方・伝え方がある。 自分のアイディアやスケッチをまとめ、コンセプト立案し、その意図を的確に伝えられるデザイン画の描き方を学ぶことにより、効果的に企画提案するテクニックやセンスを磨く。 個性を大切にしたいドローイングや、コラージュなどによるイメージボードを制作し、プレゼンテーションを行う。
達成目標	・ 現在のファッション業界が必要としている、ファッションデザイン画を描く事ができる。 ・ 衣服をデザインした時のバランス感、デフォルメの仕方を習得できる。 ・ 個々のおいた設定よりオリジナルな衣服デザイン、イメージボードの作成ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ファッション概論(ファッションイラスト、ファッションデザイン画) 02 デザイン画(handwriting, クロッキーに近い、素早く洋服のデザインの特徴を捉える) 03 02 で描いたデザインメモを整理する、(ハンガーイラスト) グラフィックペンで仕上げる 04 ファッションデザイン画における(ハンガーイラスト) イラストレーターの基礎を学ぶ(ベジェコントロール、レイヤーの仕組みなど) 05 03 で描いたデザイン画をイラストレータで描く(ハンガーイラスト)。 06 イラストレーターを使用した素材表現・テクニック① 07 イラストレーターを使用した素材表現・テクニック② 08 デザインコンセプトを建てる(イメージ、コラージュ、文字表現) 09 コンセプトに合わせた洋服のデザインとコーディネート、ハンドライティング<イラストレース<着色) 10 コンセプトに合わせた洋服のデザインとコーディネート、ハンドライティング<イラストレース<着色) 11 パターン(製図)の基礎を学ぶ 12 スタイル画の表現、ガイダンスとコーディネート画の作成 13 コンセプト、デザイン画(ハンガーイラスト) コーディネイトされたスタイル画のまとめ 14 コンセプト、デザイン画(ハンガーイラスト) コーディネイトされたスタイル画のまとめ 15 最終プレゼンテーション
成績評価基準	提出課題作品 70%、授業参加態度・制作姿勢 30%
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	授業内でプリントを配付するほか、適宜紹介する。
参考書・参考資料等	・ 『ファッション・デザイナーの創作スケッチブック』ハイウェル・デイヴィス 著 P-Vine BOOKs ・ 『ファッションデザインアイデアノート』サイモン・トラバーズ=サリダ・ザマン 著 グラフィック社
用具	筆記用具、鉛筆、グラフィックペン黒各太さ 0.1mm0.5mm1.0mm(必須)など、その他水彩絵具、パステル、色鉛筆、マーカー、は自分のタッチに合わせるものを用意、ノートパソコン(必須)、適宜指示する。
履修制限等	[プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(B)], [テキスタイルファッション CAD 演習]と授業内容がリンクする部分があるため、テキスタイル・ファッションデザインコースに興味のある学生は、3つの授業を同時に履修することを推奨する。(他コースの学生は、ファッション画実習のみでも履修は可能)
履修希望者への要望・事前準備	・ 授業内容は進行状況等に応じて変動することがある。 ・ 興味のあるファッション、絵画、デザインなどの画像や情報を収集、スクラップし、日頃からファイリングしておく癖をつけておくこと。
実務経験を活かした授業	指導に当たる教員は、企業等における実務経験者であり、業務経験を生かした実践的な指導を行う。

科目名	テキスタイル・ファッションCAD演習
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎鈴木均治、金石浩一、山本正記、
授業の概要及びテーマ	この授業は、テキスタイル（山本正記）ファッション（金石浩一）が分担して行ないます。テキスタイル・ファッションを専攻する学生には必須の授業です。 <テキスタイル> プリントにおける PC の関わり方としては大別して 2 種類考えられる。一つには人の手によって行われていた作業の効率を高め、製品の安定を計るという目的。もう一つには、染色用インクジェットプリンター等、従来の方法とは異なる出力を前提とした表現の追求にあると考える。 この授業では、photoshop/ Illustrator をツールに、通常のシルクスクリーンプリントを出口とした表現。ダイレクトインクジェットプリントを前提とした表現。PC と連動したジャガード織りを出口とした表現。それぞれへの考察並びにデータの作成について学んでゆく。 この授業はパワーポイントを使った解説と演習にて進行する。 尚、授業計画は担当講師が授業の進行具合から判断し変更する事がある。 <ファッション> 現在のパターン（製図）はアナログのみならずデーター化したものの対応が一般化しており、それによってよりグローバルでスピーディーな対応を可能にしている。 まずは、定規を使ってカーブをかける練習、囲み製図の基礎、そして cad を使った操作方法を学ぶ。
達成目標	<テキスタイル> ・ 学内にてのシルクスクリーンプリントを前提としたデータ制作 ・ ダイレクトインクジェットプリントを前提としたデータ製作 ・ シルクスクリーンプリントにおけるリピート（送り）を理解する。 ・ PC と連動したジャガード織への理解を深める <ファッション> ・ アナログなパターン基礎とアパレル CAD の基礎的な操作方法、展開方法を学ぶ。 ・ サイズの呼称を理解する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	<テキスタイル> 01 授業説明・カラーマネジメントを含めた色の問題等について。photoshop と画像データを使用したデジタルプリント用画像データの作成① 02 photoshop と画像データを使用したデジタルプリント用画像データの作成② 03 Illustrator のオブジェクト/パターンを使用した「送り」に関する考察① 04 Illustrator のオブジェクト/パターンを使用した「送り」に関する考察② 05 Illustrator を使用。2 版展開を前提としたシルクスクリーンプリントの為のデータ作成① 06 Illustrator を使用。2 版展開を前提としたシルクスクリーンプリントの為のデータ作成② 07 01, 02 で作成した画像イメージを用いた 05, 06 で作成したデジタルプリントへの展開。Illustrator、photoshop を使用。 ① 08 01, 02 で作成した画像イメージを用いた 05, 06 で作成したプリントデータの展開。Illustrator を使用し 3 版以上の展開を前提としたスクリーンプリント用データを作成。① 09 01, 02 で作成した画像イメージを用いた 05, 06 で作成したプリントデータの展開。Illustrator を使用し 3 版以上の展開を前提としたスクリーンプリント用データを作成。②/ジャガード表現の考察 10 photoshop を使用したジャガード表現の考察。 <ファッション> 11. パターンの基礎、実物から学ぶ、ストレートな定規でカーブを描く練習 12. サイズの理解。アナログパターンの作成方法。 13. アパレル CAD 基本操作方法Ⅰ。 14. アパレル CAD 基礎展開方法Ⅱ。 15. アパレル CAD 基礎展開方法Ⅲ。
成績評価基準	<テキスタイル> 成績は提出された課題の評価による。 <ファッション> CAD の操作方法 0.1MM までサイズ合わせができていかなど、正確に CAD を使えているかの課題と評価。 欠席回数は最終評価の減点対象となります。 * テキスタイル 3 分の 2、ファッション 3 分の 1 の割合で集計して成績をつけます。遅刻及び欠席は素点より減点する。
出席・遅刻の基準	遅刻は 5 分までとする。
テキスト(教科書)	適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等	
用具	<テキスタイル> ・ 基本的にデータのやり取りには外部ストレージの利用を考えて居るが、個人用に USB メモリー又は外付けハードディスクを用意する。

	・ラフスケッチ用にクロッキー帳と筆記用具。 ・布への出力費用として1500円~2000円程度必要。
履修制限等	プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（B）を同時に履修していること
履修希望者への要望・事前準備	<テキストスタイル> Photoshop/ Illustrator に関しては基本操作ができることが前提となっています。（頑張ってください） 加えて Illustrator のオブジェクト/パターンを使用するのは、全体を意識しながらデザイン（部分）を作成して行く為です。意識してください。 用具の欄にクロッキー帳と筆記用具と記したが、これはパソコン上での作業が直接的に進みやすいためであり、イメージの広がり易い環境を各自が作る必要が在ると考え得て居る為である。 沢山のテキストスタイルに興味を持ち、良く観察する事。 <ファッション> 週1回1コマの授業となる為、セキュリティキーを借り、 次回授業までに基礎操作の復習は必ず行ってください。（テキスト AlphaLesson） 遅刻や欠席でも授業を理解するための障害となるので十分注意をすること。
実務経験を活かした授業	

科目名	プロダクトデザイン演習 I
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	金澤孝和、金山正貴、齋藤和彦、境野広志、◎土田知也、増田 譲
授業の概要及びテーマ	プロダクトデザインの専門導入授業として、具体的なテーマに対しデザインワークを一貫したフローで進め、カタチだけではなく総合的なデザイン提案を行う。 第一、第二課題でそれぞれ産学協同プロジェクトあるいは各種デザインコンペティション参加を経験する。そのことにより社会におけるデザインの役割を理解し、自らのデザインを広く発信していく力を養う。
達成目標	・ プロダクトデザイナーとしての発想力、企画力、プレゼンテーション力の強化 ・ スケッチをはじめ、自ら考えたデザインを表現する方法の試行と理解 ・ 社会におけるデザインの役割、デザイナーの立ち位置の理解
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	課題1（産学協同プロジェクト） 01 ガイダンス／課題1 説明、ブレインストーミング 02 調査、考察 03 コンセプトの検討 04 アイデア展開 05 中間講評 06 制作 07 制作 08 プレゼンテーション／課題2 説明 課題2（各種デザインコンペティション） 09 調査、考察 10 アイデア展開 11 中間講評 12 制作 13 制作 14 制作 15 プレゼンテーション
成績評価基準	プレゼンテーション内容を含めた課題得点と中間講評の得点の総合点を基準とする。欠席・遅刻・早退は最終評価から減点する。 なお成績評価の前提条件として、2／3以上の出席が必須。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	プロダクトデザイン演習Ⅱの履修は本授業の単位修得が前提となる。
履修希望者への要望・事前準備	本授業は、2年時までの基礎造形力、プロダクトデザインに関わるスケッチのスキル、コンピュータのスキルなどの専門教育の修得を前提としている。不安のある履修者は事前に予習などをしておくこと。
実務経験を活かし た授業	

科目名	プロダクトデザイン演習Ⅱ
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎境野広志、金澤孝和、金山正貴、齋藤和彦、土田知也、増田 譲
授業の概要及びテーマ	将来を見据えて必要とされる有用なデザインスキル、デザイナーとしての思考を体得する。 第1課題は社会におけるデザイナーの実務を想定し、社会や技術の動向を踏まえ、調査、問題探索も含めた新規性の高いソリューションデザインや質の高いプロダクトなどを提案する。 第2課題は家電/情報、生活雑貨/家具、トランスポートーション、サービス、UXなど、自分の進路や将来を想定し、ゼミ形式で課題制作、研究を行う。
達成目標	デザイナーとしての発想力、企画力、造形力、プレゼンテーション能力の獲得。 さらに社会のニーズに応えられるようなソリューション発想を体得する。 また社会人としての認識やモラルを身に着け就職、進学等への活動に臨めるようにする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02～08 第1課題 (グループ分け、課題発見、コンセプト立案、アイデア展開、制作) 09 第1課題 プレゼンテーション 10～14 第2課題 (調査、コンセプト立案、アイデア展開、評価、制作) 15 第2課題 プレゼンテーション (詳細な進行は設定された課題、テーマによる)
成績評価基準	単位修得には10回以上の出席を必須とする。 成績については2つの課題の得点を評価し基準点とする。 欠席日数や授業参加態度は最終評価において減点の対象となる。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	個別に指示する
用具	アイデア展開に必要な画材およびコンピュータ。 モデル制作に必要な材料、各道具類は各自準備すること。
履修制限等	本授業履修はプロダクトデザイン演習Ⅰの単位修得を条件とする。
履修希望者への要望・事前準備	本授業はプロダクトデザイナーになるための教育として、仕上げる段階にある。 グループワークを含め、学生個々が自分の将来を見据えて臨むこと。 またこの授業での作品が自分の代表作となることを意識し、自主的・積極的に臨んでほしい。
実務経験を活かした授業	指導にあたる教員は全て企業等における実務経験者であり、それぞれの業務経験を活かした実践的な指導を行う

科目名	テキスタイル・ファッション演習Ⅰ
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	菊池加代子、◎鈴木均治、金石浩一
授業の概要及びテーマ	● 織・染・ファッションから何れか一つ選択する。 織：「織物の構造を理解し、織機を用いて自由な布が制作出来る」を目標に糸染めも含めた基礎技術の習得とそれを応用したテキスタイルデザインを実践する。 染：型染め（型糊防染・型紙捺染・スクリーン捺染）を通してリピータ模様の染色を布に実践する。 ファッション：デザインテーマのもとに、デザインコンセプトから洋服のデザイン、型紙（パターン）、縫製まで一貫した作業を実践する 演習Ⅰでは、素材は固定で進む。
達成目標	● 染・織・ファッション共通 ・ 課題の内容をレポートにまとめ整理することが出来る。 ・ 制作習慣が身についており、また計画通りに作業を進めることが出来る。 ・ 教授された方法で糸や布を扱い染や織をすることが出来る。 ・ 安全に注意を払いガス・薬品・アイロン・ミシン・機械等を取り扱うことが出来る。 染 ・ 技法の特性を理解しイメージを具現化することが出来る。 織 ・ 織機と糸と組織の関係を理解し、作品を制作し発表することが出来る。 ファッション ・ 固定のテーマ、固定の素材の中から、コンセプトとデザインだけが自由となったときの個々の個性的なデザイン表現の確率 ・ 洋服作りの一通りの流れを掴むことができる。 ・ 縫製仕様所の書き方。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	〈以下の3つの分野に分かれて演習を行う〉 〈織〉 01～07 <織物組織>ガイダンス・織物組織解説・サンプル制作・作品（厚い布）デザイン・制作・講評 08～14 <絨織り>絨織り解説・サンプル制作・作品（薄い布）デザイン・制作・講評 15 プレゼンテーション 〈染〉 01～03 型防染技法による（引き染め）植物柄の作成 04～10 型紙捺染技法による植物柄および自由柄の作成 11～14 スクリーン捺染技法による幾何文様等の作成 15 プレゼンテーション 〈ファッション〉 01 テーマの説明 ガイダンス 02 コンセプト立案 提出 04 デザイン発表 提出 08～14 パターン、裁断、縫製、仕上げ 15 プレゼンテーション
成績評価基準	課題や制作への理解度と受講姿勢 50%、作品による評価 50% 出席率 2／3を下回る場合、課題提出の有無・内容に関係なく単位は与えない。 また出席率 2／3を上回る場合でも作品・制作姿勢の内容によっては単位を与えないことがある。遅刻及び欠席は素点より減点する。
出席・遅刻の基準	遅刻は 5 分までとする。
テキスト（教科書）	染・織：適宜プリント配付。 ファッション：専門書が必要となる為、初回概説にて指示する。
参考書・参考資料等	適宜紹介する。
用具	染・織：材料は各自で購入。 ファッション：洋裁材料一式（ハサミ等） その他は初回概説にて指示する。
履修制限等	テキスタイル・ファッション演習Ⅰの単位が未修得の場合、テキスタイル・ファッション演習Ⅱは履修不可。
履修希望者への要望・事前準備	授業は主としてレクチャー及びデザインチェック、受講者からの疑問等を解決する時間です。授業間の制作作業では、授業進度に合わせて各自が計画的に進めること。またデザイン案を求められた際には一案だけでなく必ず複数案準備しておくよう心がけること。
実務経験を活かした授業	

科目名	テキスタイル・ファッション演習Ⅱ
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	菊池加代子、◎鈴木均治、金石浩一
授業の概要及びテーマ	テキスタイル・ファッション演習Ⅰで履修した同分野を履修する。 織：織物の確かな知識と技術を基に、イメージ・素材・技法の連関を認識した作品制作を行う。素材や技法の枠を超え、既成概念にとらわれない自由なテキスタイルデザインの創作を実践する。 染：前演習で修得した知識・技法をベースに、イメージ・素材・技法の連関を意識して、制作を通して染色表現の可能性を探究する。 ファッション：新たな課題のもとに、自分の考え方に一番近い、もしくは崇拜するデザイナーにむけたオマージュ的な作品を技法、コンセプト、をとうして過去のコレクションを理解して、自分なりのデザインに仕上げる。製作を中心とした授業なので、作品は2点とするが、コーディネートを重視した、作品に仕上げる。
達成目標	● 織・染・ファッション共通 ・ 課題の内容をレポートにまとめ整理することが出来る。 ・ 制作習慣が身についており、また計画通りに作業を進めることが出来る。 ・ 教授された方法で糸や布を扱い染や織をすることが出来る。 ・ 安全に注意を払いガス・薬品・アイロン・ミシン・機械等を取り扱うことが出来る。 織 ・ 素材の特性・織組織・機の仕組みを理解し、作品制作し発表が出来る。 染 ・ 技法および素材の特性を理解し、布に染めることの意味を考察した上で作業を行うことが出来る。 ファッション ・ 前期より、自由度が高まった素材選び、前に学んだことを反省して、自分のスケジュール管理をできるようにする。 織、染でも学んだことをいかし、素材を加工したり、プリントやアートワークの工夫を加え表現力を増した作品に仕上げる
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	〈以下の3つの分野に分かれて演習を行う〉 〈織〉 01～07 <二重織り>サンプル制作・植物繊維の染色・作品（立体 or レリーフ状の布）デザイン・制作・講評 08～14 <コンピュータドビールームまたは綴れ織>サンプル制作・作品制作・講評 15 プレゼンテーション 〈染〉 01～05 後染による 生地とは異なった表情をもつ布の提案（錯視効果などを利用したリピート模様を制作する。） 06～12 二次製品を考慮した染色加工の提案。（オパール加工および捺染等により、加工の特性を生かした布を製作する。） 13～14 布の展開を前提とした模様染め（ラッピング的発想から風呂敷を製作する。） 15 プレゼンテーション 〈ファッション〉 01 テーマの説明 ガイダンス 02～03 コンセプト立案 提出 04 デザイン発表 提出 05～14 パターン、裁断、縫製、仕上げ 15 プレゼンテーション
成績評価基準	課題や制作への理解度と受講姿勢 50%、作品による評価 50% 出席率 2／3 を下回る場合、課題提出の有無・内容に関係なく単位は与えない。 また出席率 2／3 を上回る場合でも作品・制作姿勢の内容によっては単位を与えないことがある。遅刻及び欠席は素点より減点する。
出席・遅刻の基準	遅刻は5分までとする。
テキスト(教科書)	適宜配付する。
参考書・参考資料等	適宜紹介する。
用具	製作に必要な材料は各自が購入する。
履修制限等	テキスタイル・ファッション演習Ⅰの単位を修得した者のみ履修可。
履修希望者への要望・事前準備	授業は主としてレクチャー及びデザインチェック、受講者からの疑問等を解決する時間です。授業間の制作作業では、授業進度に合わせて各自が計画的に進めること。またデザイン案を求められた際には一案だけでなく必ず複数案準備しておくこと。
実務経験を活かし た授業	

科目名	ゼミⅠ プロダクトデザイン学科
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	金石 浩一、金澤 孝和、金山 正貴、菊池 加代子、◎齋藤 和彦、境野 広志、鈴木 均治、土田 知也、増田 譲
授業の概要及びテーマ	・ 課題内容、進捗は研究室毎に設定し、専門書の輪読、テーマを設定しての調査、実際のデザインワーク、スキルアップのトレーニングなど多岐にわたる。多様なものの見方が必要なデザイナーにとって、いろいろな分野に対する知識や見聞を得る機会となる。 ・ 研究室毎の内容についてはガイダンスの時に資料を配布するので選択の参考にすること。
達成目標	・ デザインに対する知識、技術の幅を広げること。 ・ 教員の専門性を認識し、研究室配属の一助となるようにすること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	履修ガイダンス時、研究室毎の授業内容の資料・アンケート配付 同一週内に希望研究室のアンケート提出締め切り 01：履修ゼミの発表と第一回授業の開始 02 以降は、それぞれの担当教員の授業計画による。 第一回授業時に配属ゼミの授業計画を提示する。
成績評価基準	提出物・成果物の得点から、欠席、遅刻、履修態度により減点する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	各研究室ごとに、必要に応じ指示・配付する。
用具	
履修制限等	各ゼミでの一度の授業の履修人数を5人程度とするため、1つの研究室で受け入れる学生の人数はゼミⅠ・Ⅱ合わせて10人程度となる。定員をオーバーした場合は成績上位の学生の希望を優先する。
履修希望者への要望・事前準備	・ 学生は研究室の授業を2つ選択し、前後期でそれぞれ履修するが履修時期の指定はできない。 ・ コースの枠は無く、異なるコースの研究室の授業を履修できる。 ・ ゼミⅠ、Ⅱの内容は基本的には同一のものとなる。 ・ ゼミの選択と卒業研究の研究室配属は同じである必要はない。 ・ 多様なものの見方が必要なデザイナーにとって、いろいろな分野に対する知識や見聞を得る機会として、積極的な姿勢で臨むこと。
実務経験を活かした授業	各研究室はそれぞれの専門分野での実務経験を有する教員によって授業が行われる

科目名	ゼミⅡ プロダクトデザイン学科
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	金石 浩一、金澤 孝和、金山 正貴、菊池 加代子、◎齋藤 和彦、境野 広志、鈴木 均治、土田 知也、増田 譲
授業の概要及びテーマ	・ 課題内容、進行は研究室毎に設定し、専門書の輪読、テーマを設定しての調査、実際のデザインワーク、スキルアップのトレーニングなど多岐にわたる。 ・ 研究室毎の内容については、前期ガイダンス時に配布した資料に準ずる。 ・ 前期で決定した履修時期・研究室に従って履修となる。履修時期の指定はできない。 授業内容は原則、ゼミⅠと同一のものである。
達成目標	・ デザインに対する知識、技術の幅を広げること。 ・ 教員の専門性を認識し、研究室配属の一助となるようにすること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	それぞれの研究室の履修内容に沿った授業計画となる。 日程・計画については、第一回目の授業において指示がある。
成績評価基準	提出物・成果物の得点から、欠席、遅刻、履修態度により減点する。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	各研究室ごとに必要に応じ指示・配付する
用具	各研究室から必要に応じ指示する
履修制限等	前期のゼミ選択時に決定しているため、ゼミⅠシラバスを参照のこと。
履修希望者への要望・事前準備	多様なものの見方を必要とされるデザイナーにとって、いろいろな分野に対する知識や見聞を得る機会として積極的に臨むこと。
実務経験を活かした授業	各研究室はそれぞれの高い専門性と実務経験の教員によって授業を行う。

科目名	卒業研究Ⅰ プロダクトデザイン学科
学年	4
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	金石 浩一、金澤 孝和、金山 正貴、菊池 加代子、◎齋藤 和彦、境野 広志、鈴木 均治、土田 知也、増田 譲
授業の概要及びテーマ	これまでの学習の集大成として、個人又は共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「研究論文」又は「論文及び制作」のための骨格・コンセプト・試作をまとめ、卒業制作Ⅱの本制作につなげる。
達成目標	・ スケジュールを順守し、それぞれ定められた内容を達成すること。 ・ 今までに学んだことを十二分に発揮したものであること。 ・ 提案においては既存のものには見られない「新しさ」「美しさ」を感じさせること。 ・ 各自の提案に基づき、スケッチ・ボード・映像・モックアップ・サンプル試作などを用いた効果的なプレゼンテーションを行うこと。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	コース／研究室毎に異なるため、詳細は指導教員より指示を受けること。 チェック・審査は学科全体で行う。 01 ガイダンス・スケジュール計画 02・04 テーマ設定・情報収集・調査・分析 05～08 コンセプト立案・試作・ラフモデルなど制作展開 09 「制作物（試作品モックアップなど）」または「論文」の進捗状況チェック（全体） 11～14 発表用制作・試作（モックアップモデルなど）・草稿・発表資料準備 15 発表・プレゼンテーション（審査）
成績評価基準	履修態度、研究のプロセス、成果物の完成度などを勘案し、総合的に判断する。
出席・遅刻の基準	各研究室でルールを設定する。
テキスト（教科書）	各研究室で必要に応じて指示する。
参考書・参考資料等	各研究室で授業時に適宜紹介する。
用具	
履修制限等	「卒業研究Ⅱ」は、この「卒業研究Ⅰ」の単位を修得していることが履修条件となる。
履修希望者への要望・事前準備	4年間の学生生活最後の課題であり、集大成の作品としての完成度を目指すこと。 「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」を通して全体の計画を考え、推進すること。
実務経験を活かした授業	各研究室では専門性の高い実務経験豊かな教員によって授業を行う。

科目名	卒業研究Ⅱ プロダクトデザイン学科
学年	4
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	金石 浩一、金澤 孝和、金山 正貴、菊池 加代子、◎齋藤 和彦、境野 広志、鈴木 均治、土田 知也、増田 譲
授業の概要及びテーマ	個人又は共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「研究論文」又は「論文及び制作」を行う。 ・ その内容と規模は、それまでの学習を集大成するものであること。 ・ 「卒業研究Ⅰ」と連続したテーマであること。
達成目標	・ これまで学んだことを十分に発揮した作品であること。 ・ 提案においては、既存のものにはみられない「新しさ」を感じさせること。 ・ 本人の意図が第三者に 100%伝わり、かつ美しいものであること。 ・ 簡潔で制作意図が伝わる効果的なプレゼンテーションを行うこと。 ・ これらの達成度によって、卒業修了作品展への出品を判断する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	詳細は別途資料配布予定。コース／研究室毎に異なるため、詳細は指導教員より指示を受けること。 チェック・審査は学科全体で行う。 01 期初に最終成果物のデザイン・制作スケジュールなどを全体発表・確認 02～11 各研究室単位でスケジュールに基づき制作・進捗状況チェック 12 全体進捗状況チェック 13 完成度チェック・パネル制作 14 プレゼンテーションリハーサル 15 研究発表・審査
成績評価基準	研究のプロセス、成果物の完成度をもとに、履修態度などを勘案し、総合的に判断する。
出席・遅刻の基準	各研究室でルールを設定する。
テキスト(教科書)	各研究室で必要に応じて指示する。
参考書・参考資料等	授業時に各研究室より、必要に応じ指示または配布する。
用具	
履修制限等	「卒業研究Ⅰ」を修得済みであることが条件となる
履修希望者への要望・事前準備	大学生活の集大成として、自身の代表作となるようなクオリティの高い作品づくりを目指すこと。 外注による制作も可とするが、事前の日程調整など確実に行い、完成時期に支障が出ないよう推進すること。
実務経験を活かした授業	各研究室では専門性の高い実務経験豊かな教員によって授業を行う。

科目名	視覚コンピュータ基礎演習
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	金 ボンス、◎徳久達彦、ヨールグ ビューラ、平原 真、真壁 友
授業の概要及びテーマ	コンピュータはコミュニケーションの道具として欠かせないものであり、学内での掲示連絡手段としても活用されている。この授業では大学生活に必要な基本的なコンピュータの操作から始まり、自分のパソコンをデザイン道具として使う為の基本を、業界標準となっているソフトウェアを使い練習していく。簡単な図形を描くことから始まり、写真の加工や実際にデザインを行える技術と伝えるための方法へと発展させる。
達成目標	・ コンピュータの基本的扱いを理解できる。 ・ Illustrator、Photoshop の基本操作を習得できる。 ・ 情報のレイアウトの基本について理解できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 Illustrator の基本操作 1 02 Illustrator の基本操作 2 03 Illustrator の基本操作 3 04 Illustrator の基本操作 4 05 Illustrator の基本操作 5 06 Illustrator の基本操作 6 07 Illustrator の基本操作 7 08 Photoshop の基本操作 1 09 Photoshop の基本操作 2 10 Photoshop の基本操作 3 11 Photoshop の基本操作 4 12 Illustrator+PhotoShop の連携 13 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 1 14 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 2 15 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 3
成績評価基準	提出物および小テストなどにより評価。 提出遅れは最終評価より減点。 ※ 未提出があると単位取得は難しいと考えてください。
出席・遅刻の基準	なし。
テキスト(教科書)	授業時に資料を配付する。
参考書・参考資料等	授業中に適時指示
用具	Adobe CC をインストールしたノートパソコン
履修制限等	なし
履修希望者への要望・事前準備	遠隔で授業を行うが、質問がある人は実際に PC を持ってきて直接質問できる教室を用意する。 授業録画は基本的に公開せず、事情がある場合のみ限定的に公開する。 この授業では資料を見て各自で実際にコンピュータを操作して学習する。 授業では補足説明と質問を受け付ける形での進行を基本とする。 不明な点は積極的に質問する姿勢を望む。 ※授業開始時に重要な説明を行う事が多いため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となります。
実務経験を活かした授業	コンピュータを使ったデザイン経験のある教員が、ソフトウェアの基本的な使い方を指導する。

科目名	基礎造形実習Ⅱ(描写) 視覚デザイン学科	
学年	1	
開講期	後期	
必修/選択	必修	
授業形態	実習	
単位数	2	
担当教員	履修ガイド参照	
授業の概要及びテーマ	前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。 デッサンをテーマとする。ここで言うデッサンは、対象を的確に捉え自分の手で再現することである。モチーフを反復して描き、学習効果を高める。	
達成目標	クロッキーで人物を的確に捉えることができる。 模写により、画家が人物をどのように捉えたかを理解することができる。 デッサンで、画面内に人物が量感を持って存在しているように捉えることができる。	
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業	
授業計画	01 デッサン1-1「友人を描く1」 クロッキー1 02 デッサン1-2「友人を描く1」 クロッキー2、講評会 03 デッサン1-3「友人を描く1」 模写1 04 デッサン1-4「友人を描く1」 模写2、講評会 05 デッサン1-5「友人を描く1」 制作1 06 デッサン1-6「友人を描く1」 制作2 07 デッサン1-7「友人を描く1」 制作3 08 デッサン1-8「友人を描く1」 制作4、講評会 09 デッサン2-1「友人を描く2」 クロッキー1 10 デッサン2-2「友人を描く2」 クロッキー2、講評会 11 デッサン2-3「友人を描く2」 模写、講評会 12 デッサン2-4「友人を描く2」 制作1 13 デッサン2-5「友人を描く2」 制作2 14 デッサン2-6「友人を描く2」 制作3 15 デッサン2-7「友人を描く2」 制作4、講評会	
成績評価基準	各課題内容で評価する。 ※ 遅刻・欠席は最終評価より減点します。	
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。 授業開始 20 分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。 遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。 出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。 遠隔授業時は作品の提出をもって出席とします。 遠隔授業の場合は Zoom のログで出欠確認を行います。	
テキスト(教科書)		
参考書・参考資料等	回の内容に応じ配付及び指示します。	
用具		
履修制限等		
履修希望者への要望・事前準備	必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。	
実務経験を活かした授業	グラフィックデザイン、イラストレーションなどの実践経験のある教員が、その経験を活かしてデッサンを指導する。	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(造形) 視覚デザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。 グラフィックを中心テーマとする。文字のバランス、グラフィックにおける基本図形の扱いのトレーニング、写真の撮影を行う。
達成目標	文字を書くときに最も大切な「バランスを保つこと」ができる。 グラフィックにおける基本図形の扱い・効果を理解し、活用することができる。 図を単純化しながら、的確で効果的にヴィジュアルコミュニケーションできる。 写真撮影の基礎技術を理解することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 グラフィック1-1 視覚調整1 02 グラフィック1-2 視覚調整2 03 グラフィック1-3 視覚調整3 04 グラフィック1-4 視覚調整4、講評会 05 グラフィック1-5 グラフィック・トレーニング1-1 06 グラフィック1-6 グラフィック・トレーニング1-2 07 グラフィック1-7 グラフィック・トレーニング1-3 08 グラフィック1-8 グラフィック・トレーニング1-4、講評会 09 グラフィック1-9 グラフィック・トレーニング2-1 10 グラフィック1-10 グラフィック・トレーニング2-2 11 グラフィック1-11 グラフィック・トレーニング2-3 12 グラフィック1-12 グラフィック・トレーニング2-4、講評会 13 写真「キュービエの撮影」1 14 写真「キュービエの撮影」2 15 写真「キュービエの撮影」3
成績評価基準	各課題内容で評価する。 ※ 遅刻・欠席は最終評価より減点します。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。 授業開始 20 分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。 遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。 出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。 遠隔授業時は作品の提出をもって出席とします。
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	回の内容に応じ配付及び指示します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。
実務経験を活かした授業	グラフィックデザインや写真撮影の実践経験のある教員が、その経験を活かして、平面構成、タイポグラフィ、写真撮影を指導する。

科目名	基礎造形実習Ⅱ(素形材) 視覚デザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。 写真、映像をテーマとする。携帯電話、小物の撮影で写真撮影の基礎技術を修得し、短い映像作品の制作で映像撮影・編集の基礎技術を修得する。
達成目標	写真撮影の基礎技術を理解し、実践することができる。 映像撮影・編集の基礎技術を理解し、実践することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 写真「キュービースの撮影」4 02 写真「キュービースの撮影」5、講評会 03 写真「ライティングの応用」1 04 写真「ライティングの応用」2 05 写真「ライティングの応用」3 06 写真「ライティングの応用」4 07 写真「ライティングの応用」5、講評会 08 映像「1分の曲をつくる」1 09 映像「1分の曲をつくる」2、講評会 10 映像「1分の映像をつくる」1 11 映像「1分の映像をつくる」2 12 映像「1分の映像をつくる」3 13 映像「1分の映像をつくる」4 14 映像「1分の映像をつくる」5 15 映像「1分の映像をつくる」6、講評会
成績評価基準	各課題内容で評価する。 ※ 遅刻・欠席は最終評価より減点します。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。 授業開始 20 分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。 遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。 出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。 遠隔授業時は作品の提出をもって出席とします。
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	回の内容に応じ配付及び指示します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。
実務経験を活かした授業	写真・映像作成の実践経験のある教員が、その経験を活かして、写真撮影、映像制作を指導する。

科目名	基礎造形実習Ⅱ(デザイン) 視覚デザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。 グラフィック2では基本的なタイポグラフィ(文字間調整)を学び、グラフィック3では出題されたテーマから発想し、ビジュアルと言葉で構成したポスターを制作する。
達成目標	様々な書体の成り立ちや特性を理解し、意図的に文字と文字の間隔を調整することができる。 与えられたテーマに対して各自の視点で魅力的な形を探り、ポスターに落とし込むことができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 グラフィック2-1 欧文スペーシング1 02 グラフィック2-2 欧文スペーシング2 03 グラフィック2-3 欧文スペーシング3 04 グラフィック2-4 欧文スペーシング4、講評会 05 グラフィック3-1 ポスター1 06 グラフィック3-2 ポスター2 07 グラフィック3-3 ポスター3 08 グラフィック3-4 ポスター4 09 グラフィック3-5 ポスター5 10 グラフィック3-6 ポスター6 11 グラフィック3-7 ポスター7 12 グラフィック3-9 ポスター8 13 グラフィック3-9 ポスター9 14 グラフィック3-10 ポスター10 15 グラフィック3-11 まとめ
成績評価基準	各課題内容で評価する。 ※ 遅刻・欠席は最終評価より減点します。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。 授業開始20分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。 遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。 出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。 遠隔授業時は作品の提出をもって出席とします。
テキスト(教科書)	デザインの色彩、PCCS Harmonic Color Chart
参考書・参考資料等	回の内容に応じ配付及び指示します。
用具	B2 パネル(貸与)、平面構成用具
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。
実務経験を活かし た授業	グラフィックデザインの実践経験のある教員が、その経験を活かして、タイポグラフィ、グラフィック制作を指導する。

科目名	視覚コンピュータ I
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎金 ボンス、ヨールグ ビューラ、真壁 友、平原 真
授業の概要及びテーマ	この演習は前期の視覚コンピュータ基礎演習からの続きとなります。前期では Adobe Illustrator と Photoshop の基本操作を習得しました。この演習ではそれらの技術をデザインで使える技術とするためにトレーニングを行います。また単にコンピュータの操作だけではなく、情報の整理、レイアウトの基本といったデザインを構成する上で必要になる項目を学びます。この授業はコンピュータのソフトウェアの使い方を学ぶだけではなく反復的なトレーニングを通してデザインに必要な基礎技術の習得を目的とします。
達成目標	Adobe Illustrator を使い正確な作図が出来る。 Adobe Photoshop を使い正確な作業が出来る。 ロゴマークや文様等、割り出し図を理解し、作図出来る。 様々な情報を含む紙面のレイアウトの基礎を理解する。 印刷についての基礎を理解する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 ロゴの作図 1 02 ロゴの作図 2 03 ロゴの作図 3 04 ロゴの作図 4 05 レイアウト・情報の整理 1 06 レイアウト・情報の整理 2 07 レイアウト・情報の整理 3 08 レイアウト・情報の整理 4 09 解像度 1 10 解像度 2 11 パッケージ 1 12 パッケージ 2 13 パッケージ 3 14 パッケージ 4 15 パッケージ 5
成績評価基準	課題提出により評価 ※ 遅れ提出、未提出は最終評価より減点します。
出席・遅刻の基準	なし。
テキスト(教科書)	適宜授業で配付します。
参考書・参考資料等	適宜指示します。
用具	Adobe CC がインストールされているノートパソコン
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	遠隔授業を受講できる環境整備が必要です。 毎回の授業でノートパソコンを使います。
実務経験を活かした授業	コンピュータを使ったデザイン経験のある教員が、Illustrator と Photoshop でのデザイン作業の基礎を指導します。

科目名	視覚デザイン基礎演習Ⅰ
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	阿部充夫、天野 誠、池田亨史、◎吉川賢一郎、金 ボンス、徳久達彦、長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、平原 真、真壁友、松本明彦、水川 毅、御法川哲郎、山田博行、山本 敦、迫 一成、さとうりさ、古屋貴広、三田村光土里
授業の概要及びテーマ	視覚表現の基礎となるアイデアと発想に重点を置く。またその発想をどのように具体化して伝えるかを学び、後期の演習に備える。1年次に修得した造形の知識と技術を活かし、視覚デザインに必要な思考（主にアイデアの抽出）に焦点をあてて視覚によるコミュニケーション能力の向上を目指す。
達成目標	・ 課題の指示を正確に読み取り作品制作ができる。 ・ 作品発表に際して、制作意図を十分に伝えられる。 ・ スケジュール管理をし、課題作品提出締め切りまでに作品を仕上げる事ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 第1課題出題、導入 02 アイディアチェック 制作 03 中間チェック 04 講評 05 発表、全体講評、提出 06 第2課題出題、導入 07 アイディアチェック、制作 08 中間チェック 09 講評 10 発表、全体講評、提出 11 第3課題出題、導入 12 アイディアチェック、制作 13 中間チェック 14 講評 15 発表、全体講評、提出 視覚デザイン基礎演習Ⅱへの導入 ＊状況などによって計画が変更される場合があります。
成績評価基準	・ 提出課題作品（途中チェック含む）、授業参加態度・制作姿勢で評価。 ・ 最終提出物、途中提出物が締め切りを過ぎた場合は或未提出の場合は、最終評価から減点します。 ・ 遅刻・欠席は最終評価より減点されます。 ・ 全課題提出してください。 ・ 最終成果物の評価が悪くても途中提出や発表を行っていないと大きく減点になる場合があるので注意してください。
出席・遅刻の基準	・ 出席は開始時間から終了時間まで教室で授業を受けることです。 ・ 授業開始 20 分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。 ・ 基本的に休んで良い日はありません。 ・ 遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。 ・ 特別な理由がない限り、出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。
テキスト（教科書）	適宜指示します。
参考書・参考資料等	適宜指示します。
用具	適宜指示します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業終了時に指示された、次回までに行うべき調査等や自学自習内容をメモし準備してください。遅刻厳禁、課題提出日厳守とします。
実務経験を活かした授業	

科目名	視覚コンピュータⅡ
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	天野 誠、徳久達彦、◎真壁 友、矢尾板和宣
授業の概要及びテーマ	デザインにはコンピュータを使った作業が必ず必要です。コンピュータ、ソフトウェアを使わずに作業を行うことはほぼ不可能と言っても良い状況です。またその使われ方、用途は多岐にわたります。この演習ではそのコンピュータを使った作業の広がりを体験し、また作業の精度を高めていくことを目的とします。 すでに1年生の演習で Adobe Illustrator と PhotoShop の基本的な使い方を学びました。この演習ではそこからの発展としてモーショングラフィック、組版、web デザイン、3D CAD の基礎を学びます。
達成目標	モーショングラフィック作成の基礎を理解する。 日本語組版の基本を理解する。 InDesign の基本操作を身につける。 情報を整理したレイアウトが行える。 web ページのレイアウト、ユーザーインターフェースの基礎について学ぶ。 3D CAD (Fusion360) の基本的な扱いを学び、単純な図形の作り方を身につける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	1 ガイダンス・モーショングラフィック(1) 2 モーショングラフィック(2) 3 モーショングラフィック(3) 4 InDesign(1) 5 InDesign(2) 6 InDesign(3) 7 InDesign(4) 8 InDesign(5) 9 web デザイン(1) 10 web デザイン(2) 11 web デザイン(3) 12 web デザイン(4) 13 3D CAD(1) 14 3D CAD(2) 15 3D CAD(3)
成績評価基準	提出作品により評価します。 ※細かい課題も提出漏れないように注意してください。 ※ 未提出、提出遅れは最終評価より減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業中に配付します。
参考書・参考資料等	適宜指示する
用具	必要なソフトウェアをガイダンスで指示します。それらのソフトウェアを事前に各自インストールしておくこと。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	1 年次のコンピュータの授業からの延長になりますが取り扱う内容が高度になります。コンピュータの基本操作、Adobe Illustrator や Photoshop といったツールを使える事が授業の前提になります。精密な作業を継続して行う作業になります。欠席すると授業進行についてこれなくなる可能性があります。充分注意すること。
実務経験を活かした授業	コンピューターを使ったエディトリアルデザインおよび web デザイン経験のある教員が、ソフトウェアの基本的な使い方から媒体の特性にあわせたデザイン制作を指導する。

科目名	視覚デザイン基礎演習Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	阿部充夫、天野 誠、池田享史、吉川賢一郎、金 ボンス、◎徳久達彦、長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、平原 真、真壁友、松本明彦、水川 毅、御法川哲郎、山田博行、山本 敦、迫 一成、さとうりさ、古屋貴広
授業の概要及びテーマ	視覚デザイン基礎演習Ⅰで学んだことをさらに発展させる。視覚表現の基礎となるアイデアと発想に重点を置き、またその発想をどのように具体化して伝えるかを中心に据えながら3年次の演習へ発展させるための導入として、伝達デザイン・表現デザインに関わる具体的な課題制作にも取り組む。
達成目標	・ 課題の指示を正確に読み取り作品制作ができる。 ・ 作品発表に際して、制作意図を十分に伝えられる。 ・ スケジュール管理をし、課題作品提出締切りまでに作品を仕上げる事ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01～07 第一課題（選択） 08～14 第二課題（選択） 15 ポートフォリオ制作について ※状況などによって計画が変更される場合があります。
成績評価基準	・ 提出課題作品（途中チェック含む）、授業参加態度・制作姿勢で評価。 ・ 最終提出物、途中提出物が締め切りを過ぎた場合は或未提出の場合は、最終評価から減点します。 ・ 遅刻・欠席は最終評価より減点されます。 ・ 全課題提出してください。 ・ 最終成果物の評価が良くても途中提出や発表を行っていないと大きく減点になる場合があるので注意してください。
出席・遅刻の基準	・ 出席は開始時間から終了時間まで教室で授業を受けることです。 ・ 授業開始 20 分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。 ・ 基本的に休んで良い日はありません。 ・ 遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。 ・ 特別な理由がない限り、出欠席の異議は授業終了後は受け付けません。
テキスト（教科書）	適宜指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業終了時に指示された、次回までに行うべき調査等、自学自習内容をメモし準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。
実務経験を活かした授業	

科目名	視覚デザイン論
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	阿部充夫、天野 誠、池田 享史、◎吉川賢一郎、金 ボンス、徳久達彦、長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、平原 真、真壁友、松本明彦、水川 毅、御法川哲郎、山田博行、山本 敦
授業の概要及びテーマ	造形における基礎の応用を学び、視覚デザイン領域の基礎から専門を学び始める2年生後期のこの時期は、3年生での専門知識や技術を繋げるためにも重要な時期と言える。本授業では、視覚デザイン領域教員の講義を通して、3年生で各自が学ぶ専門領域を明確にすると共に、今後の研究や将来の方向性の指針を見つけ出すことを目的とする。
達成目標	視覚デザインは社会や経済の動向と密接に関わりを持つものである。デザインの現場にいる各教員の専門分野がどのように社会に関わっているかを理解し、各自の目指すデザイン領域は何か、そのデザイン領域でどのようなアプローチが必要であるかを深く考察する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 視覚デザイン学科教員によるディスカッション 02 広告・グラフィックデザイン / 池田 03 映像表現 / ビューラ 04 写真表現 / 松本 05 写真と映像の間で / 山田 06 デジタル / 真壁 07 広告・情報デザイン / 水川 08 エディトリアル / 天野 09 シンボル / 金 10 グラフィック表現 / 御法川 11 コミュニケーションデザイン / 徳久 12 広告写真 / 阿部 13 私が考えるデザイン / 長瀬 14 ブランディング / 山本 15 ビジュアルコミュニケーションデザイン / 吉川 ※ 授業テーマ、担当教員の順番が変更する場合があります。
成績評価基準	受講態度と期末レポートで成績を評価します。期末レポートは締切期限までに必ず提出してください。 期末レポート採点基準： ①引用の羅列で終わるのではなく、自分なりの視点で自分の考えを述べることができる ②対象を深く掘り下げて調査・分析することができる ③他者に自分の考えが分かりやすく伝わるよう努力している
出席・遅刻の基準	履修ガイドに準ずる。毎回の授業の出席はClassroomで出席確認を行います。もしも、何らかのトラブルがあり理由があり出席確認を忘れた場合は、1週間以内に授業担当に連絡をしてください。zoomのログを確認しています。Classroomで出席となってもログが確認されない場合は欠席となります。
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	視覚デザインの各専門領域において経験豊かな教員陣が、「教員」としてだけでなく「クリエイティブの世界の先輩」という立場から、これらの講義を通して、視覚デザイン学科の2年生が3年次におけるコース選択やゼミⅠ・ゼミⅡの履修選択、就職活動や卒業研究の参考とし今後活かせるよう講義を行う。学生たちには、授業中に教員に質問をするなど積極的に参加することを望む。
実務経験を活かした授業	グラフィック、広告、WEB、イラストレーション、ブランディング、CI・VI、エディトリアル、映像、写真など実務経験を有する専門教員が担当する。

科目名	写真
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	阿部充夫、◎松本明彦、南雲暁彦
授業の概要及びテーマ	ストロボを使用したスタジオライティングを学ぶ。物撮り、ポートレート両方に取り組む。
達成目標	スタジオでストロボを使った物撮り、ポートレートの基本的な撮影ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 カメラ、絞り、シャッタースピード、ISO 感度、WB など基礎知識 復習 02 スタジオ機材、ストロボ、露出計の取り扱い説明 03 物撮り基本ライティング 04 物撮り応用 05 撮影実習 06 撮影実習 07 ポートレート基本ライティング 08 ポートレート応用ライティング 09 撮影実習 10 撮影実習 11 撮影実習 12 A4 チェック 13 B2 貼り合わせカラープリントチェック 14 B2 最終プリントチェック、講評会 15 講評会
成績評価基準	課題 80% 積極性など授業態度 20%
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	適宜指示する
参考書・参考資料等	
用具	大学からデジタル一眼レフカメラを貸し出しますが、機種によっては、自前のデジやレンズ交換式ミラーレスカメラでの履修も可能です。教員に相談をして下さい。
履修制限等	履修者の定員は 60 名となります。 定員を超えた場合は、抽選または GPA により履修者を決定します。
履修希望者への要望・事前準備	写真業界のみならず、デザイン業界でも今や写真は必須メディアです。 将来写真方面へ進みたい学生はもちろん、アートディレクター、デザイナーとして、写真を使い、カメラマンと一緒に仕事をしたい学生も、積極的に受講してください。「写真」で学んだ知識と技術は、AD、D として自分の指示や希望を出したり、P、C の意図を読み取ったりする時に、必ず役に立つでしょう。
実務経験を活かした授業	写真のプロとして実践経験のある教員が、それを活かして、写真撮影を指導する。

科目名	描写基礎
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	長瀬公彦、◎御法川哲郎、伊藤彰剛、羽川幸一
授業の概要及びテーマ	この演習では、木炭やコンテを使用し、目の前の対象を画面上に描きとらえる（認識・把握する）作業を行う。目的は、描く行為によるヴィジュアルコミュニケーション能力を高めることである。自分が見ている対象がどのようなものなのかを、描いて他者に伝える。その際、見たものを的確に他者に伝えるためには、的確に描かなければならない。的確に描くためにはトレーニングが必要となる。1年次の基礎造形実習での描く作業による成果を基に、さらにトレーニングを積み重ねる。1年次に学習した内容を再確認し、さらに1段上の力の獲得を目指す。また美術史の巨匠を参考にし、対象のとらえ方・技術を学ぶ。
達成目標	目の前の対象を、紙の上に的確に描きとらえる力を獲得する。 美術史の巨匠から、対象のとらえ方・技術を吸収する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、課題1「風景/木炭」模写の制作1 02 課題1「風景/木炭」模写の制作2、講評会 03 課題1「風景/木炭」制作1 04 課題1「風景/木炭」制作2 05 課題1「風景/木炭」制作3、講評会 06 課題2「静物/木炭もしくは白・黒コンテ」模写の制作1 07 課題2「静物/木炭もしくは白・黒コンテ」模写の制作2、講評会 08 課題2「静物/木炭もしくは白・黒コンテ」制作1 09 課題2「静物/木炭もしくは白・黒コンテ」制作2 10 課題2「静物/木炭もしくは白・黒コンテ」制作3、講評会 11 課題3「モデルを描く/木炭もしくは白・黒コンテ」模写の制作1 12 課題3「モデルを描く/木炭もしくは白・黒コンテ」模写の制作2、講評会 13 課題3「モデルを描く/木炭もしくは白・黒コンテ」制作1 14 課題3「モデルを描く/木炭もしくは白・黒コンテ」制作2 15 課題3「モデルを描く/木炭もしくは白・黒コンテ」制作3、講評会
成績評価基準	各課題内容で評価する。 実際に手を動かして制作に当たる時間が重要であるため、欠席は1回ごとに減点とする。
出席・遅刻の基準	実際に手を動かして制作に当たる時間が重要であるため、欠席は1回ごとに減点とする。
テキスト(教科書)	初回に配付します。
参考書・参考資料等	授業内で資料を見せるが、各自図書館等で日常的に画集などを見ること。
用具	木炭、白・黒コンテ、木炭紙、画用紙、木炭紙大スケッチブック他、授業にて適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	描く能力を高めたいと考えている学生、また自分の制作に対する厳しい判断力を得たいと考えている学生は履修すること。 能力の獲得には地道なトレーニングが必要である。
実務経験を活かした授業	グラフィックデザイン、イラストレーション、絵画の実務経験のある教員が、描写能力向上のトレーニングの指導に当たる。

科目名	映像 I
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山田博行、ヨールグ ビューラ、佐藤誠二、渋谷悠、原田裕司
授業の概要及びテーマ	映像は感性だけでは撮れない。映像には原則がある。映像作品を撮るために必要な専門用語を含めた基礎知識シナリオ、構成、撮影、カメラ実習、編集、演出まで編集技法から理論と実践から編集技法まで、実践的かつ知識習得の両立した映像制作授業を展開する。個人課題およびグループ課題によるそれぞれ一つずつのテーマにもとづき映像制作をおこない、基本と応用への展開技術を習得し作品を完成させる。その作品は学生映像作品コンペに出品できるクオリティを目指す。
達成目標	時間経過におけるメディアの特性を理解し、アイデアから仕上げまでを一貫して習得する。機材の使い方、映像編集理論、基本的なサウンドコントロールを含め、基礎を習得した上で映像作品を制作できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 撮影編集基礎1 オリエンテーション・演出・構成 02 撮影編集基礎2 カメラ・三脚・データ管理 03 撮影編集基礎3 ワークフロー・編集・ライティング 04 撮影編集基礎4 録音・サウンド・ 05 <課題1>講評 06 シナリオ・ストーリーテリング1 07 シナリオ・ストーリーテリング2 08 シナリオ・ストーリーテリング3 09 シナリオ・ストーリーテリング4 10<課題2>講評 11 撮影編集技術1 及びグループ製作 12 撮影編集技術2 及びグループ製作 13 撮影編集技術3 及びグループ製作 14 撮影編集技術4 及びグループ製作 15 <課題3>講評
成績評価基準	課題 80% 積極性など授業態度 20% 理由なき遅刻は認めません。出席率が 2/3 を下回る場合は単位修得不可とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	「モノローグ集 穴」 渋谷悠 著 (論創社)
参考書・参考資料等	「映像の原則(改訂版)」 富野 由悠季 キネマ旬報社 「映像制作ハンドブック」ビデオサロン編集部 玄光社 MOOK
用具	Adobe Premiere CC
履修制限等	定員を 28 人とし、多数の場合は抽選にて履修者を決定します。
履修希望者への要望・事前準備	デジタルサイネージから SNS 上の動画広告などに代表されるように、広告やデザイン業界の現代において私たちの情報環境は動画化しているとも言えます。。将来映像方面へ進みたい学生はもちろん、アートディレクター、デザイナーとして、フォトグラファー、カメラマンといったあらゆる業種において仕事をしたい学生も、積極的に受講することを望みます。映像制作はグループで行います。グループとしての作品が評価を基準におこなうため、与えられた時間の中で制作を完了すること、スケジューリング、積極的なディスカッションを行うことも映像制作演習の目的としています。
実務経験を活かした授業	映画監督、脚本家、テレビ番組ディレクター、カメラマン、編集などの実務経験および受賞歴をもつ複数の教員によって多角的に映像制作の指導にあたります。

科目名	Webデザイン
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	徳久達彦、平原 真、◎真壁 友、沖 良矢、中西清吾、矢尾板和宣
授業の概要及びテーマ	インターネットは社会の基本的なインフラの一つとなっています。そのメディアを使い情報を発信する基本が Web です。この Web をデザインする技術が現在求められています。この授業では Web サイトを構築するために必要になる情報の整理、見せ方を学びます。また Web サイトを実装するために必要となる基本技術となる HTML と CSS のコーディングについて学びます。Dreamweaver でコード入力の基本、ファイルの種類と扱い方の基本を練習したうえで、スマートフォン向けの web ページの作り方を学びます。そして web ページの公開に必要な FTP（ファイル転送）についても扱います。これで自分の作ったサイトを全世界に向けて公開可能になります。
達成目標	与えられたテーマに沿った web サイトのデザインが行える。 HTML+CSS を使いサイトデザインの実装が行える。 FTP でファイル転送を行い、web ページの公開が行える。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 UI 分析ワークショップ1、課題1 レクチャー 02 UI 分析ワークショップ2 03 HTML+CSS の基礎1 04 HTML+CSS の基礎2 05 web 業界、事例紹介 06 様々な web 表現 07 作業 08 作業 09 提出、講評1 10 講評2 11 課題2レクチャー 12 テンプレートについて 13 作業 14 提出、講評1 15 講評2
成績評価基準	課題の狙いを理解出来ているか。課題を理解したアイデアを考えられるか。丁寧な仕上げが出来ているか。 HTML を理解し web ページを構築出来ているか。 課題毎のプレゼンテーションは必須とします。 プレゼンテーションと提出作品により評価します。 締め切り厳守。締め切り後の提出は0点となります。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	授業中に配付します。
参考書・参考資料等	ドットインストール { http://dotinstall.com }
用具	Adobe CC (Dreamweaver, Photoshop, Illustrator) FTP クライアントソフトウェア
履修制限等	定員を 79 人とし、定員を超えた場合は抽選または GPA により履修者を決定します。
履修希望者への要望・事前準備	この授業では web デザインの画面レイアウト、情報の扱い、実際にデザインを制作するコーディングまでを扱います。作業の中では AdobeIllustrator や Photoshop といったツールを当たり前使える事が授業の前提になります。
実務経験を活かした授業	web デザイン現場経験のある教員が、その経験を活かして、デザインの手法、コーディング等の指導を行う。また非常勤講師として現在 web 現場にかかわっている教員のレクチャーと講評を授業内で行う。

科目名	タイポグラフィ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎天野 誠、吉川賢一郎、阿部宏史、池田享史
授業の概要及びテーマ	タイポグラフィとは、情報伝達デザインの中で最も基本的な文字を扱う技術や知識である。具体的には、書体を選択することや字間のバランスを整えてレイアウトし、美しく効果的な紙面を作り上げる技術とそのための方法のこと。これらの技術と知識を習得することで、文字情報伝達の大切さを理解し、世の中のデザインの善し悪しを見極めることができるようになり、様々な問題を改善する力を養うことができるようになる。
達成目標	グラフィックデザイナーとして実社会で働くための、文字、文字組版に対する基礎的な知識を知ることができる。文字、文字組版の技術を修得することによって表現することができるようになる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス／レクチャーおよび映画鑑賞 02 課題1「スペーシングの基本」 03 課題2-1「紙面に文字を配置する1」 04 課題2-2「紙面に文字を配置する2」 05 課題3-1「ブックジャケットのデザイン1」 06 課題3-2「ブックジャケットのデザイン2」 07 課題4-1「グリッドシフフォーマットを使ったレイアウト1」 08 課題4-2「グリッドシフフォーマットを使ったレイアウト2」 09 レクチャー「基本書体について」 10 課題5「グリッドを活用した冊子の制作1」 11 同上 12 同上 13 同上 14 同上 15 提出 ・採点 ・返却
成績評価基準	受講態度 30%、作業プロセスおよび最終成果物（作品）70%とする。 最終成果物の評価段階は以下の通り。 B評価：文字の基本的な扱い、「読みやすく、分かりやすい構成」ができた。 A評価：学んだことを活かし、造形的に魅力的である。 S評価：より独創的で個性を反映させている。 規定通りに作品を提出しても、欠席が著しく多い場合は単位を与えない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	必要に応じて適宜指示する。
参考書・参考資料等	参考書は必要に応じて適宜指示し、資料は配付する。
用具	筆記用具、カッターナイフ、カッターマット、三角定規セット、30cm以上の直定規。 ペーパーセメント(丸缶)、ソルベント(丸缶)。 A4判クリアファイル（40ポケットくらい）。 Adobe InDesignがインストールされているノートパソコン。 ツイザー(専用のピンセット)を使用するが、これは授業時間内に限定して貸し出す。 以下の用具は必須ではないが、これらを購入すれば、ペーパーセメントとソルベントはこちらで支給する。 ・ペーパーセメント用ディスペンサー ・ソルベント用ディスペンサー ＊ペーパーセメント：のり ＊ソルベント：溶剤 ＊ディスペンサー：専用の容器
履修制限等	定員を80名とする。定員を超えた場合は抽選で決定する。 なお初回の授業に出席者しなかった者は抽選の資格を失う。
履修希望者への要望・事前準備	多くの課題を集中して制作し、基本的には授業時間内で仕上げることを目的とするため、欠席が重なるとうまくいくのが大変なので、意欲的に取り組む学生の受講を望む。その代わり他の授業では習得できない専門的かつ感覚的なデザインの基礎力を養うことが期待できる。 用具の説明でペーパーセメントとソルベントのディスペンサー(容器)だけを購入すれば、中味は支給するとあるが、感染防止対策上の理由から、出来るだけ容器と中味が一緒になった「丸缶タイプ」を購入するのが好ましい。
実務経験を活かした授業	文字を主としたデザインの仕事に携わる教員が指導する。

科目名	映像Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎ヨールグ ビューラ、万年麻美
授業の概要及びテーマ	本授業では前半と後半に分けて、前半は最初の8週間に手書きアニメーションから3DCGまでのそれぞれの技法とキャラクターデザインについて習得する。後半は勉強した技術を使ってコンペに出品できる作品を制作する。それぞれの技術を元にした相応しい表現を経験するために2つの練習課題を指定する。9週目から自分で選んだアニメーション技術を利用しながら優れた表現を追求した作品の1本を完成する。その作品は学生アニメーションフェスティバルなどのコンペに出品できるクオリティを目指す。
達成目標	アニメーションの様々な表現を知る。 そのための必要な技術や制作方法を理解できる。 特に自分で目指した表現のために適切な実技スキルを習得できる。 制作過程に関してスケジュールを管理し、完成度の高い作品を仕上げる事ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、手書きアニメーション1、手描きアニメーション課題 02 手書きアニメーション2、手描きアニメーション課題 03 デジタルドローイングやロトスコープ、手描きアニメーション課題 04 2Dアニメーションソフトの比較、手描きアニメーション課題 05 After Effects の入門1、キャラクターデザイン課題 06 3DCGの入門1、キャラクターデザイン課題 07 After Effects の入門2、キャラクターデザイン課題 08 3DCGの入門2、キャラクターデザイン課題 09 自由作品の作業：出品のニーズの分析、アイデアと技法選択、表現スケッチ 10 自由作品の作業：表現イメージ、ストーリー、絵コンテ 11 自由作品の作業：完成した絵コンテ、ラインテスト、音響プランスケッチ 12 自由作品の作業：中間発表：アニメティック、音響プラン 13 自由作品の作業：編集、録音とオーディオ編集 14 自由作品の作業：仕上げ、コンペやフェスティバル情報 15 自由作品の発表と講評
成績評価基準	練習課題1と練習課題2、出品作品、3つの作品80%、積極性など授業態度20%。 提出課題作品は「講評会」の際、評価されます。
出席・遅刻の基準	原則として履修ガイドの通り 出席が2/3を下回る場合は単位を与えません
テキスト(教科書)	授業で配付する
参考書・参考資料等	「アニメーションの基礎知識大百科」、"Encyclopedia of Animation Basics" 神村 幸子(かみむら さちこ)、大型本 グラフィック社 2009/9、¥3,000 そのほかは授業中に適宜指示
用具	鉛筆、消しゴム、コピー用紙 持ってる学生だけで良いが：グラフィックタブレットや駅所タブレット AdobeCCのソフトがインストールされたノートパソコンと電源アダプター
履修制限等	本授業では32人の定員を指定します。希望者が32人を超えたら次の様に選考します： (1) 2年前期に映像Ⅰもしくは描写基礎の選択授業を履修した学生を優先 (2) 他は履修アンケート、面接とポートフォリオでの判断
履修希望者への要望・事前準備	商業アニメの制作方法を含めて本格的に手で描く、もしくはソフトで制作したアニメーションとその表現を勉強したい学生を望みます。 課題と作品は授業時間内だけで制作するのは難しいですので、時間的余裕を持って臨んでください。遅刻厳禁、課題提出期限厳守。
実務経験を活かした授業	担当教員の実務経験内容に関しての第一回授業「ガイダンス」の時に説明があります。

科目名	描写表現
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	遠藤良太郎、岡谷敦魚、長瀬公彦、◎御法川哲郎、伊藤彰剛、羽川幸一
授業の概要及びテーマ	この演習では、透明水彩絵具やアクリル絵具を使用し、目の前の対象を紙の上に描きとらえる（認識・把握する）作業を行う。目的は、描く行為によるヴィジュアルコミュニケーション能力を高めることである。対象を的確に紙もしくはキャンバス上にとらえるだけでなく、美術史の巨匠の作品を観察し、対象のとらえ方・技法を学ぶ。そこでの発見を各自の制作に反映させ、対象のとらえ方・技法を拡張する。 視覚デザイン学科、美術・工芸学科の学生を対象とする。
達成目標	目の前の対象を、紙（キャンバス）の上の的確に描きとらえる力を獲得する。 美術史の巨匠の作品を観察し、各自の対象のとらえ方・技術を拡張する。
学位授与方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、課題1「風景を描く/アクリル絵具」制作1 02 課題1「風景を描く/アクリル絵具」制作2 03 課題1「風景を描く/アクリル絵具」制作3 04 課題1「風景を描く/アクリル絵具」制作4、講評会 05 課題2「風景を描く/透明水彩絵具」制作1 06 課題2「風景を描く/透明水彩絵具」制作2 07 課題2「風景を描く/透明水彩絵具」制作3、講評会 08 課題3「モデルを描く/アクリル絵具」制作1 09 課題3「モデルを描く/アクリル絵具」制作2 10 課題3「モデルを描く/アクリル絵具」制作3 11 課題3「モデルを描く/アクリル絵具」制作4、講評会 12 課題4「剥製のある静物を描く/アクリル絵具」制作1 13 課題4「剥製のある静物を描く/アクリル絵具」制作2 14 課題4「剥製のある静物を描く/アクリル絵具」制作3 15 講評会 ※視覚デザイン学科と美術・工芸学科で時間割が違うため、指導はそれぞれ別で行う。
成績評価基準	各課題内容で評価する。 実際に手を動かして制作に当たる時間が重要であるため、欠席は1回ごとに減点とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	初回に配付します。
参考書・参考資料等	授業内で資料を見せるが、各自図書館等で日常的に画集などを見ること。
用具	透明水彩絵具、アクリル絵具、B3パネル、画用紙、F10キャンバス、木炭紙大スケッチブック他、授業にて適宜指示する。 1年次に使用していた筆のみでなく、必要に応じて追加で購入が必要となります。
履修制限等	履修定員は視覚デザイン学科 50 名、美術・工芸学科 20 名とする。各学科で定員を超えた場合、視覚デザイン学科では1年次の基礎造形実習 II（描写）の成績評価上位者を優先とし、美術・工芸学科では抽選で履修者を決定する。 ＊描写実習として履修する者は、別途相談のこと。
履修希望者への要望・事前準備	描く能力を高めたい・描写技法の幅を広げたいと考えている学生、また自分の制作に対する厳しい判断力を得たいと考えている学生は履修すること。
実務経験を活かした授業	グラフィックデザイン、イラストレーション、絵画の実務経験のある教員が、描写能力向上のトレーニングの指導に当たる。

科目名	サウンドデザイン
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎ヨールグ ビューラ、宇波 拓、吹田哲二郎、明石隼汰
授業の概要及びテーマ	初心者はなおざりにしがちな映像作品の音響。しかし、映像において音声トラックは作品全般にわたる本質的な表現方法です。映像の素晴らしさとは思いがけず音声で決まってゆく。本授業ではまず、撮影現場での失敗の無い録音方法とその為に必要な考え方を学びます。次に、レコーディングスタジオでのナレーションや効果音とアフレコの技術、効果音制作におけるそれぞれの音の種類別の扱い方と映像の完パケにいたるまでに必要不可欠な音響技術を習得します。更に、映像用の音楽の作曲方法も本授業で学べます。 なお、内容を習得するために各学生は全期の「映画課題」と3つのそれぞれの専門課題を提出する事が必要ですが制作の方、グループワークも行います。
達成目標	この演習では映像に関するオーディオのそれぞれの種類の扱い方を学ぶことができます。技術や操作の解説も沢山ありますが、主に自分の作品を製作しながら必要な知識を習得できます。きちんとスケジュール管理をし提出締め切りまでに作品を仕上げる事ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス：授業の構成とスケジュール、教員紹介、全期の「映画課題」の説明 02 集音技術：現場での録音技術（環境音と会話）、専門課題1「録音」 03 MA スタジオ技術：フォリ、効果音、聴覚理論、専門課題1「録音」 04 整音+編集（Adobe Audition の入門）、専門課題1「録音」の中間チェック 05 作曲概論、Midi キーボード+GarageBand での作曲、専門課題2「作曲」 06 Midi キーボード+GarageBand での作曲、専門課題2「作曲」 07 専門課題2「作曲」の中間チェック 08 映画音楽の概論、専門課題3「音響作品」 09 サウンドトラック編集（Adobe Audition）、専門課題3「音響作品」 10 専門課題3「音響作品」の中間チェック 11 整音、アフレコ（Adobe Audition）、「映画課題」 12 GarageBand 作曲、「映画課題」 13 編集：Audition、「映画課題」 14 全体ミックス、書き出し：Audition、「映画課題」 15 「映画課題」の発表と講評
成績評価基準	受講態度と提出作品を評価（受講姿勢 20%、提出作品 80%） 提出課題作品は「講評会」の際、評価されます
出席・遅刻の基準	原則として履修ガイドのとおり グループ単位で撮影隊を組み、授業時間外に撮影を行います。グループ内でスケジュール管理が必要になります。
テキスト（教科書）	授業時にプリントを配付する
参考書・参考資料等	授業中に適宜指示
用具	ノートパソコン、GarageBand と AdobeCC ソフトの最新版 学生と講師の質問やり取りは、クラスルームの「ストリーム」を経由する 用意出来れば MIDI キーボード
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	4 課題の提出課題量も厳しくて、グループワークを含めて積極的な制作姿勢を望みます。アルバイトのシフトはグループで相談してから決めてください。 定時に入室すること。それぞれの課題提出は、締め切りを守ること。 実際に音声や音響、音楽の演習を学びたいのであればデザイン分野は問わない。ただし、映像サウンドトラックの扱い方を優先します。
実務経験を活かした授業	

科目名	コマーシャル演習
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山田博行、下地隆司、水川 毅
授業の概要及びテーマ	「環境問題」「コミュニケーション」「公共マナー・モラル」など現代社会が抱えている問題はさまざまです。これらの問題に対してメッセージと情報デザインの掛け合わせにより広告映像を研究します。 授業は2グループ制とします。 映像制作グループは、各自によるテーマ設定・メッセージデザイン・企画コンテ（実写・アニメーション）の制作成果から、教員の審査によって映像化する作品を複数選出し、2～4名1チームとし、30秒の映像制作をグループで行います。各自の役割をしっかりと果たすためのコミュニケーション力とチームワークが現場同様に求められます。制作作品はAC学生広告賞へ応募します。 企画グループは、前半5回は公共広告映像の研究をします。その後6回以降は新潟県企業のテレビCM企画をし、そのプレゼンテーションと講評を繰り返すことで絵コンテ上の企画意図とそれを伝える表現技術を習得します。最後の2回は映像制作グループの試写に参加します。
達成目標	< 映像制作グループ > ・ 公共広告のコマーシャルを企画～撮影～編集まですることでクリエイターとしての意識、自信を体得できる。 ・ グループ作業を通して社会の現場で必要とされる協調性、コミュニケーション力を身につける。 ・ 制作側ではなく視聴者の側にたった映像を追求することによりコマーシャルフィルムの本質を理解する。 < 企画グループ > ・ テレビCMを実施すべき商材、サービスの取捨選択が出来るようになる。 ・ テレビCMの企画意図がターゲットユーザーの思考、行動インサイトの仮説から導き出せるようになる ・ SNSなど新しいメディアと連携したテレビCM企画が立てられるようになる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	< 映像制作グループ > 01 授業オリエンテーション 02 公共広告テーマのとらえ方 03 プランニング 04 プレゼンテーション 05 企画から制作へ 06 グループ作業 ビデオコンテ制作 07 グループ作業 香盤表制作 08 グループ作業 09 グループ作業 10 撮影～編集 制作作業と修正案の検討 1 11 撮影～編集 制作作業と修正案の検討 2 12 撮影～編集 制作作業と修正案の検討 3 13 タイトルとサウンド 応募用 企画意図・コンセプト制作 14 全体試写 15 公開試写 < 企画グループ > 01 授業オリエンテーション 02 公共広告テーマのとらえ方 03 プランニング 04 プレゼンテーション 05 企画から制作へ 06 新潟県企業のテレビCM企画（絵コンテ発表と講評） 07 新潟県企業のテレビCM企画（絵コンテ発表と講評） 08 新潟県企業のテレビCM企画（絵コンテ発表と講評） 09 新潟県企業のテレビCM企画（絵コンテ発表と講評） 10 新潟県企業のテレビCM企画（絵コンテ発表と講評） 11 新潟県企業のテレビCM企画（絵コンテ発表と講評） 12 新潟県企業のテレビCM企画（絵コンテ発表と講評） 13 新潟県企業のテレビCM企画（絵コンテ発表と講評） 14 全体試写参加 15 公開試写参加
成績評価基準	課題作品 70%、授業参加態度・制作姿勢 30% 出席率が 2/3 を下回る場合は単位修得不可とする。 授業態度では授業に取り組む姿勢、課題ではアイデアと作品・提出物の仕上がり、質により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	「表現の技術：グッとくる映像にはルールがある」 高崎卓馬／著 電通

用具	
履修制限等	定員は 50 人とし、多数の場合は抽選にて履修者を決定し、学生の希望によりグループ分けを行います。 映像制作グループは、映像Ⅰ、映像Ⅱ のいずれかの単位修得者、及びそれと同等のスキルもつ者を対象とします。映像における演出設計、撮影編集、もしくはアニメーション制作の基本的能力を必須とします。上限を 28 人とします。企画グループは、特に受講条件はありません。
履修希望者への要望・事前準備	ACジャパンのホームページより受賞作品を見て「人の心を動かす広告とは・・・」を研究しておいてください。7月に事前ガイダンスを開催するので、受講希望者は参加必須。
実務経験を活かした授業	広告映像のプランナー、監督および撮影監督の実務経験を現在まで携わってきた教員たちがコマーシャル映像や公共CMの役割と構成の考え方、メッセージとデザインの関係性を指導する。

科目名	伝達デザイン演習 I
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、池田 享史、吉川賢一郎、金 ボンス、水川 毅、山田博行、相澤千晶、石川竜太、藤富正彦、角田 誠、溝口俊哉、佐野公康、サトヒロ、小川凛一
授業の概要及びテーマ	社会・企業・地域・家族または商品・サービス等はさまざまな問題を抱えている。伝達デザイン演習では、それらの問題を抽出し、今までとは異なる視点でコンセプトを描き上げ、視覚によるコミュニケーション（伝達）に焦点をあてて、問題が解決できるようなツールを制作する。扱う分野としては、広告、VI、エディトリアル、web、インフォグラフィックス、コマースフィルム、広告写真、パッケージデザイン、商品企画・開発等々多岐にわたるが、それらを複合的に取り上げて演習を行う。
達成目標	・ 視覚的なアプローチで問題解決に当る際に、課題解決に先立って問題の発見が先ず重要となる。そのための調査研究をどのように行ったかを論理的に展開できることを目標とする。 ・ ターゲットのインサイトを捉えた新しい視点による創造的問題解決の達成と、より仕上げるにこだわるダミー制作の達成を目標とする。 ・ また他者にモノやコトを伝えるための効果的なプレゼンテーション能力を身につけることも目標に据える。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 第1課題出題 デザインチェック 制作 02 デザインチェック 制作 03 発表、講評、提出 04 第2課題出題 05 デザインチェック 制作 06 デザインチェック 制作 07 デザインチェック 制作 08 発表、講評、提出 09 第3課題出題 10 デザインチェック 制作 11 デザインチェック 制作 12 デザインチェック 制作 13 発表、講評、提出 14 第3課題出題 15 発表、講評、提出
成績評価基準	提出課題作品 70%、授業参加態度・制作姿勢 30% 課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業終了時に指示された次回までに調査等、自学自習内容を準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。
実務経験を活かした授業	相澤千晶：東京にてフリーランスのグラフィックデザイナーとして活躍。』ブランディング・商品デザイン・新聞広告などグラフィックデザインの最前線で活躍。 石川竜太：新潟市内にて(株)フレームを主宰。ブランド開発、広告制作、C.I・V.I計画、SPなど、デザイン全般にあたる。JAGDA 賞、日本タイポグラフィ年鑑グランプリ、Pentawards 『platinum』、ほか多数受賞。 角田誠：元(株)電通クリエイティブディレクター。TCC 新人賞、ACC 賞、CLIO 賞、朝日広告賞、広告電通賞など多数受賞。 藤富正彦：元(株)電通クリエイティブディレクター、現在電通 3CRP 局シニア社員として勤務。ニューヨークフェスティバル金賞、ニューヨーク ADC 特別賞、アジアパシフィックアワード最高賞、読売広告大賞最高賞など多数受賞。 溝口俊哉：(株)ロクビー代表・クリエイティブディレクター。ACC 賞、ロンドン国際広告賞入賞、日経産業新聞広告賞最優秀賞、日経広告賞グランプリなど多数受賞。 佐野公康：東京青山でデザイン事務所 influenza55 代表。広告、エディトリアル、装丁、ブランディング、ファッション、映像などグラフィックデザイン領域にて幅広く活動。 サトヒロ：現アマナディレクター。TVCM や WEB ムービーなど幅広い動画の企画・演出を手がける。 小川凛一：現アマナプランナー・ディレクター。TVCM や WEB ムービーなど幅広い動画の企画・演出を手がける。 専任教師は、各領域の専門の教員が担当。

科目名	伝達デザイン演習Ⅱ
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、池田 享史、吉川賢一郎、金 ボンス、水川 毅、山田博行、相澤千晶、石川竜太
授業の概要及びテーマ	伝達デザイン演習Ⅰに引き続き、社会・企業・地域・家族または商品・サービス等はさまざまな問題を抱えている。伝達デザイン演習では、それらの問題を抽出し、今までとは異なる視点でコンセプトを描き上げ、視覚によるコミュニケーション（伝達）に焦点をあてて、問題が解決できるようなツールを制作する。 扱う分野としては、広告、VI、エディトリアル、web、インフォグラフィックス、コマーシャルフィルム、広告写真、パッケージデザイン、商品企画・開発等々多岐にわたるが、それらを複合的に取り上げて演習を行う。
達成目標	・ 視覚的なアプローチで問題解決に当る際に、課題解決に先立って問題の発見が先ず重要となる。そのための調査研究をどのように行ったかを論理的に展開できることを目標とする。 ・ ターゲットのインサイトを捉えた新しい視点による創造的問題解決の達成と、より仕上げるにこだわるダミー制作の達成を目標とする。 ・ また他者にモノやコトを伝えるための効果的なプレゼンテーション能力を身につけることも目標に据える。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 第1課題出題 02 デザインチェック 制作 03 デザインチェック 制作 04 デザインチェック 制作 05 デザインチェック 制作 06 デザインチェック 制作 07 発表、講評、提出 08 レクチャー 09 第2課題出題 10 デザインチェック 制作 11 デザインチェック 制作 12 デザインチェック 制作 13 デザインチェック 制作 14 デザインチェック 制作 15 発表、講評、提出
成績評価基準	提出課題作品 70%、授業参加態度・制作姿勢 30% 課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業終了時に指示された次回までに調査等、自学自習内容を準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。
実務経験を活かした授業	非常勤の先生方は、現在実際にデザイン業務を行なっている先生方が指導する。 相澤千晶：東京にてフリーランスのグラフィックデザイナーとして活躍。『ブランディング・商品デザイン・新聞広告などグラフィックデザインの最前線で活躍。』 石川竜太：新潟市内にて（株）フレームを主宰。ブランド開発、広告制作、C.I・V.I計画、SPなど、デザイン全般にあたる。JAGDA 賞、日本タイポグラフィ年鑑グランプリ、Pentawards 『platinum』、ほか多数受賞。 また専任教員も実務経験を要する教員が指導する。

科目名	表現デザイン演習Ⅰ
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	松本明彦、徳久達彦、長瀬公彦、◎ヨールグ ビューラ、真壁友、御法川哲郎、伊藤彰剛、五島一浩、早園真己、本間 純
授業の概要及びテーマ	視覚デザイン領域における表現技法と技術を磨き、個々の持つ豊かな感性を活かして表現することを学ぶ。また、グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋げて行くことを学んで行く。その表現方法は、イラスト、写真、映像、デジタル等多岐に渡る。 また表現デザイン演習Ⅰの成果を表現デザイン演習Ⅱに繋げ、最終的にはその成果を個人の作品集にまとめ、発表をする。
達成目標	グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋げられるようになることを目的とする。その視覚デザイン表現方法は問わないが、自己完結に終わることなく、社会に向けてプレゼンテーションできるものとする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01～06 ポスター表現 07～13 アーティストの最新作 14 発表 15 展示
成績評価基準	課題 60% 積極性など授業態度 40%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	課題によって適宜指示を出す。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業は、多くの非常勤講師がいらっしゃいます。いろんな分野のいろんな先生方から、多くのことを吸収し、自分の作品に生かして行ってください。 課題スケジュールを確認した上で、自分で予定を立て、スケジュール管理をしてください。課題提出締切は厳守です。
実務経験を活かした授業	グラフィックデザイナー、イラストレーター、写真家、映像作家など、プロとして実践経験のある教員が、その経験を生かして指導する。

科目名	表現デザイン演習Ⅱ
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	松本明彦、徳久達彦、長瀬公彦、◎ヨールグ ビューラ、真壁友、御法川哲郎、大河原健太、大塚いちお、大西隆介、川上典李子、木場明義、シミズダニヤスノブ、白井里実、丸山 晶、山本裕子
授業の概要及びテーマ	視覚デザイン領域における表現技法と技術を磨き、個々の持つ豊かな感性を活かして、表現デザイン演習Ⅰで学んだことを活かしながら、より深く学んで行く。また、グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋げて行くことを学んで行く。その表現方法は、イラスト、写真、映像、デジタル等多岐に渡る。また表現デザイン演習Ⅰの成果を表現デザイン演習Ⅱに繋げ、最終的にはその成果を個人の作品集としてまとめ、発表をする
達成目標	グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋げられるようになることを目的とする。その視覚デザイン表現方法は問わないが、自己完結に終わることなく、社会に向けてプレゼンテーションできるものとする。 従って、その成果を学外に向けて、個人の作品集という形でプレゼンテーションする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 02 総合課題 03 04 ワークショップ 05～08 総合課題 09 発表 10 展示 11～13 作品集の制作 14 発表 15 展示
成績評価基準	課題 60% 積極性など授業態度 40%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業は、多くの非常勤講師がいます。いろんな分野のいろんな先生方から、多くのことを吸収し、自分の作品に生かして行ってください。 課題スケジュールを確認した上で、自分で予定を立て、スケジュール管理をしてください。課題提出締切は厳守です。
実務経験を活かした授業	グラフィックデザイナー、イラストレーター、写真家、映像作家など、プロとして実践経験のある教員が、その経験を生かして指導する。

科目名	ゼミⅠ 視覚デザイン学科
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎阿部充夫、天野 誠、池田享史、吉川賢一郎、金 ボンス、徳久達彦、長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、水川 毅、御法川哲郎、山田博行、山本 敦
授業の概要及びテーマ	4年生の卒業研究へ繋げていくことも踏まえ、広告、Web、写真、映像、イラストレーション、ブランディング、デジタル、アートプロジェクト等視覚デザイン各分野の知識・技術を、ゼミ形式で専門的により詳細に深く学んで行く。
達成目標	視覚デザイン各分野の知識・技術を専門的に身に付け、その分野での作品制作が出来る。またその経験を、次年度4年次の卒業研究に活かせる。インターンなどの就活のためにポートフォリオの制作も行なっていく。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	各ゼミの担当教員により授業計画は異なるので、確認すること。 (一例) 01 ポートフォリオ 02～06 課題制作 07 ポートフォリオ中間チェック 08～09 課題制作 10 講評 11～14 課題制作 15 講評
成績評価基準	課題 60% 積極性など授業態度 40%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜指事します
参考書・参考資料等	適宜指事します
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	これまで学習してきた課題を復習し、授業課題に対する各自の問題を発見しておく。 それぞれの課題におけるテーマやその目的を理解し、各々の問題解決のための方策を探り、課題に取り組む姿勢を持つこと。
実務経験を活かした授業	グラフィック、広告、WEB、イラストレーション、ブランディング、映像、写真などそれぞれ実務経験を要する専門教員が担当

科目名	ゼミⅡ 視覚デザイン学科
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	阿部充夫、天野 誠、池田享史、吉川賢一郎、金 ボンス、◎長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、徳久達彦、真壁 友、松本明彦、水川 毅、御法川哲郎、山田博行、山本 敦、池田 享史
授業の概要及びテーマ	4年生の卒業研究へ繋げていくことを踏まえ、広告、Web、写真、映像、イラストレーション、ブランディング、デジタル、アートプロジェクト等、視覚デザイン各分野の知識・技術を、ゼミ形式で専門的により詳細に深く学んで行く。またポートフォリオについても各ゼミの先生の指導により制作する。
達成目標	各視覚デザイン分野の知識、技術を専門的に身に付け、その分野での作品制作が出来る。またその経験を、次年度4年生時の卒業研究に活かせる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01～04 課題制作 05 講評 06～09 課題制作 10 講評 11～14 課題制作 15 講評 (以上はあくまで例であり、各ゼミごとに授業進行は異なる)
成績評価基準	課題 60% 積極性など授業態度 40%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	その専門分野の教員の元で、他の授業では学びきれない、より深い知識や技術をゼミⅡで学んでいきます。敢えて広く学ぶために自分の専門分野以外を選択したり、4年生の卒業研究も視野に入れ、そこに繋げていくことも考えて自分の専門分野のゼミⅡを選択するのもいいでしょう。いずれにせよ、自分の将来を見据えてゼミを選んでください。迷うようであれば、各研究室を積極的に訪ね、各教員と相談するといいいでしょう。教員は歓迎します。
実務経験を活かした授業	グラフィック、広告、WEB、イラストレーション、ブランディング、映像、写真などそれぞれ実務経験を有する専門教員が担当

科目名	卒業研究Ⅰ 視覚デザイン学科
学年	4
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	阿部充夫、天野 誠、吉川賢一郎、金 ボンス、徳久達彦、◎長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、水川毅、御法川哲郎、山田博行、山本 敦、池田 享史
授業の概要及びテーマ	個人または共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「制作および論文」または「論文」を行います。これまでの演習・実習課題と大きく異なる点は、テーマを自ら設定する点で、また研究期間も長期に及びます。これまでの三年間での学習経験を基に、一年間を費やして研究するに値するテーマを設定し、各々がデザインによる実践を進めていきます。
達成目標	中間発表までに、テーマにもとづいた情報収集・調査・分析をしっかりと行なうこと。その中から明快なコンセプトと自分のオリジナリティを結びつけた「制作物」の試作または論文の「構想」を発表する。 中間発表の分量ややり方については適時指示をする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01～02 テーマ・コンセプトの立案、提示 03～04 スケジュール計画 05～06 各テーマによる情報収集、調査、分析 07～08 「制作物」または「論文」の検討、試作 09～14 中間発表用制作 15 中間発表
成績評価基準	作品および論文 45% 研究過程 30% 研究態度 15% 努力成果 10%
出席・遅刻の基準	指導教員による
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	「卒業研究Ⅰ」の単位取得が「卒業研究Ⅱ」の履修条件となる。
履修希望者への要望・事前準備	卒業研究は大学における学習の総決算であり、社会へ踏み出すための重要なプレゼンテーションです。4年間の成果として充実した作品にしてください。 毎回のゼミでは、前回のゼミより、何かしらの進んだ成果を見せてくれることを期待します。そのために制作に没頭して下さい。
実務経験を活かした授業	グラフィック、広告、WEB、イラストレーション、ブランディング、映像、写真などそれぞれ実務経験を有する専門教員が担当

科目名	卒業研究Ⅱ 視覚デザイン学科
学年	4
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	阿部充夫、天野 誠、吉川賢一郎、金 ボンス、徳久達彦、◎長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、水川毅、御法川哲郎、山田博行、山本敦、池田 享史
授業の概要及びテーマ	個人または共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「制作および論文」または「論文」を行います。これまでの演習・実習課題と大きく異なる点は、テーマを自ら設定する点で、また研究期間も長期に及びます。これまでの三年間での学習経験を基に、一年間を費やして研究するに値するテーマを設定し、各々がデザインによる実践を進めていきます。
達成目標	卒研最終発表時に作品が完成していること。内容、規模ともに、四年間の研究の集大成となるものを目標とする。コンセプトが明快で、客観性がありながらオリジナリティーがある作品を制作する。分量は、平面作品換算でB1を6枚以上。平面に換算できないものは、個別にそれに相当するかを教員が協議し判断する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01～03 中間発表に基づく内容の修正～制作 04～11 制作(11月中旬中間発表) 12～14 展示計画、実施 15 研究発表
成績評価基準	取り組み姿勢と成果物評価 80%、展示およびプレゼンテーション評価 20%
出席・遅刻の基準	指導教員による
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。 各指導教員より適宜指示する。
用具	
履修制限等	本科目は卒業研究Ⅰの単位を修得していなければ履修できない。
履修希望者への要望・事前準備	卒業研究は学部4年間の集大成として位置付けられている。 長期計画の基に各自がテーマを立案し、それぞれの手法にて段階ごとに具体的成果を望む。 最終発表には充実した研究作品と成果発表を期待する。
実務経験を活かした授業	グラフィック、広告、WEB、イラストレーション、ブランディング、映像、写真などそれぞれ実務経験を要する専門教員が担当

科目名	美術・工芸コンピュータ基礎演習
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	長谷川克義
授業の概要及びテーマ	コンピュータはコミュニケーションの道具として欠かせないものであり、学内での掲示連絡手段としても活用されている。この授業では大学生活に必要な基本的なコンピュータの操作から始まり、自分のパソコンをデザイン道具として使う為の基本を、業界標準となっているソフトウェアを使い練習していく。簡単な図形を描くことから始まり、写真の加工や実際にデザインを行える技術と伝えるための方法へと発展させる。
達成目標	・ コンピュータの基本の扱いを理解できる。 ・ Illustrator、Photoshop の基本操作を習得できる。 ・ 情報のレイアウトの基本について理解できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 Illustrator の基本操作 1 02 Illustrator の基本操作 2 03 Illustrator の基本操作 3 04 Illustrator の基本操作 4 05 Illustrator の基本操作 5 06 Illustrator の基本操作 6 07 Illustrator の基本操作 7 08 Photoshop の基本操作 1 09 Photoshop の基本操作 2 10 Photoshop の基本操作 3 11 Photoshop の基本操作 4 12 Illustrator+PhotoShop の連携 13 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 1 14 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 2 15 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 3
成績評価基準	各回で制作する課題によって評価。 提出遅れは最終評価より減点。 ※未提出があると単位取得は難しいと考えてください。
出席・遅刻の基準	なし。
テキスト(教科書)	授業時に資料を配付する。
参考書・参考資料等	授業中に適時指示
用具	Adobe CC をインストールしたノートパソコン
履修制限等	なし
履修希望者への要望・事前準備	遠隔で授業を行うが、質問がある人は実際に PC を持ってきて直接質問できる教室を用意する。 授業録画は基本的に公開せず、事情がある場合のみ限定的に公開する。 この授業では資料を見て各自で実際にコンピュータを操作して学習する。 授業では補足説明と質問を受け付ける形での進捗を基本とする。 不明な点は積極的に質問する姿勢を望む。 ※授業開始時に重要な説明を行う事が多いため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となります。
実務経験を活かした授業	コンピュータを使ったデザイン経験のある教員が、ソフトウェアの基本的な使い方を指導する。

科目名	基礎造形実習Ⅱ(描写) 美術・工芸学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	デッサン/人体(ヌード)ではモデルのクロッキー及び固定ポーズを観察し描きます。前期の課題を踏まえ、更に各自が主体的な課題を設定し取り組むことを前提とします。 着彩/組モチーフでは対象を捉えること、またそこから画面を構築する過程において、デッサン/人体と同様に特に美術・工芸学科の諸分野の造ること、表現することの前提となる様々な問題を見出し、描くことによってそれに取り組みます。
達成目標	描写表現手法による作品制作を通じて、「人体の構造と美」「色彩を用いた様々な表現」について追求し、基礎的なことから素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とします。 ・ 人体の骨・筋構造を理解しプロポジション、比率を正確にとる事ができ正しい構図を得ることができる。 ・ 観察から得られる量感、質感、動きを認識し的確に描写できる。 ・ 描写画材の応用と適切な使用ができる。 ・ 個々の表現対象物の特徴を精緻に観察することができる。 ・ それぞれの物質の特徴を抽出し、的確な色彩と描写ができることにより表現をすることができ る。 ・ 多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時限をよく理解して受講してください。 <デッサン：人体> 01 クロッキー 02～08 作品制作 09 講評/作品提出 <着彩/組モチーフ> 10 課題・素材・技法等の説明・モチーフセッティング 11～14 作品制作 15 講評会/作品提出
成績評価基準	① 受講姿勢、理解度(50%) ・ 受講、制作の準備ができていた。 ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 適切な質疑応答ができた。 ・ 制作姿勢(制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。) ② 成果物(作品)の内容(50%) ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 ・ プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席/遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。(無断途中退室も含む) 授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。 場合によりZoomによる遠隔授業になることもあります。その時は、Zoom上で点呼により出席の確認をいたします。遅刻・欠席に関しては、対面授業でのルールに準拠します。
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して(基礎造形実習Ⅰも含む)使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。(この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。) また、大学図書館、書店などに各課題、基礎造形系(デザイン、描写、平面、立体、建築等)の入門書・技法書等が多数刊行されていますので普段から参照することを薦めます。
用具	授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形力(描写)は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。またスケッチなど目的に必要なかたちに含まれる線(ライン)を描く能力と、多くの描線や形の中から洗練された一つを選択する能力は造形に関わる全ての分野に必要な不可欠となります。また、経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。また、授業においては時間・用具・制作姿勢について厳しく対応しますので事前説明と準備を厳守してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(造形) 美術・工芸学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	彫刻分野に於ける可塑性が特徴の素材『粘土』による制作を通して立体素材への知識や制作手法を習得し立体造形の基礎を学び、様々な要素について考え認識する。 ・ 物理的制約の中で発想力を養い、量塊や構造の認識と空間性の意味を探る。幾何形態と自然形態に内在する構造や形の特性を理解し、美しい構成の作品を目指す。 ・ 対象（人体）の観察と描写を通してその成り立ちや特性を理解する。塑像による造形表現の魅力に触れる。
達成目標	・ 基礎的な図形や図法の意味を理解できる。 ・ 平面上の図から正確な比率で立体を読み取ることができる。また同様に立体物を平面上の図に置き換えることができる。 ・ 有機物と人工物のもつ特徴を観察し対比と構成による的確な表現ができる。 ・ 粘土素材と用具を適切に扱う事ができる。 ・ 立体構成を理解し、造形表現の完成度を追求することができる。 ・ 課題の意図を理解し、繰り返し目的を追求することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時限をよく理解して受講してください。 <幾何形態と自然物の立体構成> 01 課題説明／講義／アイデアスケッチ 02 アイデアチェック／制作 03 制作 04 制作 05 講評／課題提出 <塑像> 06 課題説明／講義／スケッチ 07 塑造制作、心棒の制作／粘土荒付け 08～13 塑造制作 14 仕上げ 15 講評／清掃
成績評価基準	① 受講姿勢、理解度（50%） ・ 受講、制作の準備ができていた。 ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 適切な質疑応答ができた。 ・ 制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ② 成果物（作品）の内容（50%） ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 ・ プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。 場合によりZoomによる遠隔授業になることもあります。その時は、Zoom上で点呼により出席の確認をいたします。遅刻・欠席に関しては、対面授業でのルールに準拠します。
テキスト（教科書）	適宜指示する。
参考書・参考資料等	課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して（基礎造形実習Ⅰも含む）使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。） また、大学図書館、書店などに課題、基礎造形系（描写、平面、立体等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。
用具	授業にて適宜指示します。授業日には必ず指示された用具を持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	各課題は事前準備をして取り組んでください。 初めて扱う材料や、課題内容により講義、説明が重要になります。よく理解して授業に臨むことを求めます。また素材の特性や表現技法についても深く知る必要があります。 自ら興味をもって参考となる作品や資料にふれ予習をする習慣をつけてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(素形材) 美術・工芸学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	工芸に於ける素形材の意味を一例であるが立体表現における基礎的な実習により理解する。 ・ 線材・面材を利用した立体における空間構成およびその機能について ・ 図面（2次元）から起こす石膏素材による回転形態（3次元）について ・ 金属素材を用いた線材・面材使用による構造と機能、ガラス素材による表現手法の基礎について
達成目標	・ 課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。 ・ 課題の説明を記録し制作過程をまとめることができる。 ・ 制作等の指導を理解することができ適切な質疑応答ができる。 ・ 制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを実践でき、美しいデザインによる完成度のある成果物が提出できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時限をよく理解して受講してください。 <ヤジロベエ> 01 課題説明／講義／スケッチ 02 スケッチ、試作 03・04 本制作 05 プレゼンテーション、講評 <回転体> 06 課題説明／アイディアスケッチ 07 挽型作成／鳥目箱設置 08・09 石膏挽き 10 仕上げ／講評 <複合素材課題> 11 素材・技法説明／鍛金制作 12 素材・技法説明／鍍金制作 13 素材・技法説明／ガラス制作 14 各部材仕上げ 15 組立・小テスト・講評
成績評価基準	① 受講姿勢、理解度（50%） ・ 受講、制作の準備ができていた。 ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 ・ 適切な質疑応答ができた。 ・ 制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。） ② 成果物（作品）の内容（50%） ・ 課題の条件を満たしている。 ・ 指導を成果に生かすことができた。 ・ 十分な考察と制作をした。 ・ プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。 場合によりZoomによる遠隔授業になることもあります。その時は、Zoom上で点呼により出席の確認をいたします。遅刻・欠席に関しては、対面授業でのルールに準拠します。
テキスト（教科書）	各課題により資料テキストを授業時に配付する場合があります。
参考書・参考資料等	課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して（基礎造形実習Ⅰも含む）使用する事があります。学科毎に求められた場合には必ず毎授業持参すること。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。） また、大学図書館、書店などに課題関連、基礎造形系（デザイン、描写、平面、立体、建築等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。
用具	各課題制作に必要な準備・持参用具を適宜指示する。各自が使用する材料等は適宜購入してもらう場合があります。（各課題により異なります。）
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	造形の基礎力は様々なアイデアと素材・表現方法で培われているものです。発想力、スケッチ力を含め基本的な素形材の概念を理解することは今後の制作・研究の展開におおいに役立つので積極的な意図を持って受講してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(デザイン) 美術・工芸学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	デザインを学ぶ者において構成は、制作意図やその手法、工夫などを成果として表現するための根底にあるものである。そこで、構成をより意識するために実験的な混合表現手法を利用した作品制作を行うことと、デジタル一眼カメラでの撮影により、画面構成の基礎知識を習得する。 <コラージュ> 画面構成とは、単にバランスのとれた画面を作り上げることのみが目的ではない。目的の設定も含め、画面を構成すること・異素材へのアプローチ・すでに表出されたイメージの再構成と、そのフレーミングへの意識を目標に授業を展開する。 <写真/フレームワーク> 基本的なデジタル一眼レフの操作やライティングを通して写真撮影の基礎を習得する。またデジタル写真の保存処理方法を学ぶ。
達成目標	<コラージュ> - 画面構成に対する意識を持ち、様々な素材を用いて実験的な混合表現手法を検討・実践することができる。 <写真/フレームワーク> - カメラの基本的操作や適切なライティングができ、自身の作品や作品制作に必要なモチーフの撮影を行うことができる。 - 撮影した記録媒体を PC にて処理することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力/造形力を養う授業
授業計画	<コラージュ> 01 ガイダンス 02～09 資料収集/コラージュ制作 10 講評会 <写真/フレームワーク> 11 レクチャー・デジタル一眼レフの基本操作講義・セッティングとライティング基礎講義 12 撮影1/立体モチーフの撮影・撮影2/立体モチーフの撮影 13 撮影3/立体モチーフの撮影、小講評・撮影4/平面モチーフの撮影 14 撮影5/平面モチーフの撮影・撮影6/平面モチーフの撮影、小講評 15 ブラッシュアップ、メディアへの保存・講評
成績評価基準	① 受講姿勢、理解度 (50%) - 受講、制作の準備ができていた。 - 説明、指導を理解し適切な制作ができた。 - 適切な質疑応答ができた。 - 制作姿勢 (制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。) ② 成果物 (作品) の内容 (50%) - 課題の条件を満たしている。 - 指導を成果に生かすことができた。 - 十分な考察と制作をした。 - プレゼンテーション 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。 また、欠席/遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。
出席・遅刻の基準	出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。(無断途中退室も含む) 授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始 20 分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。 場合により Zoom による遠隔授業になることもあります。その時は、Zoom 上で点呼により出席の確認をいたします。遅刻・欠席に関しては、対面授業でのルールに準拠します。
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	〈写真〉デジタル映像表現「改訂版」デジタル映像表現編集委員会編 (CGARTS 協会) 3,150 円
用具	授業にて適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	各課題においてデザインや美術・工芸での幅広い思考展開に必要となるのは疑問の余地がありません。描く・塗る作業のみではなく「考える」「想像」する要素から始まることを体感し、視覚化することを大いに体験して欲しいと思っています。これまで「描く」「作る」といった課題が苦手であった学生も、気持ちを新たに臨んで下さい。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸コンピュータ演習
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	森本 康平
授業の概要及びテーマ	この授業は前期の美術・工芸コンピュータ基礎演習Ⅰからの応用です。 前期で基本操作を学んだ Illustrator と Photoshop をベースに今後の作品制作で使える基礎技術を実践的なものにします。それらのデザインツールを活用したポートフォリオの作成に加え、PowerPoint によるプレゼンテーションの資料作成、さらに 3D プリンターやレーザーカッター等のデジタルファブリケーションを活用するための基本スキルを身につけます。
達成目標	・ Illustrator、Photoshop、PowerPoint の基礎的・操作な操作ができる。 ・ Illustrator、Photoshop を用いてポートフォリオの作成ができる。 ・ PowerPoint を利用した視覚的表現効果を持つプレゼンテーション資料の作成ができる。 ・ デジタルファブリケーションの活用ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 Illustrator によるさまざまな描画手法 1 03 Illustrator によるさまざまな描画手法 2 04 Illustrator によるさまざまな描画手法 3 05 Photoshop による画像編集 1 06 Photoshop による画像編集 2 07 Illustrator と Photoshop の連携 1 08 Illustrator と Photoshop の連携 2 09 Illustrator によるポートフォリオ作成 1 10 Illustrator によるポートフォリオ作成 2 11 PowerPoint による効果的なプレゼンテーション 1 12 PowerPoint による効果的なプレゼンテーション 2 13 デジタルファブリケーション連携 1 14 デジタルファブリケーション連携 2 15 デジタルファブリケーション連携 3
成績評価基準	各回で制作する課題によって評価する。 提出課題の未提出・授業参加態度・欠席回数は最終評価の減点対象となります。 出席率が 2/3 を下回る場合には、単位を与えられません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業時にプリントを配付する。(データによる配布)
参考書・参考資料等	
用具	授業中に適時指示
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行います。 操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を望みます。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸基礎演習Ⅰ（絵画）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	8
担当教員	◎岡谷敦魚、遠藤良太郎、ミーヨン
授業の概要及びテーマ	アナログ技術とデジタル技術を横断的に学習し、視覚メディアの時代的な変遷と、情報が物質化する経過をたどり、作品を制作する方法論そのものを考察します。 絵画・版画・写真それぞれの表現に対する基礎的な素材と技法を知り、横断的かつ実験的な混合表現手法と描画手法を組み合わせた作品を作成し、新たな作品制作の可能性について模索します。 成果物としては、デジタルカメラで写真を撮影しデジタル加工も含めて写真作品として完成させます。その後、撮影した写真や描画したイメージをシルクスクリーンで様々な素材に印刷します。それら印刷されたイメージを再構成したり、その他素材を組み合わせていたりして、最終成果物として作品を完成させます。
達成目標	・ テーマを理解し、柔軟な発想で制作することができる。 ・ 表象（イメージ）と物質（素材）の関係について考察することができる。 ・ 用具や機器の正しい取り扱い方を理解し、作業を安全に行うことができる
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス・写真撮影講義及び撮影実践 02～04 写真撮影 05～10 写真のデジタル加工講義及び実践。シルクスクリーンの講義及び実践 最終成果物制作のための素材研究・資料収集・ドローイング及びエスキース 11～14 写真・シルクスクリーンの各メディアからの制作物等を素材としたコラージュ制作と、 最終成果物発表準備 15 講評会 * 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。
成績評価基準	授業参加態度・制作姿勢 40%、提出作品・レポート等の内容 60%を基本に、総合的に判断します。 なお、成績評価の前提条件として出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	授業時に適宜指示する。
用具	材料費として4,000円程度必要となる場合があります。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本講義は、物質のない光景から徐々に物質化していく工程を、概念的に俯瞰する授業でもある。履修学生には、その課題内容と将来関わるであろう自身の制作との繋がりを考えながら受講することを望む。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸基礎演習Ⅰ（彫刻）
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎小林花子、長谷川克義、新村秀人
授業の概要及びテーマ	彫刻の基本軸の一つである『塑造』について作品制作を通して理解するとともに、『型取り』を行い、各素材へ置き換えるための一連の技術を学ぶことで、基礎的な技法と素材の特性や作品との関連性について理解し、作品による表現へと結びつける力を培います。 成果物は、「塑造による原型制作」から「石膏雌型取り」による粘土（テラコッタ）と金属（鋳物）による複合的な造形表現を行い、その表現の可能性と広がりを体験します。
達成目標	・ 課題テーマを理解し、立体作品のための柔軟な発想力を向上させることができる。 ・ 塑造と型取、素材への置き換えを行う一連の制作を各自の表現に関連づけて理解することができる。 ・ 技法や素材の特性について観察と研究を能動的に行うことができる。 ・ 正しく用具や機器の取り扱い方を理解し、安全な作業を実践することができる。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	造形力／構想力を養う授業
授業計画	01 授業概要講義／課題説明／アイデアスケッチ 02 資料収集／アイデア・制作プランチェック・決定 03・04 作品制作（塑造） 05・06 作品制作（塑造仕上げ） 07・08 石膏型取り（雌型制作） 09・10 作品制作（雄型制作） 11～14 作品制作発表準備（仕上げ）・発表準備 15 講評／作品提出 ＊ 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。
成績評価基準	授業理解度・制作姿勢 40%、成果物の内容 60%を基本に、総合的に判断します。 なお、成績評価の前提条件として出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介する。
参考書・参考資料等	授業時に適宜指示およびプリント等を配付する
用具	スケッチブックや鉛筆描写具等、準備物を授業にて適宜指示します。 また、作品制作時における材料費 4,000 円程度が必要になる場合があります。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業内容をまとめファイリングすること。 安全に作業をするために時間は厳守し、適切な服装で集中して取り組むこと。 素材の魅力を引き出すための努力を積極的に行うこと。 原則として全授業の出席を求めます。
実務経験を活かし た授業	

科目名	美術・工芸基礎演習Ⅰ（工芸）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎菅野 靖、中村和宏、藪内公美
授業の概要及びテーマ	工芸素材材として金属（鍛金・彫金）とガラスの基礎的な技法と各素材の特性を理解し、各自の作品に対する応用力を養いつつ、各自のテーマに沿った統一感あるテーブルウェアを制作します。 <彫金> 彫金の基礎技法を理解しながら装飾的な造形表現を行います。また、暮らしの道具に独自の視点を当て、価値の創造について考えます。 <鍛金> 鍛金技法に於ける金属の展延性や表面処理などの基本的な技術と素材の特性を理解し、各自の作品に対する造形表現を行い、応用力を養います。 <ガラス> ガラス素材を深く理解するための基礎技法を身に着けます。そのうえで日々の暮らしにおいての生活工芸（クラフト）やライフスタイルを踏まえた「うつわ」を考えデザインし造形表現を行います。
達成目標	・ 課題内容を理解し柔軟な発想力を向上させることができる。 ・ 成果物（作品など）に対してのプレゼンテーションを実践し完成することができる。 ・ 造形制作に必要な素材と技法の関連性を理解・実践することができる。 ・ 正しく用具や機器の取り扱い方を理解し正しく安全な作業を実践することができる。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	造形力／構想力を養う授業
授業計画	<彫金> 01 課題説明 / デザインおよび作業工程の確認 02 工具・機器と金属材料の説明 / デザインチェック・決定 / 作品制作 03 作品制作 / 技法・素材の研究 04 作品制作 / 仕上げ 05 作品提出 / 講評（メッキ仕上げ選択は業者発注） <ガラス> 06 課題説明 / 道具の説明及びサンプル制作 07 デザイン案決定/作品制作 08 作品制作/素材と温度関係の研究 09 作品制作 / 仕上げ 10 作品提出 / 講評 <鍛金> 11 課題説明 / デザインの検討 12 工具・機器と金属材料の説明 / デザインチェック・決定/作品制作 13 作品制作 / 技法素材の研究 14 作品制作 / 仕上げ 15 作品提出 / 講評 * 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。
成績評価基準	受講姿勢 40%、プレゼンテーションおよび発表の内容 60%を基本に、総合的に判断します。 なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。プレゼンテーションが発表時にできない場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	近代から現代にかけるとする実在作品や諸立体作家集を参考資料として使用する。
用具	・ 材料費として 4,000 円程度必要になる場合があります。 ・ 安全のための作業服等個人用具が必要となります。 （上記事項は授業ガイダンス時に説明します）
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	下記の項目に留意し行動してください。 ・ 原則として全回出席を求めます。 ・ 授業のまとめをファイルすること。 ・ プランニングから作品制作の完成までの過程は、高い集中力と能動的な姿勢を求めます。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸基礎演習Ⅰ（複合）
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	遠藤良太郎、岡谷敦夫、菅野 靖、小林花子、中村和宏、◎長谷川克義、藪内公美、新村秀人、ミーヨン
授業の概要及びテーマ	美術・工芸基礎演習Ⅰ＜美術・彫刻・工芸＞における課題制作研究に共通する資料収集やスケッチワークを通して、表現するための工程に関する基礎を学ぶと共に、形と素材の関連性や技法研究からその手法や技法を習得する。また、発表（プレゼンテーション）時において自作品の研究テーマを明確に説明することで、他作品との比較により客観的視点から作品を考察することから「作品を観せる」意識を培う。
達成目標	・ 作品を制作するための事前の情報収集および調査をすることができる。 ・ アイデアスケッチ・ドローイング・エスキース等を通して、作品を展開することができる。 ・ 素材と技術の関係から制作工程の意義を理解することができる。 ・ 成果物（作品）を、各々が必要とする媒体を用いてプレゼンテーションおよび発表することができる。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	構想力／造形力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	美術・工芸基礎演習Ⅰの他の授業と連携するため各授業ガイダンス時に授業計画をより詳しく説明する。 <絵画> 01 素材研究・資料収集 02 ドローイング 03 ドローイング・エスキース 04 エスキース 05 発表・プレゼンテーション <彫刻> 06 アイデアスケッチ・資料収集 07 エスキース・制作プラン検討 08 制作プラン確認 09 プレゼンテーション資料作成 10 発表・プレゼンテーション <工芸> 11 資料収集 12 各領域における素材や技法研究・考察 13 プレゼンボード制作 14 プレゼンボード制作 15 発表・プレゼンテーション * 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。
成績評価基準	受講姿勢 40%、プレゼンテーションおよび発表の内容 60%。これらを総合的に判断し評価します。 なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。プレゼンテーションが発表時にできない場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介する。
参考書・参考資料等	参考資料として適宜配付または提示する。
用具	クロッキー帳や描写具、その他授業にて適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	どのような形態の作品制作にも必要な資料収集能力やスケッチ力、プレゼン力を高められるよう取り組んでください。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸基礎演習Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	遠藤良太郎、◎岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、中村和宏、長谷川克義、下山直紀、杉原倫子、中安 麗、藪内公美
授業の概要及びテーマ	各自選択したグループ（美術表現・クラフトデザイン）に属しながら、制作課題等を通してその手法を理解し、形と素材の関連性やものとの関係を考察する。また、表現するための基礎を学ぶ。 ・ 美術の基礎的な素材と手法を理解し、作品制作を行うことで、それぞれの表現における特徴や要素について学び、基礎技法の習得を目指す。 ・ 工芸分野における鍛金、彫金、鋳金、ガラスから各自の指向により2領域を選択し、その領域に関する素材や基礎技法について学ぶ。また、工芸の大きな枠組みの中で水平的視点を持つため、工芸における各種素材や技法についての知識も身につける。
達成目標	・ 課題作品を制作する上で求められるスケッチ力・発想力・展開力を発揮し、成果として十分応えることができる。 ・ 素材と技術の関係をイメージし、基礎的な各表現技術を習得することで、完成までの工程を計画し実践することができる。 ・ 課題において各領域で使用する素材の特質や特性を理解し、形状と技法の関連性を体得して制作することができる。 ・ 授業で指導された内容を的確に記録・習得し、安全に作業することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力／構想力を養う授業
授業計画	事前に美術表現グループとクラフトデザイングループの2グループ（定員制）に分かれる。 ＜美術表現グループ＞ 01 ガイダンス／モチーフセット、デッサン準備 02~06 木炭デッサン 07 講評会 この後、【絵画】【版画】【彫刻】領域の課題を2つ、11日間ずつ行います。 【第1課題】 08 概要講義／スケッチ・エスキース 09~17 作品制作 18 講評会 【第2課題】 19 概要講義／スケッチ・エスキース 20~28 作品制作 29 講評会 【共通】 30 全体講評会、プレゼンテーション、作品提出 ＜クラフトデザイングループ＞ 課題制作に関しては2領域を選択する。 01 ガイダンス／クラフトデザイン概論 【第1課題】 02 レクチャー、スケッチ・デッサン 03~06 エスキース、実材による制作、中間講評 07~12 実材による制作 13 講評 【工芸における特別技法研究】 14 レクチャー 15~16 実材による制作 17~18 実材による制作、講評 【第2課題】 19 レクチャー、スケッチ・デッサン 20~23 エスキース、実材による制作、中間講評 24~29 実材による制作 30 講評 ＊ 課題数や課題内容はコースごとに計画されます。また、演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。
成績評価基準	課題や制作への理解度と受講姿勢 40%、プレゼンテーションおよび提出作品の内容 60%。これらを総合的に判断し評価します。 なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	適宜指示する。
参考書・参考資料等	参考資料として適宜配付または提示。
用具	クロッキー帳や描写具、その他授業にて適宜指示する。 材料費や用具として 10,000 円程度必要となる場合があります。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	美術や工芸における基礎的な素材・技法を把握し、表現の特徴を理解することは、専門領域を学ぶ以前に重要なことです。しっかりと取り組み修得してください。また、授業で与えられる情報に満足せず、各自の意思で情報収集や展覧会の鑑賞な

	どを積極的に行ってください。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸材料学
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎長谷川克義、菅野 靖、菊池加代子、中村和宏、藪内公美、秋本貴透、井波 純、岩崎靖彦、楠八重有紗、平賀 仁、渡辺政光
授業の概要及びテーマ	絵画・彫刻・工芸分野における材料の種類や特性に関して、各分野の専門家により講義を行う。そして、今後の創作活動に対する一助とする。 テーマ：「描画材の種類と特性」「版画材の種類と特性」「木および樹脂の種類と特性」「染織素材の種類と特性」「金属の種類と特性」「ガラスの種類と特性」
達成目標	・各種材料の基本的特徴と用途や加工方法等が理解できる。 ・自らが作品等を制作する際、効果的な材料選択ができるような素養を身につけることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 ガイダンスおよび概論 <長谷川> 02 金属の種類と特性(鍛金) <長谷川> 03 樹脂の種類と特性(漆) <井波> 04 樹脂の種類と特性 <平賀> 05 金属の種類と特性(彫金) <菅野> 06 版画材の種類と特性 <渡辺> 07 描画材の種類と特性 <秋本> 08 染織素材の種類と特性 <菊池> 09 染織素材の種類と特性 <菊池> 10 木の種類と特性 <岩崎> 11 木の種類と特性 <岩崎> 12 描画材の種類と特性(フレスコ) <楠八重> 13 描画材の種類と特性(モザイク) <楠八重> 14 ガラスの種類と特性 <中村> 15 金属の種類と特性(鋳金) <長谷川> * 但し、日程については変更になる場合(土曜日開講となる回)があります。また、担当ごとに小テストやレポート課題を課す場合があります。 * 新型コロナウイルスの影響によっては、授業計画に変更がある場合があります。
成績評価基準	受講姿勢および積極性 40%、レポート等課題 60%。これらを総合的に判断し評価する。 なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	参考資料として授業時にプリントを配付する。また、授業で適宜紹介する。
用具	適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	作品を制作するということは、その素材を知らなければ成り立たないと言っても過言ではありません。美術と工芸を分け隔てることなく素材に対する知識を深めてください。また、原則として全授業の出席およびレポート等課題の全提出を求めます。
実務経験を活かし た授業	

科目名	古美術研究 a 今年度履修生（2年）
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、中村和宏、◎長谷川克義、藪内公美、伊藤 哲、和田正泰
授業の概要及びテーマ	美術教育において重要な一分野である古美術研究として、奈良、京都を中心に存在する飛鳥時代以降の彫刻・工芸・絵画・建造物等、日本古来の優れた美術品の鑑賞研究を行う。これらの研究を通して日本の美術・工芸作品についての理解を深め、その表現技法と文化的価値に対する考察を行う。
達成目標	・ 日本古来の優れた美術品について事前学習、資料収集および実際の鑑賞を通して、その理解を深めることができる。 ・ 美術・工芸作品で使用する素材および技法について考察し、まとめることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	これは2年生を対象として開講する科目です。 01~02 ガイダンス等 03~08 事前学習：国宝等の彫刻（仏像等） 09~12 事前学習：国宝等の絵画（襖絵、障壁画等） 13~30 実地による国宝・重要文化財等の鑑賞研究：彫刻・工芸・絵画・建造物 ＊ガイダンスや事前学習の日程は適宜パレットでお知らせします。 ＊新型コロナウイルスの影響によっては、大幅な内容変更がある場合があります。
成績評価基準	鑑賞姿勢および授業への積極性 50%、鑑賞研究報告書の内容 50%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	ガイダンスや事前学習については履修ガイド同様。
テキスト（教科書）	適宜指示する。
参考書・参考資料等	参考資料を適宜配付または提示。
用具	別途指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	日本古来の優れた美術品についての理解を深め、美術品と表現素材および技法について考察を行うことのできるまたとない機会です。事前の学習および資料収集等しっかりと取り組み多くのものを吸収してください。 この授業は、4泊5日で奈良・京都を訪れ、現地での研修を行います。実施は3月中旬から下旬を予定していますが、詳細は事前授業やパレットにて連絡します。（実施時期、訪問先は変更となる場合があります。） 実地研修の費用については入学時に説明をしていますが、食事や宿泊等に必要な費用として約 50,000 円を2回に分けて積み立てます。その他必要なものについては別途指示します。 ただし、社会情勢によっては県内での見学実施、または延期もありえます。
実務経験を活かし た授業	

科目名	古美術研究 b 前年度履修生（3年）
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、中村和宏、◎長谷川克義、藪内公美、伊藤 哲、和田正泰
授業の概要及びテーマ	美術教育において重要な一分野である古美術研究として、奈良、京都を中心に存在する飛鳥時代以降の彫刻・工芸・絵画・建造物等、日本古来の優れた美術品の鑑賞研究を行う。これらの研究を通して日本の美術・工芸作品についての理解を深め、その表現技法と文化的価値に対する考察を行う。
達成目標	・ 日本古来の優れた美術品について事前学習、資料収集および実際の鑑賞を通して、その理解を深めることができる。 ・ 美術・工芸作品で使用する素材および技法について考察し、まとめることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	これは3年生を対象として開講する科目です。 01~02 ガイダンス等 03~08 事前学習：国宝等の彫刻（仏像等） 09~12 事前学習：国宝等の絵画（襖絵、障壁画等） 13~30 実地による国宝・重要文化財等の鑑賞研究：彫刻・工芸・絵画・建造物 ＊ガイダンスや事前学習の日程は適宜パレットでお知らせします。 ＊ 新型コロナウイルスの影響によっては、大幅な内容変更がある場合があります。
成績評価基準	鑑賞姿勢および授業への積極性 50%、鑑賞研究報告書の内容 50%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	ガイダンス、事前学習は履修ガイド同様。
テキスト（教科書）	適宜指示する。
参考書・参考資料等	参考資料を適宜配付または提示。
用具	別途指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	日本古来の優れた美術品についての理解を深め、美術品と表現素材および技法について考察を行うことのできるまたとない機会です。事前の学習および資料収集等しっかりと取り組み多くのものを吸収してください。 この授業は、4泊5日で奈良・京都を訪れ、現地での研修を行います。実施は3月中旬から下旬を予定していますが、詳細は事前授業やパレットにて連絡します。（実施時期、訪問先は変更となる場合があります。） 実地研修の費用については入学時に説明をしていますが、食事や宿泊等に必要費用として約 50,000 円を2回に分けて積み立てます。その他必要なものについては別途指示します。 ただし、社会情勢によっては県内での見学実施、またはレポートによる代替措置もありえます。
実務経験を活かした授業	

科目名	表示図法
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	相田 収平
授業の概要及びテーマ	立体や平面を問わず、造形における創作思想の可視化には、形態や空間に関する諸事の精緻な把握を必要とします。造形に関する基本的図学及び図面制作の基礎力を知見・習得し、造形表現とその理解力を深めます。
達成目標	・ 自己が構想した造形を他者に制作を依頼する際に適切な形状線、寸法引出線等の作図の考え方・知識・技能を体得、これを説明できる。 ・ 幾何学図形の作図法及び平行投影並びに透視投影図法による製図基礎を体得し、かつこれを表現できる。 ・ 造形表現に不可欠な幾何学知識の体得。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	・ 授業は、テキストに基づく受講者による図面制作を重視する。 ・ 各週の成果物は、講義終了後または次週の講義開始時に提出。 01 ガイダンスと製図基礎 (1) 作図用具とその使い方 (2) 「線」の引き方 02 前週の (2) 「線」の継続練習と成果物提出 03 平面図学 1 : 直線・角・円周に関する作図 04 平面図学 2 : 多角形の作図、円錐曲線 05 投影 1 : 投影法、投影の基礎 06 投影 2 : 面の投影、副投影面 07 立体図学 1 : 立体図形、多面体 08 立体図学 2 : 曲面体、曲面 09 立体の切断・相貫・展開 10 平行投影法とその応用 11 製図に関する決まりごと・CAD の概要 12 別途提示する物品の寸法の実測と「CAD によるスケッチ・作図」 … 3 週継続 13 「CAD による部品図、組立状態の全体図」の作図 14 「CAD による部品図、組立状態の全体図」の作図 15 前週の継続と提出及び講評
成績評価基準	成果物の有無、内容 70%程度、授業姿勢 30%程度として総合評価します。出席率が 2/3 を下回る場合は単位を与えられません。遅刻は、3 回で 1 回の欠席扱いとします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	「わかりやすい図学と製図」 住野和男著 オーム社 2,600 円+税:要購入
参考書・参考資料等	
用具	直定規、三角定規、コンパス、デバイダ、鉛筆 (B、HB)、消しゴム、作図用紙、作図用紙固定用のドラフティングテープ
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	・ テキストは毎週使用。本学売店等で事前に購入すること。 ・ 作図用紙は、受講者が準備すること。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術・工芸・デザイン分析
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎岡谷敦魚、上町 達也、外山 雅暁、早川 純子、日野明子、溝川誠司
授業の概要及びテーマ	本講義は主に美術・工芸学科の学生を対象とし、基礎から専門科目で培う造形能力を社会での様々な職種・活動において、また広くデザイン分野の業態とどの様に関連づけ有効に発揮することが出来るか、それぞれ分野で活躍する講師が実際の活動する視点から分析し講義を行います。これらから自身の進路及びキャリアへの視野を拡げ、現代社会でボーダレスになりつつある美術・工芸・デザインの領域の境界線上での造形表現やデザイン思考・目的の同意性などを理解することで、ビジュアル系、プロダクト系の企業・事務所、作家、起業等へのミチスジと可能性を考察することを目的とします。 授業は、担当教員の6名がオムニバスで担当します。 テーマとして （１）成果物及び企画・デザイン事例を提示し、 ・「目的・表現的的確性・効果／評価の分析」 ・「社会性、生業観」 ・「造形やデザイン意図の一般化」 ・「美術・工芸・デザイン各分野の表現、制作プロセスの共通性」 ・「成果物の流通と販売」 等から各講師が設定します。
達成目標	（１）各分野の創作物・製品のシステム、分析・評価に関する理解を深めることができる。 （２）創作・デザイン分野での発注者と受注者との関係と諸事象を認識し、今後の自らの進路にどの様に生かせるかを考察できる。 （３）各分野特有の、企画・提案・制作・流通・販売までのプロセスを理解し説明できる。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	・プロダクトデザインはPDと略、ビジュアルデザインはVDと略 ・担当講師の日程は変更の可能性があります 01（中村）【授業全体ガイダンス】各専門領域の能力を如何に社会で活かせるか 02（溝川）【身近にあるVDやメディアを紹介（課題提示）】 03（溝川）【職業としてのVDと業界の構造】 04（溝川）【VDの制作プロセスとその姿勢（課題提出）】 05（日野）【流通に関わる仕事のいろいろ】 06（日野）【製造現場に関わる仕事のいろいろ】 07（日野）【工芸・デザインの立ち位置を年表から俯瞰する】 08（外山）【社会におけるデザインの役割（デザイン史、デザイン政策、デザイン思考）】 09（外山）【ビジネスにおけるデザインの活用（デザイン思考、デザイン経営）】 10（外山）【これからの社会で求められるクリエイティブとは（デザイン経営、権利の保護）】 11（早川）【絵本をつくる1／チームで作り上げる作業過程】 12（早川）【絵本をつくる2／絵本（商品）が出来てからの展開】 13（早川）【版画、絵本作品から、動画（You tube）などへの広がり。展開するきっかけなど】 14（上町）【問と価値とモノ】 15（上町）【つくるコトで生きるコト】
成績評価基準	評価はレポート提出（担当教員により提出課題の場合あり）70% 授業での能動的姿勢（各教員から説明の場合あり）30% 欠席・遅刻（公欠の場合は除く）は評価点から減点します
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	適宜、担当教員から配付する。
参考書・参考資料等	適宜、事前に担当教員から指示があります。
用具	適宜、事前に担当教員から指示があります。
履修制限等	履修ガイドのとおり
履修希望者への要望・事前準備	分野が違うことで受講姿勢を変えない様に要望します。 大学卒業後の将来は未だ確定していませんが、3年次以降の取り組みの成果は其々の人生の進路を決定付けていきます。また卒業後において社会ではその都度新たな知識と応用力を身に付けることが求められます。大学で修得した専門能力を如何に応用・展開するかが、社会での活動を多角的に押し広げることに繋がります。本授業では各講師の「現場と実際」を知ること、受講生に「見通す力」を身に付けてほしいと思います。また本科目は教職課程で必修となりますので修得には留意してください。
実務経験を活かした授業	全ての講師は実務経験者である

科目名	美術工芸史
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	木田拓也
授業の概要及びテーマ	日本の古代から現代までの工芸作品について、スライド等を使って鑑賞しながら工芸の歴史を振り返る。その中で、工芸の多様性を知り、また、それぞれの工芸作品が生まれた歴史的な背景について考える。
達成目標	様々な工芸作品が生まれた歴史的背景（素材、技術、文化、生活など）を理解することができる。また、「工芸とは何か」「ものを作ることは何か」の理解を深めることができる。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	第1回 美術工芸史：“美術としての工芸”（ガイダンス） 第2回 原始の造形（縄文・弥生時代） 第3回 仏教伝来と工芸（飛鳥・奈良時代） 第4回 正倉院の宝物（奈良時代） 第5回 平安の蒔絵（平安時代） 第6回 武家と工芸（鎌倉・室町時代） 第7回 茶の湯と唐物趣味（室町時代） 第8回 戦国武将と工芸（桃山時代） 第9回 光悦、仁清、乾山（江戸時代） 第10回 万国博覧会と工芸（明治時代） 第11回 個人作家の登場 板谷波山と富本憲吉（大正時代） 第12回 柳宗悦と民藝運動（昭和戦前期） 第13回 伝統工芸とクラフト運動（昭和戦後1） 第14回 走泥社とクレイワーク（昭和戦後2） 第15回 工芸の現在 ※この授業計画については進行の都合により、変更する場合がある。
成績評価基準	出席が2／3以上（10回以上出席）を満たす履修者に対してのみ単位付与を検討する。受講態度 50%、レポート課題 50%。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	特になし
参考書・参考資料等	特になし
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業は ZOOM を使用してオンライン形式で行う（リアルタイム）。この授業の ZOOM へのアクセス方法（ミーティング ID などの情報）については「初回授業一覧表」を確認すること。
実務経験を活かし た授業	

科目名	美術表現演習 I
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎岡谷敦魚、遠藤良太郎、小林花子、塩谷 亮、不破妙子
授業の概要及びテーマ	現在活躍している作家の作品鑑賞のため、東京の美術館・ギャラリーツアーを行う。 絵画と彫刻の古典技法を学習し、それぞれの技法の古来よりの成り立ちを俯瞰し、時代背景を鑑みつつ考察する。これらの手法による作品制作を通じ、基礎技法を修得することのみではなく、それぞれの技法から、受け継がれてきた概念を含めて学習する。 また、社会におけるアーティストの役割についてリサーチを通じて考察し、社会と美術との接点についての理解を深め、発表する。その考察をふまえ、各自がアーティストとして活動するためのワークショップを、夏休みを通して企画・立案する。「伝えるためのツール・自身の制作プロセスを俯瞰するツール」としてのポートフォリオ制作を、後期美術表現演習Ⅱも通じて通年で制作する。 美術館・ギャラリーツアーは、新型コロナの感染状況によって予定を変更する場合がある。
達成目標	・ 絵画または彫刻（選択制）の古典技法とその基礎的な概念を理解し、作品を制作することができる。 ・ アーティストの社会的役割について考察することができる。 ・ 工房およびアトリエにある機材を、安全に正しく使用することができる。 ・ 美術館での鑑賞を通じ、場と作品との関係について理解を深めることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス／課題説明／ポートフォリオ作成の説明 02 アーティストが行う社会活動について 03～07 古典技法研究・課題制作。テンペラと古典彫刻から選択。それぞれ非常勤講師による講義および実技指導。 08～10 担当教員による美術論レクチャー 11～12 アーティストが行う社会活動についてのリサーチ発表会 13 自身が行うワークショップの企画書作成の説明 14～15 東京美術館見学ツアーに振り替え ※非常勤講師の都合により、授業回を変更する場合がある。
成績評価基準	授業課題の理解度および制作姿勢 40%、成果物の内容とプレゼンテーション 60%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。
参考書・参考資料等	授業時に適宜指示する。
用具	材料費が 4,000 円程度必要となる。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業内容の理解と積極的な参加を求める。
実務経験を活かした授業	

科目名	美術表現演習Ⅱ
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎遠藤良太郎、岡谷敦魚、小林花子、新村秀人
授業の概要及びテーマ	この授業は美術分野における表現の実践を主題とする。 絵画、版画、彫刻領域の作品制作の延長線上にある発表、展示の目的、方法に実践的に取り組み研究します。 まず表現者としてどのようなテーマに接続し得るのかを問います。 その上で発表の場（鑑賞者、社会との関係を構築するための）を構想し作品を提示する際の具体的な設置方法、効果などについてグループワークで実践的に取り組む。これは、設置された作品が、どのようにしたら環境や空間と融合して表現として成立するのか、ひいては美術表現の前提となる作品、作者、鑑賞者とそれらを包含する社会との関係性について問うものである。
達成目標	・ 実践的取り組みを通して社会との関係性を認識し、制作に反映させることが出来る。 ・ 作品の場所との関係性を考慮し、表現の提示の質を高めることが出来る。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01、02、 ガイダンス、研究課題について 03～13、 展示研究、グループセッション、展示制作、発表 14、15、 振り返り、まとめ
成績評価基準	研究及び作品の内容 70% 成果等の発表 30%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	材料費等が 3,000 円程度必要となる場合がある。 それぞれ必要なものを準備、適宜指示します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	表現者/研究者として自覚し取り組むこと。
実務経験を活かした授業	

科目名	クラフトデザイン演習 I
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	菅野 靖、中村和宏、◎長谷川克義、藪内公美、井上 剛、齋藤直子
授業の概要及びテーマ	産業や生活文化を考え社会的思考を育むと共に、専門的な視点において創造的造形と表現を展開するための起点と捉える。そのため暮らしに根差したクラフト領域の基本的な知識を習学し、工芸における伝統と革新を理解することを目的とする。
達成目標	・ 課題内容を解釈し各自の発想を提案することができる。 ・ 素材及び表現の周辺知識を理解しながら柔軟な表現に繋げることができる。 ・ 目的に応じた、研究成果のプレゼンテーションができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス／課題説明 02 「工芸論」：日本の伝統文化における講義 03～07 共通課題説明・プレゼンボードの制作 08～09 各領域での装飾技法の研究 10～13 制作 14 学生主体による計画及びブレ発表 15 プレゼンボード発表・総評 ・「工芸論」：日本の伝統文化についての講義は、日程の変動の可能性あります。
成績評価基準	成果の発表（成果物及びプレゼンテーション）60%、受講姿勢 40% 成績評価の前提条件として出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	適宜指示をする。
参考書・参考資料等	適宜指示をする。
用具	適宜指示をする。また、研究制作時に必要となる用具の購入費用や材料費が必要となる。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	クラフト領域での素材・技法・表現を学び、様々な審美眼を広げながら各自の未来を開拓する起点として学習する事。
実務経験を活かした授業	

科目名	クラフトデザイン演習Ⅱ
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎菅野 靖、長谷川克義、中村和宏、藪内公美、石渡雅史、気賀澤 雅人
授業の概要及びテーマ	クラフトデザイン演習Ⅰを踏まえ、素材と造形によって見出される価値を発見すると共に、現代に提案する工芸表現を探る。暮らしと共に発展した「工芸」を知るため、我が国の伝統や現代における表現の動向を考察しながら情報収集を行い、社会に提案するクラフトデザインとその実践方法について理解を深める。 この授業において視野を広めながらも各自の独自性や創造性が高まることが望ましい。
達成目標	・ 専門領域のみならず、各種素材や技法と国際的視野で社会との繋がりを持てる発想ができる。 ・ 各自の研究領域にて明確なテーマを構築し、自身の方向性を探ることができる。 ・ 目標の研究成果としてポートフォリオの制作と発表。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス／課題説明 02 「工芸論」：日本の伝統文化についての講義 03～06 ポートフォリオのテーマ設定、情報収集 07～09 研究及び情報収集 10～14 ポートフォリオ作成 15 成果発表（プレゼンテーション） ・ 「工芸論」：日本の伝統文化についての講義は、日程の変動の可能性が有ります。
成績評価基準	成果の発表（成果物及びプレゼンテーション）60%、受講姿勢 40%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	適宜指示する。また、研究制作時に必要となる用具の購入費用や材料費が必要となる。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業は将来の進路について熟慮する時期にあります。各自が目的に沿った課題やテーマを設定し、4年次の卒業研究や卒業後のために生かして下さい。
実務経験を活かし た授業	

科目名	ゼミⅠ 美術・工芸学科
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、◎中村和宏、長谷川克義、藪内公美、手銭吾郎
授業の概要及びテーマ	美術・工芸学科に於ける各技術領域を選択し、専門性を志向した内容の課題制作・研究を行う。 各コース演習の授業と並行しながら、専門領域の課題を通じて基本的な素材・技法・表現手法などを理解習得し、作品制作においての概念基盤を育む。 ・ゼミ選択はその研究・制作の性格上工房等を主に使用するが、工房における履修環境及び作業の安全性を考慮し、受講人数の制限を行うことがある。希望調査を行い、人数の隔たりが起きた場合、希望内容（選択理由）や今までの実習・演習内容（成績や実習姿勢）を検討し対応する。また、選択の状況等から開講されないゼミもある。
達成目標	・各専門分野（領域）の基本的概念を理解することができる。 ・表現方法を得るための材料の理解と、それに伴う技法と制作プロセスを理解し習得することができる。 ・課題において求められる作品制作における情報収集力とその分析力、発想力と制作プロセスにおける判断力などの能力を習得することができる。 ・各自が制作した作品に対し、素材や技法・コンセプト等について考察することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力／構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	授業内容・進捗の関係上、時間割通りの授業日程になるとは限らない。各ゼミ担当教員の指示に従うこと。 <絵画領域>：遠藤 01 ゼミ進行等概説 02~15 作品制作及びディスカッション、レクチャー（時代ごとのムーブメント等） それぞれが設定した研究（作品制作）のために必要なプログラムを計画し実行する。 ・期末に作品発表のためのグループ展があります。 ・学外実践活動（作品発表、アート・イベント、見学）の計画、準備、実行がある場合があります。 ・スケジュール詳細は初回に説明します。 <版画領域>：岡谷 01 ガイダンス 02~15 版種技法研究、およびレクチャー（現代美術の資料読み合わせ、遠藤ゼミとの合同授業） ・現代美術の文献講読により、現在のアートに関わる状況を俯瞰しつつ自主制作を行います。 ・遠藤ゼミと合同で、東京美術館ツアーを行います。（新型コロナの感染状況により変更する場合があります。） <彫金領域（金属工芸）>：菅野：課題【基礎技法の理解とその造形】 01 概説および道具製作工程説明 02~04 彫り課題（鑿、伝統技法の理解） 05~06 シルバーリング制作（金属の溶解、成形、接合） 07~14 高肉打ち出し→ジュエリーへの展開 15 総括 <彫刻領域>：小林：課題【具象表現：モデリング／カービング】 01 授業概要講義／課題説明／材料、道具の特性、取り扱い方法講義／アイデアスケッチ 02 作品プレゼンテーション／塑像心棒制作、荒付け 03~07 塑像制作 08~12 木彫制作 13~14 修正・仕上げ／展示計画 15 講評・プレゼンテーション <ガラス領域>：中村 01 概要講義・課題説明（宙吹き技法による器の制作） 02 資料収集・アイデアスケッチ 03~05 作品制作 06 作品制作・講評・作品提出 07 課題説明（パートドヴェール技法による作品制作） 08 資料収集・アイデアスケッチ 09~13 作品制作 14 作品制作・講評・作品提出 15 プレゼンテーション・講評・作品提出・制作ファイル提出 <鍍金領域（金属工芸）>：長谷川：課題【蝕型石膏埋没鍍造法による2課題を行う】 01 オリエンテーション・工房および工具使用説明 02~09 挽型による器物の制作 ・デザインワーク、鳥目箱による廻転体の挽型、鍍型制作、溶解、剥き仕上げ、表面処理、着色、プレゼン・講評 10~15 蝕原型による銅鏡の制作

	・ エスキース、塑造、石膏雌型、蠟原型、鋳型制作、熔解、研磨・叩き仕上、プレゼン・講評 <鍛金領域（金属工芸）>：載内：課題【鍛金技法の習得として2課題を行う】 ①鍛起・絞り技法の基本である回転体（花器）の作品制作。 銅素材（銅板）による回転体成形に於ける金属塑性等の理解と基本技法の習得。 01 講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具等の使用説明 工具制作・材料取り 02 実習 課題チェック～技法説明 作品制作 03~06 実習 技法説明 作品制作 07 講評・プレゼンテーション ②鍛金技法の展開として金属工作機械・鍛造・溶接技法による作品制作 旋盤・鍛起等の工作機械と電気・ガス溶接等の接合技法の理解と基本技術の習得。 08 講義 ②課題内容説明 工房及び工具・工作機械の使用説明 09 演習 課題チェック～技法説明 作品制作 10~14 実習 技法説明 作品制作 15 講評・プレゼンテーション * 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていく。また、各自の制作ベースと工房共通機材の関係により時間外の指導も行う。
成績評価基準	授業課題の理解度および制作姿勢 30%、成果物の内容 70%。これらを総合的に判断し、担当教員が評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	適宜指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する。 金属工芸系（鍛金・彫金・鋳金）は技術シリーズ「金工」（朝倉書店）・「金属の工作工芸」（開隆堂）・「鍛金の実際」（美術出版社）・「造形論／人間の視覚」（京都書院）・「金属の伝統技法」（理工学社）・「金工の着色技法」（理工学社）・「工芸家のための金属ノート」（アグネ技術センター）等を推薦する。
用具	ゼミごとに適宜指示する。また、作品制作時の材料費はもちろん必要となるが、各ゼミにて道具や工具の購入費用が必要となる場合がある。詳細は各ゼミ担当教員に確認すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	・ 履修するゼミは、前年度に行われる事前希望調査により決定する。 ・ 素材や道具の扱いと技法の習熟に取り組むこと。 ・ 課題ごとのテーマ・目的・条件を的確に把握し、各自が達成目標に到達するよう取り組むこと。
実務経験を活かした授業	

科目名	ゼミⅡ 美術・工芸学科
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、◎中村和宏、長谷川克義、藪内公美
授業の概要及びテーマ	ゼミⅠから引き続き各分野のゼミを継続選択し、各コース演習の包括的授業と並行しながら、専門性をより深化した内容の課題制作・研究を行う。 この授業は、ゼミⅠで学んだ授業内容を理解・習得した上で、より専門性や造形方法を応用・展開し、各自のテーマに沿った思考および制作プロセス、手法、問題点を探るものである。また、4年次での卒業研究、その後の進路を見据えた創作・研究基盤を養うものでもある。また、選択の状況等から開講されないゼミもある。
達成目標	・ 各専門分野（領域）の沿革を理解することができる。 ・ 意欲を持ち課題に伴う表現材料のさらなる理解と手法・技法を応用および実践することができる。 ・ 各自が作品に際して適切な考察を行い、成果物に十分な完成度を求める事ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力／構想力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	授業内容・進捗の関係上、時間割通りの授業日程になるとは限らない。各ゼミ担当教員の指示に従うこと。 < 絵画領域 >：遠藤 01 ゼミ進行等概説 02~15 作品制作及びディスカッション、レクチャー（時代ごとのムーブメント等） ・ ゼミⅠを発展させ研究を進め深めます。 ・ 期末公開講評会（グループ展示形式、ゲストによる講評）があります。 ・ 学外実践活動（作品発表、アート・イベント、見学）の計画、準備、実行がある場合があります。 ・ スケジュール詳細は初回に説明します。 < 版画領域（美術） >：岡谷 01 ガイダンス、夏課題講評会 02~15 アクチュアルなテーマの文献講読と技法研究、遠藤ゼミとの合同授業 ・ 11月末 大学版画展に作品を出品します。 ・ 文献講読と各自のドローイング・個別研究指導・自主制作から、それぞれの研究テーマの発見を目指します。 < 彫金領域（金属工芸） >：菅野：課題【技法・表現・対外的視野・今後の方向性を踏まえ各自設定】 01 企業研究 02~14 伝統的表現、クラフト・ジュエリー、空間・造形的表現等において、各自が取り組むべく研究計画を作成し実践する。 技法研究は平素の取組みとし、進捗の報告は適宜行う。 15 総括 < 彫刻領域 >：小林：課題【テーマに基づいた作品制作：各自の表現素材・材料と表現手段の研究】 01 概要講義／課題説明／テーマ・コンセプト決定／アイデアスケッチ・制作ノート作成 02 プレゼンテーション／マケット制作／扱う素材、道具の取り扱いについて／制作計画書作成 03 作品制作（各作品制作計画による進行）／制作計画書提出 04~09 作品制作（各作品制作計画による進行） 10 中間報告・講評／作品制作 11~13 作品制作（各作品制作計画による進行） 14 作品制作 仕上げ・展示方法の確認と準備 15 講評／作品・制作ノート提出 < ガラス領域 >：中村 01 概要講義・ディスカッション・課題説明（複合技法による器の制作） 02 資料収集・アイデアスケッチ 03~05 作品制作 06 作品制作・講評・作品提出 07 課題説明（各自テーマにての制作） 08 講義・ディスカッション 09 資料収集・アイデアスケッチ 10~12 作品制作 13 作品制作・講評・作品提出 14 課題説明（切子技法による作品制作） 15 プレゼンテーション・講評 / 作品・制作ファイルの提出 < 鍍金領域（金属工芸） >：長谷川：課題【蠟型石膏埋没鍍造法による2課題を行う】 01~03 ガイダンス、道具製作 04~09 塑造原型による自然物の模刻 ・ スケッチ、塑造による模刻、石膏雌型、鍍型制作、溶解、叩き仕上、着色、プレゼン・講評 10~15 各自のテーマによる鍍金造形作品制作

	～技法等制作に関わる事は対象物により検討する～ プレゼン・講評 *各自の制作ペースと工房共通機材の関係により時間外の指導も行う。 <鍛金領域>：数内：課題〔鍛金技法による2課題を行う〕 ①鍛金技法の応用課題として作品制作。 01 講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具の使用説明・工具制作・材料取り 02 実習 課題チェック～技法説明 作品制作 03~06 技法説明 作品制作 07 講評・プレゼンテーション ②自由研究 卒業研究への展開を考慮した研究と作品制作 08 講義・実習 ②課題内容説明 09 実習 課題チェック～技法説明 作品制作 10~14 実習 技法説明 作品制作 15 講評・プレゼンテーション * 演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていく。また、各自の制作ペースと工房共通機材の関係により時間外の指導も行う。
成績評価基準	授業課題の理解度および制作姿勢 30%、成果物の内容 70%。これらを総合的に判断し、担当教員が評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイド同様。
テキスト（教科書）	各ゼミで適宜指示する。
参考書・参考資料等	各ゼミで適宜指示する。 金属工芸系（鍛金・彫金・鋳金）は技術シリーズ「金工」（朝倉書店）・「金属の工作工芸」（開隆堂）・「鍛金の実際」（美術出版社）・「造形論／人間の視覚」（京都書院）・「金属の伝統技法」（理工学社）・「金工の着色技法」（理工学社）・「工芸家のための金属ノート」（アグネ技術センター）等を推薦する。
用具	ゼミごとに指示する。また、作品制作時に必要となる道具や工具の購入費用や材料費が必要となる。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	・前年度事前希望調査による。 ・日常の観察姿勢と積極的な取り組みで、授業の「達成目標」に到達すること。
実務経験を活かし た授業	

科目名	卒業研究Ⅰ 美術・工芸学科
学年	4
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、◎中村和宏、長谷川克義、藪内公美
授業の概要及びテーマ	これまで培ってきた造形力を基盤とした卒業研究の前半として、相応しい内容のテーマの立案から検討を行い、「制作」や「制作及び論文」又は「論文」の内容を見据えた技法実験、小作品の制作、研究を実践する。そして、後半の本制作の骨格となる成果を中間発表する。テーマの対象は、屋内・屋外の場合とモノ（造形）の関係、人とモノ（造形）の関係を今日的視点から探求し、長期にわたるテーマの持続性、計画性をもとにした目標の達成が求められることとなる。 また、個々に追求した専門領域の研究成果にとどまらず、異領域のコラボレーションを通した新たな造形表現に取り組むことも可能である。
達成目標	・ テーマ内容を絞り込むために沿革の資料収集～選択、スケッチ・モデルによる質疑応答、検討が適宜行える。 ・ 制作における素材の扱いと技法の効果を予測しイメージを視覚化できる。 ・ テーマに沿った制作技法の習得ができる。 ・ 卒業研究として適切な内容のコンセプトを立案し、中間発表をすることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	各研究室より別途指示もあります。 01～04 テーマおよびコンセプトに伴う資料収集。調査分析方法の選択 05～08 テーマ・コンセプトの仮設定～制作方法の検討 09～12 スケッチ、モデルによる検討 スケジュール計画 13～16 素材と技法の検討、試作 17～22 試作～ 諸問題の解決 23 中間発表
成績評価基準	授業課題の理解度および制作姿勢 30%、成果物の内容 70%。これらを総合的に判断し、担当教員が評価する。
出席・遅刻の基準	各研究室で設定する。
テキスト(教科書)	必要に応じて指示する。
参考書・参考資料等	各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。 各指導教員より適宜紹介や指示をする。
用具	各研究室で指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は連動したものであり長期に渡る研究となります。そして、各自のテーマからそれぞれの手法にて、段階ごとに具体的な成果を獲得していくものとなります。中間発表で終わりではないことを意識して邁進してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	卒業研究Ⅱ 美術・工芸学科
学年	4
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、◎中村和宏、長谷川克義、藪内公美
授業の概要及びテーマ	卒業研究Ⅰを達成することで得た研究内容から最終的な卒業研究におけるコンセプトを設定し、その成果を「制作」や「制作及び論文」又は「論文」で提示する。制作においては、各自が実材による造形について研究を行う。論文においては、個々のテーマにそった考察を深め研究を行う。それぞれが卒業研究としてふさわしい高い成果の発表へ向けてアプローチするものである。
達成目標	・ コンセプトを踏まえて立案した内容を実現するために積極的に行動することが出来る。 ・ テーマに独自性と客観性を持つことが出来る。 ・ 造形における素材の扱いと技法の効果を関連づけられる。 ・ 論文で卒業研究を行う場合は、論として文章をまとめることが出来る。 ・ 自己の研究内容について理路を立て説明出来る。〈研究発表〉
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力／社会人基礎力を養う授業
授業計画	各研究室より別途指示もあります。 01~08 中間発表に基づく内容の修正～制作 09~18 制作 19~22 最終調整～展示実施 23 研究発表
成績評価基準	受講姿勢と卒業研究成果物 80%、展示及びプレゼンテーション評価 20%。これらを総合的に判断し評価する。
出席・遅刻の基準	各研究室で設定する。
テキスト(教科書)	必要に応じて指示する。
参考書・参考資料等	各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。 各指導教員より適宜紹介や指示をする。
用具	各研究室で指示する。
履修制限等	「卒業研究Ⅰ」の単位を修得していること。
履修希望者への要望・事前準備	卒業研究は学部4年間の集大成として位置付けられ、社会への一歩や進学へのステップとして重要な役割を持っています。長期計画に基づいたその成果として、最終発表には充実した研究と発表を期待しています。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築・環境コンピュータ基礎演習
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	武井奈津美
授業の概要及びテーマ	建築・環境デザインの分野において、Illustrator、Photoshop の使い方に特徴がある。この演習では、設計のプレゼンテーションパネル制作を念頭に、基本操作からアプリケーションの連携まで学び、プレゼン力を身につける。
達成目標	・ Illustrator、Photoshop の基礎操作方法を習得する。 ・ 後期の設計演習のパネルメイキングに、習得した技術を即座に応用する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、Illustrator の基本操作 1 02 Illustrator の基本操作 2 03 Illustrator の基本操作 3 04 Illustrator の基本操作 4 05 Illustrator の基本操作 5 06 Illustrator の基本操作 6 07 Photoshop の基本操作 1 08 Photoshop の基本操作 2 09 Photoshop の基本操作 3 10 Photoshop の基本操作 4 11 Photoshop の基本操作 5 12 Photoshop の基本操作 6 13 Photoshop と Illustrator の連携 1 14 Photoshop と Illustrator の連携 2 15 Photoshop と Illustrator の連携 3
成績評価基準	作図課題＋最終課題によって評価する。 なお、受講態度、欠席回数によっては最終課題の提出を認めないことがある。データ作成含め、不正が確認された場合は、単位を認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業時にプリントを配付する。
参考書・参考資料等	授業中に適時指示する。
用具	課題のデータ保存用に、USB メモリ (1 GB 以上推奨) を各自で用意してください。毎回授業の前に各自で USB メモリ内部のウィルスチェックを行って下さい。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	後期の「建築・環境デザイン演習Ⅱ」では、設計がどんなに良くても、パネルのレイアウトが成功しない限り、高得点を得ることはできません。学内に展示される先輩達の優秀作品がとても美しいのは、1 年生の時から腕を磨いてきたからです。設計図面、文章、模型写真、透視図などを、自在に編集し、見事にレイアウトすることは、造形大生にとって極めて重要なことです。
実務経験を活かした授業	

科目名	製図実習
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎森 望、平山育男
授業の概要及びテーマ	木造およびRC（鉄筋コンクリート）造の建築物を教材とし、建築・環境デザイン学科の諸分野における基本的な情報伝達手段である製図、透視図、模型制作、プレゼンテーションの技法について系統的に学習する。
達成目標	建築・環境デザイン学科の諸分野における情報伝達の共通言語としての製図方法を理解し、表現することができる。また、建築物がどのような要素から成り立っているのかを理解し、説明できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、製図とは？・必要な道具について 02 図法の説明・線と文字・寸法の記入法・表示記号 03 木造の配置図・平面図 04 木造の立面図・断面図 05 木造の平面詳細図（1） 06 木造の平面詳細図（2） 07 木造の断面詳細図（1） 08 木造の断面詳細図（2） 09 展開図 10 透視図（1） 11 透視図（2） 12 模型 13 RC造の平面図（1） 14 RC造の平面図（2） 15 最終発表・まとめ
成績評価基準	課題 80%、授業姿勢 20%。 なお、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えない。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合、遅れた日数により減点する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	プリントを配布する。
参考書・参考資料等	『建築製図』 学芸出版社 『建築設計演習基礎編』 彰国社 『建築製図』 彰国社
用具	最初の授業日に必要な道具の説明をする。また、希望者には大学売店にて、販売するため、購入すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	製図はデザイナーにとって必要不可欠なイメージ伝達技法であると同時に、知識と経験の積み上げが必要な技術である。毎回、授業の最初に説明をするので、遅刻をしないように。また、課題はほぼ毎週出題されるので、提出期限を守ること。なお、指定された道具と配付された資料は、毎回持参するように。
実務経験を活かした授業	建築設計事務所に勤務経験のある教員が、図面の描き方を教える。また、情報伝達手段としての透視図法、模型制作、プレゼンテーションの方法などについて指導する。

科目名	基礎数学
学年	1
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	白鳥洋子
授業の概要及びテーマ	建築・環境デザイン学科で学び、研究を進める上で、不可欠な数学的知識を習得する。高校までの学習内容のうち、特に建築設計や各種計画に必要な部分を取り上げ、集中的に理解度の向上を図る。
達成目標	建築・環境デザイン学科として必要な数学的知識を確かなものにするとともに、建築構造に対する理解や各種計画・解析を定量的な視点から捉えられるような下記の基礎的能力を獲得する。 ・長さ、面積の単位と図面の縮尺について正しく理解できる。 ・構造力学Ⅰに使用するレベルの三角関数、ベクトルが理解できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 数学的知識の状況確認 02 建物や土地の面積把握 03 建物と土地の関わり（容積率や建ぺい率） 04 縮尺とモジュール 05 チェックテスト1と解説 06 三角関数の理解度確認 07 三角関数の建築・建設の場面での基礎的利用方法1 08 三角関数の建築・建設の場面での基礎的利用方法2 09 チェックテスト2と解説 10 ベクトルの概念 11 ベクトルの大きさと成分 12 ベクトルの合成 13 内積と角度の計算 14 到達度確認（1）およびまとめ 15 到達度確認（2）
成績評価基準	受講態度 30%、到達度確認テスト 70% ただし、必要出席回数が 70%未満の場合、到達度確認テストの受験を認めないことがある。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	必要に応じて資料を配付する。
参考書・参考資料等	今村仁美・大谷一翔『図説 やさしい建築数学』学芸出版社 2,100 円
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業専用のノートを一冊必ず用意すること。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(描写) 建築・環境デザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	基礎造形実習Ⅱ(描写)は、主に「パース着彩」と「ランドスケープ・ドローイング」の2つのプログラムからなる。「パース着彩」では、建物の外観、内観、店舗のファサードを描き、絵の具を使用した着彩表現を学ぶ。「ランドスケープ・ドローイング」では、キャンパス内の風景の描写を課題とする。 現在、プレゼンテーションの時に使われるパースはCGが主流であり、手描きによるパースは稀なケースとなっている。しかし、手描きパースには味わいがあり、人々を惹きつける表現としての価値がある。加えて、自身のアイデアを発展させるプロセスにおいても手描きによる表現は重要である。 適宜、カメラ講習が行われる。
達成目標	手描きによる表現制作を通じて、「空間の表現」、「色彩を用いた様々な表現」を追求し、基礎的な素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とする。 ・正しい構図を得ることができる。 ・描写画材の応用と適切な使用ができる。 ・個々の表現対象物の特徴を精緻に観察することができる。 ・それぞれの材質の特徴を理解し、的確な表現をすることができる。 ・多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02・03 建物の外観パース 04・05 建物の内観パース、カメラ講習 06～10 商業施設のファサード 11～15 ランドスケープ・ドローイング ＊ 日程は軽微な調整があるので注意して下さい。
成績評価基準	建物の外観・内観 33%、商業施設のファサード 33%、ランドスケープ・ドローイング 33%。 受講姿勢によるもの 50%、提出作品 50%により総合的に評価します。欠席遅刻は減点の対象になります。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	適宜各授業にて配付する。
参考書・参考資料等	別途提示する。
用具	授業前に適宜指示する。指示、指定された用具は必ず授業当日までに用意し、持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形の力は今後の制作・研究を行う上で必要であり、身に付けるべき大切な要素の一つです。発想力が重要であることと同様に、基礎的な表現力がなければ具体的な結果や質の高い成果につながりません。経験の有無に関わらず、各人のレベルが向上することを目的としてしっかりと取り組んで下さい。
実務経験を活かし た授業	実務経験のある教員が実技指導を行う。

科目名	基礎造形実習Ⅱ(造形) 建築・環境デザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	基礎造形実習Ⅱ(造形)は、「CG」、「各種図面作成」、「建築士試験製図」の3つのプログラムで構成される。 「CG」では3D描画ソフトのスケッチアップを学ぶ。 「各種図面作成」では前期の製図実習でカバーできなかった伏図などのトレースを行う。 「建築士試験製図」では建築士受験のために必要な手描き図面のトレーニングを行う。
達成目標	スケッチアップを使用し、CGパースを制作することができる。 各種伏図の意味を理解し、製図することができる。 建築士受験のために必要な図面を製図することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	01～05 スケッチアップ 06～10 各種図面作成 11～15 建築士試験製図 * 日程は軽微な調整があるので注意して下さい。
成績評価基準	「CG」33%、「各種図面作成」33%、「建築士試験製図」33%。 受講姿勢によるもの50%、提出作品50%により総合的に評価します。欠席遅刻は減点の対象になります。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	それぞれの授業内で配付することがある。
参考書・参考資料等	別途指示する。
用具	授業にて適宜指示する。授業日には必ず指示された用具を持参すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形の力は今後の制作・研究を行う上で必要であり、身に付けるべき大切な要素の一つです。発想力が重要であることと同様に、基礎的な表現力がなければ具体的な結果や質の高い成果につながりません。経験の有無に関わらず、各人のレベルが向上することを目的としてしっかりと取り組んで下さい。
実務経験を活かし た授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(素形材) 建築・環境デザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	基礎造形実習Ⅱ(素形材)は、「模型製作」と「椅子制作」の2つのプログラムからなる。 「模型製作」では、建築・環境デザイン演習Ⅰの4つの課題の模型を製作する。 「椅子制作」では、「椅子デザイン」で考案した椅子の模型を制作する。
達成目標	・ 課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。 ・ 課題に関する説明を記録し、制作過程をまとめることができる。 ・ 制作等の指導を理解することができ、適切な質疑応答ができる。 ・ 制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを実践でき、美しいデザインによる完成度の高い成果物を提出することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	詳しくは初回のガイダンス時に説明を行う。 01～05 模型製作 06～10 椅子制作 11～15 模型製作 * 日程には軽微な調整があるので注意して下さい。
成績評価基準	模型製作 67%、椅子制作 33%。 受講姿勢によるもの 50%、提出作品 50%により総合的に評価します。欠席遅刻は減点の対象になります。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	各課題により資料テキストを授業時に配付する場合がある。
参考書・参考資料等	別途指示する。
用具	各課題制作に必要な用具・材料は適宜指示する。各自が使用する材料等は各自で購入する場合もある。(各課題により異なる。)
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形の力は今後の制作・研究を行う上で必要であり、身に付けるべき大切な要素の一つです。発想力が重要であることと同様に、基礎的な表現力がなければ具体的な結果や質の高い成果につながりません。経験の有無に関わらず、各人のレベルが向上することを目的としてしっかりと取り組んでください。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎造形実習Ⅱ(デザイン) 建築・環境デザイン学科
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	履修ガイド参照
授業の概要及びテーマ	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)は、「建築写真」と「椅子デザイン」の2つのプログラムからなる。「建築写真」では、実際の建築物の写真の撮影法を学び、実際に撮影する。 「椅子デザイン」では、椅子のアイデア、デザインを考案し、設計を行い、三面図、姿図を作成する。
達成目標	建築物撮影のノウハウがわかり、実際に撮影することができる。 椅子の設計制作における基礎的な事項を理解し、デザインの検討と展開を行い、三面図、姿図に表現することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	最初のガイダンス の際に詳細を説明する。 01～04 建築写真 05～15 椅子デザイン ＊ 日程は軽微な調整があるので注意して下さい。
成績評価基準	「建築写真」27%、「椅子デザイン」73%。 受講姿勢によるもの50%、提出作品50%により総合的に評価します。欠席遅刻は減点の対象になります。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	各授業内でプリントなど配付する。
参考書・参考資料等	別途指示する。
用具	授業にて適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	基礎造形の力は今後の制作・研究を行う上で必要であり、身に付けるべき大切な要素の一つです。発想力が重要であることと同様に、基礎的な表現力がなければ具体的な結果や質の高い成果につながりません。経験の有無に関わらず、各人のレベルが向上することを目的としてしっかりと取り組んで下さい。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築・環境CAD実習
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	武井奈津美
授業の概要及びテーマ	建築・土木・機械等の図面は設計者の意思や表現を伝える言葉である。図面は電子データとしてCADで作図され、効率的に運用されることが一般的となっている。 この実習では、国内外でシェアの高いAutoCADを用いて、基本的な作図手法を修得し、図面表現の力をつける。前半は基本操作を修得する。中盤からは、設計演習課題の図面を作図することで図面の読み方を理解し、効率的な作図を身につける。後半は、その他のアプリケーションと連携を行いながら、設計図書について学ぶ。
達成目標	・ AutoCAD の基本操作を取得し、図面を正確に描くことができる。 ・ 同時並行の設計演習課題の図面を、美しく描くことができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、AutoCAD の基本操作1 (座標、縮尺、レイヤー、0 スナップ) ・ 作図練習 1 02 AutoCAD の基本操作 2 (作図コマンド、基点設定) ・ 作図練習 2 03 AutoCAD の基本操作 3 (編集コマンド) ・ 作図練習 3 04 AutoCAD の基本操作 4 (寸法、文字の設定、印刷設定) ・ 設計演習課題作図 1 (ふたり部屋：RC 造平面図) 05 AutoCAD の基本操作 5 (DXF ファイル： Illustrator との連携) ・ 設計演習課題作図 2 (ふたり部屋：RC 造平面図、展開図) 06 AutoCAD の基本操作 6 (ペーパー空間) ・ 設計演習課題作図 3 (蔵座敷：木造平面図) 07 AutoCAD の基本操作 7 ・ 設計演習課題作図 4 (蔵座敷：木造平面図、断面図、展開図) 08 AutoCAD の基本操作 8 (写真データの取込み、DXF ファイル：その他の CAD との連携) 09 AutoCAD の基本操作 9 (Excel との連携：面積表、仕上表など) 10 AutoCAD の応用操作 1 ・ 設計演習課題作図 5 (フォリー：配置図) 11 AutoCAD の応用操作 2 ・ 設計演習課題作図 6 (フォリー：平面図、立面図、断面図) 12 AutoCAD の応用操作 3 ・ 設計演習課題作図 7 (フォリー：平面図、立面図、断面図) 13 AutoCAD の応用操作 4 ・ 設計演習課題作図 8 (住宅：平面図、立面図、断面図) 14 AutoCAD の応用操作 5 ・ 設計演習課題作図 9 (住宅：平面図、立面図、断面図) 15 AutoCAD の応用操作 6 ・ 最終課題
成績評価基準	作図課題＋最終課題によって評価する。 受講態度、欠席回数によっては、最終課題の提出を認めないことがある。データ作成も含め、不正が確認された場合は、単位を認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドに記載のとおり
テキスト(教科書)	毎回資料を配付します。
参考書・参考資料等	授業中に、適時指示する。
用具	課題のデータ保存用に USB メモリ (1 GB 以上推奨) を各自で用意してください。毎回授業の前に各自で USB メモリ内部のウイルスチェックを行って下さい。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	設計稼業は、CAD ができなければお話になりません。設計は、1 に図面、2 に図面、3、4 も図面で、5 も図面です。図面は、設計者の「意図」を相手に伝える極めて重要な手段です。建築・環境デザイン学科に入学したからには、「図面力」を徹底的に鍛えられるものと覚悟し、精進してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築・環境デザイン演習Ⅰ
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	山下秀之、◎佐藤淳哉、柏原信幸、羽原康成、津村泰範、高坂裕子
授業の概要及びテーマ	初めての設計演習である。インテリアデザイン→日本伝統様式→小建築とランドスケープ→戸建て住宅の設計を学ぶ。製図やCAD演習で習得した技術も、この演習で応用する。 ■ 第1課題：「ふたり部屋」／建築・環境デザインを学ぶあなたと友人のふたりが、共同生活するインテリアのデザイン。5.4m立方体の空間認識。プライベートスペース（個別空間）とパブリックスペース（共有空間）を学ぶ。 ■ 第2課題：「蔵座敷」／日本伝統の空間様式を題材にし、そのルールの中で現代に通じる和座敷を設計する。実在する蔵のインテリア・リフォーム。「床・棚・書院」という座敷飾りの扱いを学ぶ。スケルトン・インフィルの習得。 ■ 第3課題：「フォリー」／大学の敷地で自分の好きなポイントに、東屋的な小規模建築物をデザイン。広々とした環境と小さな構造物の関係を学ぶ。 ■ 第4課題：「住宅」／具体的な敷地に、具体的な家族像のための住宅を設計する。住宅の間取りと内部空間と外側の形を一つにまとめる。住宅設計が建築設計の基本中の基本であることを学ぶ。
達成目標	各課題ごとに、以下の完成度合で評価を行う。 1. 毎週の宿題やエスキスを、やり遂げることができる。 2. 課題条件を十分に理解した設計や、優れたデザインができる。 3. 正しく、緻密に、設計図が描ける。 4. 印象的なパースや丁寧な模型を作成することができる。 5. 設計概要を適切な文章で表現できる。 6. 以上を、美しいレイアウトでパネルに表現できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	各演習の初日には、ミニレクチャー形式で課題内容に関連することを学ぶ。中間日のエスキスチェックでは、スケッチブックに描いた素案や模型をもとに、教員のアドバイスを得る。最終日には提出物の採点があり、その場で優秀者の発表と講評会を行う。 前半 〈第1課題「ふたり部屋」／第2課題「蔵座敷」〉 01 オリエンテーション&教員の紹介、第1課題および第2課題の出題&ミニレク 02・03 第1課題、第2課題の宿題チェック、エスキス 04 第1課題の仮提出（図面）、エスキス（最終チェック） 05 第1課題の本提出&採点、講評会 06 第2課題の仮提出（図面）、エスキス（最終チェック） 07 第2課題の本提出&採点、第3課題「フォリー」の出題、講評会 後半 〈第3課題「フォリー」／第4課題「住宅」〉 08 第3課題のミニレク、宿題チェック（敷地写真と素案） 09 第3課題宿題チェック（エスキス模型）、第4課題の出題、ミニレク 10 第3課題と第4課題の宿題チェック、エスキス（平面・断面の検討） 11 第3課題の仮提出、エスキス（デザイン・構造の検討） 12 第3課題の本提出&採点、「フォリー」の講評会 13 第4課題の図面とスタディ模型で中間発表（全員） 14 第4課題仮提出、図面の最終チェック 15 第4課題本提出&採点&講評会
成績評価基準	講評会での提出物の成績点数（全教員の採点平均）80%＋宿題提出20%（エスキスを受けると加算される） 未提出作品は、期末の後出し提出日に、提出条件を満たしていれば、60点として採点される。一作品でも未提出のままの場合は、履修は不合格となる。 作品提出では、提出に遅れた時間に応じた減点がなされる。
出席・遅刻の基準	欠席日数により減点あり
テキスト（教科書）	課題文に資料を配付し説明する場合がある以外、履修者各自により参考図書などを探し、自習すること。
参考書・参考資料等	自分で探すこと。
用具	スケッチブックあるいはエスキス帳、各種筆記用具
履修制限等	特になし
履修希望者への要望・事前準備	各人が設計者として、アイデアや考えを人前で堂々と主張し、図面やパースや模型を作成し、プレゼンしていけるようになること。
実務経験を活かした授業	豊富な実務実績による教員の演習指導である。

科目名	建築構法
学年	1
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	平山育男
授業の概要及びテーマ	建築をどのように組み立てるのかは建築を考える場合、必須の事柄と言えます。 軸組構法、組構造などの各種構法の種類と特徴を踏まえた上で、木造構造を中心に基礎、軸組、小屋組、床、壁、天井、建具などの構成方法について基礎的な事項を中心に広く学習をして行きます。 特に、各構法については技術の歴史的な背景と成立の要因を有機的に探求して、現在ある構法の成立背景を併せて示して行きます。
達成目標	木造の構法を中心に設計に活用する知識を得ることを目指し、各構法を羅列的な知識として学習するのではなく、歴史的な発展として把握することにより、今後における建築構法の在り方も探る姿勢を身につけることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	01 各種建築構法の種類と特徴：軸組構法、組構造 各種構法について材料の特性、構造の違いについて概括的に学びます。 02 基礎：掘立、礎石立、布基礎 (02～11回の授業では各部部材の名称を説明するとともに、その成り立ちと変遷を学習します。) 03 軸組：土台、柱、梁、桁、胴差 04 軒：垂木 05 架構：折置組、京呂組 06 屋根 形状と名称：切妻造、寄棟造、入母屋造 07 屋根 材料：瓦葺、金属板葺ほか 08 床：大引、根太、床材 09 天井：廻縁、棹縁、各種の天井 10 壁：真壁、大壁、各種の壁 11 開口部：窓、扉 12 木造の架構と構法：基礎伏、床伏 (12～14回では各種の施工図についての解説を通して、実際の架構法を学びます。) 13 木造の架構と構法：小屋伏、軸組 14 木造の架構と構法：矩計 15 まとめ
成績評価基準	授業への参加態度 20%、授業毎の小課題 30%、複数回行う確認テスト 50%。 なお、小課題は毎授業のおわりに実施し、次回の授業で返却をします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	日本建築学会編『構造用教材』
参考書・参考資料等	彰国社編集『改訂 伝統のディテール』 近藤豊『古建築の細部意匠』 大河出版
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築物を見て、知るためには部材名称を覚えることが最小限必須となります。授業においては名称の記憶や学習に留まらず、その成立・変遷をも把握し、建築が歩んできた歴史の道のりを体験してもらいたいと考えています。そのためには建築に向かうとき、主体的に建築を知る－かたちの意味を考える－努力を希求します。
実務経験を活かした授業	文化財建造物修理設計監理の経験を持つ教員が指導する。

科目名	建築・環境デザイン演習Ⅱ
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎渡辺誠介、北 雄介、福本 壘、柏原信幸、高坂裕子、吉田謙一
授業の概要及びテーマ	公園・緑地ならびに都市計画・まちづくりなどの環境計画において、土地の持つ様々な資源を把握しつつ、保存・活用・開発の手法について計画・設計による演習を行います。演習にあたっては、長岡市内の具体的事例をケーススタディーとして設定します。
達成目標	環境保全、あるいは新たな環境創造のための実践的手法を習得し、実際の計画や設計に応用できるようになることを目標とします。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	<ランドスケープ課題> 柏原 01 対象地域の現地踏査 02 環境の読み取り方および課題の把握 03 基本構想の提案，等高線の操作，デザインコンセプト構築 04 空間デザイン(スケッチの描き方)及びエスキース作成 05 全体プラン概要発表，エスキース 06 ゾーニング，動線計画，創成・排水計画確認 07 講評会 08 対象地域の現地踏査 09 環境の読み取り方および課題の把握 10 基本構想の提案，等高線の操作，デザインコンセプト構築 11 空間デザイン(スケッチの描き方)及びエスキース作成 12 全体プラン概要発表，エスキース 13 ゾーニング，動線計画，創成・排水計画確認 14 講評会 15 ランドスケープ+都市の全体講評会 <都市計画課題> 渡辺、福本、北、高坂 * 作業、ミニレクチャーなどは各回9:00 に NaDeC BASE で行います（第1回のみ大学集合）。直接 NaDeC BASE に行くもの以外は NID バスで大学から移動する都合上8:40 に学生駐車場に集合してください。 01 課題説明、都市計画からの解説 02 グループ作り、調査項目検討、ベースマップ作成 03 現地踏査 04 グループワークの成果発表 05 個別計画案のエスキース 06 計画案の作成 07 計画案発表 08 課題説明、都市計画からの解説 09 グループ作り、調査項目検討、ベースマップ作成 10 現地踏査 11 グループワークの成果発表 12 個別計画案のエスキース 13 計画案の作成 14 計画案発表 15 ランドスケープ+都市の全体講評会
成績評価基準	中間発表 30%、作品（場所性の把握、分析・評価、コンセプト、デザイン、説得力）50%、出席した上での教員への質問・討議 20%で評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	小川総一郎『エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法』理工図書 4,100 円
参考書・参考資料等	日本建築学会編『コンパクト建築設計資料集成』丸善 5,040 円 DAVIS・WALKER『PLAN GRAPHICS』WILEY 5,776 円 日本建築学会編『まちづくりデザインのプロセス』日本建築学会 1,995 円 園田聡『プレイスメイキング アクティビティ・ファーストの都市デザイン』学芸出版社 2,400 円 小川総一郎『エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法』理工図書 4,100 円
用具	現地踏査時にカメラと記録用具を携帯してください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	身近に接する場所の良い点、悪い点を的確に把握し、その場所が何を求めているのかを読み取る能力を開発します。課外授業を取り入れるため、スケジュールは比較的きびしい授業になります。実際の長岡の敷地をケースとして取り上げ、基本計画をプロセスを重視して作成していきます。
実務経験を活かした授業	建設会社及びコンサルタンツで実績のある教員がランドスケープの計画設計を指導する。 都市計画審議会など各種都市計画業務に携わる経験を持つ教員が、都市設計を指導する。 リノベーション・プロジェクトの実務に関わる教員が、リノベデザインについて指導する。

科目名	建築材料実験
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	北 雄介、◎佐藤淳哉、白井一義
授業の概要及びテーマ	建築をかたちづくる材料には骨組みを構成する構造材料、断熱・防音・耐火などの機能を求められる機能材料、内外装を仕上げる仕上げ材料があります。この授業では地震や台風など建物を破壊しようとする力に対して安全を守るために最も重要な構造材料に対する知識を実験を通して具体的に体得して行きます。実験の対象とするのはコンクリート、および複合材料としての鉄筋コンクリートです。その他、主要な構造材料である木材と鋼材については実験デモンストレーションからその材料特性を学び、実際の材料の使われ方を理解するために、木加工工場、鉄骨製作工場、生コンクリートプラント等の見学を予定しています。 また、材料の特性の体感のためにヒノキ角棒と綿糸を使用した橋梁課題に取り組んでもらいます。それぞれの材料の簡易強度計測からどうすれば強い橋梁が構成できるかを考察し、実際に組み立てて実験することで材料構成を体験的に学びます。
達成目標	構造的安全性を理解する上で骨組みの形、力の流れとともに骨組みを構成する材料の力学的性質を知ることが必要である。構造材料として用いられている材料の基本的な力学的挙動を体験的に理解することにより、工学的に評価する方法を身につけることを目標とします。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 木造講義 03 木材の圧縮・せん断試験デモ 04 コンクリート講義 05～11 コンクリート試験体の制作と圧縮・曲げ試験 鉄骨講義および引張試験デモ 12～14 ヒノキ角棒および水系、綿糸による橋梁課題 角棒と綿糸の簡易耐力実験、橋梁耐力コンテスト 15 実験まとめ、小テスト 実験グループ毎に木加工工場、鉄骨製作工場、生コンクリートプラント等の見学を行う
成績評価基準	実習・実験を通じて建築材料の性質を学ぶという授業の性格から出席率が80%を下回る場合には単位を与えません。授業のはじめにその日の実験の説明をしますので遅刻をすると目的や手順がわからなくなってしまう。遅刻は厳禁です。もしも遅刻をしたら3回で欠席1回とみなします。成績評価は、積極性(20%)と実験結果のレポート(50%)および課題(30%)で行います。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	プリントを配付
参考書・参考資料等	『建築材料実験用教材』 日本建築学会 『建築材料用教材』 日本建築学会
用具	用具は基本的に大学の備品を使いますが、計算を行うので、電卓が必須です。また作業しやすく、汚れてもよい服装で臨んでください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築の設計においても施工においても使う材料の性質を知らなくてはお話になりません。しかし、力学的性質は目に見えないことが多いため、理解が困難な一面もあります。この授業では材料の破壊に至るまでのプロセスを観察することで力学的な性質を体で覚えることを意図しています。積極的に体と手を動かして実験に参加して下さい。また、実験の結果を整理し、考察するには工学的な手法を知る必要があります。予測、観察、考察、まとめの一連の方法を知ること大切です。
実務経験を活かした授業	コンクリート診断、建築設計の実務に携わる教員が指導することで、建築の工学的基礎と設計の関係性も視野に入れた実験・講義を行う

科目名	建築環境工学
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	飯野秋成
授業の概要及びテーマ	現代の建築設計にたずさわる者には、建築とまちのサステナブル性を追求する真摯な姿勢が求められる。この講義では、建築物の省エネルギーと快適性を具現化する切り口として、日照と日射、熱と結露、換気と通風、採光と照明、色彩計画、騒音と音響、および都市と地球環境のそれぞれについて、基本的な考え方を学ぶ。
達成目標	日照と日射、熱と結露、換気と通風、採光と照明、色彩計画、騒音と音響、および都市と地球環境に関する基本的な考え方について、主要なキーワードを適切に用いて説明できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス／日照と日射（１） 02 日照と日射（２） 03 日照と日射（３）／理解度確認とまとめ 04 採光と照明（１） 05 採光と照明（２）／理解度確認とまとめ 06 色彩（１）／理解度確認とまとめ 07 熱と結露（１） 08 熱と結露（２） 09 熱と結露（３）／理解度確認とまとめ 10 人体温冷感／理解度確認とまとめ 11 通風と換気（１） 12 通風と換気（２）／理解度確認とまとめ 13 騒音と音響（１） 14 騒音と音響（２）／理解度確認とまとめ 15 都市と地球環境／理解度確認とまとめ／記述式レポート課題
成績評価基準	授業中に実施する、章ごとの「理解度確認とまとめ」（合計 80 点）、および「記述式レポート課題」（20 点）の合計により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	図とキーワードで学ぶ建築環境工学 学芸出版社 2800 円
参考書・参考資料等	
用具	・ 指定テキスト ・ オンライン授業受講用デバイス（要ネット環境） ・ 筆記用具
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	将来の建築士試験受験時に、当授業の内容に関する理解度を問われることになります。毎回の講義内容を確実に身につけていってください。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築計画 I
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎北 雄介、佐藤淳哉
授業の概要及びテーマ	建築は美しく、快適で、使いやすいものになるように、また社会や地域のコンテキストなども踏まえて計画しなければならない。このような多様な側面を持つ建築のデザインのために、まずは人間（認知や行動など）と空間（スケール、建築や都市の空間構成）、およびこれらの間にある関係について正しく理解しなければならない。この授業では基本的な言葉、理論、図式などを幅広く解説することで、人間と空間との関係を理解し、基本的な計画技術や考え方を身につけてもらう。魅力的な設計事例や書籍なども多数紹介するので、今後の設計活動に活かしていただきたい。
達成目標	1) 建築計画を理解するための基礎知識（用語、理論、思想、事例など）を身につける 2) 書籍や調査などにより、建築を主体的に学ぶ習慣をつくる
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 インTRODクション：建築計画の位置づけ 02 スケール①：寸法、単位、比 03 スケール②：家具・什器、建具から建築・都市まで 04 スケール③：階段の実測 05 課題1のプレゼンテーション 06 人の認知と行動①：身の周りの空間の認知 07 人の認知と行動②：都市空間の認知 08 人の認知と行動③：人間行動の基本原則 09 空間構成①：プライバシー、アクセシビリティ 10 空間構成②：建築家の語る言葉 11 空間構成③：機能と空間 12 空間構成④：内と外、境界と領域、中心と方向 13 空間構成⑤：ダイアグラム 14 復習テスト＋建築空間の多面的な解説 15 課題2のプレゼンテーション
成績評価基準	出席回数12回以上を前提とし、課題2回の評価（40%+40%）、受講に対する積極性（20%）を総合して評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドに記載のとおり
テキスト（教科書）	都度、授業に関係する推薦図書を紹介する。
参考書・参考資料等	
用具	都度、授業中に指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	重要な概念や事例をたくさん紹介するので、しっかりとメモを取りながら聴くようにしてください。また課題は提出して終わりではなく、全員分をweb上のギャラリーで共有し、優秀作品についてはプレゼンテーションを行なっていただきます。議論の題材になるような、野心的な内容を期待しています。
実務経験を活かした授業	さまざまなビルディングタイプ、およびさまざまな設計フェーズ実務に携わった経験を持つ教員が講義を行う。

科目名	建築・環境デザイン演習Ⅲ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	北 雄介、◎佐藤淳哉、津村泰範、与那嶺仁志、東海林健、田中理恵子、渡邊詞男
授業の概要及びテーマ	建築及び建築を含めた風土と環境、敷地との係り合いを学ぶ。建築の持つ空間、量感、そしてこれによって表現される効果を演習する。それぞれの土地に根ざした建築の設計を試みると同時に、少し複合的な機能を持った建築にチャレンジする。テーマは以下のとおり。 ① 単純な機能の中にも、都市に新たな提案を含み、空間全体を引き締めることができる建築を考え、表現とそれを包み込む環境の質の向上を計る。 ② 集合住宅等の設計：地域環境を十分理解した上で、そこに集合して住まうことの意味と街を構成する重要な要素であることを認識し、設計を進める。 ③ 美術館等の設計：展示するものに対する企画力と建築形態への発想の自由さを獲得し、機能を持たせた建築空間にまとめ上げる力をつける。
達成目標	現実に行われている建築設計の流れを習得する。そのためには、建築構造と建築環境工学の基礎知識を応用する能力が必要である。さらに、敷地の条件を読みこなす能力も問われ、最終的に建築造形として全ての要素を含み込んだ提案ができることが求められる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	第1 課題「集合住宅+」 01 出題およびリサーチ解説 02 グループリサーチワーク 03 リサーチ・プレゼン 04~06 エスキス 14 パネル提出 08 模型提出・プレゼン・講評 第2 課題「アートセンター」 extra 見学実習 09 リサーチ・プレゼン 10~13 エスキス 14 パネル提出 15 模型提出・プレゼン・講評
成績評価基準	課題ごとの担当教員の評価を平均する。毎回のエスキスチェック重要。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	リサーチのなかでテキストとなる資料を自ら見つけること
参考書・参考資料等	「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 「建築設計資料集成」日本建築学会編 建築図集 低層集合住宅Ⅰ、Ⅱ 日本建築家協会編 彰国社刊 各種建築雑誌
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	エスキスを重要視する。毎回学生はエスキスをしながら考えたことを教員に対してプレゼンテーションすることにより、自らの考えを修正したり、深めたりしてほしい。スケジュール管理を徹底し、各段階でのエスキス時間を十分確保すること。各自の設計案は設計者による主旨説明の後、各教員によって講評されるが各自自信をもって立ち向かってほしい。 建築・環境デザイン学科に入学し、2年目。専門課程に入る前の最後の演習となる。敷地における空地のデザインと建築設計は建築・環境デザイン学科におけるものづくりの基本であるという認識に立ち、建築及びその環境を学び、専門家としての考え方、知識を身につける上で大切な演習である。また設計することの喜び、楽しみも十分に満喫してほしい。CAD は設計に携わるのであれば必須のスキルですので積極的な授業を各自展開してほしい。
実務経験を活かした授業	設計実務者である複数の教員がリサーチからコンセプトワーク、設計の具体的な内容を指導する。

科目名	構造力学Ⅰ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	与那嶺仁志
授業の概要及びテーマ	物を床に載せた時、また、地震力や風圧力等の外力により建物には力が作用します。建物に生じる様々な応力や変位を知ること、建物の自由な空間や人命に対する安全性、そして、近年、重要視される様になった居住性を考える第一歩となります。 構造力学Ⅰでは、外力の種類、そして柱や梁に生じる力の種類を知り、その応力により各部材がどのように変形するかを知ることから始めます。変形が理解できたら、応力や変位を数値として算出するために必要な基本的な事項について説明して行きます。 最終的には、知識として身につけた計算が実際にどのように構造体へ応用されるのか実感できる様に具体例を解説します。
達成目標	建築士に必要な力学的知識である構造物の支点反力や変位および部材断面に生じる応力の種類を理解することを第一目標とし、静定構造を中心に構造力学の計算方法を習得すると共に不静定構造物の計算を試みる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 概要：授業の概要 02 荷重：建物に加わる外力の種類と性質 03 力の合成と分解：異なる方向の力の合成と分解方法 04 力の釣り合い：部材にかかる力のつり合い・反力を考える 05 構造物のモデル化：モデル化と境界条件 06 荷重のモデル化：集中荷重、等分布荷重、モーメント荷重 07 断面力：軸力、曲げモーメント、せん断力 08 応力図：断面力の図示 09 静定梁1：静定梁の種類 10 静定梁2：静定梁を押してみる 11 静定ラーメン：静定ラーメンの応力 12 静定トラス：節点法、切断法 13 断面性能：応力度、変形（軸方向力を受ける部材） 14 演習：建築士試験に出る問題 15 まとめ
成績評価基準	成績評価は、各回で課す演習問題（45%）、期末試験（45%）、積極性（10%）を総合して行う。 期末試験は出席が2/3以上の者に受験資格を与える。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	適宜指示する。
参考書・参考資料等	『建築骨組の力学 基礎編』、田中 尚・高梨晃一・宇田川邦明、東洋書店 『図解でよく分かる建築構造入門』、江尻憲泰、エックスナレッジ 『建築構造力学Ⅰ』、和泉正哲、培風館 『やさしい構造力学』、浅野 清昭、学芸出版社
用具	関数電卓
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築の構造は計算だけで理解できるものではありませんが、応力を理解することは創造的な建築設計の基礎になります。興味を持てるようになるには、基本的な知識が必要です。知識取得のためには、時間をかけて努力する必要があります。
実務経験を活かした授業	国内外で様々な建物の構造設計・現場監理業務に携わった経験を持つ教員が講義を行う。

科目名	建築材料
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	津村泰範、◎平山育男、森 望
授業の概要及びテーマ	建築を造るためには必ず材料が必要です。そして建築に用いられる材料の数は極めて多く、性質もそれぞれ異なります。構造物の建設にはこれらの材料を大量に使用するので、構造物と住環境における安全性や耐久性に対して材料が及ぼす影響も大きく、材料の性質や長所・短所を知ることが極めて重要です。また、仕上材の性質を知り、よりよい空間の構成を知ることが重要です。授業では構造材としての木材、鋼材、コンクリートについての特性と、仕上用材の学習を通し、今後の学習の基礎とします。
達成目標	建築の構造材料として代表的な木材、鉄筋コンクリート、鋼材の性質と強度について理解し、建築物の設計に際しての基本事項として把握することができる。 また、仕上げ材の種類と用途を学ぶことによって、建築表現の在り方を把握することができる。 これらを合わせて実際の設計などにおいて、適切な材料の使用及び選択を行うための力を養うとともに、建築表現を行うことができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	〈津村〉 01 建築材料の基礎 02 木材の特徴と日本建築 03 木材の種類と用途 04 木材の加工と性質 05 合板、集成材、輸入材 〈平山〉 06 鋼材の性質と強度 07 鋼材の物性と製品 08 セメント・コンクリートの性質と強度 09 コンクリートの調合と打ち込み 〈森〉 10 石材・セラミックス 11 金属・プラスチック・防水材料 12 ガラス・屋根材料 13 壁下地・左官 14 内外装材・塗料・接着剤 〈共通〉 15 まとめ
成績評価基準	成績はテスト（80%）、授業の受講態度・意欲（20%）により評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	絵とき建築材料 改訂2版 オーム社 2,940 円
参考書・参考資料等	『建築材料用教材』 日本建築学会 1,995 円 このほかに参考となる資料などを授業において資料として配付します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築の材料を知ることが、よりよい建築を造るための第1歩となります。材料の種類、性質、特性をよく理解して、今後の設計活動などにおける礎としてください。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	建築構造
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	与那嶺仁志
授業の概要及びテーマ	建築の設計における構造デザインとは何か。その建築に適した材料を生かしながら、建築空間に融合する構造・架構システムを提案する創造力が必要となります。もちろん大地震や台風から人の命を預かるデザインであることも忘れてはいけません。 本授業では、日本の建築でよく用いられる鉄骨造、鉄筋コンクリート造、および木造を中心に、構造形式・構造種別の特徴を解説します。加えて膜・ケーブル・シェル構造のような特殊な構造形式や材料を適材適所に組み合わせたハイブリッド構造まで、材料の特性を考慮しながら様々な建築空間を創り出す構造システムについても紹介します。 また、構造デザインが意匠や設備設計と融合してトータルにデザインされる手法についても触れていきます。
達成目標	構造種別、構造形式、材料の強度やその性質に関する知識を習得すること及び基本的な構造設計法を理解する。また、構造設計と意匠・設備設計がどう関わり合い、1つの建物を創り上げるかを理解する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 概要：授業の概要 02 構造種別：鉄骨造・鉄筋コンクリート造・木造 03 構造形式：ラーメン構造・ブレース構造等の構造架構 04 鉄骨造：鉄鋼の性質と鉄骨造 05 鉄筋コンクリート造：コンクリートの性質と鉄筋コンクリート造 06 木造：木の性質と木造 07 様々な構造 (1)：トラス、スペースフレーム構造 08 様々な構造 (2)：アーチ、ヴォールト、ドーム、シェル構造 09 様々な構造 (3)：膜、ケーブル、ハイブリッド構造 10 様々な構造 (4)：タワー・高層構造と免震・制震構造 11 様々な構造 (5)：構造リサーチ・プレゼンテーション 12 地盤と基礎：地盤が建築に及ぼす影響と基礎の種類 13 構造設計：鉄骨造、鉄筋コンクリート造、木造の設計プロセス 14 デザインの融合：構造と意匠・設備設計が融合するトータルデザイン、デジタルデザインの活用 15 まとめ
成績評価基準	演習 (50%) とレポート (50%) を総合して評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト (教科書)	必要に応じて資料を配付します。
参考書・参考資料等	『構造物の技術史』藤本盛久編 市ヶ谷出版社 『YOUR PRIVATE SKY』R. BUCKMINSTER FULLER LARSMULLER PUBLISHERS 『自然な構造体ー自然と技術における形と構造、そしてその発生プロセス』F. オットー他著、鹿島出版社 『新しい建築のみかた (デザインとエンジニアリングが融合した建築のたのしみかたをつくりかた)』斎藤公男著、エクスナレッジ 『図解でよく分かる建築構造入門』江尻憲泰著、エクスナレッジ
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築設計は、構造に関する様々な知識が必要となります。構造計算以外の構造に関する知識を取得するため、実際に様々な建築物を見て構造形式や構成材料について考えてみてください。
実務経験を活かした授業	国内外で多くの建築家と協働経験を持つ教員(構造エンジニア)が講義を行う。

科目名	測量学実習
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎渡辺誠介、平山育男、福本 壘、渡邊信治、高橋有喜
授業の概要及びテーマ	建築家、ランドスケープデザイナー、都市計画家、文化財建造物保存専門家、遺跡整備専門家、土木技術士などに必要不可欠な技術である「測量学」を講義・実習を通して身につける。特に平板、測距、レベル測量、角測量の技術を実践的に身につけ、スケール感を養う。
達成目標	測量士補レベルの能力を身につける。 (1) 地形情報処理技術の全般的理解ができる (2) 測量器具が使える
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス＋距離測量講義 02 距離測量実習 03 平板講義(放射法、前進法) 04 平板測量実習 05 平板測量実習 06 レベル測量講義 07 レベル測量実習 08 レベル測量実習 09 角測量講義 10 角測量実習 11 角測量実習 12 角測量実習 13 土量計算 14 GIS 測量 15 最終内業確認
成績評価基準	実習での器具取り扱い習熟を重要視する。講義でのレポートも同様。これらをベースに最終内業の結果が 60 点以上を合格とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	『図解土木講座 測量学』 小田部和司著 技報堂出版 3,200 円
参考書・参考資料等	
用具	三角関数付きの電卓は必須です。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	野外での実習があるため、作業しやすい服装を準備すること。 野外で実習の際は、樹木の名前を覚える努力をすること。
実務経験を活かした授業	測量の実務に関わる非常勤講師が、実習指導する。

科目名	建築・環境CG実習 I
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎高木秀太、佐藤圭真
授業の概要及びテーマ	この授業は、建築・環境デザイン学科におけるCG教育の初級編です。CGソフトウェアを用いた空間のモデリング、レンダリング描画の基礎から応用までを演習形式で学習します。 Rhinoceros、Grasshopper による 1. 3D モデリングの基本学習および図面・画像出力、パース作成、レイアウトまでの応用学習 2. 建築設計に応用可能なパラメトリック制御の基本学習
達成目標	・ 3D モデル Rhinoceros、および、グラフィカルアルゴリズムエディタ Grasshopper の学生課題レベルでの技術習得 ・ デジタル3Dモデルの素材活用スキルの習得 ・ 上記技術の設計課題への自主的な応用
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	第一回：ガイダンス 第二回：Rhinoceros のインストール 第三回：Rhinoceros の基本 第四回：Rhinoceros で指定課題をモデリングする 1 第五回：Rhinoceros で指定課題をモデリングする 2 第六回：Rhinoceros で指定課題の図面を作成する 第七回：Rhinoceros で素材を割り当ててレンダリングする 1 第八回：Rhinoceros で素材を割り当ててレンダリングする 2 第九回：Adobe Photoshop でレンダリング画像を加工（レタッチ）する 第十回：Adobe Illustrator でプレゼンボードを作成する 1 第十一回：Adobe Illustrator でプレゼンボードを作成する 2 第十二回：プレゼンボード講評会 第十三回：Grasshopper の基本 1 第十四回：Grasshopper の基本 2 第十五回：Grasshopper の基本 3
成績評価基準	・ 毎授業の提出物可否による絶対評価（70％） ・ 最終提出物のクオリティによる相対評価（30％） 上記の通り、本授業は提出物（主に演習の成果物や課題スタディ結果の報告）を重要とし、全体の評価の7割とするので、注意すること。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り（開始 20 分以上の遅刻は欠席となります。）
テキスト（教科書）	Web テキストを用いる。詳細は授業時にアナウンスする
参考書・参考資料等	授業時にアナウンスする
用具	自身の PC を用意すること。ただし、PC 環境が整わない場合は、301・302 コンピュータ演習室を使用することができる。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	・ 第2学年 前期 「建築・環境デザイン演習Ⅱ」を同時履修する（あるいは、履修済である）と習得知識・技術に相乗効果が見込めるので推奨する ・ コンピューターに「詳しい者」はもちろんではあるが、「詳しくない者」にこそ是非受講していただきたい。丁寧な指導を心がけるので「デジタル」に怖がらないこと。 ・ 授業計画については進行状況や他の授業との連携によっては適宜変更するので授業中のアナウンスを注意すること
実務経験を活かした授業	

科目名	都市計画
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	都市計画とは、都市の総合的将来像を提示し、その実現に向けて住民の都市活動を誘導する手法である。そのためには、建築の単体規定および集団規定を学び、その上で経済学、社会学、行政学、文化財学、農林学など多くの素養を必要とする。こうした日本の都市計画の流れと、新たな制度、事例を合わせて今後必要となる技術を紹介する。
達成目標	都市計画制度の概要が説明できる 都市計画における専門技術を理解する 現代日本の都市計画の課題を理解する
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 都市計画理論の変遷 近代都市計画の先人である、エベネザー・ハワード、ル・コルビジエ、パトリック・ゲテス、ケヴィン・リンチ、クリストファー・アレキザンダーの都市論を学ぶ。 02 建築の観点から見た都市計画法と都市計画事業 日本における都市計画法の変遷。都市計画法と建築基準法の関係。ゾーニングと集団規定。市街化調整区域と線引き、非線引き。用途地域と建蔽率、容積率。接道義務と二項道路。区画整理事業と都市再開発事業。 03 国土計画と市町村合併 全国総合開発計画から4全総、5全総、国土形成計画までを概括する。 04 都市計画と市民参加 日本のまちづくり NP0 の変遷。欧米のまちづくり NP0 の変遷。日本の都市計画法の中で の市民参加の規定について 05 人口予測と土地利用計画 人口予測手法としての線形回帰法とコーホートモデルを学び、長岡の人口推計を行う。これに基づき土地利用計画の立て方を学ぶ 06 整備保と都市計画マスタープラン 都市計画の総合的考え方である「整備・開発・保全の方針」と「市町村マスタープラン」について学ぶ 07 優良田園都市住宅の考え方 市街化調整区域内での特例的田園集落地の開発の考え方を学ぶ 08 景観法と事例 景観法と景観法が導入されてきた背景を学ぶ 09 デザインサーベイとまちづくり 伝統的建造物群保存地域などを調査するための建築的デザインサーベイの方法論を学ぶ 10 まちづくり三法、都市再生特別措置法とまちづくり 中心市街地を活性化させるための所謂「まちづくり三法」の正立、改正の背景を学び、都市再生特措法のメニューを学ぶ 11 商業地デザインのテクニック 商業地のデザインテクニックを学ぶ 12, 3, 4 人口減少期のコンパクトなまちづくりの議論 人口減少期に検討されるべき、建築の減築、コンバージョン、間戻の手法と課題について考える 15 立地適正化計画 立地適正化計画について学ぶ 16 期末試験
成績評価基準	基本的に期末試験の結果 100% で成績を決める。 ただし、出席状況、レポート提出状況でも次のように考慮する。1/3 以上の欠席、1/3 以上のレポート課題未提出の場合は期末試験が 100 点でも不合格とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業時に配付する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	日本の人口が減少に向かう中、地方の都市のあるべき姿と、これまでの方向性に乖離が生まれ、問題が起きている。これを解決するための都市計画的ヒントを理解したい人が受講してください。
実務経験を活かした授業	都市計画審議会など各種都市計画業務に携わる経験を持つ教員が、講義担当する。

科目名	住宅リフォーム論
学年	2
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	羽原康成
授業の概要及びテーマ	住宅ストックの量的な充足、また環境問題、資源・エネルギー問題が深刻化する中で、既存ストックの適切な維持管理に加え、地震や高齢化等に対応する住まいの性能もより高く求められてきている。そこでますます重要とされる<住宅リフォームのプロセス>について学ぶ。
達成目標	住宅リフォームの流れや建物のライフサイクルコストへの理解を通じ、建築の良質なストックを設計するための基礎知識の習得。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 リフォームのプロセス 02 生活と住まい（グループワーク） 03 生活と社会の変遷 04 住宅ストックと政策 05 ダイアグラム（グループワーク） 06 住宅リフォームに関する設備・構造 07 住宅リフォームに関する法規 08 プランニング（グループワーク） 09 集合住宅のリフォーム・リノベーション 10 非住宅から住宅へのコンバージョン 11 プレゼンテーション（グループワーク） 12 環境性能 13 部位別リフォーム 14 地球環境とリフォーム・リノベーション 15 レポート発表
成績評価基準	授業態度（20%）、レポート・発表（80%）
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜、資料を配布。
参考書・参考資料等	『住宅リフォーム計画』 沖田富美子、井上恵子、金子智子著／学芸出版社／¥2,600- 『NA 選書 時代が求める住まいの新常識 住宅リノベーション 入門』 日経アーキテクチャ編／日経 BP 社／¥3,800- 『別冊うかたま 木の家リフォームを勉強する本』 「木の家リフォーム」プロジェクト編／農文協／¥1,890- 『今、中古マンション買ってリフォームが正解』 川口とし子著／メディアファクトリー／¥1,188-
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	自らの生活体験や、社会状況、他の授業との関連を意識して受講してください。
実務経験を活かした授業	公共建築物やオフィス、ホテル、住宅などの新築や改修の設計・監理業務に従事した経験のある教員が指導する。

科目名	建築計画Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	北 雄介、◎佐藤淳哉
授業の概要及びテーマ	前期「建築計画Ⅰ」で学んだ建築を計画・理解する上でのさまざまな基礎概念を発展させ、居住空間から公共建築といった実際の建築プロジェクト・スケールでの知見を学習します。また、建築がどのように生み出されるのか、背景としてどのような論理が展開されてきたのかを概観し、空間の整理から建築空間の提案につながるコンセプトデザインが生成される流れに触れることで建築プロジェクトを評価する姿勢の基礎、自らの設計に活かせる論理的思考法を身につけていきます。
達成目標	1) 計画学的な視点から建築を理解し、評価する力を身につける 2) 建築の評価内容を論理的に説明できる表現力を養う
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	01 インTRODクシヨン：ビルディングタイプ論 02 居住空間① : 世界の住宅 03 居住空間② : 集合住宅 04 居住空間③ : 独立住宅 05 建築生産① : 企画～設計～施工～その後 06 課題1 : 第1 課題プレゼンテーション 07 建築生産② : デザインプロセス論 08 公共空間① : 道・広場、駅 09 公共空間② : 展示施設 10 公共空間③ : 劇場 11 教育空間 : 幼稚園、小中高校、大学 12 執務空間 : オフィス 13 医療空間 : 病院 14 空間の更新 : コンバージョン、リノベーション 15 課題2 : 第2 課題プレゼンテーション
成績評価基準	出席回数 12 回以上を前提とし、課題 2 回の評価 (40%+40%)、受講に対する積極性 (20%) を総合して評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	都度、授業に関係する推薦図書を紹介する。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築を見て感じるのが第一です。その感覚を説明する論理的な手段としての様々な手法を授業で学び、自らの建築眼を育てていくことを望みます。
実務経験を活かした授業	さまざまなビルディングタイプ、およびさまざまな設計フェーズ実務に携わった経験を持つ教員が講義を行う。

科目名	緑地環境設計
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	柏原信幸
授業の概要及びテーマ	緑地環境計画やランドスケープデザインで意図した空間デザインを具体化するため設計することが必要である。本授業では、前期「緑地環境計画」で修得したランドスケープ計画の基礎技術を発展させて、各回の講義で学んだことを課題に反映して最終成果につなげる。一連のデザインプロセスを経て、空間を総合的にデザインすることを体験する。また、設計における過程で考慮すべき事項や空間を構成する諸要素（材料、植栽、水、構造物、設備など）の技術的な知識や取り扱いについての理解を深める。
達成目標	ランドスケープの基礎的な図面を描くことができる。 ランドスケープ設計に必要な材料を適切に使い分けることができる。 特定視点場から正確なスケッチを描くことができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス：最終課題説明 02 空間構成の把握：最終課題サイトの机上調査 03 空間構成感覚 04 現地調査：最終課題サイト調査 1 05 現地調査：最終課題サイト調査 2 06 スケッチ：ランドスケープの透視図を描くための基礎的技法 07 スケッチ：演習課題またはキャンパスを題材（集中講義 1） 08 透明水彩によるスケッチ（集中講義 2） 09 ゾーニング 10 造成排水設計 11 道路設計 12 植栽設計 13 水辺空間の設計 14 総復習 15 プレゼン
成績評価基準	演習課題ではないのでデザインで評価せず、小課題が最終成果に反映されているかどうかで評価する。 定期的な小課題：未提出の場合減点 最終成果課題 100% 最低出席回数 10 回、遅刻は出席回数に含めません 出席 10 回未満は採点の対象外とします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎 理工図書 4,200 円（税別）
参考書・参考資料等	庭木と緑化樹 1,2 飯島亮 誠文堂新光社 住まいの樹木図鑑 住友林業緑化
用具	スケッチブックなど、ガイダンス時に説明します。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	前期の「緑地環境計画」を単位取得していることが望ましい。
実務経験を活かした授業	コンサルタンツで実績のある教員がランドスケープの計画設計施工について講義する。

科目名	建築・環境CG実習Ⅱ
学年	2
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎高木秀太、佐藤圭真
授業の概要及びテーマ	建築設計におけるデジタル手法をアドバンスドに学習する。本授業では特に「コンピュータプログラミングによるデザインのコントロール」に特化し、2つの課題を設定する。前半課題は幾何学的模様の平面構成を Grasshopper で構築する。後半課題ではさらに拡張し、デジタルファブリケーション技術を用いた、多様な「屋根」を作成する。
達成目標	・ 3D モデル Rhinoceros、および、グラフィカルアルゴリズムエディタ Grasshopper の建築設計（課題）へのハイレベルな応用 ・ デジファブ技術による建築模型の出力 ・ 上記技術の設計課題への自主的な応用
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：Grasshopper の応用 1 第3回：Grasshopper の応用 2 第4回：Grasshopper の応用 3 第5回：Grasshopper の応用 4 第6回：ペーパーコースター課題 1 第7回：ペーパーコースター課題 2 第8回：ペーパーコースター課題 3 第9回：ペーパーコースター課題 4 第10回：ペーパーコースター課題 5(講評会) 第11回：ペーパークラフトで屋根をつくる 1 第12回：ペーパークラフトで屋根をつくる 2 第13回：ペーパークラフトで屋根をつくる 3 第14回：ペーパークラフトで屋根をつくる 4 第15回：ペーパークラフトで屋根をつくる 5(講評会)
成績評価基準	・ 毎授業の提出物可否による絶対評価（70%） ・ 最終提出物のクオリティによる相対評価（30%） 上記の通り、本授業は提出物（主に課題スタディ結果の報告）を重要とし、全体の評価の7割とするので、注意すること
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	Web テキストを用いる。詳細は授業時にアナウンスする
参考書・参考資料等	授業時にアナウンスする
用具	自身の PC を用意すること。ただし、PC 環境が整わない場合は、301・302 コンピュータ演習室を使用することができる。
履修制限等	・ 第1 学年 後期 「建築・環境デザイン演習Ⅰ」（住宅設計課題）を履修済であることが望ましい ・ 第2 学年 前期 「建築・環境 CG 実習Ⅰ」を履修済であると習得知識・技術に相乗効果が見込めるので推奨する
履修希望者への要望・事前準備	・ コンピューターに「詳しい者」はもちろんではあるが、「詳しくない者」にこそ是非受講していただきたい。丁寧な指導を心がけるので「デジタル」に怖がらないこと。 ・ 授業計画については進行状況や他の授業との連携によっては適宜変更するので授業中のアナウンスを注意すること
実務経験を活かした授業	

科目名	構造力学Ⅱ
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	与那嶺仁志
授業の概要及びテーマ	実際に建設される建物は柱と梁で構成された構造物です。構造物に外力が作用したときの構造物の応力や変形性状を正しく知ることは大変重要です。構造力学Ⅱでは、構造力学Ⅰで学んだ力学的知識に続きより実設計をする上で必要とされる事について解説します。 フレームの力学的性状を理解することは、数値を算出することではありません。建物は、ねじれたり、座屈をしたり複雑に変形します。力の流れがイメージできるとより合理的な建築計画が可能になります。
達成目標	地震、風、積雪等の外力が構造物に作用したときの構造物（フレーム）に生じる力が理解できることを目標とする。 建築設計実務で行われる許応力度計算や保有水平耐力計算等の実務で使われる手法の概要を理解し、構造設計上の必要知識を習得する。 建築士に必要な構造力学や構造設計に関する知識を身につける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 概要：授業の概要 02 構造力学Ⅰの復習1：構造設計の概要、応力の種類 03 構造力学Ⅰの復習2：梁・架構の応力計算 04 断面性能と応力度、変形（曲げを受ける部材） 05 座屈：柱・板・構造体の座屈 06 応力計算方法：たわみ角法、D値法 07 構造計算1：許容応力度計算の概要 08 構造計算2：剛性率・偏心率の概要 09 構造計算3：保有水平耐力計算の概要 10 構造計算4：プログラムによる構造解析 11 木造軸組計算1：木造軸組の壁量計算法 12 木造軸組計算2：四分割法、N値法 13 振動1：建物振動の基礎 14 振動2：振動解析、その他の振動問題 15 まとめ
成績評価基準	成績評価は、各回で課す演習問題（45%）、期末試験（45%）、積極性（10%）を総合して行う。 期末試験は出席が2/3以上の者に受験資格を与える。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	『建築構造設計概論』、和田章、竹内徹、実教出版
参考書・参考資料等	『建築骨組の力学 応用編』、田中 尚・高梨晃一・宇田川邦明、東洋書店 『図解でよく分かる建築構造入門』、江尻 憲泰、エクスナレッジ 『建築構造力学1』、和泉正哲、培風館 『建築構造力学2』、和泉正哲、培風館 『やさしい構造力学』、浅野 清昭、学芸出版社
用具	関数電卓
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築設計は、構造に関する様々な知識が必要となります。構造計算以外の構造に関する知識も重要です。そのための一歩として、実際の様々な建物を見て、構造力学Ⅰや構造力学Ⅱで身につけた知識を参考に、構造に関して考えるとより構造に対する知識が深まります。
実務経験を活かした授業	国内外で様々な建物の構造設計・現場監理業務に携わった経験を持つ教員が講義を行う。

科目名	建築設備
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	飯野秋成
授業の概要及びテーマ	建築物を有効にそして快適に使い続けていく上で、建築設備は欠かすことができません。長い歴史の中で人々が培ってきた建築設備技術をひも解けば、無味乾燥に思える機械室設備群の価値が理解され、設備設計の緻密さにロマンを感じるのではないのでしょうか。 この授業では、空調設備、給排水衛生設備、電気設備の設計方法を学びます。特に、建物用途ごとの考え方の違いにフォーカスしています。この講義で得られる知識は、学生個々のオリジナルの建築物の設計にも大いに役立ててもらえるのでは、と思っています。
達成目標	・ 設備設計の対象となる建築物に対して、空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消防・防災設備の設備設計の考え方を記述できる。 ・ 設備設計の対象となる建築物に対して、適切な設備を選択し、また基本的な設備図面を描くことができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス／空調設備 02 いろいろな空調方式 03 冷凍機と冷却塔・ボイラー 04 送風機とダクト・換気設備・空気の状態変化／理解度確認とまとめ 05 給湯設備・衛生器具 06 排水通気設備・排水処理再利用／理解度確認とまとめ 07 設備図の描き方の基本(1) 08 設備図の描き方の基本(2) 09 電気設備・受変電設備 10 契約電力・電気配線 11 動力設備・照明設備 12 避雷設備・搬送設備・発電設備／理解度確認とまとめ 13 省エネルギー基準・CASBEE・エネルギー消費の実態・保全管理 14 室内気候と気象・省エネルギー手法／理解度確認とまとめ 15 消防設備防災設備／理解度確認とまとめ／記述式レポート課題
成績評価基準	各章に実施する「理解度確認とまとめ」(80点)、および「記述式レポート課題」(20点)の合計により評価します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	図とキーワードで学ぶ建築設備 学芸出版社 2800円
参考書・参考資料等	「新潟工科大学環境設備・芸術工学研究室」のWebに、予習、復習用動画があります。 予習、復習に適宜視聴してください。https://www.niit.ac.jp/abehtml/iinolab/pg168.html
用具	・ 指定テキスト ・ 遠隔授業受講用デバイス(要ネット環境) ・ 筆記用具
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	将来の建築士受験時に、当授業の内容の理解度を問われることになります。毎回の講義にしっかり向き合ってください。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築設計
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	山下秀之
授業の概要及びテーマ	本講義では、同時期開講の設計演習と密にリンクしながら進めるものである。事例を具体的にとりあげ、設計方法を解説し、履修者の設計演習に即時応用してもらう。構造・設備・施工についても解説する。
達成目標	設計要件を建築物として成立させるべく、計画・法規・構造・設備・材料・納まり・施工方法を図面化できるようになること。それらを皆さんの設計演習で応用できるようになること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 インテリアの設計と建設 02 RC 造の設計と建設 (1) 03 木造の設計と建設 (1) 04 RC 造の設計と建設 (2) 05 木造の設計と建設 (2) 06 鉄骨造の設計と建設 (1) 07 3 種の専門図 (詳細図・構造図・設備図) の設計 08 鉄骨造の設計と建設 (2) 09 設計競技の建築について 10 里山環境の建築の設計 (1) 11 里山環境の建築の設計 (2) 12 幾何学的思考・ダイアグラム・システム・プログラム (1) 13 高層建築の設計 14 幾何学的思考・ダイアグラム・システム・プログラム (2) 15 複合用途の建築
成績評価基準	期末レポート 100% (ただし、出席回数 12 回以上が条件で、欠席日数に準じる減点あり)
出席・遅刻の基準	授業開始 5 分以内の「入室」を出席、それ以降を欠席と扱う。出欠に関して 1 回でも不正が明らかになった場合は、評価を不合格とする。
テキスト(教科書)	オリジナルのテキストを PDF にて毎回配付。加えて、さまざまな設計図面や画像を、参考資料として配布。
参考書・参考資料等	特になし
用具	特になし
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築の設計は、以下の「力」を必要とする。複雑な設計条件の読解力、平面計画の推敲力、空間や立体の造形力、日々進化する技術や素材への工学力、建築基準法など法規への適応力、CAD/CG のパソコン力、美しい模型の製作力、手による描写表現力、設計説明書の文章力、パワーポイントによるプレゼン力、面積や工事費計算のエクセル力、建設現場における指示力、近未来を見すえた判断力。以上、大変な労苦を伴うものだが、建築に熱意を持つみなさんの初期衝動が持続し、身を結ぶことを望む。
実務経験を活かした授業	海外留学 (独シュテューデルシュレー)、日建設計 (日本デジタルイクイップメント株式会社本社ビル、ソウル P0SC021 など多数)、リチャード・ロジャース・パートナーシップ (日本テレビ本社ビル@汐留など)、建設 JV (東京国際フォーラム)、そして、東京における独立した建築家としての実作、および長岡周辺での実作 (てくてく、まごころ学園、山古志闘牛場、三条東公民館、長岡造形大学展示館など) を積み重ねた、リアルな設計技術とデザイン力を教える授業。

科目名	エコロジカルプランニング
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎柏原信幸、鈴木誠治
授業の概要及びテーマ	地域生態系を踏まえて地域環境のあるべき姿について学びます。地形と生物相との関係、生態系の基礎知識、流域単位での水循環、生態系復元について学習します。最後に、ビオトープ・ハビタット計画のプレゼンを行います。
達成目標	エコロジカル・プランニングの基礎としての地域の植生や生態系を理解し、自分なりのエコロジカルな視点に立った計画アプローチができるようになることを目指す。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	〈第1ステップ：エコロジカル・プランニングの概要と基礎〉 01 エコロジカル・ランドスケープの世界 02 地形の読み方と生物相の関係 03 生態系に関する基礎知識 04 地域の自然（生態系）に関する知識 05 里山の生態系の特性と保全 〈第2ステップ：地域の自然を知ろう〉 06 ハビタット計画 07 場とハビタット設定 〈第3ステップ：生物生息環境とエコロジカル・プランニング〉 08 エコロジカル・プランニングのプロセス 09 各種生物の生息環境と生態系 10 ビオトープと生態系復元の技術 11 目標種の考え方と生態系 〈第4ステップ：エコロジカル・ランドスケープの演習〉 12 ビオトープ・ハビタット計画：ゾーニング 13 ビオトープ・ハビタット計画：プレゼン 14 現地調査（土曜日1時限目） 15 現地調査（土曜日2時限目）
成績評価基準	試験は行わない。与えられた課題について作品を提出してもらう。提出された作品にて評価する。 最低出席回数 10 回、遅刻は出席回数に含めません。 出席 10 回未満は採点の対象外とします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト（教科書）	エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎 理工図書 4,200 円（税別）
参考書・参考資料等	養父志乃夫著 ビオトープ再生技術入門 農文協
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	課題に対して意欲的に取り組みができる人を期待する。2 年前期の緑地環境計画、後期の緑地環境設計を受講し単位修得していることが望ましい。
実務経験を活かした授業	コンサルタンツで実績のある教員がランドスケープの計画設計施工について講義する。

科目名	建築法規
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎佐藤淳哉、川合宏明
授業の概要及びテーマ	建築物の敷地、構造、設備及び用途等に関する基本的な関係法令について、その体系と建築物の設計及び監理等に必要な規定を法手続きの視点から学習します。 授業では、法文の読み方を知ってもらいながら、建築関係法令の概要について、条文の意図とすること及び規定がどのような場合に適用されるのかを示しながら解説します。
達成目標	二級建築士試験の学科合格程度の法規知識を修得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業
授業計画	01 建築物と法規について：法規による制限の目的と捉え方 建築基準法について、用語の定義 02 集団規定 1 面積と高さ、建築物の設計と手続き 03 集団規定 2 道路と敷地、壁面線、用途制限 04 集団規定 3 容積率、建ぺい率、高さ制限 05 集団規定 4 日影規制、防火・準防火地域 06 集団規定 5 建築基準関係規定、建築関連法 07 集団規定 6 集団規定のまとめ 08 単体規定 1 建築物の構造耐力に関する法 09 単体規定 2 建築物の防火に関する法 10 単体規定 3 室内環境・建築設備に関する法－1 11 単体規定 4 室内環境・建築設備に関する法－2 12 単体規定 5 建築物の避難に関する法 13 単体規定 6 単体規定のまとめ 14 モデルプランによる法チェック 15 建築士試験、建築確認申請について ＊達成 目標に支障のない範囲で授業計画を変更することがある。
成績評価基準	授業の受講態度と意欲 20%、毎回の授業の最後に行う設問の答案結果 80%により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	「超入門 建築法規」 イラスト解説による(改訂版)市ヶ谷出版社（初回から使用、最新版を事前に購入して下さい） 建築基準法関係法令集 2019 年版 建築資料研究社（無償配布の可能性あります）
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	出席を重要視します。 建築法規は、建築物に要求されている最低限の基本性能と建築物の街づくりのルールを定めたものであることを理解し、その概要を修得して欲しい。また、建築士を目指す方は、本講義の単位が建築士受験に必要な履修科目となっていることを熟知し、講義に臨んで下さい。
実務経験を活かした授業	建築確認申請等の申請代理人経験をもつ教員、および確認審査経験をもつ教員が法令内容とその実際についての講義を行う。

科目名	建築施工
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	五十嵐賢次
授業の概要及びテーマ	本講義は、建築生産、施工管理、仮設工事、土工事、各種工事（鉄筋コンクリート造・鉄骨造）、仕上げ・設備工事を学習する。講義の進行に合わせて、演習課題（1・2級建築士試験程度）を出題する。この課題は学生が自ら解くことによって理解を深めてもらうものであり、次回の授業では解説を行う。また途中に現場見学を実施して、施工の実態を学習する。
達成目標	建築生産の流れと建設業の概要を説明することができる。建築工事の内容、鉄筋コンクリート工事の流れ、鉄骨工事の流れを理解し、図、言葉による説明ができるようになることで、施工管理の基礎を学ぶ。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 建築生産（設計と施工） 生産のしくみについて 02 施工者を選定し、工事契約を結ぶ 施工者の選定及び請負契約について 03 工事に着手する（着工） 着工前の仕事について 04 仮設工事・準備工事 共通仮設及び直接仮設 05 土工事・地業工事 根切り・山留めの種類と特徴について 06 基礎工事 基礎形式・杭・地盤改良の特徴について 07 鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事1） 鉄筋の加工について 08 鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事2） 鉄筋の組立てについて 09 鉄筋コンクリート工事（型枠工事） 型枠の役割について 10 鉄筋コンクリート工事（コンクリート工事） コンクリートの品質管理と打設について 11 鉄骨工事1 鉄骨の工場での製作について 12 鉄骨工事2・建築積算 鉄骨の現場での建て方・積算について 13 仕上工事 各種仕上工事の施工方法や検査方法について 14 現場見学1 実際の現場で施工の様子を見学 15 現場見学2 実際の現場で施工の様子を見学 16 定期試験
成績評価基準	毎回の授業の最後に行う演習課題（30％）と、定期試験（70％）により評価する。 演習課題は、翌週の解説以降は採点しません。 出席率が2/3を下回る場合は、単位修得できません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	『初学者の建築講座 建築施工（第三版）』中澤他著、市ヶ谷出版社 その他、必要に応じてプリントを配付
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本科目は、基礎知識とともに施工の実際を知ることが重要である。とりわけ各種工事については経験のない人には理解し難い点も多いのでスライドで紹介し講義を進めていく。施工技術の知識は多岐にわたりまた雑多であるし、建築に向けた各自の志向も様々であろうと思われるので、各自の受講目的を設定して主体的に学んでください。
実務経験を活かした授業	建設会社で一級建築士として実務経験のある教員が、建築施工について講義する。

科目名	コミュニティデザイン
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	福本 壘
授業の概要及びテーマ	地域社会が抱える問題に対して住民が自分たちで解決策を考え、乗り越えていくための「人と人がつながる」場やしくみづくりについて学び、議論をし、理解を深めます。人口減少、高齢化、都市縮退、自然災害、環境問題を背景にコミュニティデザインの全体像を学び、生活を記述することを通じて地域の問題を捉えた解決策の提案を行えることを目標にします。
達成目標	・ コミュニティデザインの全体像を理解していること ・ 自身に関わるコミュニティについて他者に紹介できること ・ 他者から体験談や考えを引き出すコミュニケーションを行えること ・ 地域の生活を記述する方法を理解していること ・ 地域の問題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービス等の提案書をコミュニティデザインの手法に基づき作成していること
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 導入：授業の取り組みのイメージを確認 02 ケーススタディと対話の記録実験 03 コミュニティの定義と構造：自身のコミュニティから人と人がつながる理由を考える 生活の記述：「記憶」を記述する 04 コミュニティの歴史と制度：日本におけるコミュニティの成り立ちを学ぶ 05 ソーシャルキャピタル：人と人のつながりが生み出すものは何かを考える 06 コミュニティと空間：地域資源を活かした計画を学ぶ 07 生活の記述：「暮らし」を記述する 08 生活の記述：「自身の取り組み」を記述する 09 生活の記述：「他者の取り組み」を記述する 10 生活の記述：「対話」を記述する 11 生活の記述：「協働」を記述する 12 対話分析・映像分析 13 最終課題の説明 14 課題演習①：地域の問題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービスの提案 15 課題演習②：地域の問題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービスの提案
成績評価基準	学習内容を定着させる簡単な課題：30% 積極的な姿勢：20% 課題演習に対する提案：50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り（開始 20 分以上の遅刻は欠席となります。） 出席している場合でも WEB アンケート未実施の場合で連絡が無い場合は欠席扱いとします。
テキスト（教科書）	特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配付します。 授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意した WEB サービスを利用します。
参考書・参考資料等	【オープンアクセス資料】 Mikiko Ishikawa (2015) 「A Study on Community-Based Reconstruction from Great East Japan Earthquake Disaster - A Case Study of Iwanuma City in Miyagi-Pref」, 『Journal of Disaster Research』 Vol.10, No.5. 福本 壘・中村 和彦・山口 紀生 (2018) 「防災を主題にした対話を通じて学習者の主体性の変化と学びの深まりー防災トランプを活用した事例を通じてー」, 『環境教育』, Vol.27 (3), 15-22. 福本 壘 (2018) 「対話による地域防災訓練の試行ー横浜市港南区・戸塚区における防災トランプの活用事例を通じてー」, 『自治体危機管理研究』, Vol. 21 (1), 69-88. 福本 壘・中村 和彦 (2019) 「対話型学習教材「防災トランプ」を用いた 中学校における防災授業の実施とその評価」, 『安全教育学研究』, 印刷中. 【参考書（購入は任意）】 山崎 亮 (2011) 『コミュニティデザインー人がつながるしくみをつくる』学芸出版社. 山崎 亮 (2012) 『コミュニティデザインの時代』中央公論新社. 小泉 秀樹 (2016) 『コミュニティデザイン学：その仕組みづくりから考える』東京大学出版会.
用具	授業中に WEB アンケートを実施することがあるので、インターネットにアクセスできる PC またはスマートフォンを持参してください。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本講義は「地域の問題を解決するための提案」をコミュニティデザインの手法でまとめることを目標に学びを深めていきます。 履修後の成果は、みなさんのポートフォリオの 1 ページを飾り、みなさんの将来に役立つよう進めていきたいと考えています。そのためには、みなさん自身が「体験談」や「考え」を話すことが大切で、是非積極的な姿勢を持って受講して頂ければと思います。
実務経験を活かした授業	地域が抱える問題を解決するためのコミュニティデザインに従事した経験のある教員が、その経験を活かして、コミュニティの考え方やデザインプロセスを講義する。

科目名	建築・インテリア演習Ⅰ（建）
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山下秀之、佐藤淳哉、柏原信幸、与那嶺仁志、大淵政明、吉田謙一、高田清之助
授業の概要及びテーマ	建築デザインとランドスケープデザインが直面する諸問題を考えながら、その解決策を実践的に学ぶ。専門領域を横断するデザイン力を培う。 ・ 課題 A ポートフォリオの制作（建築グループとランドスケープグループ共に、第1課題） ・ 課題 B キッズ・ミュージアム（建築グループの第2課題、ランドスケープグループの第3課題） ・ 課題 C エコ・ヴィレッジ（ランドスケープグループの第2課題、建築グループの第3課題） ・ 課題 D ポートフォリオの制作2（建築グループとランドスケープグループ共に、第4課題） 課題 A と課題 D では、就職活動に不可欠であるポートフォリオ（作品集）を作成し、それを持って面接のシミュレーションをするものである。どの種のポートフォリオが目を留め、どのような面接が好印象となるのかを体得する。 課題 B と課題 C の演習は、建築グループとランドスケープグループとの「たすきがけ」で実施される。たすきがけとは、上記でわかるとおり、一方のグループが終えた課題の成果物に重ねて、他方のグループが課題を継続させる仕組みである。その目的は、実際の実務では欠かせない設計作業のチームワークを仮体験してもらうことにある。
達成目標	「都市と緑地」「開発と修景」、こうした2項対立の基軸のなかで、学生一人ひとりがエコロジー時代の問題意識を育み、それを解決する建築・環境設計のプロポーザルをまとめあげる。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	〈建築グループ〉 01～02 課題 A の説明、専門講義、講評会 03～08 課題 B の専門講義、敷地選定プレゼン、ブロックプランニング、平面・空間構成の検討、意匠・構造・設備計画、一般図&パースとプレゼン模型&専門図の提出、講評会 09～14 課題 C の専門講義、現地調査報告および配置計画、ブロックプランニング、一般図&パースとプレゼン模型&専門図の提出、講評会 15 課題 D の提出、総括 〈ランドスケープグループ〉 01～02 課題 A の説明、専門講義、講評会 03～08 課題 C の専門講義、計画地の現地調査・分析、コンセプトメイク、空間構成の検討、平面・断面計画、流水設備ほか設備計画、植栽計画、パースとプレゼン模型制作、講評会 09～14 課題 B の専門講義、建築計画の理解と現地調査、コンセプトメイク及び計画範囲の設定、動線計画と空間構成、平面・断面計画、設備計画、植栽計画、パースとプレゼン模型制作、講評会 15 課題 D の提出、総括
成績評価基準	講評会での提出物の内容が、成績点数（建築グループは5名の教員の採点平均）となる。未提出作品は、期末の後出し提出日に、提出条件を満たしていれば、60点として採点される。一作品でも未提出のままの場合、履修は不合格となる。作品提出では、遅れた時間に応じた減点、もしくは受け取り拒否がなされる。
出席・遅刻の基準	初回授業で、担当教員より説明する。
テキスト（教科書）	課題文に資料を配付し説明する場合がある以外、履修者各自により参考図書などを探し、自習すること。
参考書・参考資料等	特になし
用具	設計とプレゼンに必要な用具と材料
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この設計演習を終えれば、社会に出て設計の仕事に就いてもやっていける、という皆さんになっていることを望む。また、建築の設計を職にしようとする者に対しては、同時開講の「建築設計（3年前期）」を履修することを強く望む。
実務経験を活かした授業	すべての指導教員は、豊富な社会実務実績に基づき、履修者をしっかりと指導する。

科目名	建築・インテリア演習Ⅰ（Ⅰ）
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎森 望、羽原康成
授業の概要及びテーマ	21 世紀の社会にあわせたデザイン性豊かなインテリア空間の創造を求める。インテリアデザインとはなにか？デザイン手法・空間設計とはなんなのか？デザインとは？美学とは？構成手法とは？プレゼンテーションとは？を中心に授業を進める。
達成目標	課題によりインテリアデザインの設計手法を学び、プレゼンテーションテクニックや現代的なデザイン手法の構築ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01～03 課題Ⅰ（売店） 04～09 課題Ⅱ（イベント） 10～15 課題Ⅲ（商業施設）
成績評価基準	課題Ⅰ 20%、課題Ⅱ 40%、課題Ⅲ 40%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業への積極的な参加を前提に、建築、室内、家具・什器などを総合的にとらえ、自由な発想・アイデアを形にし、高度なデザイン手法を学んでほしい。
実務経験を活かした授業	自身の設計事務所を持っている教員が、リノベーションや店舗設計を指導する（羽原）。ディスプレイデザイン事務所に勤務していた教員が、イベント空間のデザインを指導する（森）。

科目名	建築・インテリア演習Ⅱ（建）
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山下秀之、柏原信幸、佐藤淳哉、北雄介
授業の概要及びテーマ	本演習では、履修する学生の専門志向に基づいて、以下3つの設計演習に分かれる。最終的な目標は、各自の設計技術と専門的知見を高度に獲得することである。グループワークによってもたらされる良い影響や多くの気づきも演習の成果となる。 ■建築デザイン：山下担当 履修者は、以下、2つのプログラムのどちらかを選択する。2つのグループワークを同時に行うが、履修者の人数によっては、グループ数を調整する。 PROGRAM-A：平行植物園 ・伊の絵本作家レオ・レオーニの「平行植物」を題材とする。 ・英エデンプロジェクトが建設された採掘場跡地を敷地とする。 ・そのエリアでの奇想天外で壮大な「平行植物園」を設計提案する。 PROGRAM-B：蓮湯計画 ・蓮湯の交差点の1角（セコム、メガネのバリミキ、セブン-イレブンの場所）に複合ビルを 構想、設計する。 ・地上7階建てまで、延べ面積 6000㎡～7000㎡。 ・建築基準法の基本的な遵守、部分詳細図、建具表、仕上表、面積表にいたるまで、実施設計に関連するおおよその事柄をフォローする。 ■エコロジカルランドスケープデザイン：柏原担当 ・長岡大橋から蔵王橋までの信濃川左岸堤外地を対象地とする。 ・信濃川の地歴、表層地質・土壌・地形・植生・生き物の相互関係分析、および周辺を含めた土地利用変遷を調査し地域のあるべき姿を見出す。 ・変化を前提とした4次元のランドスケープ・デザインとして設計提案する。 ■地域と建築デザイン：佐藤担当 ・長岡市内の一地区を設計対象とする。 ・川に着目し、調査分析を行い、その考察から建築のプログラムを考案する。 ・これに基づいて建築設計を行い、地域に対する建築を提案をする。 ■建築とシステムのデザイン：北担当 ・長岡市内に、「現代の集落」を設計する。 ・集落のかたちとともに、それがつくられ、運営される仕組みもデザインする。 ・C. アレグザンダーの『パタン・ランゲージ』、原広司らの集落研究など、文献の精読を行なう。
達成目標	各領域の諸問題を正確に分析し、課題を見いだす能力を身につけること。その上で計画の立案、設計の方法、実施の方策に関して学生が自らの方法論を構築する端緒を見つけ出すこと。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業（各担当教員による）
授業計画	01 課題説明（全員一同）、各グループ分け、各グループによるキックオフ 02～06 各グループによる演習作業 07 中間発表（全員一同） 08～14 各グループによる演習作業 15 最終講評（全員一同）
成績評価基準	各グループ別の採点（基本的には、全提出物の出来や演習取り組み度による総点）
出席・遅刻の基準	各担当教員による。
テキスト（教科書）	各担当教員による。
参考書・参考資料等	各担当教員による。
用具	各担当教員による。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	演習担当教員と卒研ゼミ教員は、基本的に一致すること 今までの演習において獲得した考え方や技術に磨きをかけるべく、集中してほしい。 共同作業では、仲間の意見を聞き入れる柔軟性を持ち、より高いレベルに到達してほしい。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築・インテリア演習Ⅱ（イ）
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎森 望、羽原康成
授業の概要及びテーマ	店舗のリノベーションについての知識を得たうえで、実際に存在する店舗のリノベーション提案を行う。また空間を使った情報伝達媒体としてのディスプレイデザインの課題を通し、ディスプレイデザインの考え方を学ぶ。
達成目標	各領域の諸問題を正確に分析し、課題を見いだす能力を身につけること。その上で計画の立案、設計の方法、実施の方策に関して学生が自らの方法論を構築する端緒を見つけ出すこと。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01～07 課題Ⅰ（リノベーション） 08～15 課題Ⅱ（文化施設）
成績評価基準	課題Ⅰ 50%、課題Ⅱ 50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	アイディアを形にする力をつけ、なぜその形にしたのかを第三者に伝える手法を身につけてもらいたい。そのために企画する能力や考え方を学んでほしい。
実務経験を活かした授業	自身の設計事務所を持っている教員が、住宅リノベーションや店舗設計を指導する（羽原）。ディスプレイデザイン事務所に勤務していた教員が、文化施設のデザインを指導する（森）。

科目名	環境計画・保存演習 I
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎渡辺誠介、津村泰範、平山育男、福本 壘、梅嶋 修、大滝 聡、西澤哉子
授業の概要及びテーマ	現代日本は、空間的縮退（空家・空ビル増加、限界集落の増加）に対応するために、文化や社会の持続性を基軸とした空間再編・活性化をプロデュースもしくはデザインする人材が求められる。そして同様に文化財としての価値を有する空間（建造物、町並みなど）を保存・活用する人材も求められている。 本授業では、こうした問題意識の下に建築・デザインの技術をベースに柔軟な発想で創造的な設計や計画を構築する。演習課題は、都市計画・まちづくり系と文化財保存系に分かれて実施する。最初に合同のガイダンスと見学を行い、後にどちらかの課題を選択する。第2課題は合同の空間で都市計画的課題と文化財保存的課題と混合させて行う。
達成目標	・ 地域の空間的特性を調査・分析することができる ・ 分析に基づいた課題に対して課題解決に向けた設計および計画の提案ができる
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 合同ガイダンス 02～03 合同見学（新潟市方面：文化財およびまちづくり事例） 04～10 第1 課題 都市計画・まちづくり系： 摂田屋地区まちづくり計画の変遷学習とまちづくり会社運営計画作成 文化財保存系：歴史模型製作、他 11～15 第2 課題（合同） 中島浄水場および周辺地区の文化財保存活用と都市計画策定
成績評価基準	基本的に成果物の評価 100%で成績を決める。 ただし、演習出席状況（調査参加を含む）、エスキース取り組み姿勢でも次のように考慮する。1/3 以上の欠席、エスキース取り組みが指導教員にない場合に対しては成果物が 100 点でも不合格とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜配付する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建物、町の歴史と未来に常に好奇心を持ってください。 文化財課題では見学が特に多いので、土曜日の予定は空けておいてください。
実務経験を活かした授業	都市計画審議会など各種都市計画業務に携わる経験を持つ教員が、計画の立て方を指導する。 文化財建造物修理設計監理の経験を持つ教員が講義を行う。

科目名	環境計画・保存演習Ⅱ
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎渡辺誠介、津村泰範、平山育男、福本 壘、梅嶋 修、大滝 聡、西澤哉子、野尻孝明
授業の概要及びテーマ	現代日本は、空間的縮退（空家・空ビル増加、限界集落の増加）に対応するために、文化や社会の持続性を基軸とした空間再編・活性化をプロデュースもしくはデザインする人材が求められる。そして同様に文化財としての価値を有する空間（建造物、町並みなど）を保存・活用する人材も求められている。 本授業では、こうした問題意識の下に建築・デザインの技術をベースに柔軟な発想で創造的な設計や計画を構築する。演習課題は、都市計画・まちづくり系と文化財保存系に分かれて実施する。最初に合同のガイダンスと、ポートフォリオ発表課題、そして見学を行う。その後どちらかの課題を選択する。
達成目標	・ 地域の空間的特性を調査・分析することができる ・ 分析に基づいた課題に対して課題解決に向けた設計および計画の提案ができる ・ 領域横断的な視点と専門的視点から課題解決に対しての提案ができる
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02～03 第1 課題：ポートフォリオ制作&発表 04～06 合同見学：近代化遺産、地方中小都市中心市街地、中山間地集落 07～11 第2 課題 都市計画・まちづくり系：長岡市の立地適性化計画の学習 文化財保存系：近代化遺産の保存整備 12～15 第3 課題 都市計画・まちづくり系：山古志地区中山間地集落計画 文化財保存系：近世城下町の保存整備
成績評価基準	基本的に成果物の評価 100%で成績を決める。 ただし、演習出席状況（調査参加を含む）、エスキース取り組み姿勢でも次のように考慮する。1/3 以上の欠席、エスキース取り組みが指導教員にない場合に対しては成果物が 100 点でも不合格とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜配付する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建物、町の歴史と未来に常に好奇心を持ってください。 文化財課題では見学が特に多いので、土曜日の予定は空けておいてください。
実務経験を活かした授業	都市計画審議会など各種都市計画業務に携わる経験を持つ教員が、計画の立て方を指導する。 文化財建造物修理設計監理の経験を持つ教員が講義を行う。

科目名	ゼミⅠ 建築・環境デザイン学科
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	柏原信幸、北 雄介、◎佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	1： 教員あるいは複数教員のゼミが、それぞれ、ゼミ課題を掲げる。 2： 各学生は、取り組む課題をひとつ、もしくは複数選択し、そのゼミ（複数OK）に所属する。 3： ゼミ課題に対する提案・調査・研究など、教員との話し合いなどにより、ゼミが運営される。
達成目標	3年生として専門性を高めつつ、多角的な視野を持って問題を解決する能力を養う。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	各ゼミによる。
成績評価基準	同上
出席・遅刻の基準	同上
テキスト(教科書)	同上
参考書・参考資料等	同上
用具	同上
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	建築・環境デザイン学科が取り扱うプログラムは多岐にわたり、しかも相互依存が強い。よって、このゼミにより、分野の専門性を高めるのみならず、他分野への興味と理解を高めることができる。前期ガイダンスの際にプログラムと場所を発表する。初回の授業では、所属を希望するプログラムの場所（各ゼミによる）に集合のこと。初回後に所属ゼミの変更を希望する場合には、ゼミ担当の教員に相談すること。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	ゼミⅡ 建築・環境デザイン学科
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	柏原信幸、北 雄介、◎佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	プレ卒研と位置づける。4年次に配属される予定の教員との話し合いにより、研究内容が決定され、調査・分析・企画提案・設計などをしていく。
達成目標	教員から指示されたことだけをやるのではなく、自ら問題点を洗い出し、課題を立ち上げ、解決策を提案する能力を養う。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力／造形力を養う授業
授業計画	各ゼミによる。
成績評価基準	同上
出席・遅刻の基準	同上
テキスト(教科書)	同上
参考書・参考資料等	同上
用具	同上
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	各分野の専門性をさらに高めるためのゼミなので、3年前期までの座学や演習の内容は、落ちこぼすことなくマスターしておくべきである。ゼミの事前準備は、4年次に配属される予定の研究室の教員の指示を仰ぐこと。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	卒業研究Ⅰ 建築・環境デザイン学科
学年	4
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	柏原信幸、北 雄介、◎佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	個人または共同で、特別のテーマに基づいた「研究論文」「制作」または「論文および制作」を行います。その内容と規模は、これまでの学習の集大成となるものです。研究テーマは、これまで学んだ各分野の専門科目や演習に基づき、自分にとって最も興味のある課題や題材について、担当教員とゼミを通して煮詰めて行きます。
達成目標	以下の内容を目標にしてください。 1) 研究テーマを検討し、卒業研究の実施計画を立てる。 2) 7月(12月)に研究室ごとに発表会を行うので、下記、授業計画の内容をプレゼンできるようにする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	担当教員との話し合いにより、ゼミ形式で適宜行います。例えば、研究主題に関連した資料収集、現況調査、事例研究、研究計画書、コンテンツ検討、基本設計の草案、部分的文章、実験データ、設計や論文の概要や構成など、研究の蓄積など。
成績評価基準	研究の態度、プロセス、発表内容、レジュメなどを総合して、各担当教員が判断します。例えば、出席状況、ディスカッションや調査見学、各種準備などの積極的な参加など。これら各項目の割合は、適宜、各担当教員が良識に基づいて決定します。
出席・遅刻の基準	担当教員の判断によります。
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	卒業研究Ⅱ 建築・環境デザイン学科
学年	4
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	3
担当教員	柏原信幸、北 雄介、◎佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	まず、「卒業研究Ⅰ」の内容を、9月（4月）に予定する中間発表でプレゼンテーションしてもらいます。以後、研究を具体化し、2月（8月）に予定する卒研発表会で、最終成果物をプレゼンテーションしてもらいます。
達成目標	以下の内容を目標にしてください。 1) 履修した各分野の専門家としての技術を習得し、独自のすばらしい提案ができる。 2) 建築・環境デザイン学科生として、社会に貢献できる萌芽を見いだせること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	担当教員との話し合いにより、ゼミ形式で適宜行います。
成績評価基準	中間発表と最終発表で提示された内容を総合して、各担当教員が判断します。また、研究態度やプロセスも加味される場合もあります。
出席・遅刻の基準	担当教員の判断によります。
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	本科目は卒業研究Ⅰの単位を修得していなければ履修できません。
履修希望者への要望・事前準備	担当教員の判断によります。研究によって、大学を卒業する者としてふさわしい強いハート、厳しいマナー、そして仕事を仕上げる楽しさと喜びを学び得てほしい。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	生涯学習概論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	相庭和彦
授業の概要及びテーマ	本科目は以下のような内容により構成される。①生涯学習の意義 ②社会教育の意義 ③生涯学習と家庭教育 ④生涯学習と学校教育 ⑤成人教育の方法 ⑥社会教育の指導者 ⑦学習の評価 ⑧社会教育の内容と形態 ⑨生涯学習関連施策の動向 ⑩社会教育施策の概要 ⑪学習情報の提供 ⑫学習相談と学習者理解 ⑬学習講座計画と立案
達成目標	本講義は現代社会における生涯学習の意義および社会教育の意義とその基本的役割を理解することを到達目標とする。具体的には生涯学習の意義、社会教育の意義、生涯学習と学校教育、成人学習方法と計画、学習の評価および生涯学習推進施策の特色、生涯学習施設、広報の論理、学習講座の運営の論理を理解することを目的とし、学習活動の効果的支援の方法をより効果的に実践できる力量の養成をめざす。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 生涯学習の意義について考察する 02 社会教育の意義および生涯学習との関連性について考察する 03 家庭教育の意義と生涯学習の関係について考察する 04 学校教育と社会教育の関係について生涯学習的視点から考察する 05 成人教育の理論と方法について考察する 06 社会教育の指導者および生涯学習の指導者について考察する 07 学習の評価について考察する 08 社会教育の内容および形態について考察する 09 生涯学習関連施策について考察する 10 社会教育施策の概要について考察する 11 学習情報の提供について考察する 12 学習相談とはどのようなものかについて考察する 13 学習者の理解とはどのようなことかについて考察する 14 社会教育施設で立案される講座について考察する 15 学習者の学習支援とはどのようなことかを考察する
成績評価基準	講義を通して、生涯学習の理念、意義および社会教育・生涯学習施設の役割とその活用方法を理解し、様々な教育文化活動を生涯学習的視点から考えることができるようになると評価点を与える。具体的には講義をもとにした課題レポート提出により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜指示する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	自分の生活している地域の社会教育施設を見学しておくことが望ましい。
実務経験を活かした授業	

科目名	博物館経営論
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	松沢 寿重
授業の概要及びテーマ	博物館の経営実態や課題解決の取組を学ぶことを通して、学芸員として必要な資質・能力の向上を図る。
達成目標	・ 博物館経営者の視点で経営や運営を考えることを通して、学芸員として必要なマネジメント能力、企画力、交渉力などの資質・能力を高める。 ・ 博物館の経営課題の解決策を提案できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 多様な博物館とその経営Ⅰ（美術系博物館） 03 多様な博物館とその経営Ⅱ（歴史系博物館） 04 多様な博物館とその経営Ⅲ（自然科学系博物館） 05 多様な博物館とその経営Ⅳ（その他の博物館1） 06 多様な博物館とその経営Ⅴ（その他の博物館2） 07 博物館の経営課題とその解決Ⅰ 08 博物館の経営課題とその解決Ⅱ 09 博物館の経営課題とその解決Ⅲ 10 課題解決 プレゼン会 11 展示館「MaRou の杜」現場視察（情報収集・計画） 12 展示館「MaRou の杜」運営計画Ⅰ（作成） 13 展示館「MaRou の杜」運営計画Ⅱ（作成） 14 展示館「MaRou の杜」運営計画 プレゼン会 15 総括・振り返り ※現場視察等の対象施設は変更する場合があります。
成績評価基準	受講態度 30% レポート、ワークシートの提出率・内容 60% レポートのプレゼンの構成力・表現力 10%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	必要に応じてプリントして配付する。
参考書・参考資料等	『アートの裏側を知るキーワード』美術出版社 監修：横山勝彦・半田滋男（単行本 1760 円／Kindle 版 1672 円） 『美術展の不都合な真実』新潮新書 著：古賀太（新書 836 円／Kindle 版 752 円）
用具	可能であればインターネット接続環境の PC もしくはタブレット
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	長岡市内等の美術館、博物館を訪れて、具体的に博物館がイメージできるようにしておくこと。
実務経験を活かした授業	公立、私立の美術館運営に長年携わった経験のある教員が講義を行う。

科目名	博物館資料論
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎小熊博史、西田泰民、広井 造
授業の概要及びテーマ	さまざまな博物館資料の内容や性質を学び、長岡市内の博物館での実践例を通して、博物館資料の収集保管、調査研究、展示普及に関する理論や方法を考える。下記の三つのテーマで構成する。 1. 博物館資料の内容及び性質 2. 考古学における博物館資料 3. 歴史学における博物館資料
達成目標	博物館資料の基本的な見方・考え方を習得するとともに、その実践的な活用の取り組みを理解する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 博物館資料とは（西田） 02 博物館と資料の種類（西田） 03 一次資料と二次資料（西田） 04 資料の受入、研究（西田） 05 資料の展示、活用（西田） 06 博物館と考古学（小熊） 07 考古資料の見方（小熊） 08 考古展示と普及活動（小熊） 09 遺跡の整備と活用（1）（小熊） 10 遺跡の整備と活用（2）（学外実習）（小熊） 11 考古資料と歴史資料（広井） 12 歴史資料の収集（広井） 13 資料と資料群（広井） 14 資料の活用と地域的特性（広井） 15 歴史資料の共有化・平準化（広井）
成績評価基準	成績評価はレポートにより行う。 出席率が 80%を下回る場合は単位を与えません。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	できるだけ多くの博物館・美術館を見学しておいてほしい。
実務経験を活かした授業	いずれも博物館で学芸員として実務経験のある教員が講義を行う。

科目名	博物館資料保存論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎津村泰範、大柴和正、柏原信幸
授業の概要及びテーマ	学芸員に必要な博物館資料の保存に関する基礎知識を身につけます。講義、調べ学習、グループ・ディスカッションを通して学習します。また、より実践的な力を養うために、異なる2つのタイプの博物館を見学研修し、保存の観点から比較して学びます。
達成目標	博物館における資料の保存について、保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、現場での資料保存のあり方を理解したうえで、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 現代社会における資料保存に関する博物館の役割と重要性 02 資料の状態調査と現状把握（実際に絵画作品等の状態調書を作成） 03 博物館が関わる資料の修復と修理 04 文化財の保存に関する倫理（1） 05 文化財の保存に関する倫理（2） 06 資料の人為的行為、災害や時間の経過による損傷、劣化防止対策 07 展示・保存環境（1）湿温度、照明と照度 08 展示・保存環境（2）虫・害虫防除、震動、その他 09 博物館資料の展示・保存環境の見学（学内美術館） 10 博物館資料の展示・保存環境の見学のまとめ 11 地域資源の保存と活用1 県立植物園（植物園のバックヤード、種の保存） 12 地域資源の保存と活用2 同上 13 自然環境の保護1 雪国植物園（里山環境の保全、生物多様性の保全） 14 自然環境の保護2 同上 15 文化財の保存と活用
成績評価基準	授業に臨む姿勢 20%、3名の担当教員によるそれぞれの出題による小課題 80%とします。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業内でプリントして配付するほか、適宜示します。
参考書・参考資料等	博物館資料保存論 石崎武志 講談社 2,200円（税別）『人文系博物館資料保存論』青木豊 雄山閣 2,400円（税別）
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	博物館資料の保存は学芸員の果たす仕事としては非常に重要であり、難しい。それは技術としてばかりでなく、博物館の範疇がさきわめて広いものだからです。履修者は授業中に聞いているだけでなく、必ず復習をして自分なりの考えを持つことが必要とされます。自分が将来就きたい博物館を想定しながら勉強してもらいたい。
実務経験を活かした授業	

科目名	博物館展示論
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎森 望、土門真士
授業の概要及びテーマ	博物館における展示の現状を知り、展示計画に必要な基礎知識を学ぶ。 また、実際の博物館の見学を通し、コンテンツ作りや展示現象の具体化を学ぶ。さらに、各人で博物館コンテンツを作成し、それを形にし、プレゼンテーションして提案する。
達成目標	展示作りの方法を体験的に学習し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を身につける。また実際にコンテンツを作り、空間的なデザインを提案できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 展示とは 02 博物館の展示事例 03 展示に必要な基礎知識 (1) 04 展示に必要な基礎知識 (2) 05 展示に必要な基礎知識 (3) 06 展示と情報メディア 07 博物館の見学 08 博物館の見学 09 博物館のコンテンツ作り 10 博物館のコンテンツ作り 11 博物館のコンテンツ作り 12 博物館展示のデザイン 13 博物館展示のデザイン 14 博物館展示のデザイン 15 発表
成績評価基準	展示企画書 50%、展示空間課題 50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	博物館展示は、コンテンツ作りと空間・展示デザインがメインとなる。また外部講師を招聘するので、休まず受講するように。
実務経験を活かした授業	ディスプレイデザイン事務所に勤務経験のある教員が、博物館の展示コンテンツ作成と展示デザインを指導する。また、ディスプレイデザイン会社に現在勤務している非常勤講師が、展示コンテンツの作成について指導する。

科目名	博物館情報・メディア論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎浅井勝利、北岡タマ子
授業の概要及びテーマ	近年の博物館においては、単に展示物を羅列するだけではなく、情報の集積体としての博物館の役割が求められている。これを実現するためには、コンピュータなどに代表される ICT や AV 機器を含めたマルチメディアの有効活用が必須である。本科目では博物館活動に即した情報やメディアの作成と活用、併せて、これにより生ずる知的財産の保全・利用の基礎について考察する。
達成目標	● 博物館の運営に必要な諸情報・メディアに関する総合的な概要を理解・体得し、これを説明できる。 ● 博物館運営を構成する個別業務に関する知識・手法・機材（使用目的と操作知識・技能）の体得。 ● 博物館運営にかかる知財関連法令の基礎知識を体得し、この概要を説明できる。 ● 各回講義および予習復習を踏まえて、所要の情報やメディアを博物館活動に利用できる資質を養う。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	本授業は、第1回から10回までを浅井、11回から15回を北岡が担当します。 01 博物館における情報、メディアの意義 02 コンピュータの基礎知識 03 ドキュメンテーションと資料管理データベース（1） 04 ドキュメンテーションと資料管理データベース（2） 05 博物館とインターネット（1） 06 博物館とインターネット（2） 07 ICT を利用した博学連携 08 AV機器の取り扱い 09 展示と情報機器 10 補論 11 博物館と知的財産、情報倫理 12 著作権の権利処理（1） 13 著作権の権利処理（2） 14 CCライセンスとパブリックドメイン 15 まとめ 博物館の知的空間とアクセシビリティ
成績評価基準	成績評価は授業に臨む姿勢 20%、レポート 80%とする。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業内でプリントを配付するほか、適宜配付する。
参考書・参考資料等	適宜配付
用具	必要な場合、その都度指示。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	履修者は自分が将来就きたい博物館・美術館を想定しながら勉強してもらいたい。
実務経験を活かした授業	

科目名	博物館教育論
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	山本哲也
授業の概要及びテーマ	博物館はレクリエーション施設という側面をもちながら、社会教育施設としてのその意義が理解されなければならない。そのためには、博物館における教育という機能のあり方を再認識し、または教育プログラムの理論と実際を理解することが必要である。さらに、博物館の意義が理解されなければ、その教育効果も半減すると考えられ、ミュージアム・リテラシー教育も考えなければならない。本科目では、博物館教育の理論と実践の双方はもちろん、博物館そのものの教育のあり方を学ぶなど、教育という博物館の重要な機能を多角的に理解する。
達成目標	博物館を教育施設と捉え、その方法論を考え、実践できるチカラをつける。学校教育、家庭教育との相違を認識し、博物館ならではの、という教育理論を理解し、博物館で行われている各種プログラムや学校教育との連携の実際などから、望ましい博物館教育のあり方の理解を求める。そして、教育プログラムの企画・作成・実践ができる人材を育てる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 教育と学習（博物館教育論の必要性） 02 「博物館のチカラ」（博物館の機能）から教育とは何かを考える 03 博物館教育論史、展示教育論（序論） 04 展示と博物館教育 05 博物館教育活動の諸形態 06 博物館教育プログラムⅠ—対話型鑑賞法 07 博物館教育プログラムⅤ—さまざまなモノの解釈について 08 博物館教育プログラムⅡ—開発と実践1—ワークシート・ユニバーサルデザイン 09 博物館教育プログラムⅢ—開発と実践2—製作体験プログラム 10 博物館教育プログラムⅣ—開発と実践3—サブカルチャーと博物館 11 博物館教育の利用者像と社会的包摂 12 博物館と学校教育—博学連携 13 博物館教育プログラムⅥ—開発と実践4—演習 14 ミュージアム・リテラシー教育の必要性 15 博物館教育の課題
成績評価基準	演習（教育プログラム作成およびグループワークの成果等）の評価（概ね 75%）、および出席と受講態度（概ね 25%）から総合的に評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等	
用具	必要な場合、その都度指示。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	実際の博物館・美術館や、そこで行われている教育プログラム（ワークショップ等）を多数見聞、または実体験することが望ましい。また、それぞれを正當に評価できるチカラを身に付けて欲しい。
実務経験を活かした授業	博物館で実際にプログラム開発した経験や、利用者とのコミュニケーションから得た認識、また、他館や他の学芸員から得た諸情報を盛り込んで多岐にわたる解釈につなげる。

科目名	博物館実習
学年	3・4
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	3
担当教員	境野広志、菅原 浩、長瀬公彦、中村和宏、◎平山育男
授業の概要及びテーマ	学芸員資格を取得するため、実際の博物館施設に通い、実物資料に実際に手を触れて、その取り扱い・保管・展示業務の練習を行う。なお、本授業の内、館内実習は、実習の前年度までに他の必修9科目を全科目習得済みで、卒業見込みでなければ受講できない。 テーマ： 3年次の「博物館概論」、「博物館資料論」、「博物館経営論」、「博物館情報メディア論」等で学習した知識を基礎に、実際の博物館等の運営・資料の取り扱いを、夏期休業中に博物館等に1週間～2週間通って、学芸員の指導を受けながら実習する。また学外・学内で、担当教員に実地指導を受ける。
達成目標	学芸員の仕事を実際に体験し、仕事の概要および学芸員として仕事をする上で重要であるポイントをまとめて報告する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 複数の博物館の見学（見学実習） 02 遺跡・各種文化財の調査（学内実習） 03 展示用具の取り扱いの学習（校内実習） 04 博物館等に通勤し、学芸員の指導のもと、実際に文化財を取り扱う（館内実習） 05 館内実習の前後に指導を行う（事前・事後指導） 04が授業の中心である。通常4年生の夏期休業期間（7月～9月）に、1～2週間行われる。
成績評価基準	成績評価は実習先博物館等の評価を中心に、出席およびレポートの成績などを含めて総合的に行う。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	随時指定する。
用具	
履修制限等	館内実習は、前年度までに他の必修9科目を全科目修得済みで、卒業見込みでなければ履修することができない。
履修希望者への要望・事前準備	この授業は通常の授業と同様に考えてはならない。博物館等の学芸員と触れ合い、実物の文化財資料を取り扱うものであるから、自分が現実にその博物館等に勤務し、学芸員という職業で生活しているものと認識しなければならない。従って、実習予定の取消・欠席・遅刻など不真面目な態度は絶対に許されない。授業でなく「勤務」と考えるべきである。 また文化財資料を破損するような行為をしてはならない。既に自分は就職したものと考えて、社会人と同じ自覚を持った行動が要求される。なおこの授業にかかわるすべての費用は学生の自己負担とする。
実務経験を活かし た授業	

科目名	美術科指導法
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義、演習
単位数	8
担当教員	市川治郎
授業の概要及びテーマ	・ 美術科教育の概要や学校で行われている授業について概説する。 ・ 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。
達成目標	・ 「美術科指導の基礎的能力の育成」を目標とする。 ・ 学校における美術科教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。 ・ 美術科の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。 ・ 教材研究や授業分析などを通して、具体的な指導技術を習得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 美術教育の概要（我が国における美術教育の歴史） 02 現行学習指導要領美術編の解説と今後の方向性 03 美術科経営と授業の実践（美術科経営計画、年間指導計画、授業の構成要素） 04 教材研究（1）表現分野（絵画の教材分析、指導案作成） 05 授業研究（1）表現分野（絵画の模擬授業、事前事後検討） 06 教材研究（2）表現分野（彫刻の教材分析、指導案作成） 07 授業研究（2）表現分野（彫刻の模擬授業、事前事後検討） 08 教材研究（3）表現分野（デザイン及び工芸の教材分析、指導案作成） 09 授業研究（3）表現分野（デザイン及び工芸の模擬授業、事前事後検討） 10 教材研究（4）表現分野（映像メディア表現の教材分析、指導案作成） 11 授業研究（4）表現分野（映像メディア表現の模擬授業、事前事後検討） 12 教材研究（5）鑑賞分野（鑑賞の教材分析、指導案作成） 13 授業研究（5）鑑賞分野（鑑賞の模擬授業、事前事後検討） 14 評価計画（評価方法、通知表及び指導要録の評価） 15 美術館等との連携（地域の人材、施設設備の活用）
成績評価基準	受講姿勢：30%、課題の成績：50%、模擬授業の成績：20%を総合して評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	中学校学習指導要領解説（美術編）、高等学校学習指導要領解説（芸術編、音楽編、美術編） 中学校美術教科書、高等学校美術教科書 テキスト及び教科書の購入については、別途指示する。 適宜、資料プリントを配付する。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	学習効果を上げるため、テキスト等の当該箇所を参照し、授業内容に関する予習及び復習を行うこと。
実務経験を活かしした授業	高等学校教員として美術教育に携わった経験のある教員が、美術科指導法について講義及び演習を担当する。

科目名	教職入門
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	竹田進吾
授業の概要及びテーマ	教職の意義、教員の役割、教員の職務・服務・養成・研修、教職の採用・現状、チームとしての学校に関する理解を深めて、教職に必要な資質・能力とは何かを考える。そのうえで、自分はなぜ教職を目指すのか、どのような教師になりたいのかを考える。
達成目標	教職の意義、教員の役割、教員の職務・服務・養成・研修、教職の採用・現状、チームとしての学校等、教職に関する基礎的知識を理解して、教職に必要な資質・能力とは何かを考えられる。また、自分はなぜ教職を目指すのか、どのような教師になりたいのかを説得的に説明できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 学校とは何か1…課題について、グループワークで考えをまとめて発表する 03 学校とは何か2…学校に関する法制を学ぶ 04 学校とは何か3…学校に関する現状、チームとしての学校を学ぶ 05 学校とは何か4…学校論に関して自分の考えをまとめ、発表する 06 教師とは何か1…課題について、グループワークで考えをまとめて発表する 07 教師とは何か2…教員の職務・服務等に関する法制、現状を学ぶ。 08 教師とは何か3…教員の研修・身分保障等に関する法制、現状を学ぶ 09 教師とは何か4…教師論に関して自分の考えをまとめ、発表する 10 体罰とは何か…体罰等をめぐる問題状況 11 教員養成課程の仕組み、教員採用試験等、教職に就くうえでの関門について 12 学校と教師の問題 1…グループワークで課題の決定・調査・検討 13 学校と教師の問題 2…グループワークで課題の分析・まとめ 14 学校と教師の問題 3…グループワークで課題の発表、討議 15 まとめ 16 期末試験 ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。
成績評価基準	期末試験の得点 30%、最終提出課題の得点 30%、平常点（授業態度、貢献度、通常提出物等）40%により総合的に決定する。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配布プリントは教科書同様の扱いで管理すること。
参考書・参考資料等	そのほか、適宜指示する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	教育原理
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	竹田進吾
授業の概要及びテーマ	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を、講義・グループワークで学ぶ。
達成目標	教育思想の基本的事項、子どもを取り巻く歴史、学校改革の歴史、教師の歴史等に関する基礎的知識を身につけた上で、それらの思想・歴史的理解をもとにして、現在の教育に関する問題状況を説明できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 ジェンダーと LGBT から考える日本の学校教育 03 教育とは何か 1…課題について、グループワークで考えをまとめて発表する 04 教育とは何か 2…教育の本質論を学ぶ 05 子どもとは誰か 1…課題について、グループワークで考えをまとめて発表する 06 子どもとは誰か 2…子ども観、子どもに関する法制・現状を学ぶ 07 子どもとは誰か 3…子どもを取り巻く歴史 08 西洋の教育思想 09 日本教育史 1…古代・中世・近世の学校 10 日本教育史 2…近代公教育の成立と展開 11 日本教育史 3…戦後民主主義教育の理念と展開 12 教育勅語の歴史と現在 13 社会教育の理念と現状 1…博学連携の現状 14 社会教育の理念と現状 2…博物館とインクルーシブ教育 15 まとめ 16 期末試験 ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。
成績評価基準	期末試験の得点 30%、最終提出課題の得点 30%、平常点(授業態度、貢献度、通常提出物等) 40%により総合的に決定する。全体として 60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配布プリントは教科書同様の扱いで管理すること。
参考書・参考資料等	今井康雄編『教育思想史』(有斐閣アルマ、2009 年) そのほか、適宜指示する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	教育制度論
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	竹田進吾
授業の概要及びテーマ	日本における現在の教育制度を、多面的に検討する。講義中心ではあるが、一部グループワークも取り入れる。
達成目標	①日本における現在の教育制度に関する基礎的知識を、総合的に身につける。 ②現在の教育に関する問題状況を、制度面に注目して説明できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 公教育とは何か 03 教育法制 04 教育行政 05 学校経営と学校評価（学校と地域との連携（地域学校協働活動等）を含む） 06 学校安全への対応 07 教育課程経営 08 教職員の職務と服務 09 教員養成・研修制度 10 児童・生徒の管理 11 就学前教育制度 12 特別支援教育制度、社会教育行政 13 教育問題と制度との関わり 1…課題の決定、調査、検討、まとめ 14 教育問題と制度との関わり 2…発表、討議、解説 15 まとめ 16 期末試験 ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。
成績評価基準	期末試験の得点 30%、最終提出課題の得点 30%、平常点（授業態度、貢献度、通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として 60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配布プリントは教科書同様の扱いで管理すること。
参考書・参考資料等	河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』（福村出版、2017 年） そのほか、適宜指示する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	教育心理学
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	縣 拓充
授業の概要及びテーマ	教育心理学とは、教育に関わる諸問題について心理学的知見を応用して解決を試みたり、教育に関わる諸現象を心理学的に解明し効果的な教育方法を見出そうとする学問である。本科目では、様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的理論の基礎、主体的学習を支える動機づけ、学習評価の在り方および発達の特徴との関連づけ、幼児・児童および生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる理論を学ぶ。
達成目標	・様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、説明できる。 ・主体的学習を支える動機づけ、学習評価の在り方、および発達の特徴との関連づけを理解し、説明できる。 ・幼児・児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる理論を理解し、それらについて自分の考えを述べることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 教育心理学の理念と目的 02 教育心理学の理論と方法 03 動機づけ 04 知識・理解(1) 05 知識・理解(2) 06 思考と判断(1) 07 思考と判断(2) 08 発達 09 授業における学習理論 10 問題解決 11 協同 12 創造性 13 熟達化とスキル 14 教育評価 15 まとめとリフレクション ※各回とも、できるだけ美術や美術教育の内容にも絡めながら授業を進めていく予定
成績評価基準	各回の授業への参加とリアクションペーパー（60%）、及び、最終レポート（40%）によって、総合的に評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	作成した資料を、各回の授業内で配布する。
参考書・参考資料等	適宜授業内で紹介する。
用具	授業は zoom を利用して行う予定。 適宜グループディスカッションの時間を設けるため、マイク、及び、可能であればカメラを準備すること。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	教育課程の編成と実際
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	竹田進吾
授業の概要及びテーマ	教育課程の意義、思想と構造、編成、カリキュラム開発、教育内容の歴史的変遷、学力論の現在、評価の方法等に関する基本的理解を深める。
達成目標	①教育課程の意義、思想と構造、編成、カリキュラム開発、教育内容の歴史的変遷、学力論の現在、評価の方法等に関する基本的理解を深める。 ②現在の教育課題を、教育課程に関する基礎的知識をもとに考えることができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 学習指導要領の理解 1…小学校社会科第3学年を、グループワークでまとめて発表する 03 学習指導要領の理解 2…小学校社会科第4学年を、グループワークでまとめて発表する 04 学習指導要領の理解 3…小学校社会科第5学年を、グループワークでまとめて発表する 05 学習指導要領の理解 4…小学校社会科第6学年を、グループワークでまとめて発表する 06 教育課程とは何か 1…教育課程とは何か、思想と構造 07 教育課程とは何か 2…編成、経営、カリキュラム開発 08 教育課程編成の方法 09 近代日本における教育課程の変遷 10 戦後学習指導要領の変遷 1…経験主義、系統主義、教育内容の現代化 11 戦後学習指導要領の変遷 2…ゆとり、新学力観、生きる力、確かな学力、キー・コンピテンシー 12 新学習指導要領の特質 13 カリキュラム・マネジメントの考え方 14 学力とは何か…課題について、グループワークで考えをまとめて発表する 15 まとめ 16 期末試験 ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。
成績評価基準	期末試験の得点 30%、最終提出課題の得点 30%、平常点（授業態度、貢献度、通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として 60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配布プリントは教科書同様の扱いで管理すること。
参考書・参考資料等	水原克敏『新訂 学習指導要領は国民形成の設計書 その能力観と人間像の歴史的変遷』（東北大学出版会、2018 年） そのほか、適宜指示する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	特別支援教育
学年	3
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	講義・実習
単位数	2
担当教員	◎市川 治郎、長澤 正樹
授業の概要及びテーマ	特別支援教育とインクルーシブ教育システムの制度や内容を比較し、これからの教育の在り方を説明する。次に、発達障害や虐待など、多様な特性について説明する。さらに、通常の学級におけるユニバーサルな対応と段階的な対応、合理的配慮を説明し、個別計画作成のための知識とスキルを学べるようにする。そして、通級指導教室から特別支援学校までの特別な場での教育を解説する。 授業構成は、はじめに到達目標を示し、解説、最後に自己評価させる。そして、発達課題を提示し、次回までの提出課題とする。なお第1回から第7回までの授業内容には、障害はないが特別的教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を含む。 後半は、特別支援学校における介護等体験実習（2日間）を実施する。
達成目標	特別支援教育の理念と制度、特別な教育の場を理解し、特別支援教育の実践に必要な知識を習得すること、さらには、将来のインクルーシブ教育システムの構築に必要な教員の資質と校内体制について理解すること。なお、特別支援教育の関連領域として、虐待や非行などの教育問題を含める。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 特別支援教育とインクルーシブ教育システムの制度と内容（長澤）【講義】 02 発達障害等多様な実態とその特性・特性への対応（長澤）【講義】 03 身体障害と知的障害の特性と特別支援学校の教育（長澤）【講義】 04 通常の学級における特別支援教育の在り方（長澤）【講義】 05 学習のユニバーサルデザインと合理的配慮（長澤）【講義】 06 特別な対応、段階的な対応、通級指導教室・特別支援学級（長澤）【講義】 07 個別的教育支援計画・個別の指導計画・校内システム・地域連携（長澤）【講義】 08 まとめと理解度の確認（定期試験）（長澤）【講義】 09 介護等体験事前指導（学校組織、校務分掌、服務規律、守秘義務、実習記録等）（市川）【講義】 10 特別支援学校における介護等体験実習（市川）【実習】 11 特別支援学校における介護等体験実習（市川）【実習】 12 特別支援学校における介護等体験実習（市川）【実習】 13 特別支援学校における介護等体験実習（市川）【実習】 14 特別支援学校における介護等体験実習（市川）【実習】 15 介護等体験事後指導（実習記録等に基づく自己課題の明確化）（市川）【講義】
成績評価基準	授業での学習姿勢 10%、課題 30%、定期試験 60%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	改訂版「はじめての特別支援教育」（柘植雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子 編集 有斐閣）
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	学習効果を上げるため、テキスト等の該当箇所を参照し、授業内容に関する予習及び復習を行うこと。
実務経験を活かした授業	特別支援学校教員として特別支援教育に携わった経験のある教員が、特別支援教育について講義及び実習を担当する。

科目名	道徳指導法
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義、演習
単位数	2
担当教員	市川治郎
授業の概要及びテーマ	・ 中学校及び高等学校における道徳の概要や、学校で行われている授業について概説する。 ・ 教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。
達成目標	・ 「道徳指導の基礎的能力の育成」を目標とする。 ・ 学校における道徳教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。 ・ 道徳の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。 ・ 学習指導要領に示される道徳の趣旨や意義を踏まえた授業について理解する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 道徳教育の概要（我が国における道徳教育の歴史） 02 現行学習指導要領における道徳の解説と今後の方向性 03 道徳授業の実際（年間指導計画、授業の構成要素） 04 教材研究（1）（道徳の授業構成、教材研究） 05 教材研究（2）（道徳の教材研究、教材分析） 06 教材研究（3）（道徳の指導方法、指導案検討） 07 授業研究（1）（道徳の模擬授業、事後検討） 08 教材研究（4）（道徳の授業構成、教材研究） 09 教材研究（5）（道徳の教材研究、教材分析） 10 教材研究（6）（道徳の指導方法、指導案検討） 11 授業研究（2）（道徳の模擬授業、事後検討） 12 教材研究（7）（道徳の授業構成、教材研究） 13 教材研究（8）（道徳の教材分析、指導方法、指導案検討） 14 授業研究（3）（道徳の模擬授業、事後検討） 15 道徳の評価（評価方法、通知表及び指導要録の評価）
成績評価基準	受講姿勢：30%、課題の成績：50%、模擬授業の成績：20%を総合して評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト（教科書）	中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）、高等学校学習指導要領解説（総則編） 中学校道徳教科書（1・2・3） テキスト及び教科書の購入については、別途指示する。 適宜、資料プリントを配布する。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	学習効果を上げるため、テキスト等の該当箇所を参照し、授業内容に関する予習及び復習を行うこと。
実務経験を活かし た授業	高等学校及び中学校で校長を経験した教員が、道徳指導法について講義、演習を担当する。

科目名	総合的な学習の時間及び特別活動指導法
学年	2
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎市川 治郎、竹田 進吾
授業の概要及びテーマ	総合的な学習の時間について、歴史、意義、教育課程上の役割、現状と課題、実践例（年間指導計画、単元計画）、評価方法、授業設計の基本を学ぶ。特別活動について、歴史、目的、意義、評価方法、学校行事・学級活動（ホームルーム活動）・生徒会活動の内容と指導方法を学ぶ。
達成目標	総合的な学習の時間についての歴史、意義、教育課程上の役割、現状と課題、実践例（年間指導計画、単元計画）、評価方法を理解している。特別活動について、歴史、目的、意義、評価方法、学級活動（ホームルーム活動）・学校行事・生徒会活動の内容と方法を理解した上で、生徒の人間形成にとって望ましい実践的指導力を身につける。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス（竹田・市川） 02 総合的な学習の時間の概要…学習指導要領解説をグループワークでまとめる（竹田・市川） 03 総合的な学習の時間の概要…学習指導要領解説のまとめをグループで発表する、補足説明（竹田・市川） 04 総合的な学習の時間…歴史、意義、教育課程上の位置、現状と課題の講義（竹田） 05 総合的な学習の時間…実践例の紹介、評価の方法（市川） 06 総合的な学習の時間…グループワークで授業を構想する（竹田・市川） 07 総合的な学習の時間…構想した授業を発表する、討議（竹田・市川） 08 特別活動の概要…学習指導要領解説をグループワークでまとめる（竹田・市川） 09 特別活動の概要…学習指導要領解説のまとめをグループで発表する、補足説明（竹田・市川） 10 特別活動…歴史、目的、意義、学級活動（ホームルーム活動）の内容と指導方法の講義（市川） 11 特別活動…学級活動のうち学校給食をめぐる問題状況と指導の方法の講義（竹田） 12 特別活動…学校行事の内容と指導方法の講義（竹田） 13 特別活動…生徒会活動の内容と指導方法の講義（市川） 14 特別活動…指導計画の作成（竹田・市川） 15 特別活動…評価方法の講義、まとめ（竹田・市川） 16 定期試験 ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。
成績評価基準	期末試験の得点 40%、最終提出課題の得点 30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）30%により総合的に決定する。全体として 60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	関川悦雄、今泉朝雄編『特別活動・総合的学習の理論と指導法』（弘文堂、2019 年） 中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編、特別活動編、平成 29 年 7 月告示、文部科学省） 適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配布プリントは教科書同様の扱いで管理すること。
参考書・参考資料等	高等学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編、特別活動編、平成 21 年 7 月告示、文部科学省） そのほか適宜指示する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	教育方法・技術
学年	3
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	竹田進吾
授業の概要及びテーマ	教育方法に関する理論、教育方法の歴史、教科書・ICT等の活用法、評価方法を理解するとともに、パネルシアター教材の実作を行う。
達成目標	授業を設計・実践していく上で必要な教育方法に関する知識を理解し、学習指導案作成、模擬授業実践に取り組むことができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 生徒がわかる授業とはどのようなものか 03 教科書・黒板はどのように活用すべきか 04 パネルシアター教材の実作1…パネルシアターとは何か 05 パネルシアター教材の実作2…グループワークでパネルシアター教材を構想する 06 パネルシアター教材の実作3…グループワークでパネルシアター教材を作成する 07 パネルシアター教材の実作4…実作したパネルシアターを発表・実演する 08 学習指導案作成法 09 学習評価とは何か…生徒をどのように評価するのか。観点別学習状況評価の基本 10 ICTを活用した授業1…授業におけるICT活用の特質と課題 11 ICTを活用した授業2…学習指導要領のなかのICT活用 12 教育方法の観点を重視した授業設計…模擬授業の準備 13 教育方法の観点を重視した授業設計…模擬授業、討議 14 教育方法の歴史と理論 15 まとめ 16 期末試験 ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。
成績評価基準	期末試験の得点 30%、最終提出課題の得点 30%、平常点（授業態度、貢献度、通常提出物等）40%により総合的に決定する。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。
参考書・参考資料等	そのほか、適宜指示する。
用具	パネルシアター教材づくりに必要な物品は、教員が用意する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	生徒・進路指導
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	伊藤敦美
授業の概要及びテーマ	生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動です。生徒指導及び進路指導・キャリア教育、教育相談の意義と課題について学習し、児童生徒理解や校内における指導体制、問題行動への指導についても学びます。
達成目標	1 生徒指導の意義、教育課程における生徒指導の位置づけと重要性、集団指導・個別指導の方法原理、生徒指導体制の基本的な考え方を理解する 2 すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する 3 児童生徒の抱える生徒指導上の課題の様態及び定義、外部の専門家や関係機関等との校内外の連携を含めた対応の在り方を理解する 4 進路指導・キャリア教育の意義、教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけと指導の在り方、指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解する
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 教育課程における生徒指導の位置づけ及び各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義と重要性 02 集団指導・個別指導の方法原理及び生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違い 03 学級担任、教科担任その他の公務分掌上の役割と学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な生徒指導の取組の在り方 04 児童生徒全体への生徒指導（1）基礎的な生活習慣の確立・規範意識の醸成 05 児童生徒全体への生徒指導（2）自己存在感を育む場や機会の設定 06 生徒指導に関する法制度：校則・懲戒（停学及び退学を含む）・体罰 07 生徒指導上の課題の定義及び対応の視点（1）いじめ 08 生徒指導上の課題の定義及び対応の視点（2）不登校・暴力行為 09 今日的な生徒指導上の課題及び関係機関との連携：インターネット、児童虐待 10 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ及び学校のエデュケーション全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 11 進路指導・キャリア教育の指導体制及び家庭や関係機関との連携 12 職場体験活動を核としたカリキュラム・マネジメント 13 ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義及び留意点 14 キャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオの活用 15 キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践 定期テスト
成績評価基準	受講姿勢：20%、授業で課す課題とレポート 30%、学習理解の確認（テスト）50% 原則として、出席回数が授業回数の2/3以上であること。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	生徒指導提要、文部科学省、教育図書、276 円+税 教育・保育の基礎を学ぶ—子どもの育ちを支える理論と実践—、岩崎保之、国際文献社、2000 円
参考書・参考資料等	中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示、文部科学省） 「いじめ問題」から授業・学校改革を考える（齋藤勉著、明治図書） 生きる力を育む生徒指導（宮下一博、河野莊子編著、北樹出版） キャリア教育基礎論（藤田晃之、実業之日本社） 進路指導・キャリア教育の理論と実践（吉田辰夫、篠翰著、日本文化科学社） 他に必要図書や資料は授業で指示します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業では、自分の考えを文章化する、発表する、他の受講生と討論するといった活動を取り入れます。考えをまとめたり、発表したり、討論するためには基礎となる知識が必要ですから、日頃から教育に関するニュースなどに目を通す習慣を付けておいて下さい。
実務経験を活かした授業	

科目名	教育相談
学年	3
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	伊藤敦美
授業の概要及びテーマ	教育相談は生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。この授業では、学校における教育相談の意義と課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論、教育相談の方法（カウンセリングの意義、理論や方法に関する基礎的知識を含む）、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組や連携の必要性等をテーマとして取り上げる。理論を学び技法を習得するために、授業は講義とシミュレーションの両方の形態で実施する。
達成目標	1 学校における教育相談の意義と理論を理解する。 2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 3 教育相談の具体的な進め方、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力を養う授業
授業計画	01 学校における教育相談の意義と課題 02 自己理解（1）アイデンティティの形成 03 自己理解（2）防衛機制 04 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論 05 児童生徒の不適応・問題行動の意味とその発見 06 学校教育におけるカウンセリングマインドとその必要性 07 カウンセリングの基本姿勢 08 カウンセリングの方法（1）カウンセリングの基礎的技法 09 カウンセリングの方法（2）カウンセリングの基礎的技法を使用したシミュレーション 10 カウンセリングの方法（3）シミュレーションについてのグループ討議 11 学校における教育相談体制と進め方 12 教育相談の計画及び評価 13 個別の課題に対する教育相談の進め方（1）いじめ・不登校 14 個別の課題に対する教育相談の進め方（2）虐待・非行 15 学校と家庭・地域・専門機関との連携 定期テスト
成績評価基準	受講姿勢：20%、授業で課す課題とレポート 30%、学習理解の確認（テスト）50% 原則として、出席回数が授業回数の2/3以上であること。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	新カリキュラム対応教育・保育の基礎を学ぶ 岩崎保之編著 国際文献社 2000 円 生徒指導提要 文部科学省 教育図書 290 円
参考書・参考資料等	中学校学習指導要領 文部科学省 高等学校学習指導要領 文部科学省 学校カウンセリング基本訓練 上地安昭 北大路書房 2097 円 他に必要な図書や資料は授業で指示します。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業では、自分の考えを文章化する、発表する、他の受講生と討論するといった活動を取り入れます。考えをまとめたり、発表したり、討論するためには基礎となる知識が必要ですから、日頃から教育に関するニュースなどに目を通す習慣を付けておいて下さい。
実務経験を活かせた授業	

科目名	事前・事後指導
学年	4
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	◎竹田進吾、市川治郎
授業の概要及びテーマ	教育実習は、実際の教育現場を体験することにより、教育職に必要な実践的能力を身につける貴重な機会である。事前においては教育実習について理解を深め、意欲を持って積極的に実習に取り組むことができるように、総合的な点検を行う。事後においては客観的に実習を振り返る。
達成目標	教育実習について理解を深め、意欲を持って積極的に実習に取り組むことができる。事後においては客観的に実習を振り返り、冷静に反省できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 教育実習の心得…意義、目的、取り組む姿勢、実習校理解、勤務、服務、実習態度、守秘義務等 03 実習日誌の作成法 04～05 道徳教育に関する授業設計…模擬授業と討議 06～09 美術科教育に関する授業設計…模擬授業と討議 10～11 実習事後指導、礼状作成、報告書作成、報告会準備 12～14 実習事後報告会…全員の発表、質疑応答 15 まとめ ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。
成績評価基準	実習事後報告会の発表・発表用資料の得点 40%、平常点（授業態度、貢献度、通常提出物等）60%により総合的に決定する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。
参考書・参考資料等	そのほか適宜指示する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	生徒、教職員、保護者と関わり、実践力を身につける教育実習は厳しいものである。教職課程で学んだ知識や技能を確かなものにするだけでなく、生活のリズムを整えることや組織の中で働く者としての礼儀や態度を身に付けるなどの準備をしておく必要がある。
実務経験を活かし た授業	

科目名	教育実習 I
学年	4
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎竹田進吾、市川治郎
授業の概要及びテーマ	自己開拓した学校、または実習協力校において教育実習を行う。実習校の教育課程との関係をふまえて、2週間の実習計画を立て、教科指導、教科外指導を実習する。実習日誌をつけて日々振り返り実践力を身につけるとともに、授業見学、授業実践、研究授業を行うことにより、実践的な教材研究・授業設計の方法を学ぶ。
達成目標	① 教職課程において学んできた教職・美術に関する知識・理解・技能をふまえて、中学校の現場で実習に積極的に取り組むことができる。 ② 教育職に就く者として、美術科教育、道徳教育、総合的な学習の時間等の実践を行うことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。 ③ 教育職に就く者として、学級経営、生徒指導、学校行事等の重要性を理解した上で、意欲的に取り組むことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	実習校の指導教員と打ち合わせのうえ、連続した2週間に以下の内容を実習する。 ①教科指導として、授業見学、教材研究、授業、研究授業を行う。 ② 教科外指導として、総合的な学習の時間、学級活動（給食指導を含む）、各種学校行事への参加、生徒指導等を行う。
成績評価基準	実習中の態度、教科指導、生徒指導等の教員としての適性、学級経営、校務分掌等に関する理解と能力、勤務状況等に関する実習校による評価を参考にして総合的に評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	実習日誌
参考書・参考資料等	教職課程で使用してきたテキスト等
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	生徒、教職員、保護者と関わり、実践力を身に付ける教育実習は、長期間に及ぶ厳しいものである。教職課程で学んだ知識や技能の復習をする、生活のリズムや体調を整える、組織人としての礼儀や態度をわきまえコミュニケーション力を高めるなどの準備を行う。
実務経験を活かした授業	

科目名	教育実習Ⅱ
学年	4
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	2
担当教員	◎竹田進吾、市川治郎
授業の概要及びテーマ	自己開拓した高等学校において教育実習を行う。実習校の教育課程との関係をふまえて、2週間の実習計画を立て、教科指導、教科外指導を実習する。実習日誌をつけて日々振り返り実践力を身につけるとともに、授業見学、授業実践、研究授業を行うことにより、実践的な教材研究・授業設計の方法を学ぶ。 ただし、中学校で教育実習Ⅰ・Ⅱを行う場合は、3週間の実習とする。
達成目標	① 教職課程において学んできた教職・美術に関する知識・理解・技能をふまえて、高等学校の現場で実習に積極的に取り組むことができる。 ② 教育職に就く者として、美術科教育・総合的な学習の時間等の実践を行うことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。 ③ 教育職に就く者として、学級経営、生徒指導、学校行事等の重要性を理解した上で、意欲的に取り組むことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	実習校の指導教員と打ち合わせのうえ、連続した2週間において、以下の内容を実習する。 ①教科指導として、授業見学、教材研究、授業、研究授業を行う。 ② 教科外指導として、総合的な学習の時間、ホームルーム活動、各種学校行事への参加、生徒指導等を行う。
成績評価基準	実習中の態度、教科指導、生徒指導等の教員としての適性、学級経営、校務分掌等に関する理解と能力、勤務状況等に関する実習校による評価を参考にして総合的に評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	実習日誌
参考書・参考資料等	教職課程で使用してきたテキスト等
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	生徒、教職員、保護者と関わり、実践力を身に付ける教育実習は、長期間に及ぶ厳しいものである。教職課程で学んだ知識や技能の復習をする、生活のリズムや体調を整える、組織人としての礼儀や態度をわきまえコミュニケーション力を高めるなどの準備を行う。
実務経験を活かした授業	

科目名	教職実践演習（中・高）
学年	4
開講期	後期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎竹田進吾、市川治郎
授業の概要及びテーマ	教育実習での経験をふまえて、グループワーク、討議を中心とした学習指導案作成、模擬授業、課題作成、現地調査等を行う。これらにより、教育職に必要とされる総合的な実践力を養成する。
達成目標	学校教育（中等教育）とは、生徒の総合的な人間形成の場であるといえる。生徒の個性に配慮したわかりやすい授業実践、親身の学級経営、校務分掌への積極的対応等が、現在の日本社会から要請される教師像である。このような教師を目指していく上で、何が自分には足りないのか、どのような種類の努力が必要とされるのかを明確化する。教職課程で学んできた知識・理解・技能、現場の実践力を振り返り、教科指導、学級経営、生徒指導、校務分掌等を問題なく実践できる力を身につける。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 教育実習の振り返り1…美術科授業について討議する 03 教育実習の振り返り2…道徳授業について討議する 04 教育実習の振り返り3…学級経営、生徒指導等について討議する 05 校外学習1…地元公立中学校を訪問して、授業見学、現職教員との話し合い等を行う 06 校外学習2…振り返り 07 学級経営に関する課題の明確化 08 生徒指導に関する課題の明確化 09 校務分掌に関する課題の明確化 10 保護者対応に関する課題の明確化 11 美術科教育の授業設計…模擬授業と討議 12 道徳教育の授業設計…模擬授業と討議 13 総合的な学習の時間に関する課題の明確化 14 これからの学校教育を考える 15 教職課程全体の振り返り、まとめ ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。
成績評価基準	最終提出課題の得点 40%、平常点（授業態度、貢献度、通常提出物等）60%により総合的に決定する。全体として 60%取れなければ不合格とする。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。
参考書・参考資料等	履修カルテ、教職課程で使用してきた各種学習指導要領解説。そのほか適宜指示する。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	教育実習前の自己課題、教育実習後に見えてきた自己課題を意識して演習する。座学で得た知識だけでは、学校現場で通用しないこともある。教師としての実践力を身につけるために、自身の特性を認識し、日ごろから補っていく取り組みが求められる。
実務経験を活かした授業	

科目名	基礎ゼミⅡ
学年	2
開講期	前期
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	1
担当教員	専任教員（HR 担当）
授業の概要及びテーマ	長岡造形大学には 4 つの学科があり、それぞれにコースも設定されています。所属する各教員は多様な専門性を有しています。学科に関係なく構成された学生グループは、ランダムに割り振られた教員の設定する作品、建築、映像などについて、自ら調査し、理解を深めるとともに、世間一般も踏まえつつ整理します。さらにはグループ内のディスカッション、及び教員とのやりとりによってそれを深化させていきます。その成果は全体プレゼンテーションによって披露されることとなります。
達成目標	長岡造形大学の各学科、各教員が専門とするデザイン領域の幅広さを実感する。 それぞれの作品等に対する理解を深める。 学生同士のディスカッションをより効果的なものとするための運営手法を身につける。 プレゼンテーション能力を身につける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 全体ガイダンス・グループ分け 02 教員からのテーマ発表 03-05 各グループでのリサーチ・担当教員とのディスカッション 06-07 プレゼンテーション
成績評価基準	成果物およびプレゼンテーションにより評価します。 グループワークのため、そこでの寄与度も大きく評価に影響します。
出席・遅刻の基準	各担当教員の指示に従うこと。原則として遅刻は欠席扱いとします。
テキスト(教科書)	必要としません。
参考書・参考資料等	各担当教員の指示に従うこと。
用具	特に必要としません。ただし、プレゼンテーションに際し PC が必要となる場合があります。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	表現方法や手段などが違っても、デザインにかかわる共通なことは、コミュニケーションです。一人作業の方が得意な人もいますが、実社会では、多くの方々とかわることでモノやコトが実現します。時には実現しないことだってあります。でも、コミュニケーションで乗り越える体験は、実現すると、ちょっといい気分ですよ。気持ちを持ってきてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	学外見学実習
学年	2
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	1
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	世の中に存在する様々なデザインが、どのような場で生み出されているのか。それらが創造されている現場を見学し、実社会とデザインとの関わりを認識するため、各学科において実施するものである。それぞれの学科における授業の概要及びテーマは以下の通りである。 〔プロダクトデザイン学科〕 プロダクトデザインでは多様な素材や生産技術に関する知識が必要である。そこで本授業では金属やファブリックなどの素材を特徴とするメーカーや、高度で大規模な生産設備を持つメーカーの見学を行い、それらに対する知見、理解を深めることを目的とする。 〔視覚デザイン学科〕 企業やプロの制作現場を見学、体験することで、社会や企業の仕組み、仕事について理解する。 〔美術・工芸学科〕 美術系と工芸系の2種類の見学実習を行い、社会と美術表現の繋がり、手業や機械加工による地場企業の生産現場を認識し、実社会の動向を体感する。 〔建築・環境デザイン学科〕 建築、インテリア、ランドスケープ、都市計画、文化財保存の優れた作品を見学する。事前に施設について調べ、実際に見学して、優れた点を見つけ出すようにする。
達成目標	様々な現場におけるデザインに対する考え方を学び、制作・製造現場を見学し、デザイン制作のプロセスを理解することができる。そして、社会における実際のデザインを考察、まとめることができる。 〔プロダクトデザイン学科〕 各素材や製品カテゴリーごとの生産技術、システムの特性を理解すること。更に実際の製造現場における安全管理、品質向上活動、意欲増進、組織などへの理解を深めること。 〔視覚デザイン学科〕 社会や企業の仕組み、仕事について学生のうちに理解することにより、社会へ出る心構えや準備ができる。 〔美術・工芸学科〕 社会における美術の役割や、生産現場における技術や素材、デザインについて理解することができる。 〔建築・環境デザイン学科〕 見学する施設について調べ、特徴や優れた点を見つけ出し、レポートで自らの意見を述べるができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力を養う授業
授業計画	各学科で個別対応となるため、それぞれの学科における授業計画を確認すること。
成績評価基準	各学科で個別対応となるため、それぞれの学科における成績評価基準を確認すること。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	各学科で個別対応となるため、それぞれの学科における事前準備・事前学習の内容、実施方法、スケジュール等を確認すること。
実務経験を活かした授業	

科目名	ポートフォリオ
学年	3
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	天野 誠、吉川賢一郎、◎松本明彦、山本 敦
授業の概要及びテーマ	ポートフォリオはクリエイターには欠かす事のできないコミュニケーションツールの1つです。この授業では、ポートフォリオを制作する上での様々な手法について研究し、学生各自がこれまでに制作した作品やプロジェクトをアーカイブし、個々のアプローチに準じた方法でオリジナリティーのあるポートフォリオを制作します。また、それを用いたプレゼンテーションについて学習し、実践に備えます。
達成目標	・ 制作した作品やプロジェクトをアーカイブしたポートフォリオを制作できる。 ・ ポートフォリオを使いプレゼンテーションができる。 ・ スケジュール管理をし、課題作品提出締切りまでに作品を仕上げる事ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、ポートフォリオの編集とレイアウトについて 02 ポートフォリオの編集とレイアウトについて 03 ポートフォリオの記録写真の制作について 04 ポートフォリオの記録写真の制作について 05 映像、web のポートフォリオについて 06 映像、web のポートフォリオについて 07 中間プレゼンテーション 08 中間プレゼンテーション 09 中間講評 10 中間講評 11 プレゼンテーションと講評 12 プレゼンテーションと講評 13 プレゼンテーションと講評 14 プレゼンテーションと講評 15 プレゼンテーションと講評 ＊詳細に関しては、追って教員から連絡します。
成績評価基準	課題提出 70% 授業参加態度 30% 課題提出が締め切りを過ぎた場合は減点します。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示する。
用具	適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	授業で学習したことをベースに各自が自主的にポートフォリオを制作し、新たな作品やプロジェクトがあれば随時アップデートすること。 遅刻厳禁、課題提出日厳守。
実務経験を活かし た授業	

科目名	インフォメーションデザイン
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎吉川賢一郎、真壁友
授業の概要及びテーマ	現在の社会は情報化社会と呼ばれ、私達は様々な情報に囲まれています。多種多様な情報を理解する事が求められますが、情報を発信する側としては情報を分かりやすく図等で表す必要があります。この授業では表現する情報の本質を捉え、理解しやすく表現することを目的とします。データを理解するための基本、基本的な計算、グラフについて学びます。図示するためのピクトグラム、ダイアグラムについて学びます。またそれらをポスターやフライヤーへと展開しメディアに合わせた展開方法についても探ります。
達成目標	テーマに合わせた情報収集、データ処理が出来る。 ピクトグラム、ダイアグラムについて理解し、それらを作成出来る。 情報の中から本質となる部分を捉える事が出来る。 情報を表すための的確な表現を行う事が出来る。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	社会人基礎力／構想力／造形力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス、情報とヴィジュアル基礎(1) 02 情報とヴィジュアル基礎(2) 03 情報とヴィジュアル基礎(3) 04 情報とヴィジュアル基礎(4) 05 インフォグラフィックス(1) 06 インフォグラフィックス(2) 07 インフォグラフィックス(3) 08 情報とデザイン、ピクトグラム(1) 09 情報とデザイン、ピクトグラム(2) 10 情報とデザイン、ピクトグラム(3) 11 情報とデザイン、ピクトグラム(4) 12 都道府県別に見る日本(1) 13 都道府県別に見る日本(2) 14 都道府県別に見る日本(3) 15 都道府県別に見る日本(4)
成績評価基準	プレゼンテーションと作品により評価します。しかし以下の点について注意してください。 この授業ではプロセス、作品の途中過程も評価の対象とします。 作品の提出だけでは評価の対象とはなりません。 またプレゼンテーションが各課題毎にあります。その出席は必須とします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	『インフォグラフィックス—情報をデザインする視点と表現』 木村 博之著 誠文堂新光社
参考書・参考資料等	『ひと目でわかるシンボルデザイン』 発行 交通エコロジー・モビリティ財団
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業は旧カリ履修者のための授業です。個別対応の授業のため、メール等で個別で連絡が取れる受講姿勢を望みます。 履修する学生は前期の段階で履修登録後に必ず担当教員に連絡をしてください。履修予定者にオリエンテーションを行います。 (吉川 kikkawa@nagaoka-id.ac.jp 真壁 makabe@nagaoka-id.ac.jp) 情報を扱いグラフィカルに展開する方法を学びますが、その前提として情報を読む、伝える情報を整理するといった事が必要となります。また、社会の問題を扱います。日頃から新聞やニュースを読み、社会に対しての関心も持っている事が必要となります。 なお、インフォメーションデザインに興味のある学生は、サインデザイン論でインフォグラフィックスやサインデザインについての講義を行いますので、その授業を履修してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	ヴィジュアルアイデンティティ
学年	3
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎山本 敦
授業の概要及びテーマ	CI、VIを導入する背景や目指すべきイメージの設定、シンボルマークの制作、デザインシステム、アプリケーションデザインへの展開など、企業や組織、地域の顔作り（ブランドイメージ作り）を実践的な作業を通して学んでいく。また実際の企業や組織、地域に協力していただき、クライアントに対してプレゼンテーションを行い、社会との関わりを学ぶ。
達成目標	企業や組織、地域のコミュニケーションの核となる、CI、VIデザインが果たす役割や重要性を理解する。またアイデアの出し方や定着方法、プレゼンテーションのトレーニングもこの授業の目的とする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	造形力を養う授業
授業計画	1. ガイダンス、課題1説明 2. ワードマーク、チェック 3. ワードマーク、チェック 4. ワードマーク提出・講評 5. シンボルマーク、チェック 6. シンボルマーク提出・講評 7. 名刺デザイン 8. 名刺デザイン提出 9. 課題2説明 10. CI実習・シンボルマークチェック 11. CI実習・シンボルマークチェック 12. CI実習・シンボルマーク完成 13. CI実習・アプリケーションデザインチェック 14. CI実習・アプリケーションデザインチェック 15. プレゼンテーション・提出
成績評価基準	提出課題作品 70%、授業参加態度・制作姿勢 30% 課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	適宜指示する。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	CIを含めたシンボルマーク等の制作に興味のある学生は、必ず履修すること。 サインデザイン論を履修または修得していることが望ましいです。
実務経験を活かした授業	山本敦：自身の経営するデザイン事務所での地域ブランディングやCI・VIなどの経験を通して、パッケージの基本を指導する。

科目名	Web・エディトリアルデザイン
学年	3
開講期	後期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎天野 誠、徳久達彦、真壁 友
授業の概要及びテーマ	私たちは様々な情報と共存して生きてる。この授業では様々な情報から本当に必要なものだけを収集し、整理と編集作業を経てコンテンツにする。最終的に「紙」と「デジタル」の2種類のメディアに展開させていく。
達成目標	・情報の収集と整理能力を身につけることができる。 ・情報を視覚化できる表現力を養うことができる。 ・問題解決と改善の提案をすることができる。 ・自己表現とは違う伝達方法を学ぶことができる。 ・自分の学習記録を振り返り、未来の計画を立てることができる。 ・就職活動のポートフォリオとして活かすことができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	構想力を養う授業 (企画立案から現地取材、その後の編集作業とデザインのフィニッシュワークまで、トータルなワークフローを経験することにより、構想力と自己管理能力を養うことができる。)
授業計画	01 第1課題の説明とレクチャー 02 制作とチェック 03 制作とチェック 04 制作とチェック 05 作品提出 講評 採点 06 第2課題の説明とレクチャー 07 制作とチェック 08 制作とチェック 09 制作とチェック 10 作品提出 講評 採点 11 第3課題の説明とレクチャー 12 制作とチェック 13 制作とチェック 14 制作とチェック 15 作品提出 講評 採点
成績評価基準	提出課題の作品に対する評価を 70%とし、授業態度、主に出欠状況に対する評価を残りの 30%とする。欠席が1/3 (5回) 以上の場合や課題提出が締め切りを過ぎた場合は、その遅れた度合いにより減点する。たとえ作品を提出していても、著しく欠席が多い場合は単位を与えないので注意すること。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り。
テキスト(教科書)	必要に応じて適宜指示する。
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜指示、配付する。
用具	ノートパソコンおよび Adobe InDesign、Photoshop、Illustrator、Dreamweaver など。筆記用具、定規、資料や制作物をストックしておくための A4判クリアファイル (40 ポケットくらい)。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	Adobe InDesign、Photoshop、Illustrator の基本操作が出来ること。可能であれば Dreamweaver も使えることが望ましい。この授業を将来どのように活かすのか、明確な目的を持って積極的に授業に望むこと。
実務経験を活かした授業	書籍デザインや Web の制作の経験のある教員が指導する。